

青森市埋蔵文化財調査報告書 第98集

し ん ま ち の
新 町 野 遺 跡

発掘調査報告書Ⅳ

—東北新幹線建設事業に伴う発掘調査—
(第一分冊)

平成19年度

青森市教育委員会



平成18年度遺構検出状況（調査区西側）



第25号竪穴住居跡



第41号竖穴住居跡特殊施設検出状況



第36号竖穴住居跡特殊施設検出状況



第48号竖穴住居跡



第395号土坑 遺物出土状況



第15号土坑 遺物出土状況



第554号土坑 遺物出土状況



第518号土坑 遺物出土状況



第44号埋設土器遺構



第19号竖穴住居跡 検出状況



第23号竖穴住居跡



第54号竖穴住居跡 カマド検出状況



第57号竖穴住居跡



第2号円形周溝



柱穴状ビット検出状況

序

平成22年度に予定されている東北新幹線新青森駅開業に際し、本市におきましても、新幹線開業効果を引き出し、また、活用することによりその効果を最大限享受していくという方針を具体化させるため、ハード・ソフト両面において環境整備を着実に進めております。

そのような中、当委員会では東北新幹線建設工事に係る市内新町野地区所在の新町野遺跡について、その記録保存を図るため、これまで平成15年度より同18年度まで四次にわたる発掘調査を実施してきており、本書は第三次、第四次調査にあたる平成17、18年度の発掘調査成果をまとめたものであります。

これまでの調査で、本遺跡は縄文時代前期及び平安時代の集落跡を主体とする遺跡であることが判明していますが、当該年度の調査では、縄文時代前期の竪穴住居跡や土坑墓、平安時代の竪穴住居跡、円形周溝などの遺構を検出しており、第一次、第二次調査の結果に引き続き集落の広がりを確認しております。

本書が、今後の埋蔵文化財の保護並びに活用に役立つことができれば幸いと存じます。

最後となりましたが、調査の実施から本書の作成にわたる、関係各機関並びに各位からのご指導、地元町会からのご協力、さらに調査委託者であります独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局のご理解に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

青森市教育委員会

教育長 角 田 詮二郎

例 言

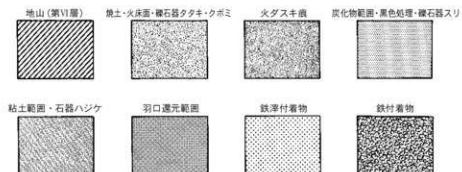
- 1 本書は青森市大字新町野字菅谷他に所在する新町野遺跡（青森県遺跡番号01161）の発掘調査報告書である。
- 2 本書に記載する内容は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局より委託を受け、青森市教育委員会が平成17年度に実施した第3次調査及び平成18年度に実施した最終調査となる第4次調査の成果である。第1次、第2次の調査成果については、平成17年度に「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」第1～3編として刊行しており、本書の構成もこの続編として「第4編 平成17・18年度発掘調査成果」からとした。そのため、「調査の概要」（第1編）、「遺跡の環境」（第2編）については「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」を参照されたい。また、平成17年度刊行の「新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ」、平成18年度刊行の「新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ」は各年度の調査成果について速報的にまとめたものであり、記載内容については、本書が優先する。
- 3 青森市教育委員会では、これまで新町野遺跡について、平成8年度に牛館川防災調整池造成事業に係る試掘調査成果を「新町野遺跡試掘調査報告書」、平成9年度に市道新町野野木線道路改良事業に係る発掘調査成果を「新町野遺跡発掘調査報告書」、平成12年度に青森中核工業団地造成事業に係る発掘調査成果を「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ」、平成17年度に上記東北新幹線建設事業に係る発掘調査成果を「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」として刊行している。これらの事例に倣い本書の名称は「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」とした。
- 4 本書の執筆は、青森市教育委員会が行い、小野貴之、木村淳一、蝦名純（前青森市埋蔵文化財調査員）が担当した。執筆分担については、文末に記した。また、編集は小野が担当した。
- 5 土層の注記については、「新版標準土色帳」（小山正忠、竹原秀雄1993）に準拠した。なお、各遺構の計測値については、確認面から計測した数値である。
- 6 遺構番号は、原則的に遺構の種類毎に、確認順に番号を付した。また、精査後、遺構でないと思われるものについては、欠番とした。
- 7 図版番号及び表番号は、原則的に「第○図」、「第○表」とし、順番に通し番号を付した。
- 8 挿図の縮尺は、各図毎に示した。また、写真図版の縮尺については統一を図っていない。
- 9 遺構図等における方位は、真北である。
- 10 出土石器の石質鑑定については、青森県総合学校教育センター高校教育課長 工藤 一彌 氏に鑑定を依頼した。
- 11 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等の関係資料は、現在、青森市教育委員会にて保管している。
- 12 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の各機関・各氏からご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・南部二区連合町会・宇田川浩一・宇部則保・小笠原雅行・川口潤・木村高・齋藤岳・相馬信吉・中嶋友文・中村哲也・永嶋豊・成田誠治・北林八州晴

凡 例

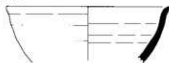
1 本報告書内で使用する、スクリーントーン・表現方法・略称は以下のとおりである。

(1) 図中で使用したスクリーントーン



(2) 土器実測図での表現方法

須恵器



土師器



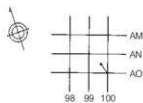
黒色土器



(3) 石器実測図の剥片石器原礫面については、ドットを用いた。

(4) グリッドの呼称

(例) AO-100グリッド



(5) 表中、写真図版中の図版番号の略称

「第○図△」 → 「○-△」

(6) 図中、表中で使用した遺構の略称

「第〇号竪穴住居跡」→「〇住」 「第〇号竪穴遺構」→「〇竪」 「第〇号土坑」→「〇土」
「第〇号溝状土坑」→「〇溝状」 「第〇号埋設土器遺構」→「〇埋」 「第〇号焼土遺構」→「〇焼」
「第〇号円形周溝」→「〇円」 「第〇号配石遺構」→「〇配」 「第〇号井戸跡」→「〇井」
「第〇号溝跡」→「〇溝」 「第〇号柱穴状ピット」→「〇P」ないし「〇ピット」

(7) 図中で使用したアルファベットを用いた略称

P…土器 S…石器、石製品 CL…土製品 M…鉄関連遺物 LB…ロームブロック

2 基本層序

本遺跡の基本層序は、以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 黒褐色土（主に10Y R2/2） 表土。近現代の耕作土や削平後の盛土を一括する。
第Ⅱ層 黒色土（主に10Y R2/1） 平安時代に相当する遺物が主に出土している。
第Ⅲ層 黒褐色～暗褐色土（10Y R2/2～10Y R3/4） 第Ⅱ層と第Ⅲ層の間に局所的に白頭山－苫小
牧火山灰（B-Tm）と思われる火山灰を確認している。
第Ⅳ層 黒褐色土（主に10Y R2/3） 縄文時代に相当する遺物が主に出土している。
第Ⅴ層 漸移層として一括した。
第Ⅵ層 地山として一括した。上位には黄褐色浮石質火山灰が堆積する。月見野火山灰に相当する。
下位には赤褐色粘土質火山灰が堆積する。大谷火山灰に相当する。

3 出土遺物の分類

本遺跡出土遺物は、継続して以下のように分類している。

(1) 土器

- 第Ⅰ群土器 縄文時代早期の土器
第Ⅱ群土器 縄文時代前期の土器
第Ⅲ群土器 縄文時代中期の土器
第Ⅳ群土器 縄文時代後期の土器
第Ⅴ群土器 縄文時代晩期の土器
第Ⅵ群土器 続縄文・弥生時代の土器
第Ⅶ群土器 平安時代の土器

(2) 石器

- ・石鎌
- ・石槍
- ・石錐
- ・石匙
- ・石篋
- ・不定形石器

- ・その他の剥片石器
- ・剥片
- ・石核
- ・磨製石斧
- ・敲磨器
- ・半円状扁平打製石器
- ・楔入扁平磨製石器
- ・擦切具
- ・砥石
- ・石皿・台石

(3) 土製品

- ・ミニチュア土器
- ・土玉
- ・イチジク型土製品
- ・土器片利用土製品
- ・土製支脚
- ・焼成粘土塊

(4) 石製品

- ・塊状耳飾
- ・軽石石製品
- ・その他の石製品

(5) 鉄関連遺物

- ・羽口
- ・鉄製品
- ・鉄滓
- ・その他の鉄関連遺物

(6) 古銭

(7) 鉄銭

目 次

序

例言

凡例

目次

図版目次

表目次

写真目次

第4編	平成17・18年度発掘調査成果	1
第1章	調査要項	1
第2章	調査経過	5
第3章	検出遺構と出土遺物	31
第1節	検出遺構	31
1.	竪穴住居跡	31
2.	竪穴遺構	212
3.	土坑	218
4.	溝状土坑	380
5.	埋設土器遺構	409
6.	焼土遺構	440
7.	円形周溝	450
8.	配石遺構	455
9.	井戸跡	457
10.	溝跡	462
11.	柱穴状ビット	483
第2節	出土遺物	549
1.	土器	549
2.	石器	590
3.	土製品	639
4.	石製品	641
5.	鉄関連遺物	649
6.	古銭	651
7.	鉄銭	651
第5編	自然科学分析	653
第1章	放射性炭素年代測定結果	653
第1節	平成15年度放射性炭素年代測定結果	653
第2節	平成17年度放射性炭素年代測定結果	655
第3節	平成18年度放射性炭素年代測定結果	658

第2章	出土遺物の自然科学分析		660
第1節	新町野遺跡出土土師器の胎土分析	バリノ・サーヴェイ株式会社	660
第2節	新町野遺跡出土石器の使用痕分析	株式会社アルカ	664
第6編	調査のまとめ		674
第1章	調査の概要		674
第2章	検出遺構		675
第1節	縄文時代前期の遺構		675
第2節	平安時代の竪穴住居跡		678
第3章	遺物		686
第1節	新町野遺跡出土の古代の土器について		686
	要約		695
	引用・参考文献		696
	観察表・計測表		697
	写真図版		745
	報告書抄録		795
	既刊埋蔵文化財関係報告書一覧		797

图版目次

第1图	遗址位置图	2	第49图	第35号竖穴住居跡(2)	99
第2图	調査区位置图	4	第50图	第36号竖穴住居跡(1)	101·102
第3图	調査区設定图	6	第51图	第36号竖穴住居跡(2)	103
第4图	遺構配置图(1)	9·10	第52图	第36号竖穴住居跡(3)	104
第5图	遺構配置图(2)	11·12	第53图	第37号竖穴住居跡(1)	105·106
第6图	遺構配置图(3)	13·14	第54图	第37号竖穴住居跡(2)	107
第7图	遺構配置图(4)	15·16	第55图	第37号竖穴住居跡(3)	108
第8图	遺構配置图(5)	17·18	第56图	第38号竖穴住居跡-第39号竖穴住居跡	109
第9图	遺構配置图(6)	19·20	第57图	第40号竖穴住居跡(1)	110
第10图	遺構配置图(7)	21·22	第58图	第40号竖穴住居跡(2)	111
第11图	遺構配置图(8)	23·24	第59图	第41号竖穴住居跡	112
第12图	遺構配置图(9)	25·26	第60图	第44号竖穴住居跡	112
第13图	遺構配置图(10)	27·28	第61图	第45号竖穴住居跡(1)	113
第14图	遺構配置图(11)	29·30	第62图	第45号竖穴住居跡(2)	114
第15图	第18号竖穴住居跡(1)	63	第63图	第46号竖穴住居跡	115
第16图	第18号竖穴住居跡(2)	64	第64图	第47号竖穴住居跡	117·118
第17图	第19号竖穴住居跡(1)	65	第65图	第48号竖穴住居跡(1)	119·120
第18图	第19号竖穴住居跡(2)	66	第66图	第48号竖穴住居跡(2)	121
第19图	第20号竖穴住居跡(1)	67	第67图	第49号竖穴住居跡	122
第20图	第20号竖穴住居跡(2)	68	第68图	第51号竖穴住居跡(1)	123
第21图	第21号竖穴住居跡(1)	69	第69图	第51号竖穴住居跡(2)	124
第22图	第21号竖穴住居跡(2)	70	第70图	第51号竖穴住居跡(3)	125
第23图	第22号竖穴住居跡(1)	71	第71图	第52号竖穴住居跡(1)	127·128
第24图	第22号竖穴住居跡(2)	72	第72图	第52号竖穴住居跡(2)	129
第25图	第23号竖穴住居跡(1)	73	第73图	第52号竖穴住居跡(3)	130
第26图	第23号竖穴住居跡(2)	74	第74图	第53号竖穴住居跡(1)	131
第27图	第23号竖穴住居跡(3)	75	第75图	第53号竖穴住居跡(2)	132
第28图	第24号竖穴住居跡(1)	76	第76图	第53号竖穴住居跡(3)	133
第29图	第24号竖穴住居跡(2)	77	第77图	第53号竖穴住居跡(4)	134
第30图	第25号竖穴住居跡(1)	79·80	第78图	第54号竖穴住居跡(1)	135
第31图	第25号竖穴住居跡(2)	81	第79图	第54号竖穴住居跡(2)	136
第32图	第25号竖穴住居跡(3)	82	第80图	第55号竖穴住居跡(1)	137
第33图	第25号竖穴住居跡(4)	83	第81图	第55号竖穴住居跡(2)	138
第34图	第26号竖穴住居跡(1)	84	第82图	第55号竖穴住居跡(3)	139
第35图	第26号竖穴住居跡(2)	85	第83图	第55号竖穴住居跡(4)	140
第36图	第27号竖穴住居跡	86	第84图	第56号竖穴住居跡	141
第37图	第28号竖穴住居跡(1)	87	第85图	第57号竖穴住居跡(1)	142
第38图	第28号竖穴住居跡(2)	88	第86图	第57号竖穴住居跡(2)	143
第39图	第28号竖穴住居跡(3)	89	第87图	第57号竖穴住居跡(3)	144
第40图	第28号竖穴住居跡(4)	90	第88图	第57号竖穴住居跡(4)	145
第41图	第30号竖穴住居跡(1)	91	第89图	第59号竖穴住居跡	146
第42图	第30号竖穴住居跡(2)	92	第90图	遺構内出土土器(竖穴住居跡)(1)	147
第43图	第31号竖穴住居跡(1)	93	第91图	遺構内出土土器(竖穴住居跡)(2)	148
第44图	第31号竖穴住居跡(2)	94	第92图	遺構内出土土器(竖穴住居跡)(3)	149
第45图	第32号竖穴住居跡	95	第93图	遺構内出土土器(竖穴住居跡)(4)	150
第46图	第33号竖穴住居跡(1)	96	第94图	遺構内出土土器(竖穴住居跡)(5)	151
第47图	第33号竖穴住居跡(2)	97	第95图	遺構内出土土器(竖穴住居跡)(6)	152
第48图	第35号竖穴住居跡(1)	98		遺構内出土土器(竖穴住居跡)(7)	153

第96回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(8)	154	第146回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(24)	204
第97回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(9)	155	第147回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(25)	205
第98回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(10)	156	第148回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(26)	206
第99回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(11)	157	第149回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(27)	207
第100回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(12)	158	第150回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(28)	208
第101回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(13)	159	第151回	遺構内出土土製品(竪穴住居跡)(1)	209
第102回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(14)	160	第152回	遺構内出土土製品(竪穴住居跡)(2)	210
第103回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(15)	161	第153回	遺構内出土土製品・鉄関連遺物(竪穴住居跡)……	211
第104回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(16)	162	第154回	第2号竪穴遺構・第3号竪穴遺構……	214
第105回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(17)	163	第155回	第4号竪穴遺構……	215
第106回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(18)	164	第156回	遺構内出土石器(竪穴遺構)……	216
第107回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(19)	165	第157回	遺構内出土石器(竪穴遺構)……	217
第108回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(20)	166	第158回	土坑(1)(250土・253~257土)……	279
第109回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(21)	167	第159回	土坑(2)(258~265土)……	280
第110回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(22)	168	第160回	土坑(3)(266土・268土・269土)……	281
第111回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(23)	169	第161回	土坑(4)(270~272土)……	282
第112回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(24)	170	第162回	土坑(5)(273~276土)……	283
第113回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(25)	171	第163回	土坑(6)(286~287土B)……	284
第114回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(26)	172	第164回	土坑(7)(288~290土)……	285
第115回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(27)	173	第165回	土坑(8)(291~293土)……	286
第116回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(28)	174	第166回	土坑(9)(294土~296土)……	287
第117回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(29)	175	第167回	土坑(10)(297~300土)……	288
第118回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(30)	176	第168回	土坑(11)(301~304土)……	289
第119回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(31)	177	第169回	土坑(12)(305土・307土・310土・311土)……	290
第120回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(32)	178	第170回	土坑(13)(313土A~314土)……	291
第121回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(33)	179	第171回	土坑(14)(316土・317土・319土)……	292
第122回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(34)	180	第172回	土坑(15)(325~328土)……	293
第123回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(1)	181	第173回	土坑(16)(329~337土)……	294
第124回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(2)	182	第174回	土坑(17)(338土・339土・344土・346土)……	295
第125回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(3)	183	第175回	土坑(18)(348~350土)……	296
第126回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(4)	184	第176回	土坑(19)(351土・353~355土)……	297
第127回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(5)	185	第177回	土坑(20)(356~359土・361土・362土)……	298
第128回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(6)	186	第178回	土坑(21)(363~366土)……	299
第129回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(7)	187	第179回	土坑(22)(367土・368土・370土・371土)……	300
第130回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(8)	188	第180回	土坑(23)(372土・373土・378~380土・382土)……	301
第131回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(9)	189	第181回	土坑(24)(384~389土)……	302
第132回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(10)	190	第182回	土坑(25)(390~392土・395土)……	303
第133回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(11)	191	第183回	土坑(26)(413土・418土A~419土)……	304
第134回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(12)	192	第184回	土坑(27)(420土・421土・430土)……	305
第135回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(13)	193	第185回	土坑(28)(433土・434土・485土・486土・ 488~491土)……	306
第136回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(14)	194	第186回	土坑(29)(497~499土・501土)……	307
第137回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(15)	195	第187回	土坑(30)(502土・504土・508土・509土)……	308
第138回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(16)	196	第188回	土坑(31)(512土・514~516土)……	309
第139回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(17)	197	第189回	土坑(32)(517~519土・526土・527土)……	310
第140回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(18)	198	第190回	土坑(33)(528土・531土・532土)……	311
第141回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(19)	199	第191回	土坑(34)(533土・535土・537土・539土)……	312
第142回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(20)	200	第192回	土坑(35)(545土・548土・549土・551土・552土)……	313
第143回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(21)	201	第193回	土坑(36)(553~555土)……	314
第144回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(22)	202	第194回	土坑(37)(556~559土)……	315
第145回	遺構内出土石器(竪穴住居跡)(23)	203			

第195區	土坑(38)(560土·561土·565土)·····	316	第245區	遺構內出土石器(土坑)(18)·····	366
第196區	土坑(39)(566土·568土·569土·571土)·····	317	第246區	遺構內出土石器(土坑)(19)·····	367
第197區	土坑(40)(572土·573土·575土·576土)·····	318	第247區	遺構內出土石器(土坑)(20)·····	368
第198區	土坑(41)(577土·579~581土)·····	319	第248區	遺構內出土石器(土坑)(21)·····	369
第199區	土坑(42)(583~586土)·····	320	第249區	遺構內出土石器(土坑)(22)·····	370
第200區	土坑(43)(587土·588土·590土·591土)·····	321	第250區	遺構內出土石器(土坑)(23)·····	371
第201區	遺構內出土石器(土坑)(1)·····	322	第251區	遺構內出土石器(土坑)(24)·····	372
第202區	遺構內出土石器(土坑)(2)·····	323	第252區	遺構內出土石器(土坑)(25)·····	373
第203區	遺構內出土石器(土坑)(3)·····	324	第253區	遺構內出土石器(土坑)(26)·····	374
第204區	遺構內出土石器(土坑)(4)·····	325	第254區	遺構內出土石器(土坑)(27)·····	375
第205區	遺構內出土石器(土坑)(5)·····	326	第255區	遺構內出土石器(土坑)(28)·····	376
第206區	遺構內出土石器(土坑)(6)·····	327	第256區	遺構內出土石器(土坑)(29)·····	377
第207區	遺構內出土石器(土坑)(7)·····	328	第257區	遺構內出土製品(土坑)·····	378
第208區	遺構內出土石器(土坑)(8)·····	329	第258區	遺構內出土製品·鐵刃連遺物(土坑)·····	379
第209區	遺構內出土石器(土坑)(9)·····	330	第259區	溝狀土坑(1)(15~18溝狀)·····	393
第210區	遺構內出土石器(土坑)(10)·····	331	第260區	溝狀土坑(2)(19~22溝狀)·····	394
第211區	遺構內出土石器(土坑)(11)·····	332	第261區	溝狀土坑(3)(23~26溝狀)·····	395
第212區	遺構內出土石器(土坑)(12)·····	333	第262區	溝狀土坑(4)(27~30溝狀)·····	396
第213區	遺構內出土石器(土坑)(13)·····	334	第263區	溝狀土坑(5)(31~33溝狀)·····	397
第214區	遺構內出土石器(土坑)(14)·····	335	第264區	溝狀土坑(6)(34~36溝狀)·····	398
第215區	遺構內出土石器(土坑)(15)·····	336	第265區	溝狀土坑(7)(37~40溝狀)·····	399
第216區	遺構內出土石器(土坑)(16)·····	337	第266區	溝狀土坑(8)(42~44溝狀)·····	400
第217區	遺構內出土石器(土坑)(17)·····	338	第267區	溝狀土坑(9)(45~49溝狀)·····	401
第218區	遺構內出土石器(土坑)(18)·····	339	第268區	溝狀土坑(10)(50~52溝狀)·····	402
第219區	遺構內出土石器(土坑)(19)·····	340	第269區	遺構內出土石器(溝狀土坑)(1)·····	403
第220區	遺構內出土石器(土坑)(20)·····	341	第270區	遺構內出土石器(溝狀土坑)(2)·····	404
第221區	遺構內出土石器(土坑)(21)·····	342	第271區	遺構內出土石器(溝狀土坑)(3)·····	405
第222區	遺構內出土石器(土坑)(22)·····	343	第272區	遺構內出土石器(溝狀土坑)(4)·····	406
第223區	遺構內出土石器(土坑)(23)·····	344	第273區	遺構內出土石器(溝狀土坑)(1)·····	407
第224區	遺構內出土石器(土坑)(24)·····	345	第274區	遺構內出土石器(溝狀土坑)(2)·····	408
第225區	遺構內出土石器(土坑)(25)·····	346	第275區	埋設石器遺構(1)(9~14埋)·····	421
第226區	遺構內出土石器(土坑)(26)·····	347	第276區	埋設石器遺構(2)(15~20埋)·····	422
第227區	遺構內出土石器(土坑)(27)·····	348	第277區	埋設石器遺構(3)(21~23埋·26~28埋)·····	423
第228區	遺構內出土石器(土坑)(1)·····	349	第278區	埋設石器遺構(4)(29~34埋)·····	424
第229區	遺構內出土石器(土坑)(2)·····	350	第279區	埋設石器遺構(5)(35埋·36埋·38~41埋)·····	425
第230區	遺構內出土石器(土坑)(3)·····	351	第280區	埋設石器遺構(6)(42~47埋)·····	426
第231區	遺構內出土石器(土坑)(4)·····	352	第281區	埋設石器遺構(7)(48埋·50~54埋)·····	427
第232區	遺構內出土石器(土坑)(5)·····	353	第282區	埋設石器遺構(8)(55~58埋)·····	428
第233區	遺構內出土石器(土坑)(6)·····	354	第283區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(1)·····	429
第234區	遺構內出土石器(土坑)(7)·····	355	第284區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(2)·····	430
第235區	遺構內出土石器(土坑)(8)·····	356	第285區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(3)·····	431
第236區	遺構內出土石器(土坑)(9)·····	357	第286區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(4)·····	432
第237區	遺構內出土石器(土坑)(10)·····	358	第287區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(5)·····	433
第238區	遺構內出土石器(土坑)(11)·····	359	第288區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(6)·····	434
第239區	遺構內出土石器(土坑)(12)·····	360	第289區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(7)·····	435
第240區	遺構內出土石器(土坑)(13)·····	361	第290區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(8)·····	436
第241區	遺構內出土石器(土坑)(14)·····	362	第291區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(9)·····	437
第242區	遺構內出土石器(土坑)(15)·····	363	第292區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(1)·····	438
第243區	遺構內出土石器(土坑)(16)·····	364	第293區	遺構內出土石器(埋設石器遺構)(2)·····	439
第244區	遺構內出土石器(土坑)(17)·····	365	第294區	坑土遺構(1)(7~13號·15號·17號)·····	446

第295図	焼土遺構(2)(18~26焼)	447	第344図	柱穴状ビット(23)(726~745ビット)	519
第296図	焼土遺構(3)(27~31焼)	448	第345図	柱穴状ビット(24)(746~765ビット)	520
第297図	遺構内出土土器・石器(焼土遺構)	449	第346図	柱穴状ビット(25)(766~786ビット)	521
第298図	円形周溝(1)(2円・3円)	452	第347図	柱穴状ビット(26)(787~806ビット)	522
第299図	円形周溝(2)(4円)	453	第348図	柱穴状ビット(27)(807~826ビット)	523
第300図	遺構内出土土器・石器(円形周溝)	454	第349図	柱穴状ビット(28)(827~846ビット)	524
第301図	配石遺構(1配)	455	第350図	柱穴状ビット(29)(847~867ビット)	525
第302図	遺構内出土土器(配石遺構)	456	第351図	柱穴状ビット(30)(868~888ビット)	526
第303図	井戸跡(1井)	458	第352図	柱穴状ビット(31)(889~908ビット)	527
第304図	遺構内出土土器(井戸跡)	459	第353図	柱穴状ビット(32)(909~929ビット)	528
第305図	遺構内出土土器(井戸跡)(1)	460	第354図	柱穴状ビット(33)(930~949ビット)	529
第306図	遺構内出土土器(井戸跡)(2)	461	第355図	柱穴状ビット(34)(950~969ビット)	530
第307図	溝跡(1)(1溝)	468	第356図	柱穴状ビット(35)(970~989ビット)	531
第308図	溝跡(2)(2溝A~5溝)	469	第357図	柱穴状ビット(36)(990~1009ビット)	532
第309図	溝跡(3)(6~10溝)	470	第358図	柱穴状ビット(37)(1010~1029ビット)	533
第310図	溝跡(4)(11溝・14溝・15溝)	471	第359図	柱穴状ビット(38)(1030~1049ビット)	534
第311図	溝跡(5)(16溝)	472	第360図	柱穴状ビット(39)(1050~1069ビット)	535
第312図	溝跡(6)(13溝)	473	第361図	柱穴状ビット(40)(1070~1094ビット)	536
第313図	遺構内出土土器(溝跡)(1)	474	第362図	柱穴状ビット(41)(1098~1128ビット)	537
第314図	遺構内出土土器(溝跡)(2)	475	第363図	柱穴状ビット(42)(1129~1150ビット)	538
第315図	遺構内出土土器(溝跡)(1)	476	第364図	柱穴状ビット(43)(1151~1171ビット)	539
第316図	遺構内出土土器(溝跡)(2)	477	第365図	柱穴状ビット(44)(1172~1191ビット)	540
第317図	遺構内出土土器(溝跡)(3)	478	第366図	柱穴状ビット(45)(1192~1211ビット)	541
第318図	遺構内出土土器(溝跡)(4)	479	第367図	柱穴状ビット(46)(1212~1231ビット)	542
第319図	遺構内出土土器(溝跡)(5)	480	第368図	柱穴状ビット(47)(1232~1251ビット)	543
第320図	遺構内出土土器(溝跡)(6)	481	第369図	柱穴状ビット(48)(1252~1267ビット)	544
第321図	遺構内出土土製品・石製品・ 鉄関連遺物(溝跡)	482	第370図	遺構内出土土器(柱穴状ビット)(1)	545
第322図	柱穴状ビット(1)	495-496	第371図	遺構内出土土器(柱穴状ビット)(2)	546
第323図	柱穴状ビット(2)	497-498	第372図	遺構内出土土器(柱穴状ビット)(1)	547
第324図	柱穴状ビット(3)	499	第373図	遺構内出土土器(柱穴状ビット)(2)	548
第325図	柱穴状ビット(4)(323~344ビット)	500	第374図	遺構外出土土器(1)	557
第326図	柱穴状ビット(5)(345~362ビット)	501	第375図	遺構外出土土器(2)	558
第327図	柱穴状ビット(6)(363~399ビット)	502	第376図	遺構外出土土器(3)	559
第328図	柱穴状ビット(7)(400~428ビット)	503	第377図	遺構外出土土器(4)	560
第329図	柱穴状ビット(8)(429~451ビット)	504	第378図	遺構外出土土器(5)	561
第330図	柱穴状ビット(9)(452~464ビット)	505	第379図	遺構外出土土器(6)	562
第331図	柱穴状ビット(10)(465~484ビット)	506	第380図	遺構外出土土器(7)	563
第332図	柱穴状ビット(11)(485~504ビット)	507	第381図	遺構外出土土器(8)	564
第333図	柱穴状ビット(12)(505~524ビット)	508	第382図	遺構外出土土器(9)	565
第334図	柱穴状ビット(13)(525~544ビット)	509	第383図	遺構外出土土器(10)	566
第335図	柱穴状ビット(14)(545~564ビット)	510	第384図	遺構外出土土器(11)	567
第336図	柱穴状ビット(15)(565~584ビット)	511	第385図	遺構外出土土器(12)	568
第337図	柱穴状ビット(16)(585~604ビット)	512	第386図	遺構外出土土器(13)	569
第338図	柱穴状ビット(17)(605~624ビット)	513	第387図	遺構外出土土器(14)	570
第339図	柱穴状ビット(18)(625~645ビット)	514	第388図	遺構外出土土器(15)	571
第340図	柱穴状ビット(19)(646~665ビット)	515	第389図	遺構外出土土器(16)	572
第341図	柱穴状ビット(20)(666~685ビット)	516	第390図	遺構外出土土器(17)	573
第342図	柱穴状ビット(21)(686~705ビット)	517	第391図	遺構外出土土器(18)	574
第343図	柱穴状ビット(22)(706~725ビット)	518	第392図	遺構外出土土器(19)	575
			第393図	遺構外出土土器(20)	576

第394図	遺構外出土石器(21)	577	第433図	遺構外出土石器(27)	621
第395図	遺構外出土石器(22)	578	第434図	遺構外出土石器(28)	622
第396図	遺構外出土石器(23)	579	第435図	遺構外出土石器(29)	623
第397図	遺構外出土石器(24)	580	第436図	遺構外出土石器(30)	624
第398図	遺構外出土石器(25)	581	第437図	遺構外出土石器(31)	625
第399図	遺構外出土石器(26)	582	第438図	遺構外出土石器(32)	626
第400図	遺構外出土石器(27)	583	第439図	遺構外出土石器(33)	627
第401図	遺構外出土石器(28)	584	第440図	遺構外出土石器(34)	628
第402図	遺構外出土石器(29)	585	第441図	遺構外出土石器(35)	629
第403図	遺構外出土石器(30)	586	第442図	遺構外出土石器(36)	630
第404図	遺構外出土石器(31)	587	第443図	遺構外出土石器(37)	631
第405図	遺構外出土石器(32)	588	第444図	遺構外出土石器(38)	632
第406図	遺構外出土石器(33)	589	第445図	遺構外出土石器(39)	633
第407図	遺構外出土石器(1)	595	第446図	遺構外出土石器(40)	634
第408図	遺構外出土石器(2)	596	第447図	遺構外出土石器(41)	635
第409図	遺構外出土石器(3)	597	第448図	遺構外出土石器(42)	636
第410図	遺構外出土石器(4)	598	第449図	遺構外出土石器(43)	637
第411図	遺構外出土石器(5)	599	第450図	遺構外出土石器(44)	638
第412図	遺構外出土石器(6)	600	第451図	遺構外出土製品(1)	642
第413図	遺構外出土石器(7)	601	第452図	遺構外出土製品(2)	643
第414図	遺構外出土石器(8)	602	第453図	遺構外出土製品(3)	644
第415図	遺構外出土石器(9)	603	第454図	遺構外出土製品(4)	645
第416図	遺構外出土石器(10)	604	第455図	遺構外出土製品(5)	646
第417図	遺構外出土石器(11)	605	第456図	遺構外出土製品(6)	647
第418図	遺構外出土石器(12)	606	第457図	遺構外出土製品(7)・石製品	648
第419図	遺構外出土石器(13)	607	第458図	遺構外出土鉄関連遺物	650
第420図	遺構外出土石器(14)	608	第459図	遺構外出土古銭・鉄銭	652
第421図	遺構外出土石器(15)	609	第460図	縄文時代の竪穴住居跡	677
第422図	遺構外出土石器(16)	610	第461図	平安時代の竪穴住居跡	680
第423図	遺構外出土石器(17)	611	第462図	カマド主軸方位	682
第424図	遺構外出土石器(18)	612	第463図	床面積別配置状況	684
第425図	遺構外出土石器(19)	613	第464図	新町野遺跡出土食器具の散布図1 [器高指数/口径:全資料]	691
第426図	遺構外出土石器(20)	614	第465図	新町野遺跡出土食器具の散布図2 [器高指数/口径:全資料(種別毎)]	691
第427図	遺構外出土石器(21)	615	第466図	土師器の時期毎の法量分布	692
第428図	遺構外出土石器(22)	616	第467図	土師器杯形土器の変遷要素1	692
第429図	遺構外出土石器(23)	617	第468図	土師器杯形土器の変遷要素2	692
第430図	遺構外出土石器(24)	618	第469図	新町野遺跡出土土師器杯変遷図	694
第431図	遺構外出土石器(25)	619			
第432図	遺構外出土石器(26)	620			

表 目 次

第1表	柱穴状ピット観察表	483	第7表	遺構内(竪穴住居跡)出土石器計測表	704
第2表	竪穴住居跡(平安時代)観察表	679	第8表	遺構内(竪穴住居跡)出土土製品観察表	708
第3表	分析対象資料	687	第9表	遺構内(竪穴住居跡)出土土製品観察表	708
第4表	遺構内(竪穴住居跡)出土土器観察表(1)	699	第10表	遺構内(竪穴住居跡)出土鉄関連遺物計測表	708
第5表	遺構内(竪穴住居跡)出土土器観察表(2)	699	第11表	遺構内(竪穴遺構)出土土器観察表(1)	708
第6表	遺構内(竪穴住居跡)出土土器観察表(3)	701	第12表	遺構内(竪穴遺構)出土土器観察表(2)	709

第13表	遺構内(竪穴遺構)出土石器計測表	709	第33表	遺構内(溝跡)出土石器観察表(1)	721
第14表	遺構内(土坑)出土石器観察表(1)	709	第34表	遺構内(溝跡)出土石器観察表(2)	722
第15表	遺構内(土坑)出土石器観察表(2)	710	第35表	遺構内(溝跡)出土石器観察表(3)	722
第16表	遺構内(土坑)出土石器観察表(3)	713	第36表	遺構内(溝跡)出土石器計測表	722
第17表	遺構内(土坑)出土石器計測表	714	第37表	遺構内(溝跡)出土製品観察表	723
第18表	遺構内(土坑)出土製品観察表	718	第38表	遺構内(溝跡)出土石器観察表	723
第19表	遺構内(土坑)出土鉄関連遺物計測表	718	第39表	遺構内(溝跡)出土鉄関連遺物計測表	723
第20表	遺構内(溝状土坑)出土石器観察表(1)	718	第40表	遺構内(柱穴状ピット)出土石器観察表(1)	723
第21表	遺構内(溝状土坑)出土石器観察表(2)	718	第41表	遺構内(柱穴状ピット)出土石器観察表(2)	724
第22表	遺構内(溝状土坑)出土石器計測表	719	第42表	遺構内(柱穴状ピット)出土石器計測表	724
第23表	遺構内(埋設土器遺構)出土石器観察表	719	第43表	遺構外出土石器観察表(1)	724
第24表	遺構内(埋設土器遺構)出土石器計測表	720	第44表	遺構外出土石器観察表(2)	726
第25表	遺構内(焼土遺構)出土石器観察表	720	第45表	遺構外出土石器観察表(3)	727
第26表	遺構内(焼土遺構)出土石器計測表	720	第46表	遺構外出土石器計測表	727
第27表	遺構内(円形周溝)出土石器観察表(1)	720	第47表	遺構外出土製品観察表	742
第28表	遺構内(円形周溝)出土石器観察表(2)	721	第48表	遺構外出土製品観察表	743
第29表	遺構内(円形周溝)出土石器計測表	721	第49表	遺構外出土鉄関連遺物計測表	743
第30表	遺構内(配石遺構)出土石器計測表	721	第50表	遺構外出土古銭計測表	743
第31表	遺構内(井戸跡)出土石器観察表	721	第51表	遺構外出土鉄銭計測表	743
第32表	遺構内(井戸跡)出土石器計測表	721			

写真目次

写真1	検出遺構(1)	747	写真25	遺構内出土土器(5)	771
写真2	検出遺構(2)	748	写真26	遺構内出土土器(6)	772
写真3	検出遺構(3)	749	写真27	遺構内出土土器(7)	773
写真4	検出遺構(4)	750	写真28	遺構内出土土器(8)	774
写真5	検出遺構(5)	751	写真29	遺構内出土土器(9)	775
写真6	検出遺構(6)	752	写真30	遺構内出土土器(10)	776
写真7	検出遺構(7)	753	写真31	遺構内出土土器(11)	777
写真8	検出遺構(8)	754	写真32	遺構内出土土器(12)	778
写真9	検出遺構(9)	755	写真33	遺構内出土土器(13)	779
写真10	検出遺構(10)	756	写真34	遺構内出土土器・石製品・鉄関連遺物	780
写真11	検出遺構(11)	757	写真35	遺構外出土土器(1)	781
写真12	検出遺構(12)	758	写真36	遺構外出土土器(2)	782
写真13	検出遺構(13)	759	写真37	遺構外出土土器(3)	783
写真14	検出遺構(14)	760	写真38	遺構外出土土器(4)	784
写真15	検出遺構(15)	761	写真39	遺構外出土土器(5)	785
写真16	検出遺構(16)	762	写真40	遺構外出土土器(6)	786
写真17	検出遺構(17)	763	写真41	遺構内出土土器(1)	787
写真18	検出遺構(18)	764	写真42	遺構内出土土器(2)	788
写真19	検出遺構(19)	765	写真43	遺構内出土土器(3)	789
写真20	検出遺構(20)	766	写真44	遺構外出土土器(1)	790
写真21	遺構内出土土器(1)	767	写真45	遺構外出土土器(2)	791
写真22	遺構内出土土器(2)	768	写真46	遺構外出土土器(3)	792
写真23	遺構内出土土器(3)	769	写真47	遺構外出土土器(4)	793
写真24	遺構内出土土器(4)	770			

第4編 平成17・18年度発掘調査成果

第1章 調査要項

・平成17年度新町野遺跡発掘調査要項

1 調査目的

東北新幹線建設事業に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2 遺跡名及び所在地

新町野遺跡 (青森県遺跡番号 01161)

青森市大字新町野字菅谷ほか

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| 3 事業実施期間 | 平成17年4月1日～平成18年3月31日 |
| 4 発掘調査期間 | 平成17年5月9日～平成17年11月30日 |
| 5 調査面積 | 20,500㎡ |
| 6 調査委託者 | 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局 |
| 7 調査受託者 | 青森市 |
| 8 調査担当機関 | 青森市教育委員会事務局文化財課 |
| 9 調査指導機関 | 青森県教育庁文化財保護課 |
| 10 予算措置 | 調査委託者側で措置 |

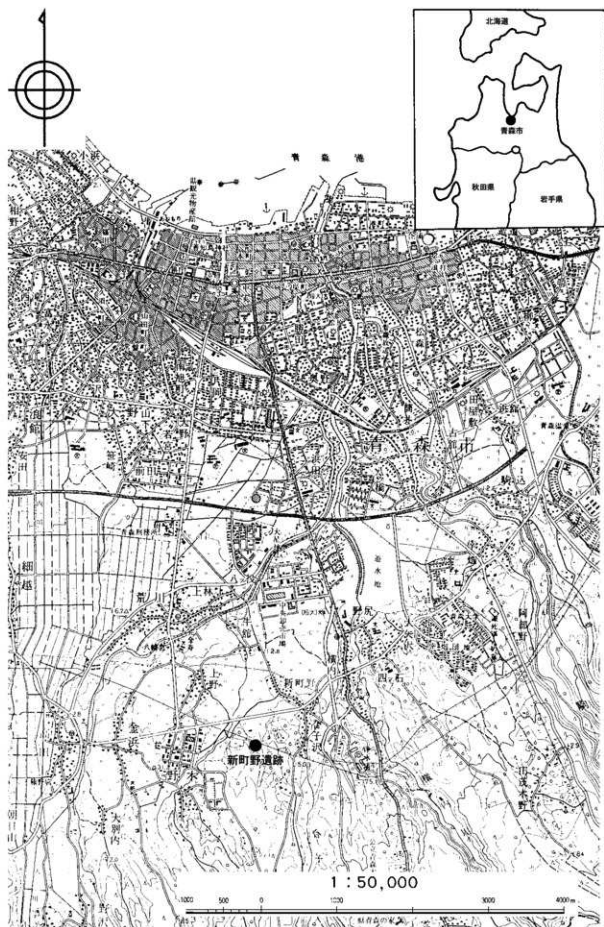
11 調査体制

調査指導員	村 越 潔	弘前大学名誉教授	(考古学)
調査員	藤 沼 邦 彦	弘前大学教授	(考古学)
〃	葛 西 勳	青森短期大学教授	(考古学)
〃	市 川 金 丸	元青森県考古学会会長	(考古学)
〃	工 藤 一 彌	青森県総合学校教育センター高校教育課長	(地質学)

調査事務局 青森市教育委員会

教育長	角 田 詮二郎
教育部長	古 山 善 猛
理 事	月 永 良 彦
教育次長	最 上 進
事務局参事	

文化財課長事務取扱	遠 藤 正 夫
主 幹	多 田 弘 仁
主 査	佐々木 鏡 子
文化財主事	小 野 貴 之 (調査担当)
〃	木 村 淳 一
〃	児 玉 大 成
〃	設 楽 政 健



第1図 遺跡位置図

主 事	越 谷 美由紀 (庶務担当)
”	當 麻 良 人 (庶務担当)
埋蔵文化財調査員	蝦 名 純
調査補助員	市 川 亜紀子
”	稲 垣 森 太
”	小 野 み き
”	葛 西 かおり
”	高 坂 真 澄
”	嶋 影 壮 憲
”	竹 内 絵美子
”	永 洞 佐哉子
”	沼 畑 伸 一
”	藤 田 ひろみ
”	溝 江 由里子
”	安 田 武 実

・平成18年度新町野遺跡発掘調査要項

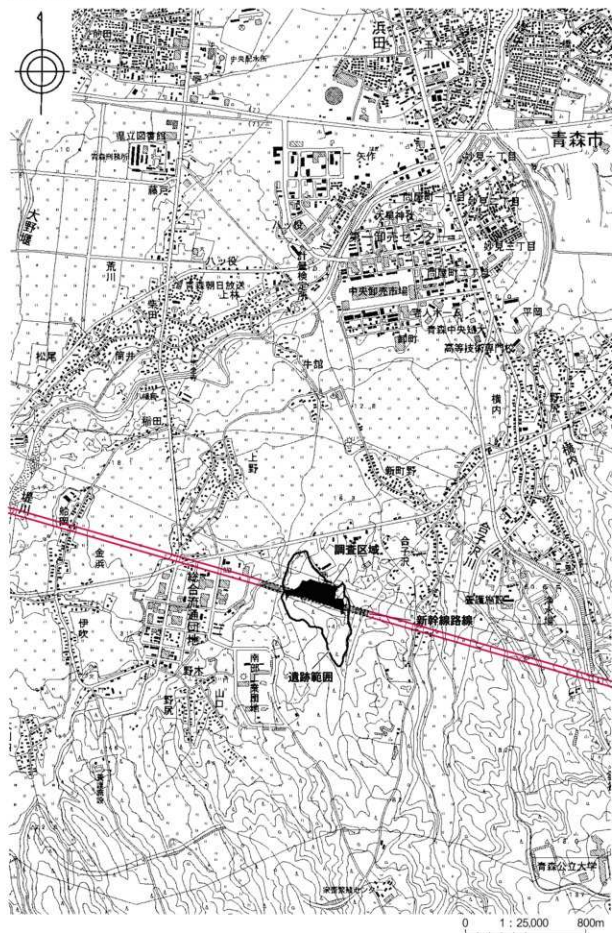
1 調査目的

東北新幹線建設事業に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2 遺跡名及び所在地

新町野遺跡 (青森県遺跡番号 01161)
青森市大字新町野字菅谷ほか

3 事業実施期間	平成18年4月14日～平成19年3月30日
4 発掘調査期間	平成18年6月5日～平成18年10月13日
5 調査面積	9,600㎡
6 調査委託者	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局
7 調査受託者	青森市
8 調査担当機関	青森市教育委員会事務局文化財課
9 調査指導機関	青森県教育庁文化財保護課
10 予算措置	調査委託者側で措置
11 調査体制	
調査指導員	村 越 潔 弘前大学名誉教授 (考古学)
調査員	藤 沼 邦 彦 弘前大学教授 (考古学)
”	葛 西 勲 青森短期大学教授 (考古学)
”	市 川 金 丸 元青森県考古学会会長 (考古学)
”	沼 山 源喜治 岩手県考古学会会長 (考古学)
”	工 藤 一 彌 青森県総合学校教育センター高校教育課長 (地質学)



第2図 調査区位置図

調査事務局 青森市教育委員会

教 育 長	角 田 詮二郎
教 育 部 長	古 山 善 猛
教 育 次 長	相 馬 政 美
事務局参事	
文化財課長事務取扱	遠 藤 正 夫
主 幹	多 田 弘 仁
主 査	工 藤 幸 子
文化財主事	小 野 貴 之 (調査担当)
〃	木 村 淳 一
〃	児 玉 大 成
〃	設 楽 政 健
主 事	竹ヶ原 亜 希
〃	越 谷 美由紀 (庶務担当)
〃	當 麻 良 人 (庶務担当)
埋蔵文化財調査員	蝦 名 純
調査補助員	市 川 亜紀子
〃	長 内 礼 二
〃	葛 西 かおり
〃	高 坂 真 澄
〃	竹 内 絵美子
〃	永 洞 佐哉子
〃	沼 畑 伸 一
〃	溝 江 由里子

第2章 調査経過

・平成17年度

5月9日、調査対象範囲が広範囲にわたるため、発掘調査に先立ち、調査区内に土層確認用ピットを設定した。また、土層堆積状況の確認作業と平行し調査区内に基準杭の設置を開始した。

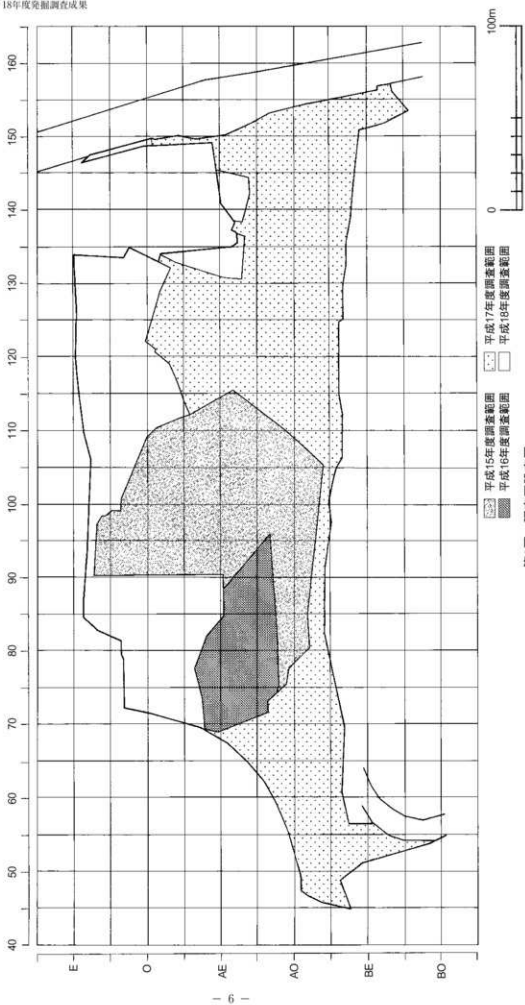
5月16日、調査開始式を行い、調査区内の環境整備を開始した。

5月17日、環境整備に平行し、引き続き土層堆積状況把握作業を行った。

5月30日、調査区内に設定した土層確認用ピットの状況を見たところ、調査区西側の90ライン以西において削平・盛土がなされていたが、調査区東側の110ライン以东においては、プライマリーな堆積状況が確認された。重機による表土除去作業を開始した。

6月下旬、110ライン以东において、縄文時代の竪穴住居跡や土坑、平安時代の竪穴住居などを確認し、精査を開始した。

7月上旬、70ライン以西において、平安時代の竪穴住居跡、縄文時代の竪穴住居跡などを確認し、調



第3図 調査区設定図

査区東側と平行して遺構の精査を開始した。

8月上旬、調査区西側の精査を終了した。調査区東側の精査を引き続き行った。

9月上旬、当初予定の調査面積10,000㎡について完了の目途がつき、また、用地取得状況も好転したことから、調査面積を20,500㎡に変更することとした。調査追加範囲の遺構確認を開始し、新たに竪穴住居跡、円形周溝等を確認した。

10月中旬、調査区中央部と平行し、調査追加範囲の精査を進めた。

11月30日、調査終了式を行い、第三次調査を終了した。検出遺構数は、竪穴住居跡24軒、竪穴遺構2軒、土坑92基、溝状土坑29基、埋設土器遺構16基、焼土遺構11基、円形周溝2基、配石遺構1基、井戸跡1基、溝跡4条、柱穴状ピット107基である。出土遺物は、土器、石器、土製品、石製品等整理用コンテナ換算で115箱が出土した。

・平成18年度

6月5日、調査区域内に基準杭の設置等を開始した。

6月上旬、調査区内東側において、重機による表土除去作業を開始した。

6月12日、発掘作業員の雇用開始日であり、調査開始式を行い、調査区内の環境整備を開始した。また、調査区西側において、重機による表土除去作業を開始した。

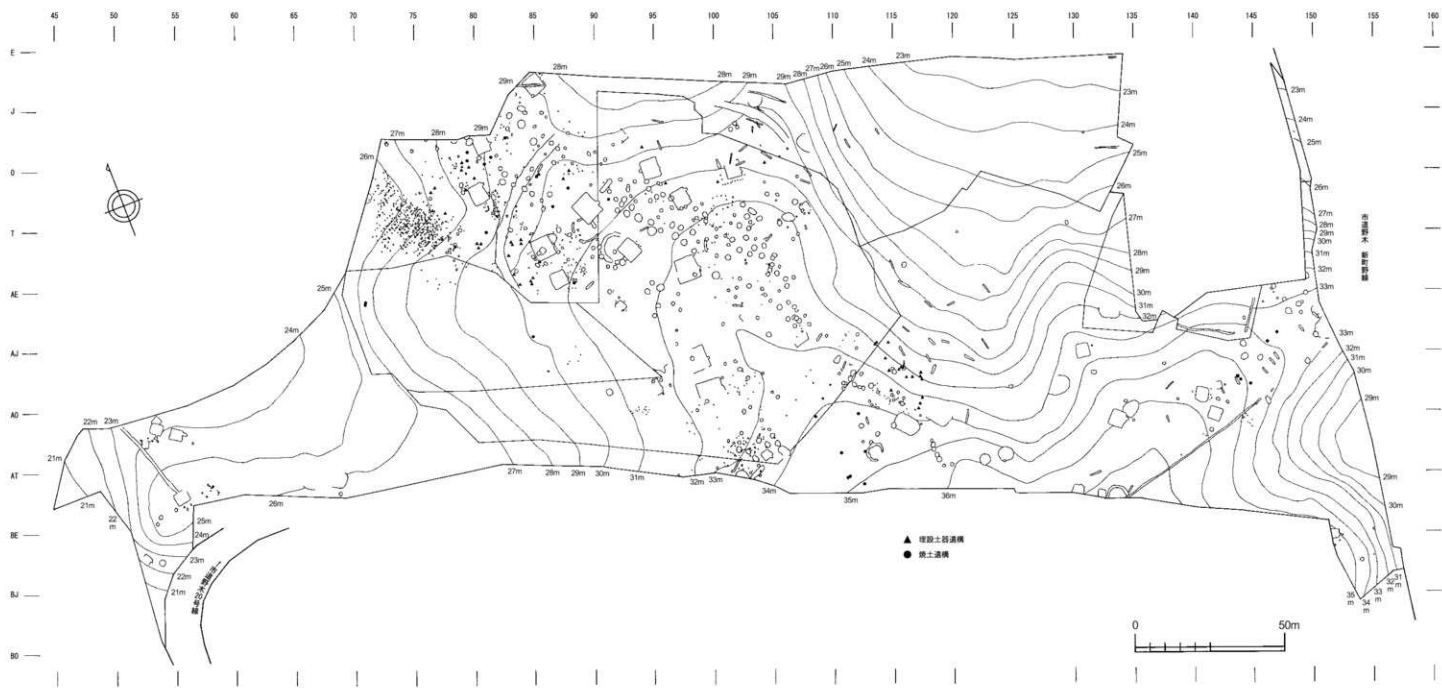
6月下旬、遺構確認作業を進めたところ、遺構密度は調査区東側が低く、調査区西側が高いことを確認した。順次遺構精査を進めた。

9月中旬、竪穴住居跡の精査、作図が終了し、残る柱穴状ピット等の精査を進めた。

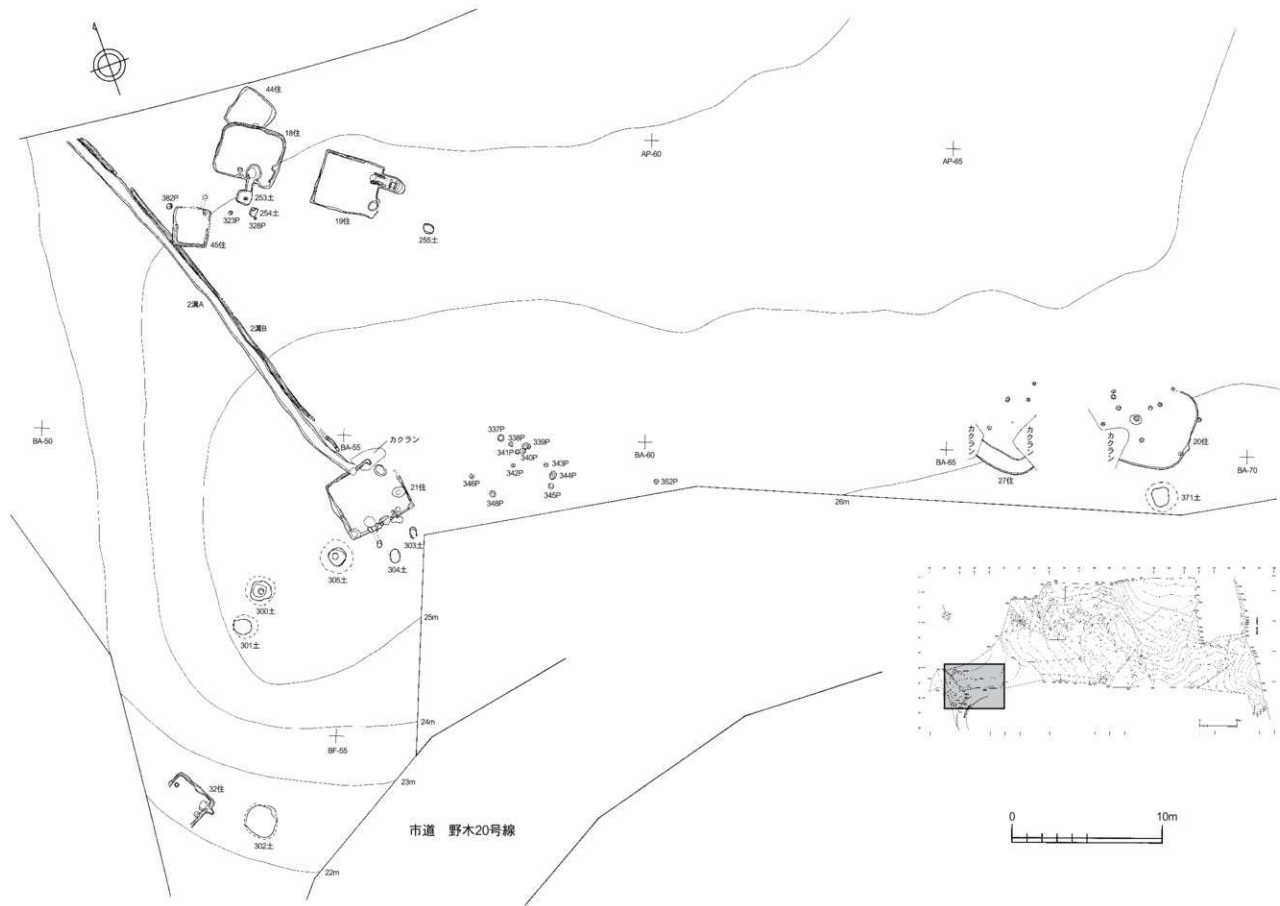
9月24日、現地見学会を開催し、付近住民の方等約100名の見学者が訪れた。

10月13日、調査終了式を行い、第四次調査を終了した。検出遺構数は、竪穴住居跡12軒、竪穴遺構1軒、土坑87基、溝状土坑8基、埋設土器遺構28基、焼土遺構11基、円形周溝1基、溝跡12条、柱穴状ピット775基である。出土遺物は、土器、石器、土製品、石製品等整理用コンテナ換算で139箱が出土した。

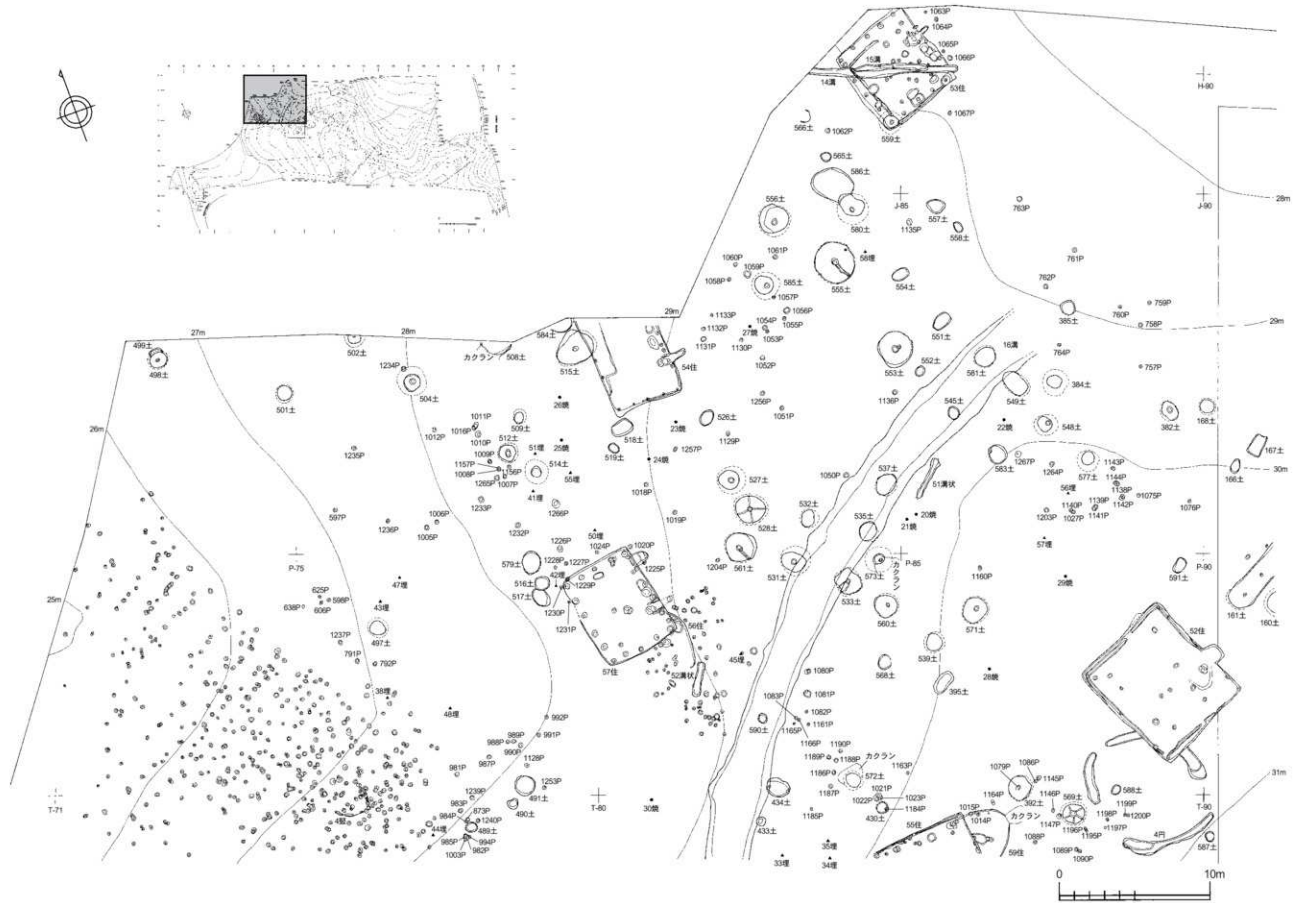
(小野 貴之、蝦名 純)



第4圖 遺構配置圖 (1)



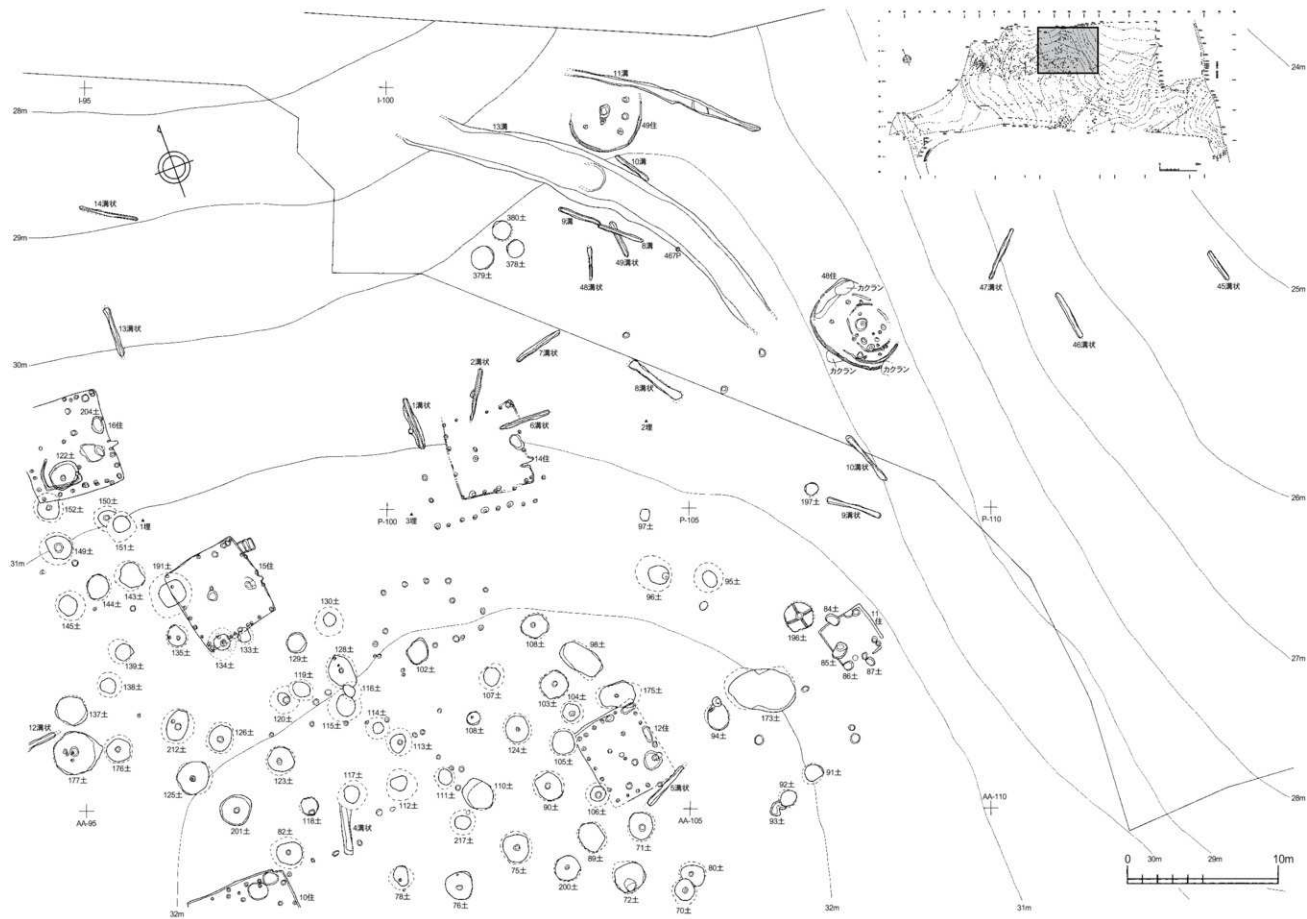
第5図 遺構配置図 (2)



第6図 遺構配置図 (3)



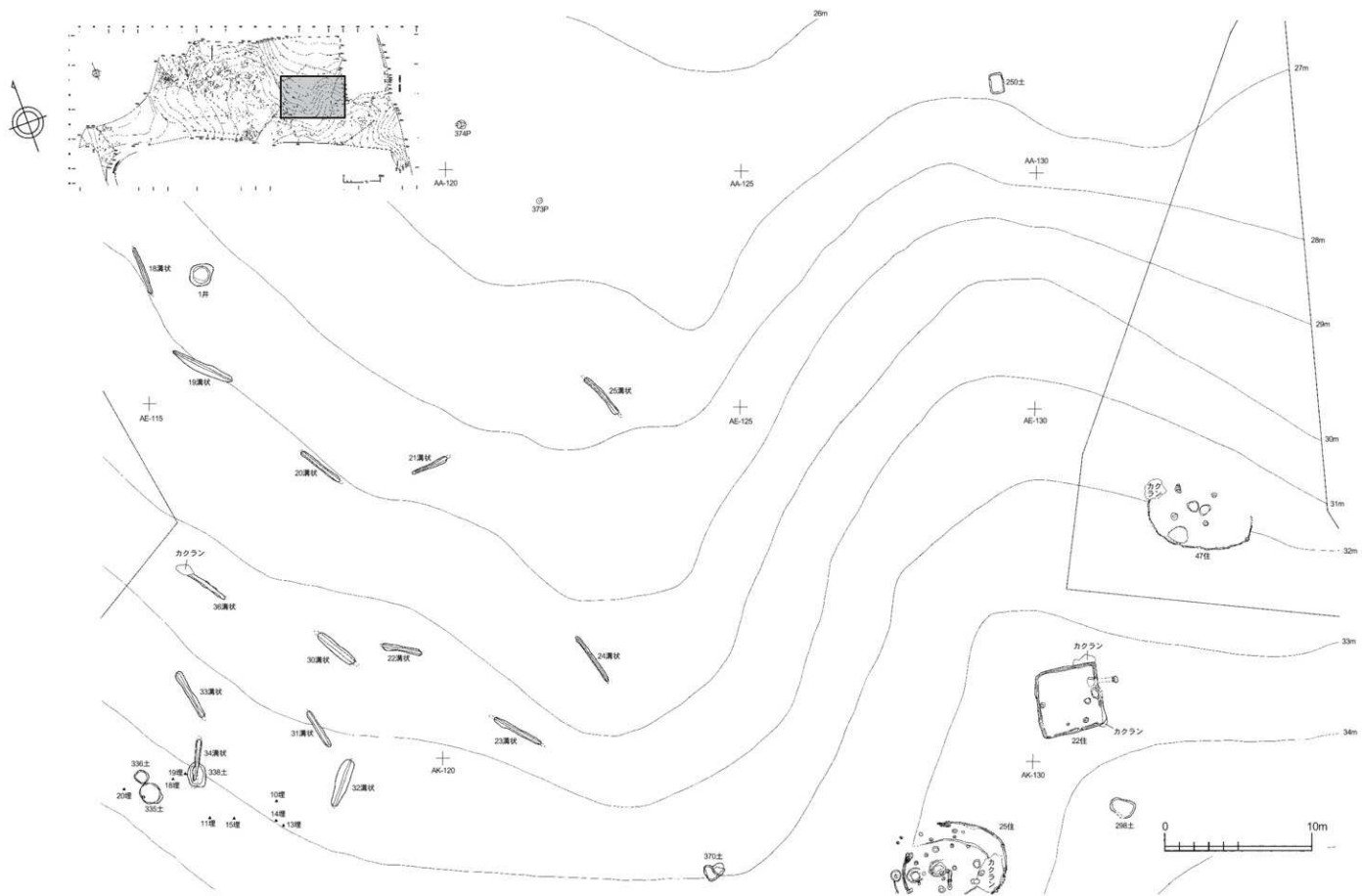
第7図 遺構配置図(4)



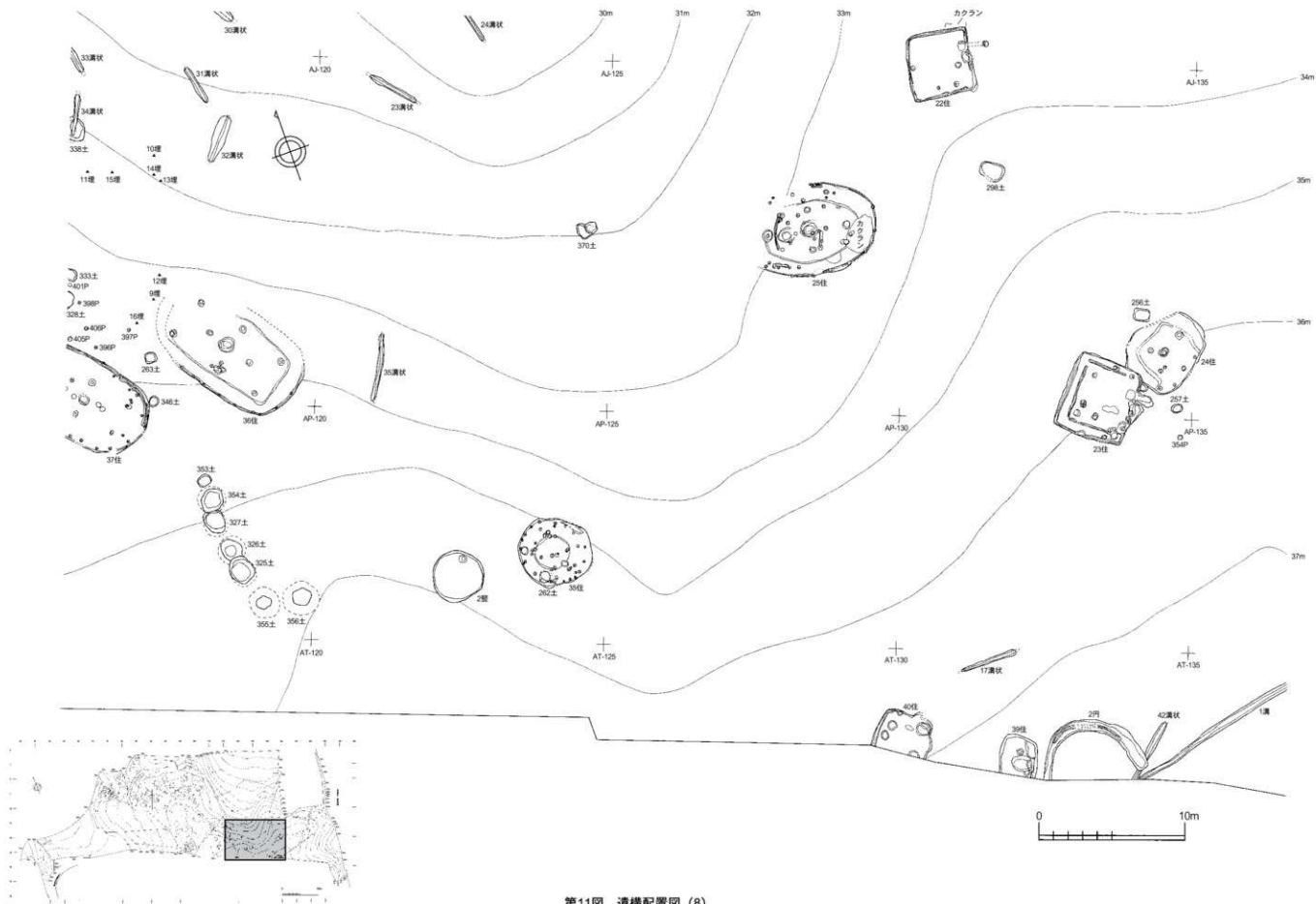
第8図 遺構配置図(5)



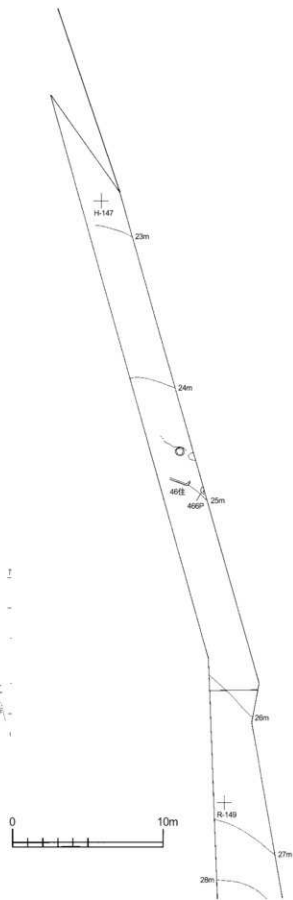
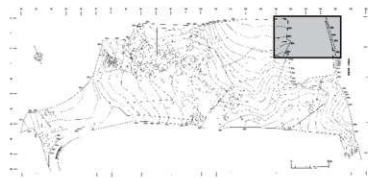
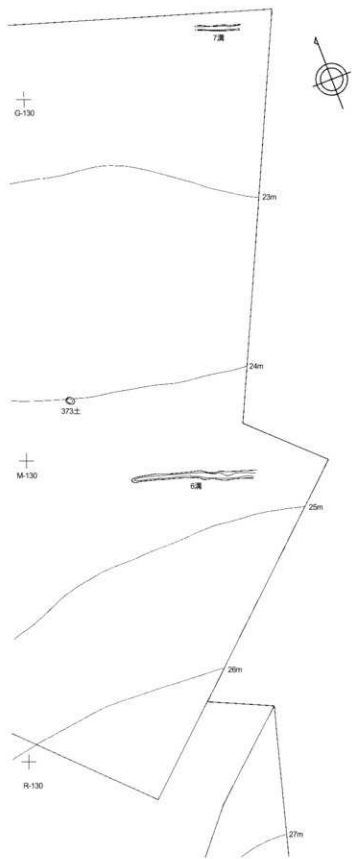
第9図 遺構配置図 (6)



第10図 遺構配置図(7)



第11図 遺構配置図 (8)



第12図 遺構配置図 (9)



第13図 遺構配置図 (10)



第14図 遺構配置図 (11)

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

1. 竪穴住居跡

第18号竪穴住居跡（第5図、第15、16図）

[位置・確認層] AP・AQ-53・54グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第44号竪穴住居跡、第253号土坑と重複し、本遺構は、第44号竪穴住居跡より新しく、第253号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は、一部張り出し部を有するが、おおむね方形を呈する。規模は、424cm×357cmである。深さは、東壁が27cm、西壁が12cm、南壁が10cm、北壁が21cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰相当の第VI層を掘り込んだ後、全体を褐色土で埋めて貼床としている。床面は、中央部から東へ南壁方向へ緩く傾斜している。堅く締まる。南壁東側に張り出し部を有する。

[壁溝] 壁溝は、北壁西側から西壁にかけて、また、北壁東側から東壁にかけて巡っている。幅10～24cm、深さ6～16cmである。

[ピット・柱穴] 3基検出した。規模はピット1が40×30×25cm、ピット2が34×32×11cm、ピット3が35×32×13cmである。

[カマド] 南壁で確認した。南壁の西端から3/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-152°-Wである。火床面は不整楕円形を呈し、70×60cmを測る。また、火床面を含む掘り込みを確認した。平面形は不整円形を呈し、規模は98×102×10cmを測る。掘り込みの底面中央から東側の範囲が火床面となっている。火床面南側で、土師器甕の底部が伏せられた状態で検出され、支脚として用いられたと思われる。袖部は右袖を確認した。ロームにより構築されており、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。煙道部は半地下式と思われ、住居跡壁際で29°程の角度で立ち上がり、壁の外側で緩やかに傾斜している。煙出部は第253号土坑と重複し形状などは不明である。幅40～52cm、長さ(66)cmを測る。

[その他の付属施設] 南壁の東端に張り出し部を有する。規模は、100×(110)×10cmである。住居跡と同様な堆積状況である。

[覆土] 7層に分層した。第7層は掘り方埋土である。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第3、4層に十和田火山灰が少量混入している。第5層はピット1覆土で黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第8層より須恵器（坏）（第104図1）、第8、3層より土師器（坏）（第104図2～4）、カマド第7、3層、第3、2層より土師器（甕）（第104図5～11）、第1層より土師器（鉢）（第104図12）が出土している。石器は、第2層より剥片（第123図1）が1点、第3層より敲磨器（第134図68）が1点、第1層より台石が1点出土している。鉄関連遺物は第2層より含鉄鉄滓（第153図9）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第19号竪穴住居跡（第5図、第17、18図）

【位置・確認層】AQ・AR-55、56グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】なし。

【平面形・規模】平面形は、東壁の南端が若干張り出す他、おおむね長方形を呈する。規模は、398cm×384cmである。深さは、東壁が29cm、西壁が25cm、南壁が30cm、北壁が28cmである。

【壁】壁は東壁の一部が内側へ若干オーバーハングして立ち上がる他、外側へ直線的に立ち上がる。

【床】大谷火山灰相当の第VI層を掘り込んだ後、全体を黒褐色土と黄褐色土の混合土で埋めて貼床としている。床面中央部主体に熱を受けた部分が見られる。おおむね平坦である。

【壁溝】壁溝は北壁中央から西壁南端にかけて巡っている。幅8～20cm、深さ2～13cmである。

【ピット・柱穴】なし。

【カマド】東壁で確認した。東壁の北端から3/4から4/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-129°-Eである。火床面は不整形円形を呈し、40×43cmを測る。袖部は左右の袖を確認した。ロームにより構築されており、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。天井部は崩落したと思われ、カマド第12層がこれに相当すると思われる。両袖は住居内側から煙道内へ続き、その外側にロームブロックが中量～多量混入する黒褐色土が堆積する。煙道部は半地下式と思われ、住居壁際で一旦急激に立ち上がり、その後緩やかに上り、煙出部で緩やかに立ち上がる。幅40～43cm、長さ174cmを測る。

【その他の付属施設】第1号土坑を有する。東壁際南側で確認した。平面形は不整形円形を呈する。規模は、76×58×8cmである。壁は住居壁際では内側へオーバーハングして立ち上がる他、おおむね外側へ直線的に立ち上がる。土坑堆積土中に炭化物が混入する。住居床面全体に見られる炭化物の一部と思われ、カマド脇のピットと思われる。

【覆土】13層に分層した。第2層に十和田A火山灰が帯状に混入する。床面直上の第8層下位に炭化材が多量見られ、炭化材の上下に赤褐色を呈するロームが堆積する。第12層は壁溝覆土である。焼土ブロックが混入している。自然堆積と思われる。

【出土遺物】カマド第4層より須恵器（壺）（第105図13）、カマド第16、10、8層、第8、6層より土師器（坏）（第105図14～21）、第8層より土師器（小甕）（第105図23）が出土している。石器は、第6、3層、カマド第17層より台石（第134図69）が3点出土している。土製品は第1、4、8層よりミニチュア土器（第151図1～3）が3点出土している。鉄関連遺物は、第10層より刀子（第153図4）が1点出土している。

【時期】出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第20号竪穴住居跡（第5図、第19、20図）

【位置・確認層】AT・BA・BB-68、69、BA-70グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】なし。

【平面形・規模】掘乱により全容は不明であるが、残存部よりおおむね楕円形を呈すると思われる。残存部より、最大幅は535cmである。深さは、東壁が46cm、南壁が51cmである。

【壁】外側へほぼ直線的に立ち上がる。

【床】大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏が見られるが、全体に平坦である。

[壁溝] なし。

[ビット・柱穴] 10基検出した。規模はビット1が $26 \times 24 \times 44$ cm、ビット2が $28 \times 22 \times 56$ cm、ビット3が $21 \times 18 \times 16$ cm、ビット4が $29 \times 26 \times 34$ cm、ビット5が $27 \times 24 \times 47$ cm、ビット6が $25 \times 22 \times 47$ cm、ビット7が $31 \times 29 \times 66$ cm、ビット8が $33 \times 30 \times 52$ cm、ビット9が $23 \times 20 \times 78$ cm、ビット10が $30 \times 28 \times 64$ cmである。ビット1、2、4～10は柱穴と思われる。残存部から、ビット5、7、9、10の4本一組の主柱穴配置が考えられる。ビット2は住居外に位置するが、本遺構に関連する可能性を考慮して記載した。

[炬] なし。

[その他の付属施設] 床面のほぼ中央で第1号土坑を確認した。平面形は不整な円形を呈し、規模は $75 \times 68 \times 42$ cmを測る。壁は段を持って立ち上がる。3層に分層した。暗褐色土を主体に堆積する。確認位置及び柱穴との位置関係から、本住居跡に伴う可能性が考えられる。

[覆土] 8層に分層した。覆土上位の第1～3層は攪乱層と思われる。覆土下位は、黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は第3層より第II群5 a類土器(第98図1)が出土している。石器は第1層より不定形石器(第123図2)が1点、覆土より剥片が1点、ビット5第2層より敲磨器類(第134図70)が2点、第6層から石皿が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第21号竪穴住居跡(第5図、第21、22図)

[位置・確認層] BB・BC-54～56グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第2号溝跡と重複し、本遺構は、第2号溝跡より古い。

[平面形・規模] 平面形は攪乱及び重複により全容は不明だが、おおむね方形を呈すると思われる。残存部より、規模は、 $498 \text{cm} \times 426 \text{cm}$ である。深さは、東壁が2cm、西壁が40cm、南壁が33cm、北壁が30cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏が見られるがおおむね平坦である。

[壁溝] 壁溝は、東壁と北壁から西壁にかけて巡っている。幅6～34cm、深さ3～25cmである。

[ビット・柱穴] 5基検出した。規模はビット1が $82 \times 76 \times 30$ cm、ビット2が $26 \times 22 \times 11$ cm、ビット3が $32 \times 25 \times 30$ cm、ビット4が $88 \times 67 \times 6$ cm、ビット5が $44 \times 27 \times 10$ cmである。ビット1、3、5は柱穴と思われる。

[カマド] 南壁で確認した。南壁の西端から3/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-177°-Eである。火床面は不整円形を呈し、 75×70 cmを測る。袖部は両袖の一部を確認した。ルームにより構築されており、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。煙道部は地下式と思われ、火床面奥でやや急角度に一旦立ち上がる。壁外側でやや急角度に下がり、その後平坦となり、煙出部で外側へ直線的に立ち上がる。煙出孔は、壁から76cmの地点にあり、不整円形を呈し、 50×32 cmを測る。また、東壁のカマド東側壁面で、被熱を受けている箇所を確認した。壁側面から上部にかけて粘土が土手状に貼り付けられており、一部暗赤褐色を呈する。粘土は大谷火山灰出自と思われる。カマド袖部の残存の可能性も考えられる。

[その他の付属施設] 住居床面北東隅で第1号土坑を確認した。平面形は楕円形を呈する。規模は、81×65×54cmである。第1層に暗褐色土が堆積し、住居覆土第4層に相当すると思われる。

[覆土] 9層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第7層は壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる

[出土遺物] 第1層より須恵器(甕) (第106図25)、カマドA覆土、第10層、第1号土坑覆土より土師器(坏) (第106図26、27)、第9層より土師器(椀) (第106図28)、床面直上、ビット1第1層、第2層より土師器(甕) (第106図29) が出土している。石器は、覆土より不定形石器 (第123図3) が2点、剥片が3点、第2、5、6層、覆土より敲磨器 (第134図73、74) が5点、カマド第1層より砥石 (第134図71) が1点、第2層より台石・石皿 (第134図71) が1点、ビット1第1層より台石 (第134図72) が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第22号竪穴住居跡 (第10図、第23、24図)

[位置・確認層] A J・A K-131、132グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はおおむね方形を呈する。規模は、446cm×444cmである。深さは、東壁が38cm、西壁が45cm、南壁が36cm、北壁が47cmである。

[壁] 東壁南側でやや緩やかに立ち上がる他、おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰相当の第VI層を床面としている。おおむね平坦であるが、中央部から北壁にかけて若干の傾斜が見られる。

[壁溝] 壁溝は、東壁カマド脇から北壁、西壁、南壁へ巡っている。南壁では一部途切れる形となる。幅12～22cm、深さ9～38cmである。

[ビット・柱穴] 4基検出した。規模はビット1が36×34×28cm、ビット2が46×18×10cm、ビット3が36×30×20cm、ビット4が44×40×16cmである。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の北端から3/4から4/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-112°-Eである。火床面は不整形を呈し、56×50cmを測る。袖部は左袖を確認した。ロームにより構築されており、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。煙道部は地下式と思われ、火床面奥から緩やかに下降し、途中40°程度の角度でさらに下降し、いったん平坦となる。その後煙道部で直角に近い角度で立ち上がる。煙出孔は、壁から104cmの地点にあり円形を呈する。規模は38×40cmを測る。

[その他の付属施設] 住居床面のカマド南側で第1号土坑を確認した。平面形は楕円形を呈し、壁はおおむね外側へ直線的に立ち上がる。規模は、78×74×54cmである。7層に分層し、褐色土を主体に堆積する。カマド脇のビットと思われる。

[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積している。第3層は壁溝覆土である。第1層中に白頭山一苦小牧火山灰が少量混入し、第2層に十和田a火山灰が微量混入している。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土坑1第4層、第5、1層より土師器(坏) (第107図30～32)、カマド第4層、第3～1層、覆土より土師器(甕) (第107図33、34、36、37)、第4層より土師器(鍋) (第107図35) が出土してい

る。石器は、第1層より剥片が1点、第1層、覆土より敲磨器（第135図76、78、80）が4点、第2層、第1層より砥石（第135図77、79）が1点、第2層、カマド第4層より台石（第135図75）が2点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第23号竪穴住居跡（第11図、第25～27図）

[位置・確認層] AP・AQ-133～135、AO-134グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第24号竪穴住居跡と重複し、本遺構は、第24号竪穴住居跡より新しい。

[平面形・規模] 平面形はおおむね方形を呈する。規模は、長辺が558cm×短辺が520cmである。深さは、西壁が15cm、南壁が7cm、北壁が24cmである。

[壁] 壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏が見られ、また、壁から中央部にかけて緩やかな傾斜が見られる。

[壁溝] 壁際を巡る壁溝と住居内側を巡る壁溝を確認した。壁際を巡る壁溝は、東壁の北側から北壁にかけて断続的に、また西壁北側から東壁南側へかけて巡っている。幅10～32cm、深さ10～32cmである。内側の壁溝は、ほぼ方形を呈し、規模は438cm×420cmを測る。北壁東側から西側、また、北側から南東側を巡っている。幅8～14cm、深さ3～21cmである。

[ピット・柱穴] 15基検出した。規模はピット1が60×(24)×21cm、ピット2が62×54×28cm、ピット3が68×38×18cm、ピット4が46×39×24cm、ピット5が50×42×42cm、ピット6が52×44×35cm、ピット7が40×34×52cm、ピット8が23×21×31cm、ピット9が39×28×40cm、ピット10が30×26×15cm、ピット11が114×(76)×21cm、ピット12が30×26×36cm、ピット13が110×40×26cm、ピット14が36×32×29cm、ピット15が36×24×8cmである。ピット1、2、4～9、12、14は柱穴と思われる。支柱穴は、ピット2、9とピット5、7の組み合わせが考えられ、また、壁溝が二重になることから拡張の可能性が考えられる。

[カマド] カマドは東壁で3基確認した。北側に位置するものをカマドA、北端に位置するものをカマドB、南側に位置するものをカマドCとする。カマドAは東壁の北端から2/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-131°-Eである。火床面は不整形円形を呈し、70×66cmを測る。火床面奥に2点の礎が立てられており、袖部の残存と思われる。煙道部は半地下式と思われ、火床面奥から緩やかに傾斜し、煙道部で急激に立ち上がる。カマド煙道部の天井部は崩落したと思われ、カマド堆積土第5、6層が相当すると思われる。幅50～80cm、長さ124cmを測る。カマドCは東壁の北端から2/4から3/4の位置に設置されている。煙道部のみ確認した。主軸はN-132°-Eである。煙道部は半地下式と思われ、幅(70)cm、長さ68cmを測る。カマドBは、東壁の南端から4/4の位置に設置されている。煙道部のみ確認した。主軸はN-130°-Eである。煙道部は半地下式と思われ、幅46～56cm、長さ50cmを測る。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 12層に分層した。黒褐色土と暗褐色土主体に堆積する。第6層に白頭山一苦小牧火山灰、第9層に十和田火山灰が混入している。

[出土遺物] 土器は、ピット6第2層より須恵器（坏）（第108図38）、ピット4第1層、第11、10、8層

より土師器(坏)(第108図39~45)、カマドA第9層、覆土、カマドB第4層、カマドC覆土、ピット1第1層、ピット2第2層、ピット14第1、2層、第10~8、3層、覆土より土師器(甕)(第108図46~49、第150図50~56)が出土している。石器は、カマドA第9層より台石が1点、第8、10層より敲磨器(第136図81、82)が3点出土している。土製品は、第3層、覆土、カマド覆土より焼成粘土塊(第152図18~20)が出土している。鉄関連遺物は第8層より流動滓(第153図11)が1点、カマドB第4層より炉壁溶解物(第155図7)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第24号竪穴住居跡(第11図、第28、29図)

[位置・確認層] AO・AP-134~136グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第23号竪穴住居跡と重複し、本遺構は第23号竪穴住居跡より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形を呈する。規模は、570cm×472cmである。深さは、東壁が34cm、西壁が26cm、南壁が50cm、北壁が13cmである。住居跡内側にテラスを有する。

[壁] 東壁が緩やかに立ち上がる他、外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 8基検出した。規模はピット1が58×55×55cm、ピット2が21×19×24cm、ピット3が34×30×7cm、ピット4が19×17×22cm、ピット5が24×21×31cm、ピット6が31×27×8cm、ピット7が23×21×6cm、ピット8が36×32×11cmである。ピット1、2、5は柱穴と思われる。ピット1、ピット5の2本一組の主柱穴配置が考えられる。

[炉] 炉は住居跡中央で炉1と炉2を確認した。炉1の平面形は円形を呈し、規模は39×37×9cmを測る。壁面にロームが貼り付けられ、熱を受けている箇所を確認した。掘り込みを有する炉と思われる。また、炉1下で炉2を確認した。平面形が不整楕円形を呈し、規模は74×58×10cmを測る。壁面の一部にロームを貼り付けて作られている。壁は熱を受けて赤褐色を呈する。掘り込みを有する炉と思われる。炉1から炉2への作り替えの可能性が考えられる。

[その他の付属施設] 床面東側から西側にかけて、テラスを確認した。床面からの高さは、東側が15~28cm、北側が16~21cm、西側が18~22cmである。

[覆土] 6層に分層した。黒褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、床直上層より第II群5a類土器(第98図4)、第4、5層、覆土より第II群5b類土器(第98図6~8)、床直、炉1第2層、第4、5層より第II群6類土器(第98図2、3、5、9、10)が出土している。石器は、床面、第4層より不定形石器(第123図4、5、第124図6)が4点、床面、第4、23層、覆土より剥片が4点、第4層、ピット3第1層より敲磨器(第136図83、84)が3点出土している。土製品は、床直より土器片利用土製品(第151図6)が1点出土している。鉄関連遺物は第2層より鉄付着礫(第153図12)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第25号竪穴住居跡(第11図、第30~33図)

[位置・確認層] AM・AN-128、129、130グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】なし。

【平面形・規模】北西側が傾斜地となっており全容は不明だが、平面形はおおむね楕円形を呈すると思われる。残存部より、規模は、(750)cm×648cmである。深さは、東壁が62cm、南壁が48cm、北壁が47cmである。また、住居跡内側にテラスを有する。

【壁】南東側および北東側の一部が内側へ若干オーバーハングする以外は、おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

【床】月見野火山灰、大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。南側から北へ北西側へ緩やかに傾斜している。

【壁溝】壁溝は南壁から東壁にかけて、また、北壁の一部で巡っている。幅10～30cm、深さ3～10cmである。

【ビット・柱穴】43基検出した。規模はビット1が42×36×21cm、ビット2が22×22×22cm、ビット3が54×50×44cm、ビット4が20×18×65cm、ビット5が37×32×72cm、ビット6が47×40×48cm、ビット7が24×24×34cm、ビット8が57×34×53cm、ビット9が23×19×64cm、ビット10が25×24×38cm、ビット11が37×27×95cm、ビット12が30×22×68cm、ビット13が14×12×16cm、ビット14が22×20×19cm、ビット15が19×18×48cm、ビット16が20×20×35cm、ビット17が24×19×12cm、ビット18が42×33×59cm、ビット20が17×15×22cm、ビット21が19×16×30cm、ビット22が20×18×33cm、ビット23が26×23×60cm、ビット24が18×14×13cm、ビット25が16×14×13cm、ビット26が32×25×25cm、ビット27が20×18×42cm、ビット28が16×16×33cm、ビット29が29×20×23cm、ビット30が20×16×58cm、ビット31が18×17×18cm、ビット32が19×18×50cm、ビット33が14×14×40cm、ビット34が22×20×30cm、ビット35が30×8×13cm、ビット36が23×20×18cm、ビット37が28×22×20cm、ビット38が21×17×23cm、ビット39が18×17×36cm、ビット40が22×19×30cm、ビット41が22×17×52cm、ビット42が24×20×32cm、ビット43が43×18×18cmである。ビット1、5～9、11、12、30の9本が主柱穴と思われ、ビット1、6～9、11の3本二列の主柱穴配置が考えられる。ビット27、33～41は壁際及び壁溝内に位置し、壁柱穴と思われる。また、ビット17は溝2と重複し、ビット30は溝1下位、ビット35、36は第2号土坑開口部周囲の貼り付けられたルーム下で確認し、いずれもビットが古いと思われる。ビット26、28、42は北壁内側、ビット19～21、29、30、溝3は南壁内側に並ぶ配置と思われる、住居の拡張の可能性が考えられる。また、ビット3は、規模、断面形状から、住居に付属する土坑と思われる。

【炉】住居長軸線上で埋設土器炉を2基確認した。東側を炉1、西側を炉2とする。炉1の火床面は不整形を呈し、規模は(98)×70×26cmを測る。口縁部と底部が欠損した土器が正位に埋設されている。土器掘り方は不整形を呈すると思われる、規模は29×16cm、土器最高面から掘り方底面までの深さは29cmを測る。炉1の火床面は住居内第2号土坑開口部周囲の貼り付けルームと一部重複しており、ルーム上面の一部が焼土化している。炉2の火床面は掘り方開口部周囲主体に見られる。口縁部が欠損した土器が正位で埋設されている。土器掘り方は不整形を呈すると思われる、規模は28×13cmを測る。掘り方の深さは29cmである。第3号土坑と一部重複し、炉2が新しいと思われる。

【その他の付属施設】テラス、住居内土坑3基を有する。大谷火山灰及び月見野火山灰に相当する第VI層を掘り込んでいる。床面からはほぼ垂直に立ち上がり、壁際まで平坦となっている。床面からの高さは、8～29cmである。床面西側で溝1を確認した。幅は9～15cm、深さは、2～8cmである。ビット

12、ピット30と重複する。新旧関係はピット30より新しい。ピット12との新旧関係は不明である。溝2は炉1南側で確認した。幅は15～21cm、深さは、7～13cmである。炉1火床面、ピット17、43、45と重複する。ピット17より新しく、炉1より古い。ピット43、45との新旧関係は不明である。溝3がある。深さは、6～8cmである。住居跡長軸線上の床面で3基の土坑を確認した。第1号土坑は長軸線上の西端で確認した。平面形は不整形円形を呈し、規模は77×68×32cmを測る。土坑底面中央部に柱穴状の掘り込みが見られる。下部は土坑より古いピットの可能性も考えられる。長軸線上のほぼ中央で第2号土坑を確認した。平面形は不整形円形を呈し、規模は(120)×112×46cmを測る。土坑開口部周囲に浅い堀込みが見られ、その段部にロームが堤状に貼り付けられている。ロームは第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。土坑の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。また、堤状のロームの一部は、炉1火床面下で確認した。長軸線上の中央よりやや西側で第3号土坑を確認した。平面形は不整形円形を呈し、規模は(110)×97×44cmを測る。土坑開口部周囲の壁は段を持って立ち上がり、褐色土が堆積する。土坑の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。褐色土、黄褐色土、黒褐色土が堆積し、土坑開口部堆積土も含め人為堆積と思われる。第2・3号土坑は特殊施設と思われる。[覆土] 3層に分層した。黒色土と暗褐色土が堆積する。第1層は擾乱層と思われ、覆土下位は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、床面、覆土、第3～1層より第II群5a類土器(第98図11、13～16、18、20、23、24、26、28～30、32、35、第99図40、54、56)、炉2第1層より第II群5b類土器(第89図1、第98図25)、第3～1層、炉1、ピット3第2層、ピット7第1層、ピット8第1層、ピット28覆土、ピット29第1層、土坑1第1層、土坑2第1層、土坑3第1、2、6層、第3～1層覆土より第II群6類土器(第89図2、3、第98図12、17、19、21、22、27、31、第99図33、34、36～39、41～53、55)、ピット8第1層より第II群7類土器(第90図4)が出土している。石器は、第3層より石槍(第124図7)が1点、覆土、第1～3層より不定形石器(第124図9)が3点、覆土、第3～1層より剥片が20点、第3、2層、炉5層、ピット7第1層、ピット9第1層、土坑1第1層より敲磨器(第136図85～87、第137図88、89)が6点、第3層より砥石が1点、第1層より半円状扁平打製石器(第137図90)が1点出土している。土製品は、第1、3層、ピット3底面より土器片利用土製品(第151図7～9)が3点、第2層、ピット3第2層より焼成粘土塊(第152図21、22)2点が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第26号竪穴住居跡(第133図、第34、35図)

[位置・確認層] AO-142、AP-141～143グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はおおむね方形を呈する。規模は、436cm×406cmである。深さは、東壁が24cm、西壁が39cm、南壁が41cm、北壁が30cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰相当の第VI層を掘り込んだ後、床面北東部を褐色土で埋めて貼床としている。床面北東隅で熱を受けている箇所が見られる。おおむね平坦である。

[壁溝] 壁溝は、カマド部分を除き壁全体にかけて巡っている。幅12～32cm、深さ1～21cmである。

[ピット・柱穴] 8基検出した。規模はピット1が46×40×29cm、ピット2が(110)×(60)×22cm、ピット

ト3が168×120×70cm、ビット4が95×38×14cm、ビット5が54×38×28cm、ビット6が100×94×22cm、ビット7が36×32×10cm、ビット8が51×40×11cmである。ビット1は柱穴と思われる。ビット3は平面形が楕円形を呈し、壁は下部ではほぼ垂直に立ち上がり、上部ではやや緩やかに立ち上がる。ビット3上部は攪乱の可能性も考えられる。ビット2は壁溝とともに掘りあげたため全容は不明である。ビット8はカマド火床面右奥で確認した。カマド袖部構築以前に掘り込まれたと思われる、袖部の掘り方の可能性も考えられる。ビット5はカマド脇ビットと思われる。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の北端から3/4の位置に設置されている。火床面、煙道部を確認した。主軸はN-124°-Eである。火床面は不整楕円形を呈し、29×34cmを測る。火床面奥に礎が見られ、支脚と思われる。袖部は、左袖を確認した。ルームにより構築され、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。火床面右手に土器が立てられており、右袖芯材の残存部と思われる。煙道部は半地下式と思われる、火床面奥から微かに立ち上がり、煙出部で外側へ立ち上がる。幅50cm、長さ20cmを測る。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 12層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。第8～11層は壁溝覆土である。覆土上位の第1、2層は攪乱層と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第5層より須恵器(坏)(第110図57)、ビット3第2層、第5層、第2層より土師器(坏)(第110図59、60)、土師器(甕)(第110図61～63)、が出土している。石器は第5層より砥石(第137図91、92、第138図93)が3点、カマド第2層より台石が1点出土している。鉄関連遺物は、第11層より刀子(第153図5)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第27号竪穴住居跡(第5図、第36図)

[位置・確認層] BA・BB-66、67グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 攪乱により全容は不明である。残存部より、規模は、(640)cmである。深さは、南壁が18cmである。住居内側にテラスを有する。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるが、おおむね平坦である。

[壁溝] なし。

[ビット・柱穴] 4基検出した。規模はビット1が21×21×39cm、ビット2が33×22×40cm、ビット3が22×19×24cm、ビット4が18×18×40cmである。ビット1～4は柱穴と思われる。

[炉] 地床炉を1基確認した。規模は15×11×4cmである。

[その他の付属施設] 住居内側にテラスを有する。床面からほぼ垂直に立ち上がり、住居跡壁に向かって緩やかに傾斜している。床面からの高さは、8～16cmである。

[覆土] 1層に分層した。暗褐色土が堆積している。

[出土遺物] 覆土より砥磨器(第138図94)が1点出土している。土製品は、床直から土器片利用土製品(第151図10)が1点出土している。

[時期] 付属施設の形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第28号竪穴住居跡（第13図、第37～40図）

【位置・確認層】 AN・AO-140、141、AN-142グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 攪乱により全容は不明だが、平面形はおおむね方形を呈すると思われる。規模は、481cm×422cmである。深さは、東壁が29cm、西壁が38cm、南壁が42cm、北壁が32cmである。

【壁】 外側へ直線的に立ち上がる。

【床】 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦であるが、中央部から北壁へかけて緩やかな傾斜が見られる。床面中央を主体に、ほぼ全面に炭化物が見られる。

【壁溝】 壁溝は東壁中央から北側、北壁中央から西壁、南壁の西側に見られる。幅8～14cm、深さ2～10cmである。

【ビット・柱穴】 10基検出した。規模はビット1が60×60×30cm、ビット2が30×28×30cm、ビット3が40×34×42cm、ビット4が40×36×30cm、ビット5が44×31×4cm、ビット6が30×26×7cm、ビット7が50×36×12cm、ビット8が29×24×22cm、ビット9が24×19×14cm、ビット10が26×26×16cmである。ビット2、ビット4は柱穴と思われる。ビット8～10は住居外に位置し、東壁と平行に並ぶ配置が見られ、本遺構との関連も考慮されるため記載した。

【カマド】 カマドは2基確認した。西壁側をカマドA、東壁側をカマドBとする。カマドAは西壁の南端から2/4から3/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。また、火床面、袖部下から掘り込みを確認した。主軸はN-64°-Wである。火床面は不整形円形を呈し、48×56cmを測る。袖部は両袖を確認した。ロームで構築され、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。煙道部は地下式と思われ、火床面奥から緩やかに立ち上がり、壁外側で一旦緩やかに下がり、中央部付近でやや急角度で下がる。その後、平坦となり、煙出部でほぼ直角に近い角度で立ち上がる。煙出孔は、壁から90cmの地点にあり、不整形円形を呈し、30×35cmを測る。火床面及び袖部下の掘り込みは、不整形を呈し、192×88cmを測る。暗褐色土が堆積し、覆土上面に火床面及び両袖が構築されている。カマド掘り方と思われる。カマドA堆積土第9層中に炭化物が多量混入し、住居床面全体に見られる炭化物の一部に相当すると思われる。カマドBは、東壁の南端から2/4の位置に設置されている。火床面、煙道部を確認した。主軸はN-120°-Eである。火床面は不整形円形を呈し、50×60cmを測る。煙道部は地下式と思われ、火床面奥から緩やかに下り、煙出部で直角に近い角度で立ち上がる。煙出孔は、壁から68cmの地点にあり、不整形円形を呈し、34×33cmを測る。カマドの新旧関係は、煙道部の構造がともに地下式と共通しているが、袖部の残存状態から、カマドAが新しいと思われる。

【その他の付属施設】 床面南東隅で第1号土坑を確認した。不整形円形を呈し、規模は134×134×34cmを測る。土坑堆積土第2層に炭化物が混入する。床面東側で第2号土坑を確認した。不整形を呈し、規模は167×120×22cmを測る。1層に分層し、炭化物が混入する。第1・2号土坑堆積土に混入している炭化物は、住居床面全体に見られる炭化物の一部と思われ、カマドA使用段階の住居跡に伴う可能性が考えられる。床面東壁際で第3号土坑を確認した。平面形は不整形円形を呈し、規模は102×80×28cmを測る。2層に分層した。第1層にロームブロックが混入し、第2層はロームである。土坑堆積土中に炭化物の混入が見られず、カマドBの段階の住居に伴う可能性が考えられる。また、土坑底面南東側でビット3を確認した。新旧関係は第3号土坑が新しいと思われる。

【覆土】 15層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第7層中に十和田a火山灰が帯状に混

入している。第10、13層中に炭化物が見られ、第13層上位には焼土ブロックが混入している。第14、15層は壁溝覆土である。自然堆積と思われる。

【出土遺物】土坑1第1層、ビット1第1層、第13、8、5層、覆土より土師器(坏)(第110図64~69)、カマドA第8層、カマドB第5層、土坑1第1層、ビット5第1層、床直、覆土より土師器(甕)(第110図70、第111図71~73、75~77)、ビット1第1層より土師器(小甕)(第111図74)が出土している。石器は、カマド①覆土より不定形石器(第125図10)が1点、2号土坑第1層、カマド②覆土より剥片が2点、第5層、土坑1第1層より台石が2点出土している。土製品は、第6層よりミニチュア土器(第151図4)が1点出土している。

【時期】出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第30号竪穴住居跡(第13図、第41図)

【位置・確認層】AM・AN-142、143グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】第43号溝状土坑と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】掘乱により全容は不明であるが、おおむね方形を呈すると思われる。残存部より、規模は、(240)cm×(268)cmである。深さは、南壁が18cm、北壁が21cmである。

【壁】外側へ直線的に立ち上がる。

【床】大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。中央部から南壁にかけて緩やかな傾斜が見られる。

【壁溝】なし。

【ビット・柱穴】3基検出した。規模はビット1が46×28×23cm、ビット2が22×21×16cm、ビット3が(79)×(55)×20cmである。ビット1、2は柱穴と思われる。ビット3はカマド脇のビットと思われる。

【カマド】カマドは東壁で確認した。東壁の北端から2/4から3/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。また、火床面及び袖部下で掘り込みを確認した。主軸はN-109°-Eである。火床面は不整楕円形を呈し、46×42cmを測る。袖部は右袖を確認した。掘り込みは、不整楕円形を呈し、規模は(75)×(55)×7cmを測る。覆土上面に火床面及び袖部が構築されている。褐色土が堆積し、カマド掘り方と思われる。煙道部は地下式と思われ、火床面奥から緩やかに下り、いったん急角度で下がった後平坦となる。煙出部ではほぼ直角に近い角度で立ち上がる。幅19~29cm、長さ118cmを測る。カマド煙道部覆土第1、3層は掘乱層と思われる。煙出孔は壁から70cmの地点にあり、平面形は掘乱のため不明だが、残存部より不整円形を呈すると思われ、規模は50×(42)cmを測る。

【その他の付属施設】なし。

【覆土】9層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。覆土上位の第1~3層は掘乱層と思われる。第9層は壁崩落土と思われる。覆土下位は、自然堆積と思われる。

【出土遺物】土器は、覆土、掘乱より須恵器(坏)(第111図78、79)、床直、覆土より土師器(坏)(第111図80、81)、ビット3第1層、床直、第6、4層より土師器(甕)(第111図82~85)が出土している。石器は、覆土より石匙(第125図11)が1点、その他の剥片石器(第125図12)が1点、剥片が2点、敲磨器が1点出土している。

【時期】出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第31号竪穴住居跡（第13図、第43、44図）

[位置・確認層] AH・AI-150、151、AJ-151グリッドに位置する。第VI層において確認した。平成9年度の当委員会による発掘調査時に検出された第1号竪穴住居跡と接する位置と思われる、柱穴の配置から同一の住居跡と考えられる。

[重複] 第290号土坑と重複し、本遺構は、第290号土坑より古い。

[平面形・規模] 遺構が調査区外境界に位置するため全容は明らかではないが、円形又は楕円形を呈すると思われる。検出部分より、規模は、(735)cm×(425)cmである。深さは、北壁が63cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦である。

[壁溝] なし。

[ビット・柱穴] 10基検出した。規模はビット1が(32)×31×16cm、ビット2が52×50×99cm、ビット3が54×49×94cm、ビット4が24×24×10cm、ビット5が63×54×92cm、ビット6が25×22×22cm、ビット7が16×12×18cm、ビット8が19×18×16cm、ビット9が20×13×14cm、ビット10が24×20×18cmである。ビット2、3、5は柱穴と思われる。ビット7～10は壁際に並ぶ配置が見られ柱穴と思われる。また、平成9年度検出住居跡平面図と複合してみると、ビット2、3、ビット6（平成9年度）とビット1、ビット2（平成9年度）、ビット5（平成9年度）の3本2列の主柱穴配置の可能性も考えられる。また、平成9年度調査報告では、ビット1が柱穴と考えられているが、住居長軸線上の中央に位置すると思われる、規模・形状から住居に伴う土坑の可能性も考えられる。

[炉] 地床炉を床面で1基確認した。火床面の平面形は不整形を呈し、規模は100×52cmである。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 10層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。覆土上位の第1～3層は攪乱層と思われる。覆土下位は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5a類土器（第100図62～64、66、68、70～72、74）、床直、第8層、覆土より第II群5b類土器（第99図57～61、第100図65、69、73）、覆土より第II群6類土器（第100図67）、第4層より第III群土器（第90図5）が出土している。石器は、ビット2第1層より半円状扁平打製石器（第138図95）が1点、ビット5第1層より敲磨器（第138図96）が1点、第10層より砥石（第138図97）が1点、第8層より不定形石器（第125図13、14）が2点、半円状扁平打製石器（第139図99）が1点、磨製石斧（第139図98）が1点、第8、4層、覆土より剥片が4点、第2層よりその他の剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第32号竪穴住居跡（第5図、第45図）

[位置・確認層] BG・BH-53グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は、攪乱及び調査区境界で確認したため全容は不明であるが、おおむね方形を呈すると思われる。規模は、残存部より、310cm×(220)cmである。深さは、西壁が44cm、南壁が48cm、北壁が19cmである。

[壁] 壁は東壁の一部が内側へオーバーハングする他、おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

【床】大谷火山灰相当の第VI層を床面としている。おおむね平坦である。

【壁溝】壁溝は、西壁、北壁意及び南壁を巡っている。幅10～22cm、深さ10～16cmである。

【ピット・柱穴】3基検出した。規模はピット1が41×36×17cm、ピット2が27×24×27cm、ピット3が深さ8cmである。

【カマド】南壁で確認した。攪乱のためカマドの設置位置は不明である。火床面、袖部、煙道部を確認した。また、火床面及び左袖下で、掘り込みを確認した。主軸はN-153°-Eである。火床面は不整楕円形を呈し、46×48cmを測る。袖部は両袖を確認した。ロームにより構築されており、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。右袖先端部に礫を確認した。袖部芯材の残存部と思われる。火床面及び左袖下の掘り込みは、不整楕円形を呈し、規模は、67×59×13cmである。暗褐色土が堆積し、覆土上面に火床面及び袖部が構築されており、カマド掘り方と思われる。天井部は崩落したと思われ、カマド第2層がこれに相当すると思われる。煙道部は半地下式と思われ、火床面奥から煙出部外側へ緩やかに立ち上がる。煙出部底面は熱を受けたと思われる部分が見られる。幅27cm、長さ40cmを測る。

【その他の付属施設】なし。

【覆土】6層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。第4～6層はピット1覆土、第5層はピット2覆土である。第3層は浅黄色を呈し、十和田a火山灰層と思われる。自然堆積と思われる。

【出土遺物】第2層より土師器(坏)(第112図86、87)、カマド第2層、第3、2層、覆土より土師器(甕)(第112図88～90)が出土している。石器は、覆土より不定形石器(第125図15)が1点、第1層より敲磨器(第139図101)が1点、第5層、カマド第4層より台石(第139図100)が2点、出土している。

【時期】出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第33号竪穴住居跡(第14図、第46、47図)

【位置・確認層】B F-152、153グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】なし。

【平面形・規模】調査区境界で確認したため全容は不明だが、平面形はおおむね方形を呈すると思われる。検出部分より、規模は、(246)cm×308cmである。深さは、東壁が22cm、南壁が53cm、北壁が29cmである。

【壁】外側へ直線的に立ち上がる。

【床】大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

【壁溝】なし。

【ピット・柱穴】3基検出した。規模はピット1が36×36×12cm、ピット2が34×30×8cm、ピット3が90×68×20cmである。ピット3はカマド脇のピットと思われる。

【カマド】東壁で3基検出した。壁北側からカマドA、カマドB、カマドCとする。新旧関係は、カマドAはカマドB、カマドCより新しく、カマドB、カマドC間では不明である。カマドAは東壁の南端から2/4から3/4に位置する。火床面、左右の袖部、煙道部を確認した。主軸はN-114°-Eである。火床面は不整形形を呈し、20×15cmを測る。袖部は、火床面南側と北側に礫が立てられていた。袖の芯材と思われる。煙道部は半地下式(簡易型)と思われ、火床面から緩やかに立ち上がり、外側へ直線的に立ち上がる。幅38cm、長さ42cmを測る。カマドBはカマドAとほぼ同じ位置に設置されている。浅い掘り込みと煙道部のみ確認した。主軸はN-116°-Eである。煙道部は地下式と思われ、壁際で

一旦立ち上がった後、緩やかに下っていく。煙出部で外側へ直線的に立ち上がる。煙出孔は、壁から110cmの地点にあり、不整形を呈し、42×40cmを測る。カマドCは東壁南端から1/4から2/4に位置する。火床面、煙道部を確認した。主軸はN-112° - Eである。火床面はおおむね円形を呈し、30×26cmを測る。煙道部は地下式と思われる、壁際で下り、平坦となる。煙出部で若干内側へオーバークラックして立ち上がる。煙出孔は、壁から38cmの地点にあり、不整形を呈し、30×26cmを測る。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 10層に分層した。褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第2層には白頭山火山灰が微量見られる。

[出土遺物] 覆土より須恵器(壺)(第112図91)、第6層より土師器(坏)(第112図92)、カマド覆土、第6層、第7層、覆土より土師器(甕)(第112図93~97)が出土している。石器は、覆土より敲磨器(第139図103)が1点、第8、6、3層より台石(第139図102)が4点出土している。土製品は、第5層より焼成粘土塊が出土している。鉄関連遺物は第7層より刀子(第153図6)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第35号竪穴住居跡(第11図、第48、49図)

[位置・確認層] AR・AS-124、125グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第262号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は東側が張り出す、不整形を呈する。規模は、516cm×468cmである。深さは、東壁が53cm、西壁が66cm、南壁が54cm、北壁が67cmである。また、南壁際に段状となる部分を確認した。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。床面中央に硬化面を確認した。第VI層を不整形に掘り込んで、黒褐色土を埋めて貼床としている。

[壁溝] なし。

[ビット・柱穴] 42基検出した。規模はビット1が54×50×21cm、ビット2が23×19×44cm、ビット3が25×21×44cm、ビット4が14×13×18cm、ビット5が19×18×24cm、ビット6が32×26×47cm、ビット7が27×20×52cm、ビット8が22×21×11cm、ビット9が23×18×40cm、ビット10が27×20×39cm、ビット11が20×(10)×39cm、ビット12が20×14×33cm、ビット13が15×13×14cm、ビット14が22×22×15cm、ビット15が38×18×36cm、ビット16が47×42×31cm、ビット17が21×20×52cm、ビット18が(12)×14×16cm、ビット19が26×24×8cm、ビット20が16×16×16cm、ビット21が18×16×16cm、ビット22が15×(13)×21cm、ビット23が15×15×15cm、ビット24が18×17×29cm、ビット25が14×12×15cm、ビット26が22×18×23cm、ビット27が17×15×18cm、ビット28が14×13×22cm、ビット29が14×14×17cm、ビット30が14×13×8cm、ビット31が23×20×36cm、ビット32が15×12×11cm、ビット33が13×13×25cm、ビット34が15×14×19cm、ビット35が12×11×18cm、ビット36が21×18×27cm、ビット37が15×14×20cm、ビット38が17×15×28cm、ビット39が15×12×12cm、ビット40が16×13×15cm、ビット41が17×17×13cm、ビット42が19×17×23cmである。ビット2、3、6~8、10、11、17は柱穴と思われる。主柱穴の配置は4本一組と思われる、ビット3、6、10、17とビット2、7、11、41の二通りが考えられる。ビット41は他の柱穴に比べ規模が小さいが位置関係から主柱穴として組み合わせが考えられる。また、ビット13、22~29、30、31、33~35、38、39は、不整形を呈する壁際を巡り

柱穴と思われる。また、ピット12、14、15、36も弧状に並び柱穴と思われ、主柱穴の配置状況から、建て替えの可能性も考えられる。

[炉] 炉は中央部に埋設土器炉を確認した。中央部の硬化面を掘り込んで埋設されている。火床面は、土器を中心に不整形を呈する。規模は32×33×16cmである。

[その他の付属施設] 南壁際の第262号土坑との重複部分で、階段状の施設を確認した。ロームにより構築されており、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。

[覆土] 20層に分層した。第1～18層が新段階の住居覆土と思われる。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。第19、20層が旧段階の住居覆土と思われる。黒褐色土、褐色土が堆積する。第19層上面には硬化した範囲が部分的に見られ、堅く締まる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第14、6～1層、覆土より第II群5a類土器（第90図6、第100図75、82、84、86、87、89～91、第101図93、94、96～98、103、104、108、109、112～114、116、117）、第6、3、2層より第II群5b類土器（第100図81、第101図95、102、105、111）、ピット1第2層、ピット16第1層、第8、6～2層、覆土より第II群6類土器（第90図7、第100図76～80、83、85、88、第101図92、99～101、106、107、110、115、118、119）が出土している。石器は、第3層、第2層より敲磨器（第140図104、106）が2点、第3層より台石・石皿（第140図105）が1点、第2層、覆土より石錐（第126図18、21）が2点、第2層、覆土より不定形石器（第126図16、19、20、22）が5点、第6、5、3、2層、覆土より剥片（第126図35）が6点出土している。土製品は、焼成粘土塊（第152図23）が1点出土している。石製品は、その他の石製品（第153図2）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第36号竪穴住居跡（第11図、第50～52図）

[位置・確認層] AO・AP-118～120、AQ-119グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 東側は傾斜地となり、壁面等の全容は不明だが、おおむね楕円形を呈すると思われる。残存部より、規模は、(1100)cm×604cmである。深さは、南東壁が42cm、南～南西壁が45cmである。また、住居跡内側にテラスを有する。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 月見野火山灰に相当する第VI層を床面としている。床面中央部から北～北西方向へ緩やかに傾斜している。

[壁溝] 壁溝は東壁～南壁にかけて巡っている。幅4～16cm、深さ3～15cmである。

[ピット・柱穴] 17基検出した。規模はピット1が48×46×58cm、ピット2が49×44×68cm、ピット3が49×40×56cm、ピット4が36×36×50cm、ピット5が50×48×50cm、ピット6が20×19×26cm、ピット7が32×20×10cm、ピット8が88×53×76cm、ピット9が16×12×40cm、ピット10が22×20×28cm、ピット11が17×17×15cm、ピット12が8×8×28cm、ピット13が16×14×45cm、ピット14が11×11×36cm、ピット15が12×9×31cm、ピット16が10×8×26cm、ピット17が12×8×32cmである。ピット1～6、8は柱穴と思われる。ピット1～5、8の3本2列の主柱穴配置と思われる。また、ピット10～17は、壁溝内および壁際に位置し壁柱穴と思われる。

[炉] 住居跡長軸線上に2基の地床炉を確認した。南東側を炉1、北西側を炉2とする。炉1は、壁面

及び底面が熱を受けている。平面形は不整形を呈し、規模は48×45×14cmを測る。炉2は壁面が熱を受けている。平面形が不整形を呈し、規模は48×39×6cmを測る。

[その他の付属施設] テラス、住居内土坑を有する。テラスは、住居跡内側の北西～南～西側にかけて見られる。おおむね、月見野火山灰、大谷火山灰に相当する第VI層を掘り込んでいるが、北西側の一部では、第VI層上部に褐色土と暗褐色土が盛土されている。全体として、テラス上面は堅く締まる。床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁へ向かっておおむね平坦である。床面からの高さは、8～23cm、幅は32～48cmである。また、住居跡長軸線上のほぼ中央で第1号土坑を確認した。平面形は不整形を呈し、規模は、105×102×70cmを測る。土坑開口部周囲の壁は、段を持って立ち上がり、その段部にロームが堤状に貼り付けられている。ロームは、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。土坑の壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。土坑覆土を10層に分層した。第1層は黒褐色土で住居覆土第5層相当する。第7層にロームが見られ、土坑開口部周囲のロームの崩落土と思われる。

[覆土] 13層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第1層は攪乱層と思われる。覆土上位に相当する第2・3層には多量の土器が混入している。土器は、住居廃絶後の埋没しきらない段階で窪地となっていた範囲とその周囲の傾斜地に廃棄されたものと思われる。第12層は壁溝覆土である。覆土下位は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、1号土坑第1層、覆土より第II群5b類土器(第91図8～10、第92図11、第93図12、13)が出土している。石器は、第1層、覆土より石匙(第128図30、34)が2点、第5、1層より石篋(第127図26、第128図31)が2点、第2層、覆土より石錐(第127図28、29、第128図32、33)が4点、覆土、ビット2覆土、ビット3第1層より不定形石器(第127図25、27、第129図35～37)が8点、土坑1第3、1層、ビット8覆土、第7、3～1層より剥片(第127図23、24)が30点、第7、2層より磨製石斧(第140図109)が2点、1号土坑第1層、2号土坑第1層、第5、2、1層、覆土より敲磨器(第140図107、108、110、111、第141図114、115)が11点、第3層より半円状扁平打製石器が1点、第3層より砥石(第141図112、113)が2点出土している。土製品は、第2層より土器片利用土製品(第151図11)が1点、焼成粘土塊(第152図24、25)が2点出土している。石製品は、第2層より珧状耳飾(第153図1)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第37号竪穴住居跡(第9図、第53～55図)

[位置・確認層] AP-116、AP・AQ-117、118グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第366号土坑と重複し、本遺構は、第366号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。規模は、872cm×580cmである。深さは、東壁が26cm、西壁が87cm、南壁が88cm、北壁が29cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[壁溝] 壁溝は住居跡南側から北東側にかけて巡っている。幅8～20cm、深さ6～26cmである。

[ビット・柱穴] 34基検出した。規模はビット1が38×28×88cm、ビット2が48×44×104cm、ビット3が26×20×98cm、ビット4が24×20×90cm、ビット5が44×36×101cm、ビット6が36×30×110cm、ビット7が22×15×10cm、ビット8が22×20×12cm、ビット9が12×12×32cm、ビット10が18×16×

41cm、ビット11が $20 \times 14 \times 16$ cm、ビット12が $18 \times 14 \times 38$ cm、ビット13が $12 \times 10 \times 46$ cm、ビット14が $18 \times 16 \times 38$ cm、ビット15が $24 \times 20 \times 28$ cm、ビット16が $14 \times 12 \times 12$ cm、ビット17が $16 \times 12 \times 31$ cm、ビット18が $20 \times 18 \times 36$ cm、ビット19が $12 \times 10 \times 30$ cm、ビット20が $16 \times 12 \times 40$ cm、ビット21が $20 \times 18 \times 45$ cm、ビット22が $12 \times 8 \times 50$ cm、ビット23が $12 \times 12 \times 30$ cm、ビット24が $12 \times 12 \times 27$ cm、ビット25が $18 \times 16 \times 72$ cm、ビット26が $14 \times 10 \times 20$ cm、ビット27が $38 \times 18 \times 33$ cm、ビット28が $12 \times 10 \times 113$ cm、ビット29が $18 \times 16 \times 33$ cm、ビット30が $16 \times 13 \times 20$ cm、ビット31が $18 \times 17 \times 37$ cm、ビット32が $17 \times 16 \times 22$ cm、ビット33が $18 \times 14 \times 39$ cm、ビット34が $16 \times 12 \times 15$ cmである。ビット1～6、8、12、20は柱穴と思われる。ビット1～6の3本2列の主柱穴配置と思われる。ビット7、9、10、15、21～34は壁溝内および壁際に並ぶ配置が見られ壁柱穴と思われる。また、ビット11、14～17、19は並ぶような配置状況で壁柱穴と思われ、住居跡の拡張の可能性も考えられる。

[炉] 住居跡長軸線上で4基の炉を確認した。長軸線上の北側から炉1、炉4、炉3、炉2とした。炉1、2は地床炉、炉4は埋設土器炉である。炉3は焼土を確認できなかったが、炭化物層を有するため炉とした。炉1は平面形が不整形を呈し、規模は $44 \times 37 \times 8$ cmを測る。壁面に熱を受けた箇所が見られる。炉2は平面形が不整形を呈し、規模は $35 \times 34 \times 13$ cmを測る。底面全体に熱を受けている。炉3は平面形が不整形を呈し、規模は $36 \times 31 \times 8$ cmを測る。第2層が炭化物層である。炉4は、第1号土坑開口部周囲に貼り付けられたロームの下部で確認した。炉体に深鉢形土器の胴部が埋設されている。掘り方を含め5層に分層した。土器上部とその周辺に火床面が見られる。土器内部は褐色土が堆積し、炭化物が多量に混入し、上位に拳大の扁平な礫を含む。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は $51 \times 34 \times 24$ cmを測る。

[その他の付属施設] 住居跡長軸線上の床面ほぼ中央で第1号土坑を確認した。平面形は不整形を呈し、規模は $74 \times (67) \times 39$ cmを測る。土坑開口部周囲の壁は、段を持って立ち上がり、その段部にロームが貼り付けられている。ロームは、第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。土坑の壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はおおむね平坦である。土坑覆土を3層に分層した。褐色土、黄褐色土主体に堆積する。

[覆土] 6層に分層した。黒色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。第6層のにぶい黄褐色土は、しまり、粘性に乏しく、ロームブロック、焼土粒、炭化物等の含有物は見られない。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第6、5、2、1層、覆土より第II群5a類土器(第101図120、121、125、126、第102図127、129、130、133、134、138)、土坑1第1層、覆土より第II群5b類土器(第95図14、第102図137)、炉3第1層、炉4第3層、ビット4第2層、第5、2、1層、覆土より第II群6類土器(第95図15、第101図122～124、第102図128、131、132、135、136、139)が出土している。石器は、第3層より石鏃(第129図38)が1点、第2層より不定形石器(第129図39)が1点、第2、1層より剥片が3点、第2層、1号土坑第1層より敲磨器(第141図117、第142図119～122)が6点、第5層、炉4覆土より台石(第141図116、118)が2点、第5、2層より砥石(第142図123)が2点出土している。土製品は、第1層より土器片利用土製品(第151図12)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第38号竪穴住居跡(第14図、第56図)

[位置・確認層] BG-152グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区境界で確認したため全容は不明である。

[壁] 不明である。

[床] 不明である。

[壁溝] 不明である。

[ピット・柱穴] 不明である。

[カマド] 煙道部のみ確認した。煙道は半地下式と思われる。東側で緩やかに立ち上がる。検出部分より、煙道の規模は、(54)×34×5cmを測る。

[その他の付属施設] 不明である。

[覆土] 2層に分層した。褐色土、暗褐色土が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第39号竪穴住居跡 (第11図、第56図)

[位置・確認層] BA・BB-132、133グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区境界付近で確認したため全容は不明であるが、平面形はおおむね方形を呈すると思われる。残存部より、規模は、(274)cm×260cmである。深さは、東壁が41cm、西壁が26cm、北壁が29cmである。

[壁] 壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。また、床面東壁から北壁際に段を有する。

[壁溝] 壁溝は東壁南端にある。幅18cm、深さ12cmを測る。

[ピット・柱穴] 3基検出した。規模はピット1が67×34×7cm、ピット2が53×47×12cm、ピット3が44×41×11cmである。

[カマド] 不明である。

[その他の付属施設] 段を有する。床面東～北壁際で確認した。床面を階段状に掘り残している。不整な長方形を呈し、規模は、62×101cmを測る。床面からの高さは5～8cmである。床面からやや緩やかに盛り上がり、壁際まで平坦である。床面中央で第1号土坑を確認した。平面形は不整形を呈し、規模は138×108×22cmを測る。ピット1とピット3と重複する。ピット1より新しく、ピット3より古いと思われる。覆土は褐色土が堆積し、

[覆土] 6層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第1層中に白頭山～苫小牧火山灰がブロック状に混入している。第3層下位に十和田a火山灰が帯状に混入している。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 床面より土師器(甕) (第113図98) が出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第40号竪穴住居跡 (第11図、第57、58図)

[位置・確認層] BA・BB-130、131グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区境界で確認し、また一部攪乱されていたため全容は不明だが、平面形はおおむね方形を呈すると思われる。残存部より、規模は、392cm×(272)cmである。深さは、東壁が31cm、西壁が24cm、北壁が27cmである。また、東壁に張り出し部を有する。

[壁] 壁はおおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦であるが、中央部から西壁にかけて若干の傾斜が見られる。

[壁溝] 壁溝は東壁を巡っている。幅15～30cm、深さ2～15cmである。

[ピット・柱穴] 1基検出した。規模はピット1が38×31×12cmである。

[カマド] 北壁で確認した。北壁の西端から3/4から4/4に位置する。主軸はN-56°-Eである。火床面、煙道部を確認した。火床面は、一部攪乱を受けているが、不整形円形を呈し、58×28cmを測る。煙道部は半地下式と思われる、火床面奥からいったん緩やかに下り、壁際から緩やかに上り、煙出部で外側へ直線的に立ち上がる。幅(40)cm、長さ36cmを測る。

[その他の付属施設] 第1～4号土坑を有する。第1号土坑は平面形が不整形を呈し、規模は92×90×26cmを測る。第2号土坑は、平面形が楕円形を呈すると思われる、残存部より規模は72×(46)×18cmを測る。第3号土坑は平面形が楕円形を呈し、64×50×24cmを測る。第4号土坑は不整形を呈し、68×65×18cmを測る。第1号土坑はカマド脇のピットと思われる。東壁中央で弧状を呈する張り出し部を確認した。黒褐色土と暗褐色土が堆積し、焼土粒が多量混入する。カマド煙道部の可能性も考えられる。

[覆土] 7層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第1層に白頭山一苦小牧火山灰、第6層に十和田a火山灰が層状に混入している。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より土師器(坏)(第113図100)、第7層より土師器(碗)(第113図99)、土坑1第3、4層、床直、第2層、覆土より土師器(甕)(第113図98、101)、土坑1覆土より土師器(鍋)(第113図102)が出土している。石器は、第7、3、2層より敲磨器(第142図124)が4点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第41号竪穴住居跡(第9図、第58図)

[位置・確認層] A T・B A-102、103グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区境界で確認し、また、攪乱を受けていたため全容は不明である。残存部より、規模は、(460)cm×(164)cmである。深さは、北壁が27cmである。

[壁] 壁は外側へ緩やかに立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦である。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 7基検出した。規模はピット1が32×30×70cm、ピット2が(42)×32×6cm、ピット3が19×17×30cm、ピット4が20×20×11cm、ピット5が40×25×29cm、ピット6が18×12×14cm、ピット7が13×10×23cmである。ピット1、3、5は柱穴と思われる。ピット5は住居外に位置する

が、本遺構との関連も考慮して記載した。

[炉] 不明である。

[その他の付属施設] 北壁際で、第1号土坑を確認した。平面形は不整形を呈し、規模は80×72×32cmである。開口部は床面より若干高くなる。壁は段を持って立ち上がり、土坑下部の断面形は柱穴状を呈する。

[覆土] 4層に分層した。第1～第3層は攪乱層と思われる。

[出土遺物] 第4、3層、風倒木痕より第II群5a類土器(第102図140、141、144、145)、第3層、風倒木痕、ビット1第1層より第II群6類土器(第102図142、143、146)が出土している。石器は、第4層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第44号竪穴住居跡(第5図、第59図)

[位置・確認層] AP-53、54グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第18号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 重複により全容は不明だが、平面形はおおむね方形を呈すると思われる。残存部より、規模は、274cm×(242)cmである。深さは、東壁が24cm、西壁が12cm、北壁が18cmである。

[壁] 壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦である。

[壁溝] なし。

[ビット・柱穴] なし。

[カマド] カマドは南壁で確認した。重複により設置位置は不明である。火床面のみ確認した。残存部より火床面は楕円形を呈すると思われる。規模は、52×35cmを測る。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 4層に分層した。黒褐色土主体に堆積する。第1、2層は攪乱層と思われる。

[出土遺物] 第3層より須恵器(坏)(第113図103)、第2、1層より土師器(坏)(第113図104～106)、第2層より土師器(鍋)(第113図107)が出土している。石器は、第1層より台石(第142図125)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

第45号竪穴住居跡(第5図、第60、61図)

[位置・確認層] AR-53グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 一部攪乱を受けているがおおむね方形を呈すると思われる。残存部より、規模は、(264)cm×(240)cmである。深さは、東壁が26cm、西壁が35cm、南壁が45cm、北壁が10cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦である。

[壁溝] 壁溝は、一部攪乱により途切れるが、西壁中央から東壁北側にかけて巡っている。幅13～25cm、深さ2～9cmである。

[ピット・柱穴] なし。

[カマド] カマドは北壁で確認した。西端から3/4から4/4の位置に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-36°-Eである。火床面は不整形円形を呈し、36×31cmを測る。袖部は右袖を確認した。ルームで構築されており、第VI層下位の大谷火山灰と思われる。煙道部は地下式と思われる。煙出孔は、壁から71cmの地点にあり、不整形円形を呈し、30×26cmを測る。煙道底部は、残存部より、壁際から緩やかに下り、煙出部で内側へ若干オーバーハングして立ち上がる。カマド覆土第1層は褐色土が堆積し、土師器(甕)が出土している。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 10層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第9・10層は壁溝覆土である。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層、攪乱から土師器(坏)(第114図108、109)、カマド第3層、攪乱より土師器(甕)(第114図110、111)が出土している。石器は、第6層より石筈(第129図40)が1点、不定形石器(第129図41)が1点、第6層、攪乱より剥片が6点、攪乱より台石(第142図126)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より、おおむね9世紀末葉から10世紀初頭の平安時代と思われる。

(蝦名 純)

第46号竪穴住居跡(第12図、第62図)

[位置・確認層] M-146、147グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区端に位置し、全容並びに規模は不明である。残存部より平面形は、おおむね方形を基調とするものと思われる。深さは、南西壁が5cmである。

[壁] 残存する壁は、外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を掘り込んだ後、黒色土と褐色土の混合土を埋めて床としている。床面は若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[壁溝] 南西壁から南東壁西隅にかけて巡っている。幅6~8cm、深さ5~9cmである。

[ピット・柱穴] 1基検出した。規模はピット1が58×51×24cmである。柱穴と考えられるピットは検出していない。

[カマド] 南東壁で確認した。南東壁における位置は、調査区端に位置するため不明である。火床面のみを確認した。そのため、構造、主軸等は不明である。火床面の形状も調査区端に位置するため不明であるが、おおむね不整形円形を呈するものと思われ、残存部の規模は52×42cmである。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 3層に分層した。第3層は掘り方埋土である。第1、2層は、黒褐色土、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、ピット1第1層、第3~1層、覆土より土師器(坏)(第114図112~117)、ピット15第1層、第2層より土師器(甕)(第114図118、119)が出土している。石器は、第3層より敲磨器が1点、覆土より敲磨器(第143図127)が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね9世紀末葉から10世紀前半の平安時代と思われる。

第47号竪穴住居跡（第10図、第63図）

【位置・確認層】AG・AH-132～134グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】なし。

【平面形・規模】遺構北東側については傾斜地となっており、明瞭に壁、床等を確認出来なかったため全容は不明である。平面形は、おおむね楕円形を基調とするものと思われる。残存部より規模は、(706)cm×(458)cmである。深さは、南東壁が11cm、南西壁が57cm、北西壁が44cmである。

【壁】残存する壁は、やや外側へ直線的に立ち上がる。一部の壁は、やや内側へオーバーハングして立ち上がる。

【床】大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。また、南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。強く締まる。

【壁溝】なし。

【ビット・柱穴】9基検出した。規模はビット1が55×44×96cm、ビット2が62×36×85cm、ビット3が30×30×90cm、ビット4が40×32×68cm、ビット5が29×29×58cm、ビット6が18×8×12cm、ビット7が84×63×16cm、ビット8が86×73×12cm、ビット9が135×111×28cmである。ビット1～4は、主柱穴と思われ2本2列の主柱穴配置が考えられる。ビット5、6は壁際に位置し、壁柱穴と思われる。また、ビット8、9は、覆土上面が硬化し床面となっており、本遺構の最終段階に伴うものではないと考えられる。

【竈】明確に竈と思われる施設は確認していない。

【その他の付属施設】なし。

【覆土】5層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

【出土遺物】土器は、覆土より第II群5a類土器（第102図149、150）、第2層、ビット1第1層より第II群6類土器（第102図147、148）が出土している。石器は、第3層より石匙（第130図42）が1点、敲磨器（第143図128、129）が2点、半円状扁平打製石器が1点、砥石（第143図130）が1点、第2層より敲磨器（第143図131）が2点、覆土より不定形石器（第130図43）が1点、微細が1点、敲磨器が2点出土している。

【時期】出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第48号竪穴住居跡（第8図、第64、65図）

【位置・確認層】M・N-108、109グリッドに位置する。第VI層において確認した。

【重複】なし。

【平面形・規模】遺構東側については傾斜地となっており、明瞭に壁、床等を確認出来なかったため全容は不明である。平面形は、おおむね楕円形を基調とするものと思われる。残存部より規模は、(634)cm×(458)cmである。深さは、西壁が27cm、北壁が38cmである。

【壁】外側へ直線的に立ち上がる。

【床】第V層並びに大谷火山灰、月見野火山灰に相当する第VI層を床面としている。また、南東側では第VI層を掘り込んだ後、ロームブロックを含む黒色土を埋めて貼床としている。おおむね平坦であるが、西側から東側へ若干の傾斜が見られる。強く締まる。

【壁溝】西壁から北壁にかけて断続的に巡っている。幅8～20cm、深さ2～7cmである。

[ピット・柱穴] 20基検出した。規模はピット1が $25 \times 24 \times 78$ cm、ピット2が $32 \times 30 \times 53$ cm、ピット3が $38 \times 33 \times 67$ cm、ピット4が $48 \times 43 \times 72$ cm、ピット5がピット4との重複のため不明、ピット6が $30 \times 29 \times 44$ cm、ピット7が $21 \times 20 \times 34$ cm、ピット8が $24 \times 19 \times 57$ cm、ピット9が $48 \times 30 \times 12$ cm、ピット10が $42 \times 40 \times 10$ cm、ピット11が $24 \times 19 \times 13$ cm、ピット12が $20 \times 20 \times 56$ cm、ピット13が $28 \times 22 \times 53$ cm、ピット14が $25 \times 18 \times 12$ cm、ピット15が $12 \times 10 \times 5$ cm、ピット16が $16 \times 15 \times 10$ cm、ピット17が $20 \times 20 \times 8$ cm、ピット18が $22 \times 15 \times 5$ cm、ピット19が $24 \times 17 \times 11$ cm、ピット20が $22 \times 15 \times 12$ cmである。ピット1～8は、本遺構新段階に伴う主柱穴の可能性が考えられる。また、ピット12、13は、古段階に伴う主柱穴と思われ2本1列の主柱穴配置と思われる。

[竪穴] 竪穴を1基確認した。床面長軸線上のほぼ中央に位置する。竪穴の規模は $83 \times 82 \times 10$ cmを測る。配置状況からは、本遺構新段階に伴うものと思われるが、ピット6より古いことから、最終段階に伴うものではないと思われる。底面のほか堆積土中には第4層、第6層など複数面の焼土が認められ、一定期間継続して使用されたものと考えられる。なお、底面北西側から竪穴外の北西側にかけて広く焼土を確認していることから、最終段階においては、竪穴の存在はあまり意識されず地床としての存在に変化しているかもしれない。また、床面上においてその他、4ヶ所の焼土を確認しており、地床と思われる。規模は焼土1が 40×38 cm、焼土2が 12×12 cm、焼土3が 46×20 cm、焼土4が 34×22 cmである。配置状況から焼土3については、本遺構新段階に伴うものと思われるが、焼土1、2、4については、新段階、古段階のいずれに伴うものかは明瞭ではない。

[その他の付属施設] 北側はテラスと思われる段上の構造となっている。規模は幅 $(320) \times 48$ cm、床面からの高さは、 $3 \sim 18$ cmである。また、床面北東側と南西側において、壁溝1とした新段階の壁溝と壁溝3とした古段階の壁溝間に壁溝2を確認した。規模は北東側が幅 $6 \sim 8$ cm、深さ 6 cm、南西側が幅 $4 \sim 20$ cm、深さ 10 cmを測る。

[覆土] 5層に分層した。第5層は本遺構新段階に伴う貼床である。第1～4層は、黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土が堆積し、黒褐色土、暗褐色土はロームを含む。人為堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第II群5a類土器(第95図16、第102図151)、第3、2層より第II群6類土器(第102図152、153)が出土している。石器は、ピット4第1層より微細が1点、第4層より剥片が1点、第3層より石匙(第130図44)が1点、不定形石器(第130図46、47)が2点、剥片が3点、微細が1点、敲磨器(第143図132～134)が5点、半円状扁平打製石器(第144図135、136)が3点、挟入扁平磨製石器(第144図137)が1点、台石・石皿(第144図138)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第49号竪穴住居跡(第8図、第66図)

[位置・確認層] J-104、105グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 遺構北側については傾斜地となっており、明瞭に壁、床等を確認出来なかったため全容は不明である。平面形は、おおむね円形ないし楕円形を基調とするものと思われる。残存部より規模は、 $(478) \text{cm} \times (332) \text{cm}$ である。深さは、東壁が 38 cm、南壁が 39 cmである。

[壁] 残存する壁は、外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦であるが、壁側から中央部へ若干

の傾斜が見られる。

[壁溝] 東壁南側と南壁西側を巡っている。幅14～20cm、深さ1～6cmである。

[ピット・柱穴] 5基検出した。規模はピット1が30×25×72cm、ピット2が43×36×72cm、ピット3が40×37×63cm、ピット4が(45)×31×9cm、ピット5が45×44×14cmである。ピット1～3は主柱穴と思われる。

[竪穴] 竪穴を1基確認した。本遺構の全容は不明であるが、残存する壁や柱穴の配置状況からは、おおむね床面中央部に位置するものと考えられる。竪穴の規模は、82×66×25cmを測る。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 3層に分層した。第2層、第3層は、暗褐色土、黄褐色土が堆積する。層中に多量の遺物を包含することから人為堆積の可能性も考えられる。第1層は黒褐色土が堆積する。自然堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、ピット3第2層、第3層、第2層、覆土よりⅡ群5 a類土器(第96図17～19、第102図154、156～158、第103図160、161、163、164、166)、第2、1層、覆土よりⅡ群5 b類土器(第96図20～22、第103図159、162、165、167)、ピット6第1層よりⅡ群6類土器(第102図155)が出土している。石器は、竪穴第2層より磨製石斧(第145図139)が1点、第3層より不定形石器(第130図47)が1点、微細が3点、剥片が1点、擦切具(第145図140)が2点、第2層より剥片が1点、敲磨器(第145図141)が1点、第1層より剥片が1点、覆土より石篋(第131図48)が1点、不定形石器が2点、微細が2点、剥片が3点、敲磨器(第145図142)が3点、半円状扁平打製石器が1点、台石・石皿が1点出土している。土製品は、第2層より土器片利用土製品(第151図13)が1点、土玉(第151図5)が1点、焼成粘土塊(第152図27～30)が6点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第51号竪穴住居跡(第7図、第67～69図)

[位置・確認層] AD・AE-87、88グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はおおむね方形を呈する。規模は、541cm×500cmである。深さは、東壁が38cm、西壁が47cm、南壁が45cm、北壁が44cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。堅く締まる。

[壁溝] 西壁から南壁西側にかけて断続的に巡っている。幅12～38cm、深さ1～5cmである。

[ピット・柱穴] 29基検出した。規模はピット1が(30)×28×36cm、ピット2が25×21×35cm、ピット3が26×21×26cm、ピット4が22×15×35cm、ピット5が19×13×10cm、ピット6が20×(13)×40cm、ピット7が25×16×12cm、ピット8が26×19×34cm、ピット9が31×26×48cm、ピット10が26×20×20cm、ピット11が27×20×60cm、ピット12が26×22×27cm、ピット13が26×22×51cm、ピット14が28×22×47cm、ピット15が26×26×27cm、ピット16が24×19×36cm、ピット17が38×21×45cm、ピット18が18×16×27cm、ピット19が18×18×32cm、ピット20が46×34×9cm、ピット21が37×28×14cm、ピット22が40×30×15cm、ピット23が34×24×18cm、ピット24が36×36×20cm、ピット25が(47)×44

×16cm、ビット26が48×40×13cm、ビット27が136×92×42cm、ビット28が178×(117)×16cm、ビット29が47×35×21cmである。ビット1～19は壁際を巡り壁柱穴と思われる。ビット27～29は、カマドに付属する施設と思われ、ビット27はカマド脇のビット、ビット28はカマド前に位置し、作業場の用途が考えられる。ビット29は灰溜ビットと思われる。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の南端から2/4の地点に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-84°-Eである。火床面は不整形円形を呈し48×38cmを測る。火床面奥には礫(S-6)が設置されており、支脚に関連するものと思われる。また、火床面手前にはビット29が設置されており、灰溜ビットと思われる。袖部は、左右の袖を確認した。火床面を挟むように計5点の礫が、下側は床面を掘り込んで設置されており、袖部の芯材として用いられていたものと思われる。また、東壁に接して右袖基部を確認している。第VI層下位の大谷火山灰と思われるロームにより構築されている。煙道部は半地下式と思われ、幅36cm、長さ75cmを測る。天井部は崩落したと思われ、カマド堆積土第3層がこれに相当すると思われる。煙道底面は火床面奥から10°程度で緩やかに立ち上がり、煙道半ばで30°程度となった後、一度50°程度で下り、煙出部で80°程度と急激に立ち上がる。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 7層に分層した。覆土上位は黒土採取と思われる擾乱を受けており、覆土下位には黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土が堆積する。第3層は人為堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、カマド第5層、第6層より土師器(坏)(第115図120～122)、カマド第7、5層、ビット27第1層、第7～5、3、1層より土師器(甕)(第115図121、123～127、第116図128～132)、ビット27第2、1層より把手付土器(第116図133、134)が出土している。石器は、カマド第5層より敲磨器(第145図143)が1点、ビット27第2層より敲磨器(第145図144)が1点、第6層より剥片が1点、第3層より磨製石斧(第145図145)が1点、砥石(第146図146)が1点、第2層より台石・石皿(第146図147)が1点、第1層より剥片が1点、覆土より石鏃(第131図49)が1点、石匙が1点、微細が1点、敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね10世紀後半から11世紀前半の平安時代と思われる。

第52号堅穴住居跡(第6図、第70～72図)

[位置・確認層] Q-90、R-88～91、S-89、90、T-90グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第4号円形周溝と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形はおおむね方形を呈する。規模は、812cm×708cmである。深さは、東壁が30cm、西壁が46cm、南壁が42cm、北壁が43cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。床面の一部は削平を受けている。おおむね平坦であるが南東側から北西側へ若干の傾斜が見られる。堅く締まる。

[壁溝] 東壁南側と南壁東側を除いて断続的に巡っている。幅10～30cm、深さ1～18cmである。

[ビット・柱穴] 21基検出した。規模はビット1が30×20×36cm、ビット2が(34)×24×15cm、ビット3が25×23×20cm、ビット4が34×30×48cm、ビット5が23×17×34cm、ビット6が30×26×36cm、ビット7が20×18×33cm、ビット8が24×13×22cm、ビット9が38×36×18cm、ビット10が38×25×

9cm、ビット11が40×31×42cm、ビット12が30×23×12cm、ビット13が28×25×11cm、ビット14が26×26×9cm、ビット15が33×27×21cm、ビット16が43×40×30cm、ビット17が23×20×8cm、ビット18が32×30×32cm、ビット19が30×30×35cm、ビット20が(88)×(160)×12cm、ビット21が60×43×19cmである。ビット11、15、16、18、19はその規模から柱穴の可能性も考えられる。ビット1～8は壁際の柱穴と思われる。また、ビット21はカマドに付属する灰溜ビットと思われる。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の南端から2/4の地点に設置されている。火床面、煙道部を確認した。主軸はN-61°-Eである。火床面は不整形円形を呈し42×20cmを測る。火床面手前にはビット21が設置されており、灰溜ビットと思われる。また、火床面並びに灰溜ビットの手前には削平のため一部の検出に留まるがビット20が設置されており、カマドに係る作業場の用途が考えられる。煙道部についても黒土採取と思われる削平を受けているが、おおむね半地下式と思われる。幅120～130cm、長さ90cmを測るが、幅については削平による破壊の影響もあるかもしれない。煙道底面は、火床面奥の東壁から緩やかに立ち上がり、煙出部で屈曲し、50°程度で立ち上がる。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 6層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より須恵器(甕)(第117図135)、須恵器(甕)(第117図136)、カマド覆土より土師器(坏)(第117図137)、カマド第2層、覆土、第3層、第1層、覆土より土師器(甕)(第117図135、136、141～145)、カマド覆土、第3層より土師器(小甕)(第117図139、140)、カマド覆土より土師器(罎)(第117図138)が出土している。石器は、第3層より敲磨器が1点、第2層より台石・石皿(第146図147)が1点、第1層より石槍(第131図50)が1点、敲磨器(第146図148)が2点、半円状扁平打製石器(第146図149)が1点、砥石(第146図150)が1点、覆土より不定形石器(第131図51、52)が2点、微細が1点、剥片が4点、敲磨器(第147図151)が1点出土している。土製品は、第3層より土製支脚(第151図)が1点、第1層より土製支脚(第151図15、16)が2点、カマド覆土より土製支脚(第151図14)が1点出土している。石製品は、覆土よりその他の石製品(第153図3)が1点出土している。鉄関連遺物は、カマド覆土より羽口(第153図13)が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね10世紀後半から11世紀前半の平安時代と思われる。

第53号竪穴住居跡(第6図、第73～76図)

[位置・確認層] H・I-85、86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第14号溝跡、第15号溝跡、第559号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区端に位置し北東隅の様相が不明であるが、平面形はおおむね方形を呈する。規模は、616cm×602cmである。深さは、東壁が14cm、西壁が48cm、南壁が44cm、北壁が38cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 月見野火山灰、大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。また、南西側一部では第VI層を掘り込んだ後、ロームブロックを含む暗褐色土を埋めて貼床としている。おおむね平坦であるが、中央部から壁側へ若干の傾斜が見られる。堅く締まる。

[壁溝] 東西隅を除いた南壁を巡っている。幅12～26cm、深さ3～10cmである。

[ビット・柱穴] 45基検出した。規模はビット1が20×16×27cm、ビット2が28×25×28cm、ビット3が26×19×40cm、ビット4が27×26×46cm、ビット5が(36)×23×34cm、ビット6が27×26×44cm、

ビット7が $30 \times 22 \times 45$ cm、ビット8が $22 \times 20 \times 46$ cm、ビット9が $24 \times 24 \times 50$ cm、ビット10が $26 \times 22 \times 15$ cm、ビット11が $30 \times 28 \times 46$ cm、ビット12が $24 \times 22 \times 28$ cm、ビット13が $30 \times 24 \times 30$ cm、ビット14が $31 \times 26 \times 34$ cm、ビット15が $40 \times 39 \times 40$ cm、ビット16が $25 \times 22 \times 29$ cm、ビット17が $26 \times 24 \times 38$ cm、ビット18が $19 \times 18 \times 31$ cm、ビット19が $37 \times 20 \times 33$ cm、ビット20が $16 \times 16 \times 22$ cm、ビット21が $26 \times 20 \times 22$ cm、ビット22が $31 \times 24 \times 10$ cm、ビット23が $46 \times 42 \times 9$ cm、ビット24が $(21) \times (10) \times 12$ cm、ビット25が $22 \times 17 \times 12$ cm、ビット26が $(31) \times 28 \times 11$ cm、ビット27が $38 \times 38 \times 12$ cm、ビット28が $33 \times 24 \times 8$ cm、ビット29が $26 \times 21 \times 8$ cm、ビット30が $26 \times 21 \times 11$ cm、ビット31が $18 \times 17 \times 11$ cm、ビット32が $28 \times 24 \times 12$ cm、ビット33が $20 \times 20 \times 40$ cm、ビット34が $16 \times 13 \times 6$ cm、ビット35が $14 \times 14 \times 12$ cm、ビット36が $63 \times (58) \times 28$ cm、ビット37が $(52) \times (62) \times 14$ cm、ビット38が $72 \times 56 \times 25$ cm、ビット39が $84 \times 68 \times 18$ cm、ビット40が $60 \times 48 \times 12$ cm、ビット41が $90 \times 58 \times 13$ cm、ビット42が $93 \times (59) \times 20$ cm、ビット43が $46 \times 43 \times 7$ cm、ビット44が $74 \times 60 \times 13$ cm、ビット45が $50 \times 30 \times 19$ cmである。ビット1～19は壁際を巡る壁柱穴と思われる。また、ビット36～38、45は、カマドに付属する施設と思われる、それぞれビット36～38は、カマド脇のビットで、ビット36、38はビット37より新しい。また、ビット45は灰溜ビットと思われる。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の南端から3/4の地点に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-67°-Eである。火床面は不整形円形を呈し 32×30 cmを測る。火床面手前にはビット45が設置されており、灰溜ビットと思われる。袖部は、左右の袖を確認した。火床面を挟むように計5点の礎が設置されており、袖部の芯材として用いられていたものと思われる。また、東壁付近で右袖基部を確認している。第VI層下位の大谷火山灰と思われるロームにより構築されている。煙道部は半地下式と思われる、幅 $26 \sim 30$ cm、長さ 64 cmを測る。煙道底面は火床面奥から 20° 程度で緩やかに立ち上がり、一度やや平坦になった後、 30° 程度で立ち上がる。

[その他の付属施設] 床面西側と北側において、L字状の溝を確認した。規模は幅 $8 \sim 20$ cm、深さ 9 cmである。南壁の壁溝と連続するようにも思われ、拡張等の可能性も考えられる。

[覆土] 8層に分層した。第8層は掘り方埋土である。第1～7層は、黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第4層、第5層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、カマド第2層、カマド覆土、ビット44第1層、第3～2層、覆土より土師器(坏)(第118図146～152)、カマド第2層、覆土、ビット4覆土、覆土より土師器(甕)(第118図153～156、第119図157～160、162)、カマド覆土より土師器(小甕)(第119図161)が出土している。石器は、カマド第2層より半円状扁平打製石器(第147図152)が1点、台石・石皿(第147図153)が1点、第3層より剥片(第131図53)が2点、敲磨器が1点、砥石(第147図154、155)が2点、第2層より敲磨器が2点、覆土より剥片が2点、敲磨器(第148図156)が1点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊(第152図30)が1点出土している。鉄関連遺物は、カマド覆土より流動滓(第153図10)が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね10世紀後半から11世紀前半の平安時代と思われる。

第54号竪穴住居跡(第6図、第77、78図)

[位置・確認層] M-80、81、N-81グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第515号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区端に位置し全容は不明である。残存部より平面形は、隅丸長方形を基調とする

ものと思われる。規模は、(690)cm×480cmである。深さは、東壁が54cm、西壁が28cm、南壁が43cm、である。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦であるが、中央部から壁側に向かって若干の傾斜が見られる。堅く締まる。

[壁溝] 東壁南側から南壁東側にかけて断続的に巡っている。幅6～12cm、深さ2～3cmである。

[ビット・柱穴] 17基検出した。規模はビット1が29×24×34cm、ビット2が20×19×14cm、ビット3が22×18×24cm、ビット4が25×24×24cm、ビット5が20×17×14cm、ビット6が16×13×11cm、ビット7が19×18×7cm、ビット8が16×14×12cm、ビット9が18×16×18cm、ビット10が14×14×13cm、ビット11が20×18×13cm、ビット12が25×19×18cm、ビット13が23×19×36cm、ビット14が23×19×9cm、ビット15が(54)×55×14cm、ビット16が97×54×16cm、ビット17が52×47×15cmである。ビット1～13は、壁際を巡る壁柱穴と思われる。また、ビット15～17は、カマドに付属する施設と思われ、ビット15、16は、カマド脇のビット、ビット17は灰溜ビットと思われる。

[カマド] 東壁で確認した。東壁における位置は本遺構が調査区端に位置するため不明である。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-84°-Eである。火床面は不整形円形を呈し40×40cmを測る。火床面奥には掘り込んで磔が設置され、さらにその上部には3点の坏(P-1～3)を伏せ重ねており、支脚と思われる。また、火床面手前にはビット17が設置されており、灰溜ビットと思われる。袖部は、左右の袖を確認した。火床面を扶むように計6点の磔が設置されており、袖部の芯材として用いられていたものと思われる。煙道部は半地下式と思われ、幅38～55cm、長さ100cmを測る。煙道底面は火床面奥から15°程度で緩やかに立ち上がり、煙道奥で一度やや平坦となった後、煙出部で70°程度で立ち上がる。

[その他の付属施設] 西側はテラスと思われる段上の構造となっている。規模は幅26～154cm、床面からの高さは、7～12cmである。

[覆土] 5層に分層した。黒褐色土、黄褐色土主体に堆積し、第5層は、崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、カマド第4、2層、床面、第4層、覆土より土師器(坏)(第119図163～168)、カマド覆土、床面、第3、2層、覆土より土師器(甕)(第120図169、170)が出土している。石器は、カマド第2層より砥石(第148図157)が1点、第3層より砥石(第148図158)が1点、敲磨器が1点、第2層より敲磨器が1点、覆土より敲磨器が1点出土している。土製品は、第3層より焼成粘土塊(第152図31)が1点出土している。鉄関連遺物は、覆土より炉壁溶解物(第153図8)が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね10世紀後半から11世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第55号竪穴住居跡(第7図、第79～82図)

[位置・確認層] AA・AB-85～87、AC-86、87グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第59号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形はおおむね方形を呈する。規模は、720cm×646cmである。深さは、東壁が59cm、西壁が43cm、南壁が35cm、北壁が49cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。中央部は、部分的に熱を受けた個所が見られる。おおむね平坦であるが、若干の起伏と共に西側から東側へ若干の傾斜が見られる。堅く締まる。

[壁溝] 各壁を断続的に巡っている。幅6～14cm、深さ2～14cmである。

[ビット・柱穴] 31基検出した。規模はビット1が42×34×22cm、ビット2が56×27×25cm、ビット3が32×31×34cm、ビット4が36×33×33cm、ビット5が37×30×34cm、ビット6が85×72×20cm、ビット7が33×26×13cm、ビット8が85×63×10cm、ビット9が30×29×11cm、ビット10が65×48×24cm、ビット11が21×20×21cm、ビット12が53×53×9cm、ビット13が33×28×10cm、ビット14が18×18×13cm、ビット15が(22)×(20)×8cm、ビット16が18×16×18cm、ビット17が35×(15)×8cm、ビット18が47×36×36cm、ビット19が23×19×12cm、ビット20が(11)×13×8cm、ビット21が22×18×11cm、ビット22が79×52×30cm、ビット23が27×26×34cm、ビット24が15×14×12cm、ビット25が22×22×14cm、ビット26が19×18×22cm、ビット27が37×20×16cm、ビット28が26×24×10cm、ビット29が21×19×34cm、ビット30が18×22×24cm、ビット31が140×(96)×16cmである。ビット1～5は壁隅ないし壁際に位置し、柱穴の可能性が考えられる。また、ビット6、8、31は、カマドに付属する施設と思われ、ビット6、8は、カマド脇のビット、ビット31はカマド前に位置し、作業場的な用途が考えられる。また、ビット30は、東壁南側を横穴状に掘り込んでおり、判然としないうちか収納施設等の可能性が考えられるかもしれない。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の南端から2/4の地点に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-85°-Eである。火床面は不整形円形を呈し26×47cmを測る。火床面奥には掘り込み内部にロームとその上部に甕(P-21)が設置されており支脚と思われる。火床面手前にはビット31が設置されており、カマドに係る作業場的な用途が考えられる。袖部は、左右の袖の掘り方を確認した。火床面を挟むように溝状に掘り込まれており、周囲に散乱する礫が袖部の芯材として設置されていたものと思われる。煙道部は半地下式と思われ、幅38cm、長さ92cmを測る。煙道底面は火床面奥から緩やかに10°程度で立ち上がった後、一度屈曲し20°程度の角度で立ち上がり、煙出部で75°程度で立ち上がる。

[その他の付属施設] なし。

[覆土] 9層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より須恵器(甗)(第120図171、172)、カマド第13～11、1層、第2層、覆土より土師器(坏)(第120図173～178)、カマド第13～11層、第4、1層より土師器(甗)(第121図179～183)が出土している。石器は、カマド第12層より敲磨器が1点、砥石(第148図159)が1点、ビット8第1層より砥石が1点、ビット13第1層より台石・石皿(第148図160)が1点、第9層より砥石(第149図161)が1点、第2層より砥石(第149図162、163)が2点、覆土より石錐(第132図54)が1点、石匙(第132図55、56)が2点、石篋が1点、不定形石器(第132図57、58)が6点、微細が3点、剥片が15点、敲磨器(第149図164)が2点、挟入扁平磨製石器が1点出土している。土製品は、第2層より焼成粘土塊(第152図32)が1点、転用硯(第152図34)が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね10世紀後半から11世紀前半の平安時代と思われる。

第56号竪穴住居跡(第6図、第83図)

[位置・確認層] R-82グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第57号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 風倒木痕と思われる擾乱を受けており全容・規模は不明である。残存部より平面形は、円形、楕円形を基調とするものと思われる。残存部より最大幅は188cm、深さは東壁が20cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 月見野火山灰、大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。若干の起伏と共に東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 4基検出した。規模はピット1が43×(25)×36cm、ピット2が61×54×43cm、ピット3が36×34×32cm、ピット4が(18)×17×32cmである。判然としないが、柱穴としては、ピット3、4の可能性が考えられる。

[炉] ピット2上部は竪穴炉であり覆土第1、2層がこれに相当する。竪穴の規模は、擾乱やピット3に一部壊されるが102×72×42cmを測る。ピット3より古いことから、本遺構の最終段階に伴う炉ではないものと思われる。

[その他の付属施設] ピット1は擾乱を受けているが、開口部周囲に堤状に粘土を貼付しており、平面形は不整楕円形を呈し、規模は39×29×35cmを測る。開口部周囲に浅い掘り込みが見られ、その段部に第VI層大谷火山灰出自と思われるロームが堤状に貼り付けられている。壁は、やや外側へ直線的に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。黒褐色土、暗褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第3層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5a類土器(第103図169)、第II群5b類土器(第97図23、24、第103図170)、ピット1第2層より第II群6類土器(第103図168)が出土している。石器は、床面より台石・石皿(第149図165)が1点、ピット1第1層より敲磨器が1点、半円状扁平打製石器が1点、第1層より石匙(第132図59)が1点、石錐(第132図60)が1点、不定形石器(第133図61、62)が2点、微細が1点、剥片が7点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第57号竪穴住居跡(第6図、第84～87図)

[位置・確認層] Q・R-80、81グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第56号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形はおおむね長方形を呈する。規模は、669cm×525cmである。深さは、東壁が56cm、西壁が31cm、南壁が36cm、北壁が36cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。中央部主体に部分的に熱を受けた個所が見られる。おおむね平坦であるが、南側から北側へ若干の傾斜が見られる。堅く締まる。

[壁溝] 東壁北側のピット30付近にのみ見られる。幅12～15cm、深さ3～6cmである。

[ピット・柱穴] 31基検出した。規模はピット1が34×32×54cm、ピット2が30×28×22cm、ピット3が43×38×58cm、ピット4が34×34×60cm、ピット5が30×30×64cm、ピット6が36×34×12cm、ピット7が36×30×53cm、ピット8が47×40×72cm、ピット9が41×38×49cm、ピット10が43×33×58cm、

ビット11が40×40×51cm、ビット12が40×34×66cm、ビット13が40×31×49cm、ビット14が28×27×37cm、ビット15が37×36×54cm、ビット16が43×38×64cm、ビット17が(25)×25×36cm、ビット18が34×22×58cm、ビット19が34×32×49cm、ビット20が41×32×47cm、ビット21が128×61×24cm、ビット22が30×29×19cm、ビット23が37×30×9cm、ビット24が(24)×28×8cm、ビット25が72×38×6cm、ビット26が44×(23)×7cm、ビット27が52×41×19cm、ビット28が37×27×19cm、ビット29が26×24×58cm、ビット30が(102)×80×24cm、ビット31が52×40×19cmである。ビット1～20は壁際を巡り壁柱穴と思われる。また、ビット29もその規模等から柱穴の可能性が考えられる。また、ビット21、31は、カマドに付随する施設と思われ、それぞれビット21は、カマド脇のビット、ビット31は灰溜ビットと思われる。

[カマド] 東壁で確認した。東壁の南端から2/4の地点に設置されている。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はN-80°-Eである。火床面は不整楕円形を呈し26×44cmを測る。火床面奥には磔(S-2)が置かれ、さらにその上部に甕の破片(P-12)が設置されており支脚と思われる。火床面手前にはビット31が設置されており、灰溜ビットと思われる。袖部は、左右の袖を確認した。第VI層下位の大谷火山灰と思われるロームにより構築されている。また、右袖の末端には、磔(S-4)が見られ、袖部の芯材として設置されていたものと思われる。煙道部は地下式と思われ、煙出孔は壁から40cmの地点にあり、不整楕円形を呈し46×34cmを測る。天井部は一部残存するが、崩落したものと思われ、カマド堆積土第3層中のロームブロック並びに第4、6、7層がこれに相当するものと思われる。煙道底面は火床面奥から緩やかに20°程度で立ち上がった後、煙出部で70°程度で立ち上がる。[その他の付属施設] ビット30は、東壁北側に位置し、住居外側から内側に下る浅い階段状の段構造を有する。出入口施設としての可能性が考えられる。また、東壁際には壁溝がビット30の位置する下部のみに認められることから、同じく出入口施設としての関連が考えられるかもしれない。

[覆土] 12層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、カマド第8、9層、第5層より土師器(坏)(第121図184、185)、カマド第9、8、5層、第8、5層、床面より土師器(甕)(第122図187~192)、床面、覆土より土師器(小甕)(第121図186)が出土している。石器は、床面より敲磨器(第150図166)が1点、砥石(第150図167)が2点、第4層より敲磨器が1点、覆土より石匙(第133図63)が1点、不定形石器(第133図64)が3点、剥片が1点、敲磨器が1点出土している。土製品は、床面より焼成粘土塊(第152図33)が1点出土している。

[時期] 出土遺物よりおおむね10世紀後半から11世紀前半の平安時代と思われる。

第59号竪穴住居跡(第7図、第88図)

[位置・確認層] AA・AB-87グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第55号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 重複により全容は不明であるが、残存部より平面形は、おおむね楕円形を基調とするものと思われる。残存部の規模は(180)cm×(147)cmである。深さは、東壁が15cm、南壁が17cm、北壁が8cmである。

[壁] 残存する壁は、外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。中央部に熱を受けた個所が見られる。おおむね

平坦であるが、東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 7基検出した。規模はピット1が29×29×18cm、ピット2が(104)×60×10cm、ピット3が(18)×25×16cm、ピット4が(24)×30×8cm、ピット5が12×12×24cm、ピット6が12×11×15cm、ピット7が36×28×23cmである。ピット1、3は主柱穴の可能性が考えられる。また、ピット5～7は壁際に位置し、壁柱穴の可能性が考えられる。

[炉] ピット4第1層は焼土化しており、地床炉としての可能性が考えられる。ピット2より古く、焼土残存部の規模は38×16cmを測る。ただ、ピット2より古いことから、本遺構の最終段階に伴う炉ではないものと思われる。

[その他の付属施設] なし。

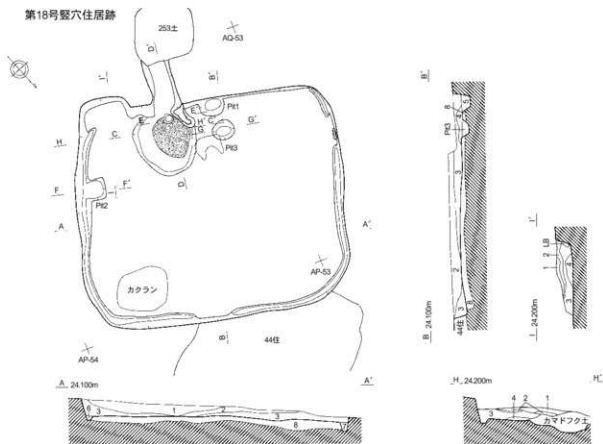
[覆土] 2層に分層した。褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第Ⅱ群5 a類土器(第103図171)、第Ⅱ群5 b類土器(第103図172)が出土している。石器は、ピット3第1層より敲磨器が1点、第2層より石鏃(第133図65)が1点、不定形石器(第133図66)が2点、第1層より台石・石皿(第150図168)が1点、その他の剥片石器(第133図67)が1点、剥片が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

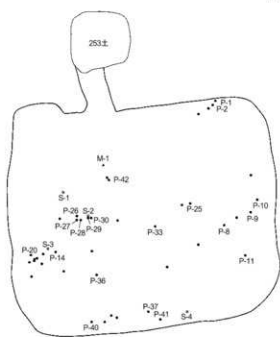
(小野 貴之)

第18号竪穴住居跡



第18号竪穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック少量、パミス粒微量、炭化粒少量、焼土粒少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒少量、パミスブロック少量、炭化粒少量、焼土粒少量、火山灰ブロック (白嶺山) 少量
- 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック微量、パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量、火山灰 (十和田a) 少量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量、火山灰 (十和田a) 少量
- 第5層 黒褐色土 (10YR2/3) パミスブロック微量、炭化粒少量、焼土ブロック微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック微量、パミス粒微量、炭化粒微量-極薄
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土ブロック微量-極薄
- 第8層 褐色土 (7.5YR4/6) 雑くしまったローム質、ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土ブロック微量



第18号竪穴住居跡ピット2

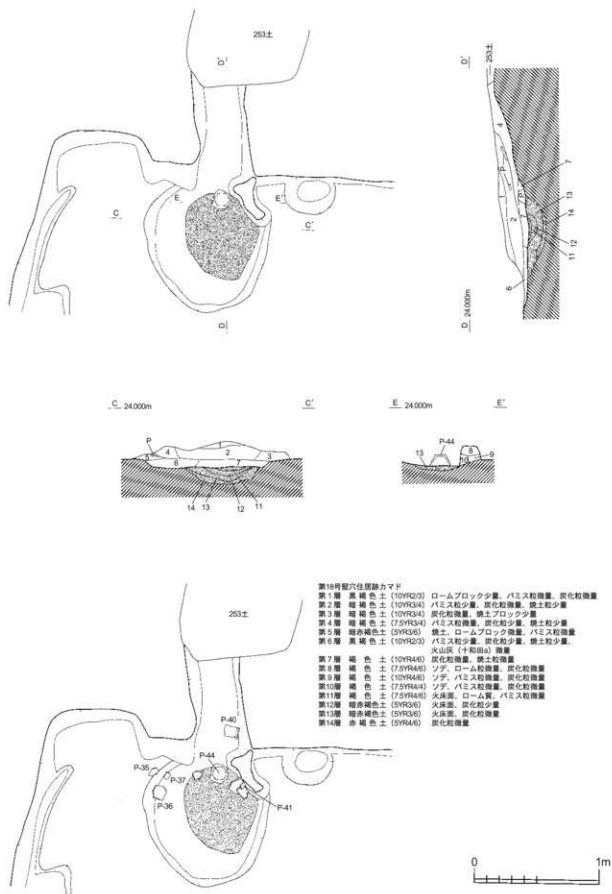
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒微量、炭化粒少量、焼土粒少量

第18号竪穴住居跡ピット3

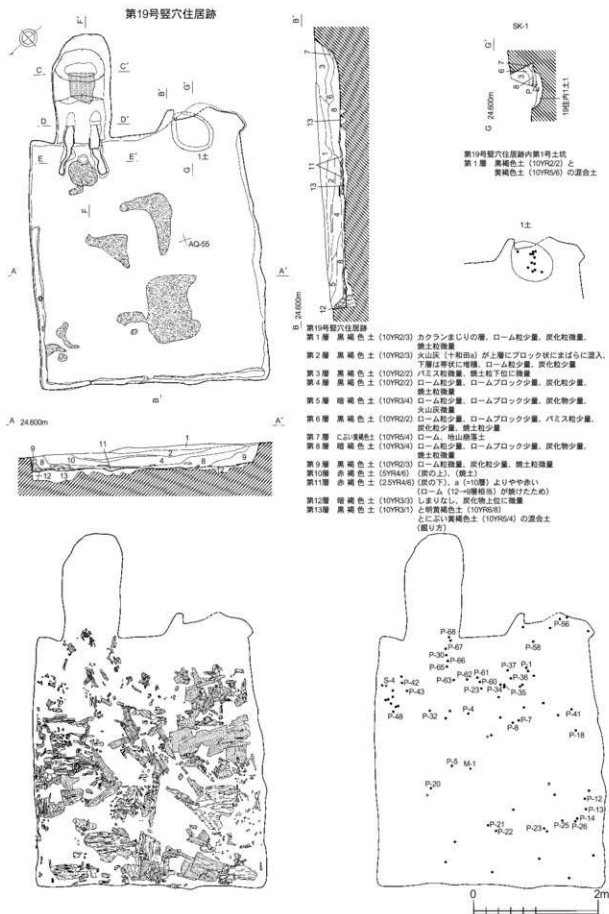
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化粒少量、焼土ブロック微量、火山灰 (十和田) 少量



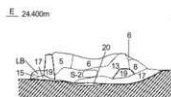
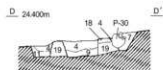
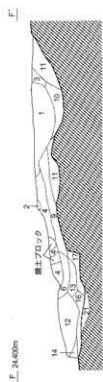
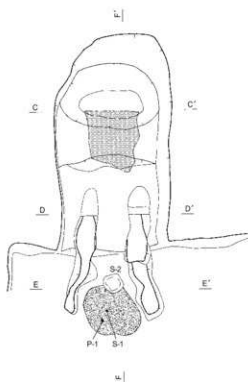
第15図 第18号竪穴住居跡 (1)



第16図 第18号竪穴住居跡 (2)



第17図 第19号竪穴住居跡 (1)



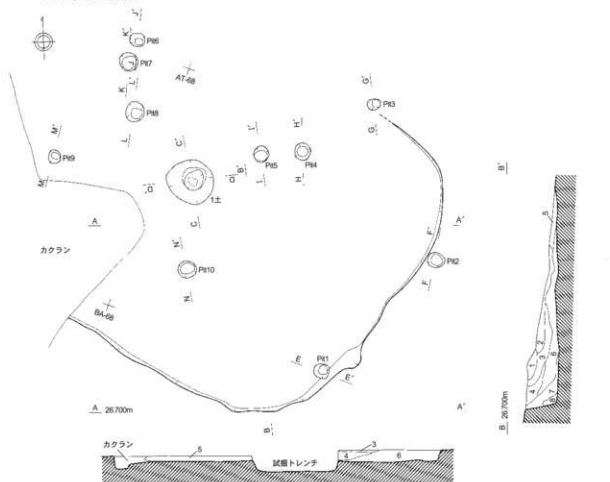
第19号竪穴住居跡カマド

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム、ローム粒少量、パミス粒微量
- 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土粒多量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、ロームブロック多量
- 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒少量、焼土粒少量、焼土ブロック少量、崩落土と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土
- 第5層 赤褐色土 (5YR4/8) 黒褐色土中量、炭化粒微量
- 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土粒少量
- 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化粒中量、焼土粒少量
- 第8層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化粒多量
- 第9層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス粒少量、炭化粒少量、焼土粒多量、焼土ブロック多量
- 第10層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化粒少量
- 第11層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量、ロームブロック多量
- 第12層 明褐色土 (7.5YR5/8) ロームブロック微量、焼土ブロック多量
- 第13層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、焼土ブロック少量
- 第14層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量、炭化粒多量、焼土粒微量
- 第15層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、焼土ブロック少量
- 第16層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、焼土ブロック微量
- 第17層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、ロームブロック少量
- 第18層 赤褐色土 (5YR4/8) ローム
- 第19層 褐色土 (10YR4/4) ローム
- 第20層 褐色土 (7.5YR4/8) パミス粒微量
- 第21層 明褐色土 (7.5YR5/8) 火床面



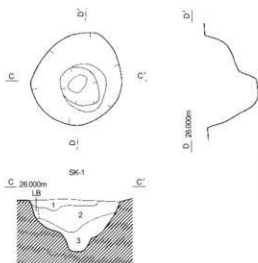
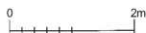
第18図 第19号竪穴住居跡 (2)

第20号竪穴住居跡



第20号竪穴住居跡

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒少量、炭化粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム、黄褐色土 (10YR5/6) 微量、パミス粒微量、炭化粒微量
 第3層 褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒少量、炭化粒少量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック微量、パミス粒微量、炭化粒微量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、炭化粒微量
 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、パミス粒微量



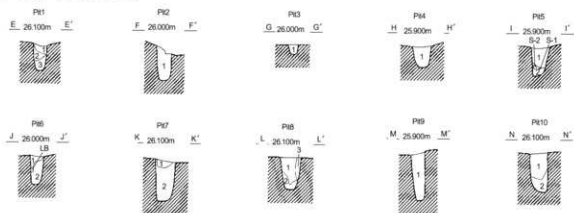
第20号竪穴住居跡内第1号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒少量、炭化粒少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック混入、パミス粒少量、炭化粒少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒少量



第19図 第20号竪穴住居跡 (1)

第4編 平成17・18年度発掘調査成果



第20号竪穴住居跡ビット1

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒少量
- 第3層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒少量、炭化粒微量

第20号竪穴住居跡ビット2

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒少量、炭化粒微量

第20号竪穴住居跡ビット3

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒微量

第20号竪穴住居跡ビット4

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒少量、炭化粒微量

第20号竪穴住居跡ビット5

- 第1層 灰色黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量、ロームブロック微量、パミス粒微量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒微量、炭化粒微量

第20号竪穴住居跡ビット6

- 第1層 灰色黄褐色土 (10YR5/4) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック混入、パミス粒微量

第20号竪穴住居跡ビット7

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒少量

第20号竪穴住居跡ビット8

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/6)
- 第3層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒微量

第20号竪穴住居跡ビット9

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒微量

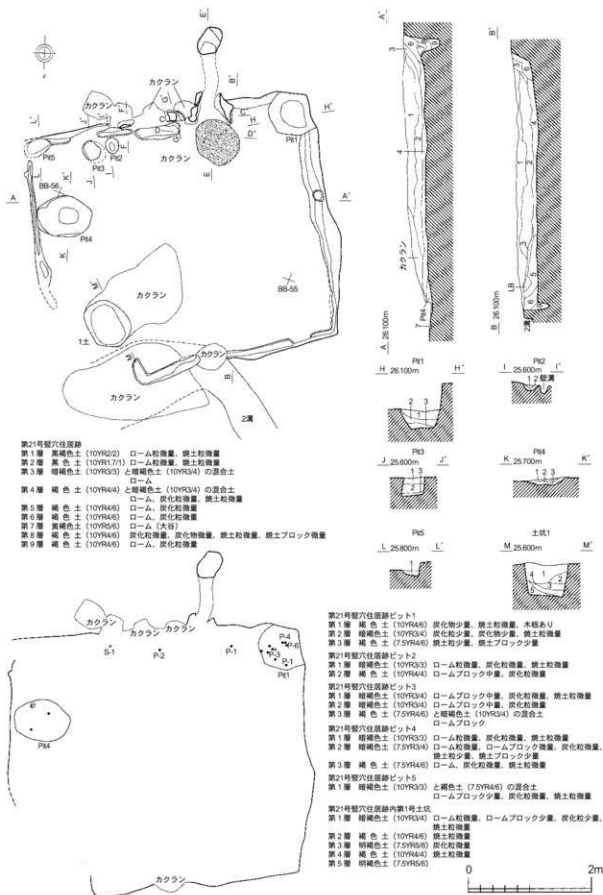
第20号竪穴住居跡ビット10

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量、炭化粒少量

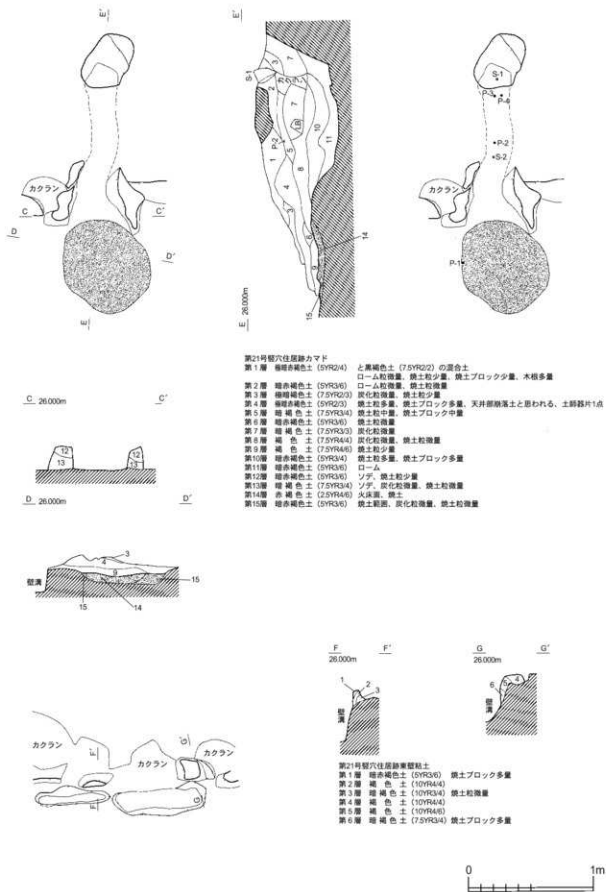


第20図 第20号竪穴住居跡 (2)

第21号竪穴住居跡

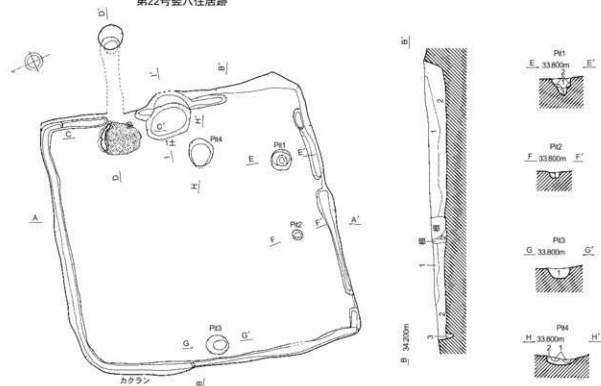


第21図 第21号竪穴住居跡 (1)

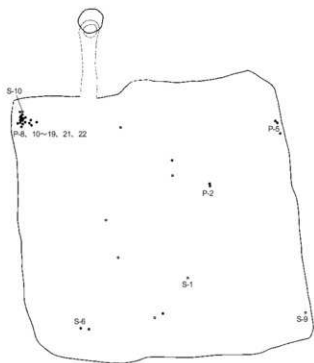


第22図 第21号竪穴住居跡 (2)

第22号竪穴住居跡



A, 34.200m



第22号竪穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、鉄土粒微量、火山灰 (白緑山) ブロック状少量
- 第2層 緑褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量、鉄土粒微量、火山灰 (十和田山) ブロック状微量
- 第3層 緑褐色土 (10YR3/4) ローム粒、炭化粒微量

第22号竪穴住居跡ビット1

- 第1層 緑褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、火山灰 (十和田山) 微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) 鉄土粒微量

第22号竪穴住居跡ビット2

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) 炭化粒微量、鉄土粒微量

第22号竪穴住居跡ビット3

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 鉄土粒微量

第22号竪穴住居跡ビット4

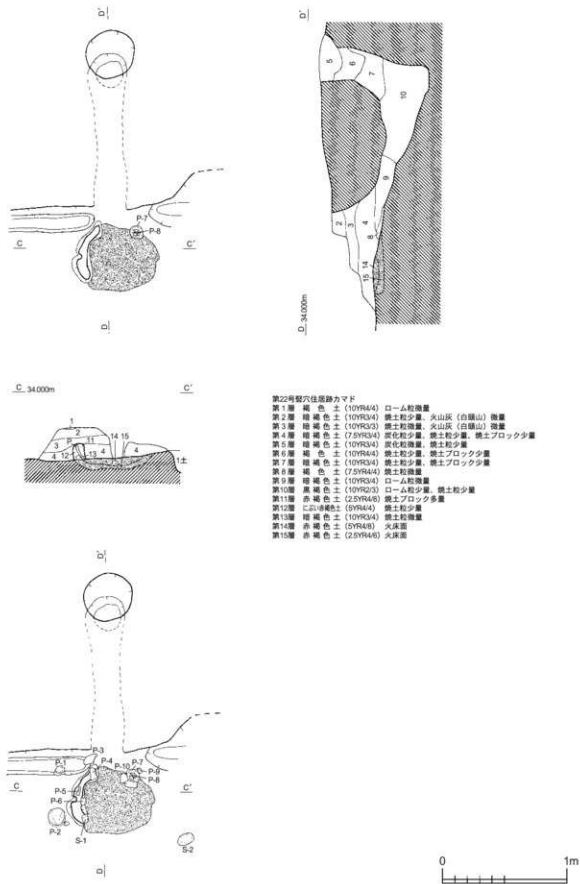
- 第1層 緑褐色土 (10YR3/4) 炭土粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) 鉄土粒微量

第22号竪穴住居跡内第1号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量、鉄土粒少量
- 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化粒微量、鉄土粒少量
- 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化粒少量、鉄土粒少量
- 第7層 褐色土 (10YR4/6) 炭化粒少量

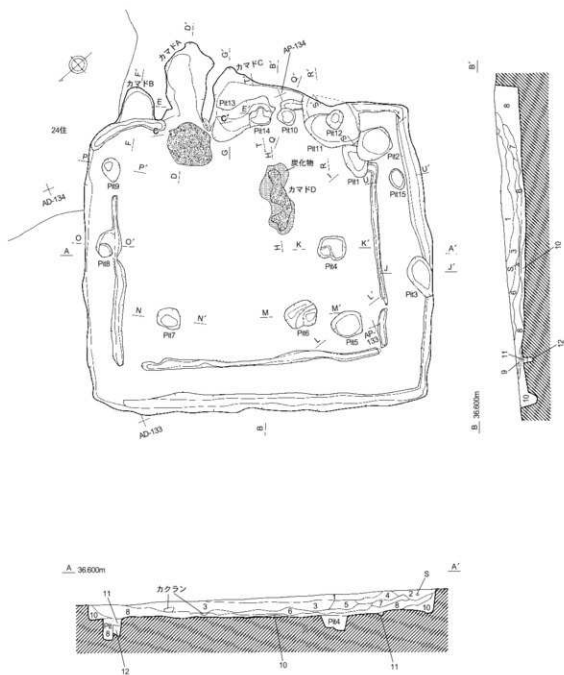


第23図 第22号竪穴住居跡 (1)



第24図 第22号竪穴住居跡 (2)

第23号竪穴住居跡

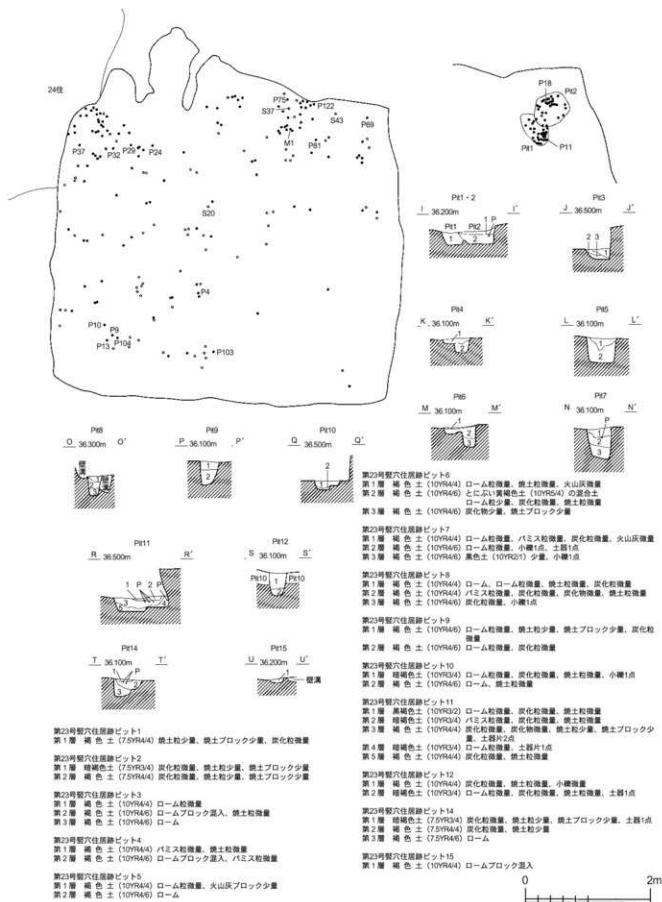


第23号竪穴住居跡

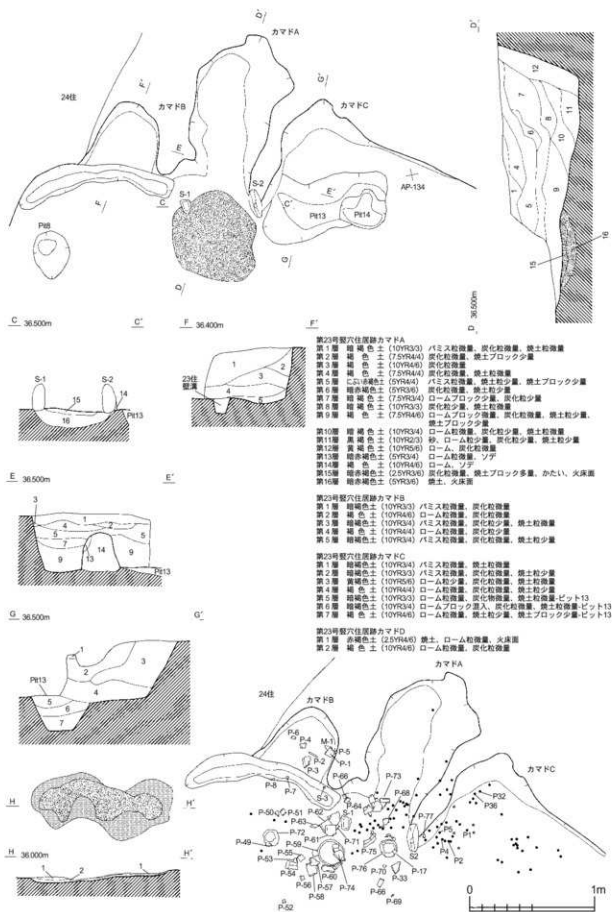
- | | |
|---|----------------------|
| 第1層 黒色土 (10YR1.7/1) | ロ-ム粒物質、炭化粒物質 |
| 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) | ロ-ム粒物質、炭化粒物質 |
| 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) | ロ-ム粒物質 |
| 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) | ロ-ム粒物質、パミス粒物質、焼土粒物質 |
| 第5層 黒褐色土 (10YR3/2) | ロ-ム粒物質 |
| 第6層 黒色土 (10YR1.7/1) と黒色土 (10YR2/1) の混合土 | ロ-ム粒物質、火山灰 (白旗山) 混入 |
| 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) | ロ-ム粒物質 |
| 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) | ロ-ム粒物質 |
| 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) | ロ-ム粒物質、火山灰 (十和田a) 混入 |
| 第10層 暗褐色土 (10YR3/3) | ロ-ム粒物質、ロ-ムブロック混入 |
| 第11層 褐色土 (10YR4/4) | ロ-ム粒物質 |
| 第12層 褐色土 (10YR4/6) | ロ-ム粒物質、焼土粒物質 |

0 2m

第25図 第23号竪穴住居跡 (1)

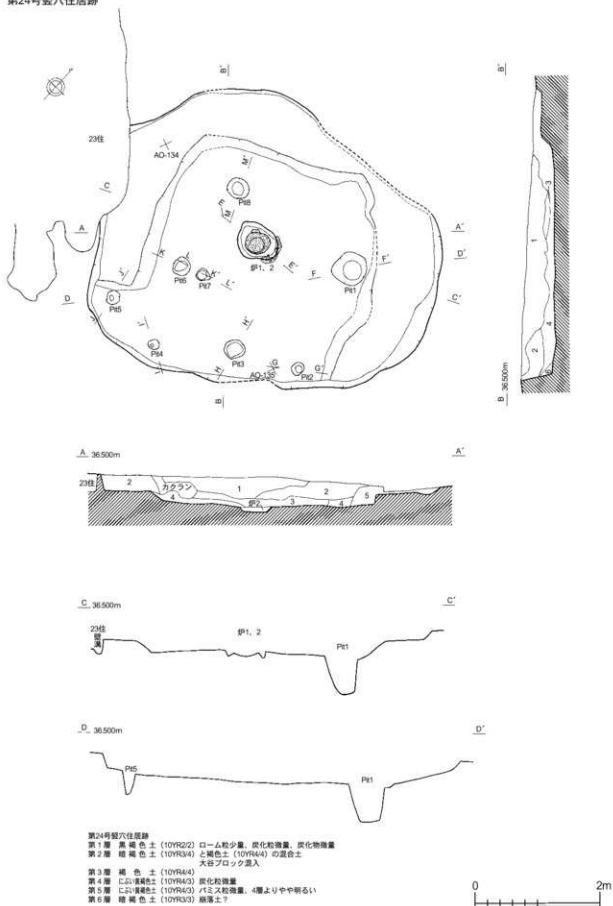


第26図 第23号竪穴住居跡(2)

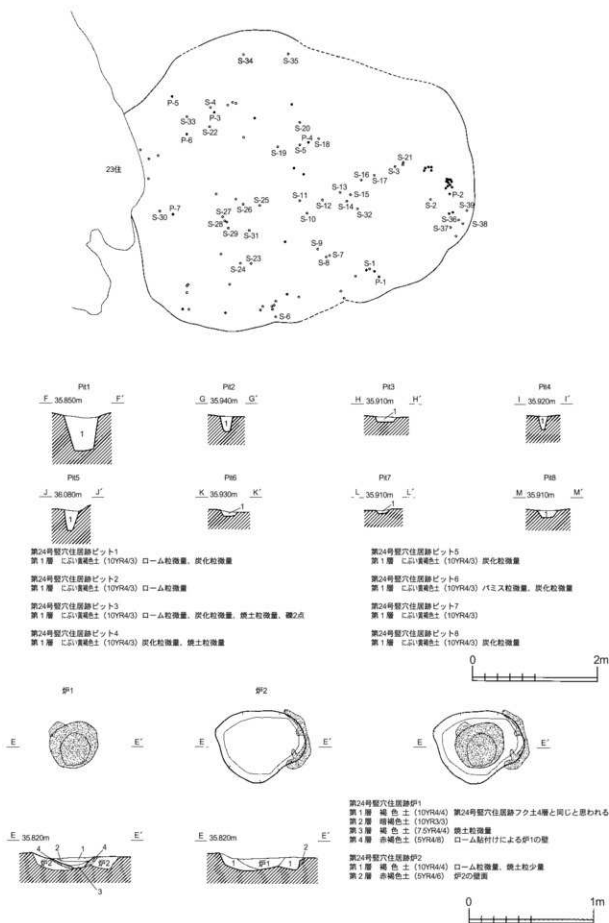


第27図 第23号竪穴住居跡 (3)

第24号竪穴住居跡

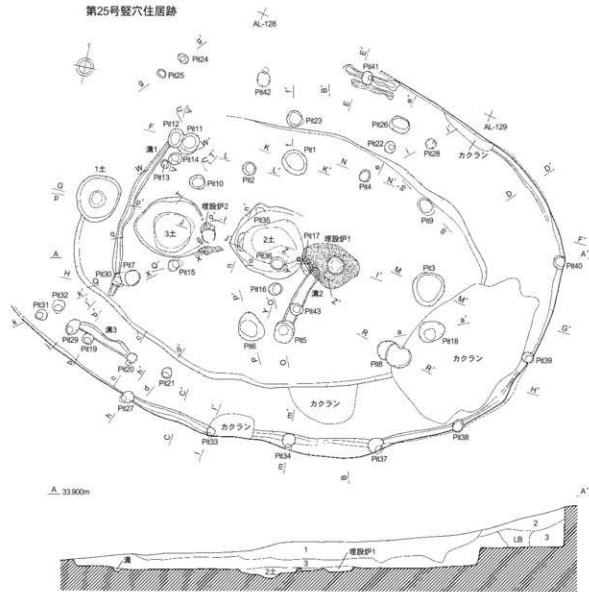


第28図 第24号竪穴住居跡(1)



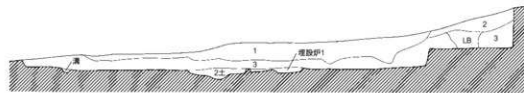
第29図 第24号竪穴住居跡(2)

第25号竪穴住居跡



A. 33.900m

A'



C. 33.500m C'



D. 33.700m D'



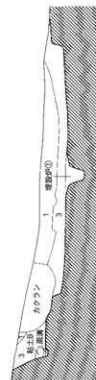
E. 33.300m E'



第25号竪穴住居跡断面

第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム、パリス粒微量、炭化粒微量

B.



B. 33.900m

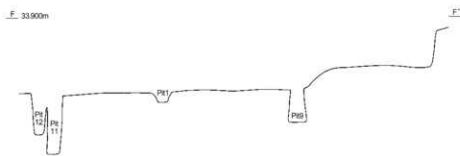
第25号竪穴住居跡

第1層 褐色土 (10YR2/1) パリス粒少量

第2層 暗褐色土 (10YR3/3) パリス粒少量

第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム、パリス粒微量、炭化粒微量

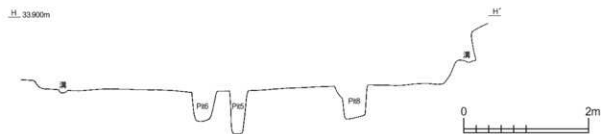
E. 33.900m



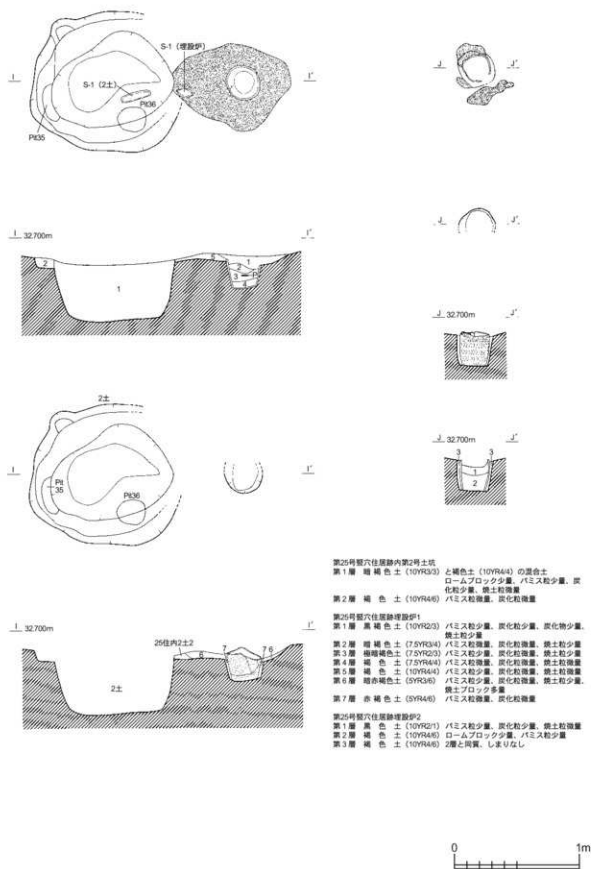
G. 33.900m



H. 33.900m



第30図 第25号竪穴住居跡 (1)

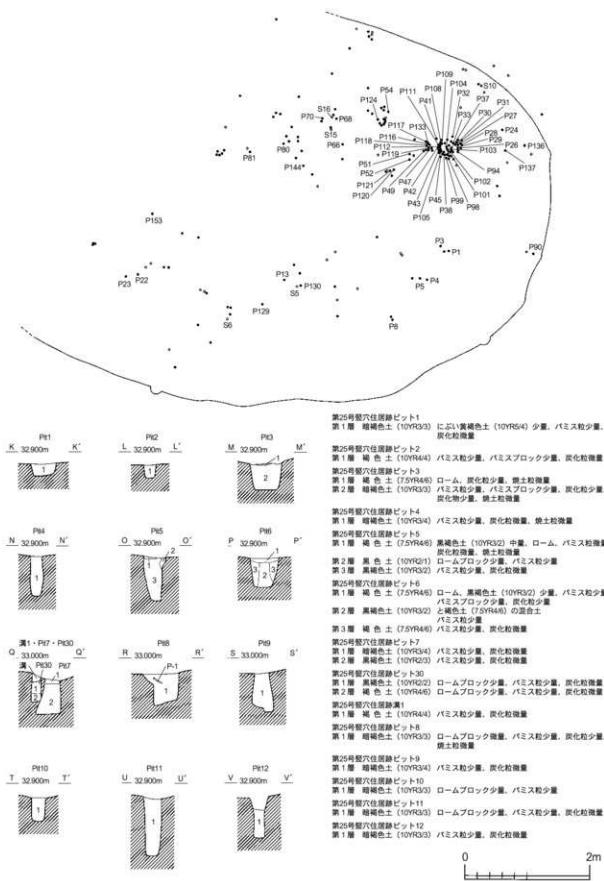


第25号竪穴住居跡内第2号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
 ロームブロック少量、パミス粒少量、炭
 化粒少量、焼土粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) パミス粒微量、炭化粒微量

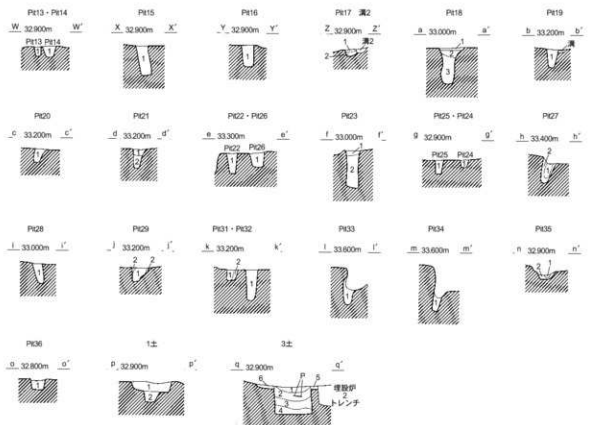
第25号竪穴住居跡埋設物P1
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒少量、炭化物少量、
 焼土粒少量
 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
 第3層 暗褐色土 (7.5YR2/3) パミス粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量
 第4層 褐色土 (7.5YR4/4) パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
 第5層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
 第6層 暗赤褐色土 (5YR3/6) パミス粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量、
 焼土ブロック多量
 第7層 赤褐色土 (5YR4/6) パミス粒微量、炭化粒微量

第25号竪穴住居跡埋設物P2
 第1層 黒色土 (10YR2/1) パミス粒少量、炭化粒少量、焼土粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック少量、パミス粒少量
 第3層 褐色土 (10YR4/6) 2層と同質、しまりなし

第31図 第25号竪穴住居跡 (2)



第32図 第25号竪穴住居跡 (3)



第25号竪穴住居跡ビット13

第1層 黒褐色土 (10YR2/3) バミス粒少量

第25号竪穴住居跡ビット14

第1層 暗褐色土 (10YR3/3) バミス粒少量, バミスブロック少量

第25号竪穴住居跡ビット15

第1層 黒褐色土 (10YR2/3) 少量, ロームブロック少量, バミス粒少量, バミスブロック少量

第25号竪穴住居跡ビット16

第1層 暗褐色土 (10YR3/4) バミス粒少量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット17

第1層 暗褐色土 (7.5YR4/6) バミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6)

バミス粒少量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡跡2

第1層 黒色土 (10YR2/1) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土, ロームブロック少量, バミス粒少量

第25号竪穴住居跡ビット18

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) ロームブロック微量, バミス粒少量

第2層 暗褐色土 (10YR3/4)

ロームブロック少量, バミス粒多量, 炭化粒少量

第3層 暗褐色土 (10YR4/6)

ローム, 暗褐色土 (10YR3/4) 少量, バミス粒少量

第25号竪穴住居跡ビット19

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土 (10YR3/4) 少量, ロームブロック微量, バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット20

第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量, バミス粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒微量

第25号竪穴住居跡ビット21

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) ロームブロック少量, バミス粒少量, 炭化粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6)

バミス粒微量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット22

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) ロームブロック微量, バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット23

第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量, バミス粒少量, 炭化粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6)

バミス粒微量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット24

第1層 暗褐色土 (10YR2/3) バミス粒少量, 炭化粒少量

第25号竪穴住居跡ビット25

第1層 暗褐色土 (10YR2/3) バミス粒少量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット26

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット27

第1層 暗褐色土 (10YR2/3) バミス粒微量, 炭化粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6)

バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット28

第1層 暗褐色土 (10YR3/4) バミス粒微量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット29

第1層 暗褐色土 (10YR2/3) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土

バミス粒少量, 炭化粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6)

バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット31

第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/1) 少量, バミス粒少量

第2層 暗褐色土 (10YR6/8)

バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット32

第1層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/1) の混合土

ロームブロック多量, バミス粒少量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6)

バミス粒微量

第25号竪穴住居跡ビット33

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) バミス粒微量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット34

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) バミス粒微量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡ビット35

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) ローム, バミス粒少量, 炭化粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6) ロームブロック多量, バミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土ブロック微量

第25号竪穴住居跡ビット36

第1層 暗褐色土 (10YR4/6) ローム, バミス粒少量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡跡3号土坑

第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量, バミス粒少量, バミスブロック少量, 炭化粒少量

第2層 暗褐色土 (10YR3/3) バミス粒少量, バミスブロック少量, 炭化粒微量

第25号竪穴住居跡跡3号土坑

第1層 暗褐色土 (10YR3/3) と暗褐色土 (10YR2/3) の混合土

バミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒微量

第2層 暗褐色土 (10YR4/6) 黒褐色土 (10YR2/1) 少量, ロームブロック少量, バミス粒少量, 炭化粒微量

第3層 暗褐色土 (10YR5/2) 暗褐色土 (10YR2/1) 微量, ロームブロック微量, バミス粒多量

第4層 暗褐色土 (10YR2/2) バミス粒中量, 炭化粒少量, ロームブロック少量

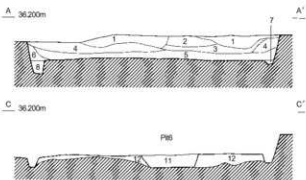
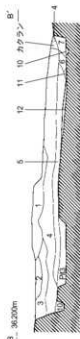
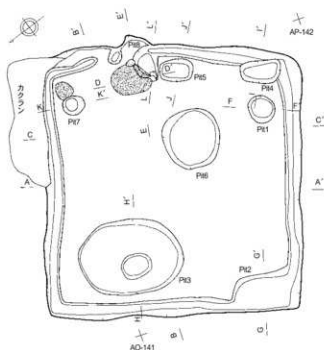
第5層 暗褐色土 (10YR4/6) ロームブロック微量, バミス粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒微量

第6層 暗褐色土 (7.5YR4/6) ローム, バミス粒微量, 炭化粒微量

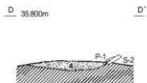
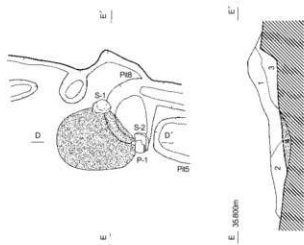


第33図 第25号竪穴住居跡(4)

第26号竪穴住居跡



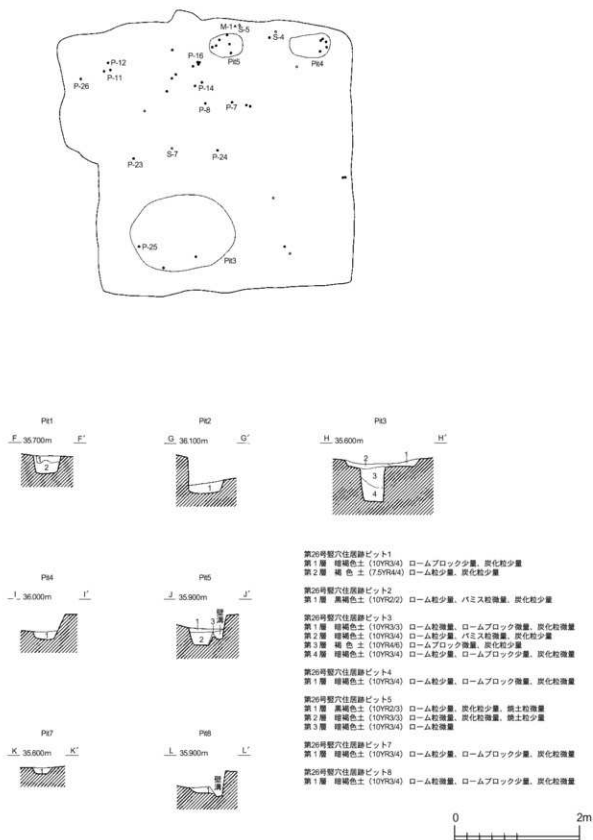
- 第26号竪穴住居跡
- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒少量、焼土粒微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、焼土粒微量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量、炭化粒少量、焼土粒微量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒少量、焼土粒微量
 - 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量、パミス粒微量、炭化粒少量
 - 第8層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第9層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量
 - 第10層 褐色土 (7.5YR4/4) パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第11層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、ビット6
 - 第12層 褐色土 (10YR4/4) 粘土、ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量



- 第26号竪穴住居跡カマド
- 第1層 暗赤褐色土 (5YR3/6) パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量、焼土ブロック微量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) パミス粒微量、炭化粒少量、焼土粒微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
 - 第4層 赤褐色土 (5YR4/8) 火床炭、ローム粒微量、炭化粒少量

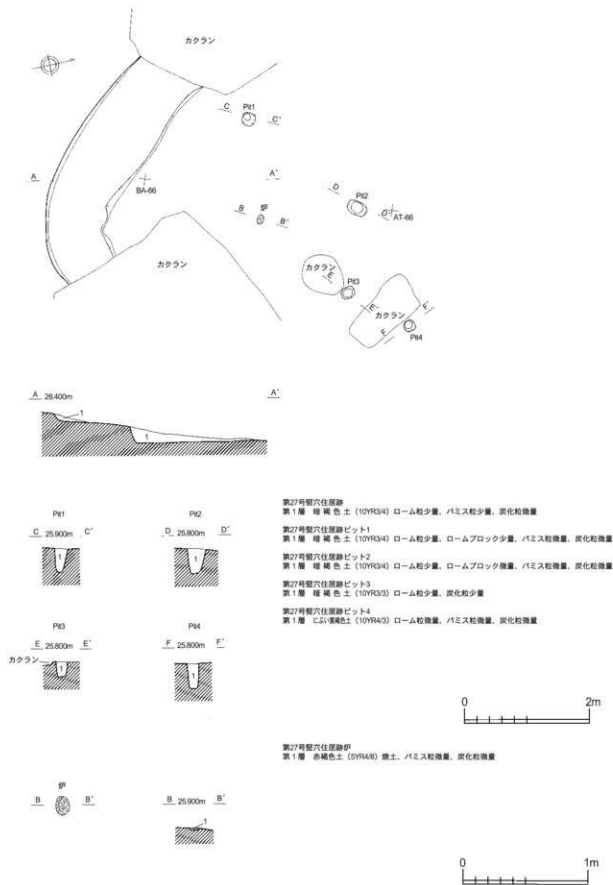


第34図 第26号竪穴住居跡(1)



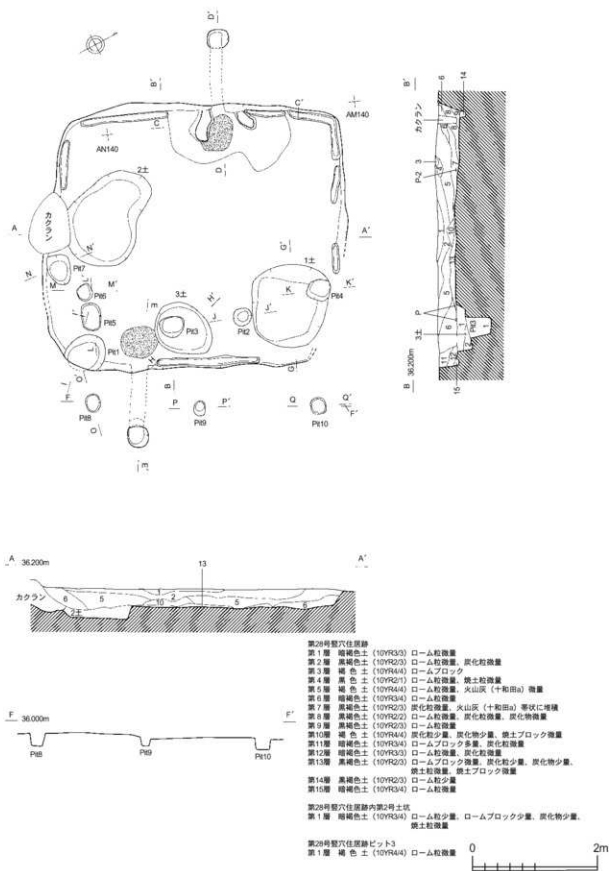
第35図 第26号竪穴住居跡(2)

第27号竪穴住居跡

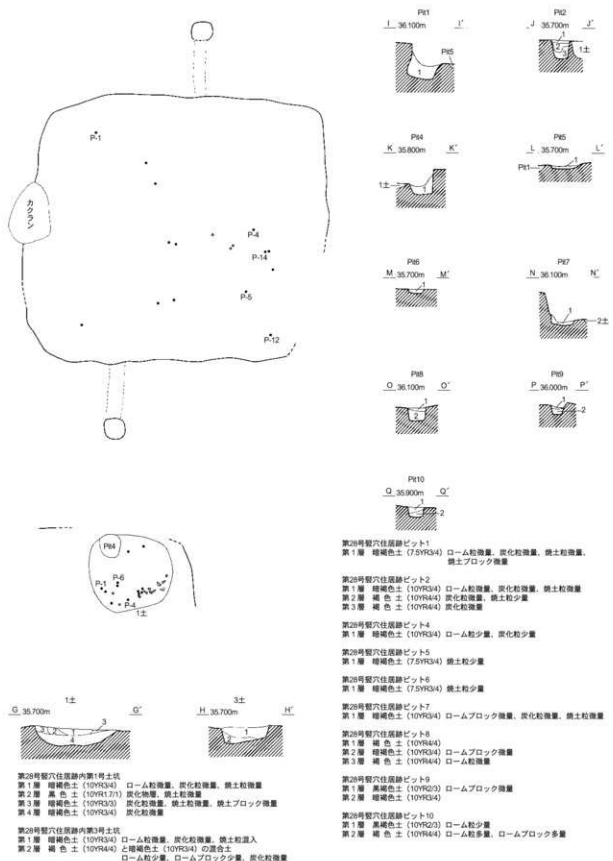


第36図 第27号竪穴住居跡

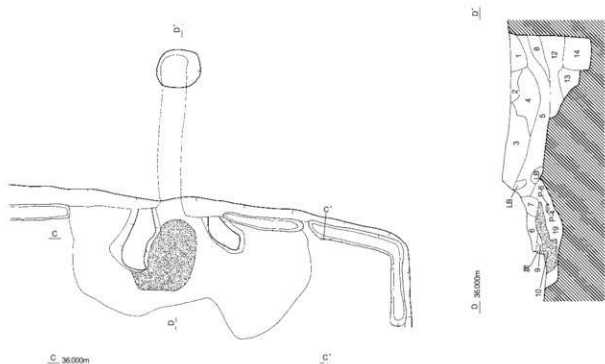
第28号竪穴住居跡



第37図 第28号竪穴住居跡 (1)



第38図 第28号竪穴住居跡 (2)



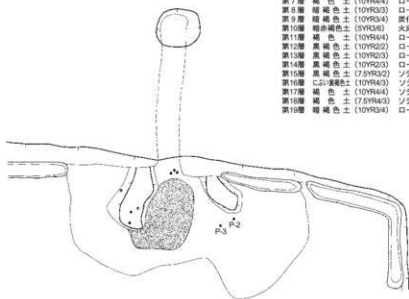
C. 36,000m

D. 36,000m

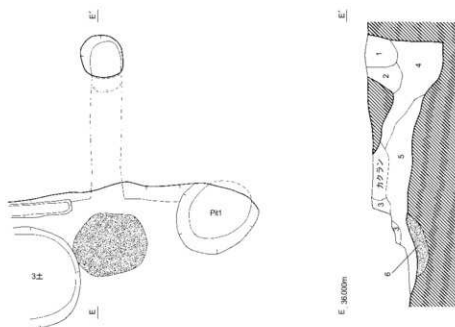


第28号竪穴住居跡カマドA

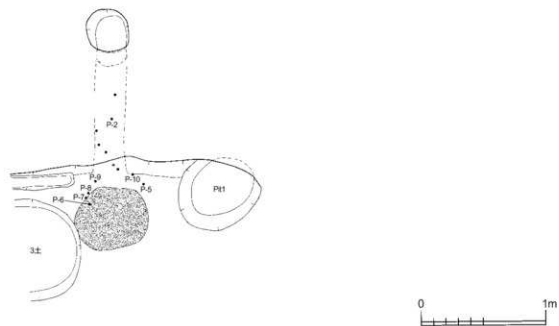
- | | | |
|------|------------------|-----------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 (10YR3/4) | ローム粒微量 |
| 第2層 | 黒色土 (10YR1.7/1) | ローム粒微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム粒少量 |
| 第4層 | 暗褐色土 (10YR3/3) | ローム粒少量、焼土粒微量 |
| 第5層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム粒少量、焼土粒微量 |
| 第6層 | 暗褐色土 (10YR3/4) | ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量 |
| 第7層 | 褐色土 (10YR4/4) | ローム、焼土粒少量、灰井部陥落土 |
| 第8層 | 暗褐色土 (10YR3/3) | ローム粒微量、焼土粒微量 |
| 第9層 | 暗褐色土 (10YR3/4) | 炭化物多量、焼土粒中量、焼土ブロック中量 |
| 第10層 | 暗赤褐色土 (5YR3/6) | 灰床面 |
| 第11層 | 褐色土 (10YR4/4) | ローム |
| 第12層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム粒微量 |
| 第13層 | 黒褐色土 (10YR2/3) | ローム粒少量、ロームブロック微量 |
| 第14層 | 黒褐色土 (10YR2/3) | ローム粒少量、ロームブロック微量 |
| 第15層 | 黒褐色土 (7.5YR3/3) | ソデ、炭化粒微量、焼土粒少量、焼土ブロック少量 |
| 第16層 | Cに浸透色土 (10YR4/3) | ソデ、ロームブロック微量、焼土粒少量、焼土ブロック少量 |
| 第17層 | 褐色土 (10YR4/4) | ソデ、ロームブロック微量、炭化粒微量 |
| 第18層 | 褐色土 (7.5YR4/3) | ソデ、焼土粒少量 |
| 第19層 | 暗褐色土 (10YR3/4) | ローム粒少量、焼土粒微量 |



第39図 第28号竪穴住居跡 (3)

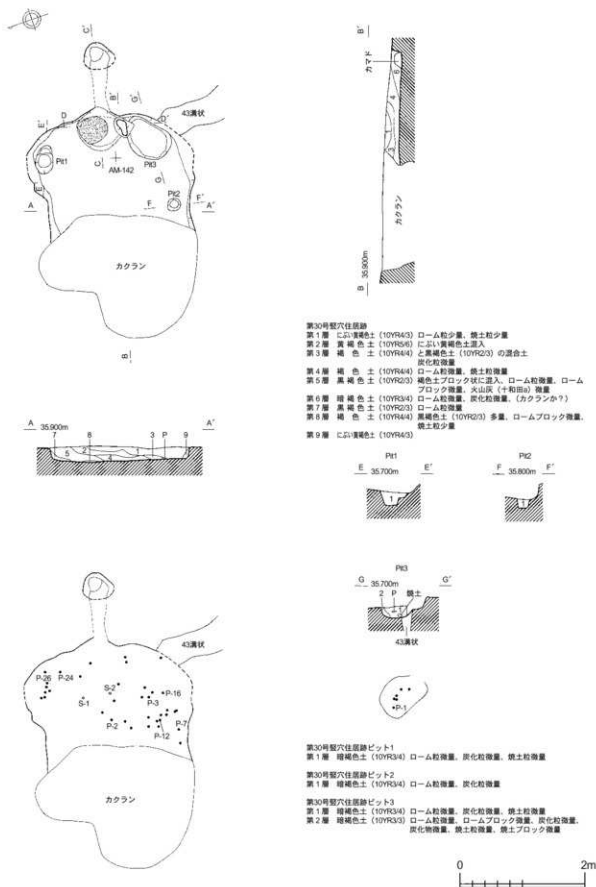


- 第28号竪穴住居跡カマドB
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
 - 第5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量、焼土ブロック少量
 - 第6層 赤褐色土 (5YR4/8) 火床層、炭化粒微量

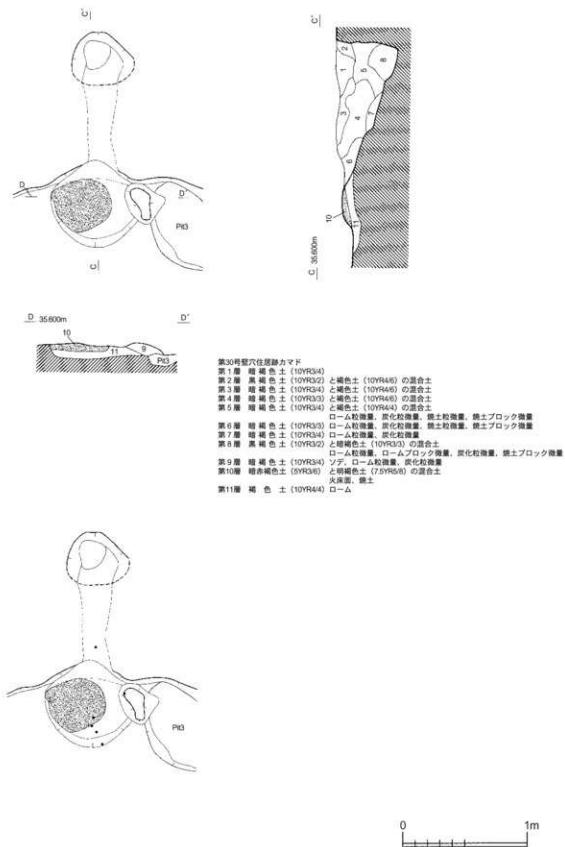


第40図 第28号竪穴住居跡 (4)

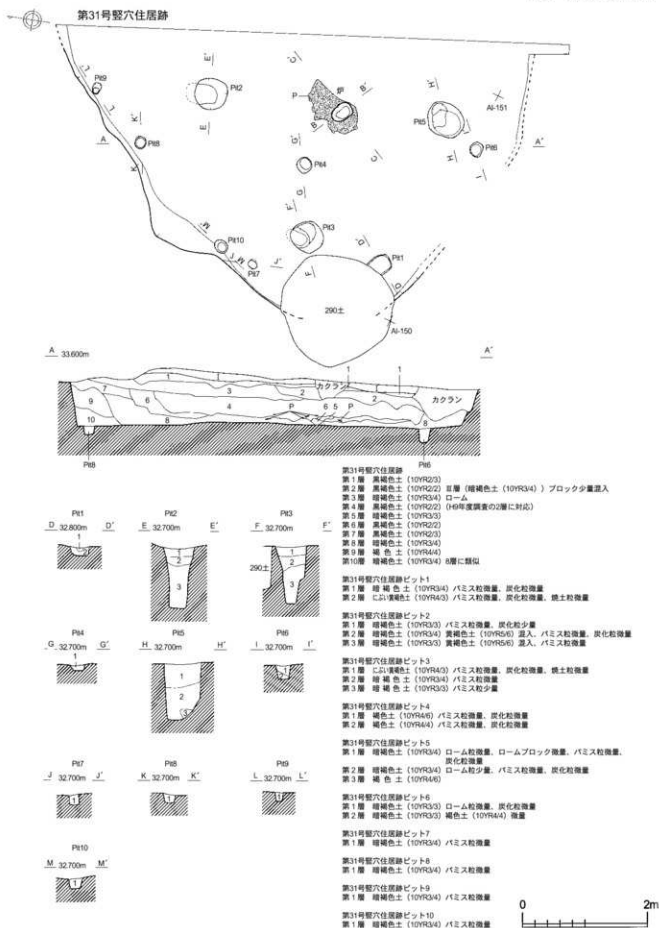
第30号竪穴住居跡



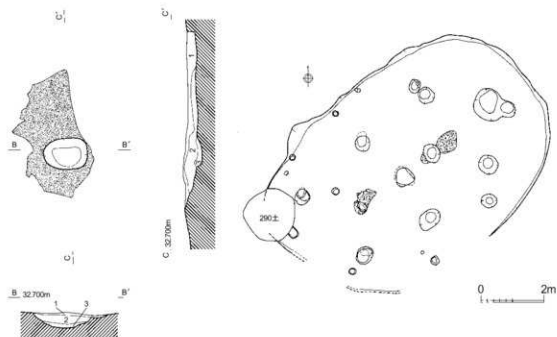
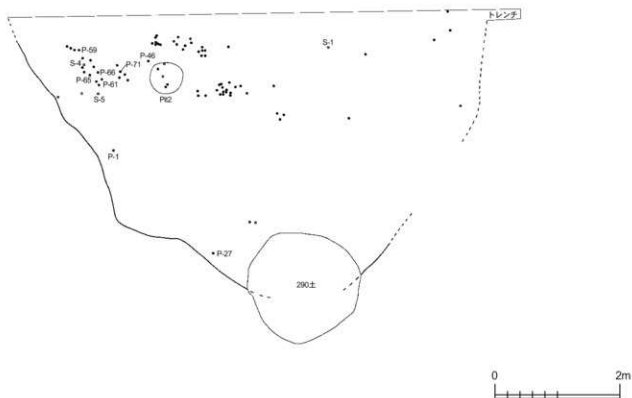
第41図 第30号竪穴住居跡(1)



第42図 第30号竪穴住居跡 (2)



第43図 第31号竪穴住居跡 (1)

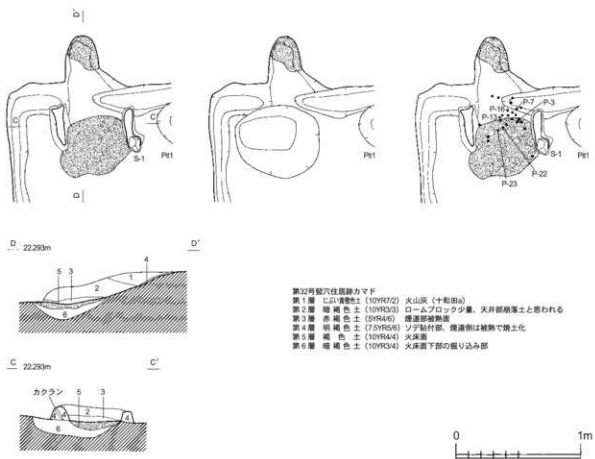
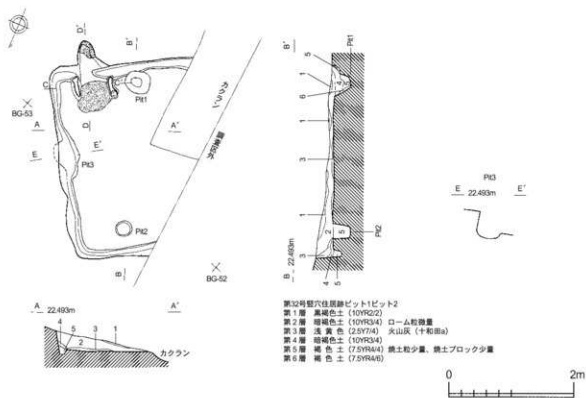


第31号竪穴住居跡
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ハミス粒微量、炭化粒少量、焼土粒少量
 第2層 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土ブロック中量
 第3層 赤褐色土 (2.5YR4/8)



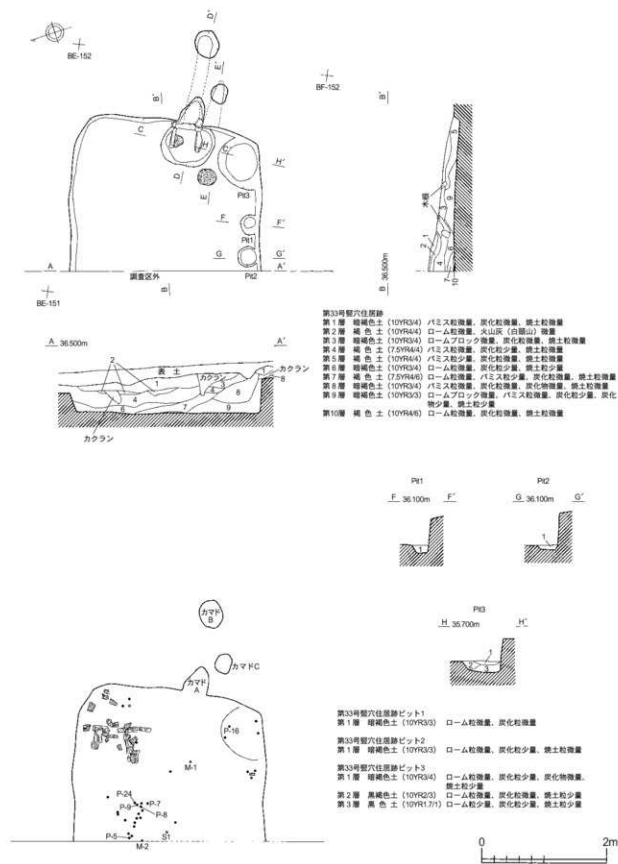
第44図 第31号竪穴住居跡 (2)

第32号竪穴住居跡

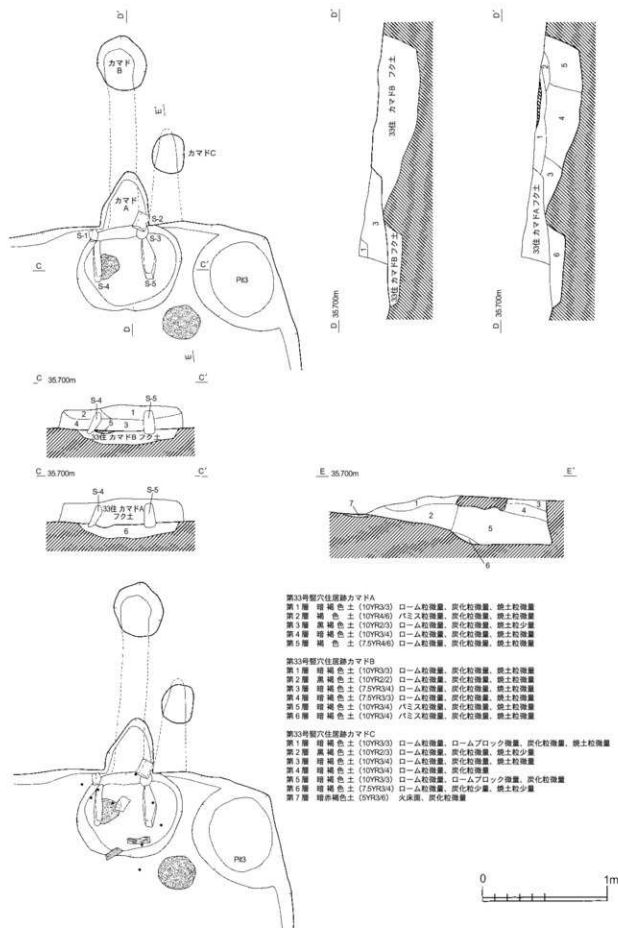


第45図 第32号竪穴住居跡

第33号竪穴住居跡



第46図 第33号竪穴住居跡 (1)



第33号竪穴住居跡カマドA

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) /E2ス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第5層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量

第33号竪穴住居跡カマドB

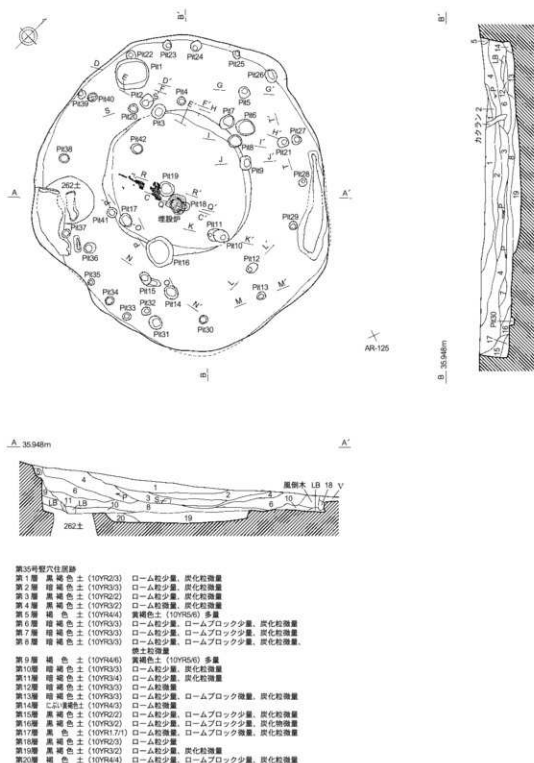
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第4層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) /E2ス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) /E2ス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量

第33号竪穴住居跡カマドC

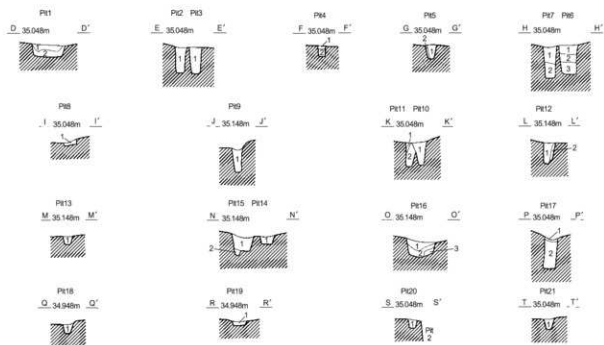
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
- 第6層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量、炭化粒少量、焼土粒少量
- 第7層 暗赤褐色土 (5YR3/6) 灰床裏、炭化粒微量

第47図 第33号竪穴住居跡(2)

第35号竪穴住居跡



第48図 第35号竪穴住居跡(1)



第35号竪穴住居跡ビット1

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム、腐りすぎ?

第35号竪穴住居跡ビット2

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット3

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット4

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土

第35号竪穴住居跡ビット5

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット6

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量

第35号竪穴住居跡ビット7

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 暗褐色土微量

第35号竪穴住居跡ビット8

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量

第35号竪穴住居跡ビット9

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量

第35号竪穴住居跡ビット10

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量

第35号竪穴住居跡ビット11

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 暗褐色土微量

第35号竪穴住居跡ビット12

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量

第35号竪穴住居跡ビット13

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量

第35号竪穴住居跡ビット14

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量

第35号竪穴住居跡ビット15

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット16

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット17

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット18

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット19

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット20

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット21

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット22

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット23

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット24

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット25

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット26

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット27

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット28

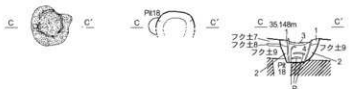
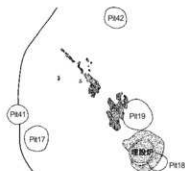
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット29

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

第35号竪穴住居跡ビット30

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

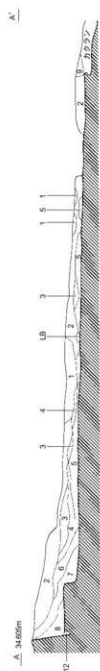
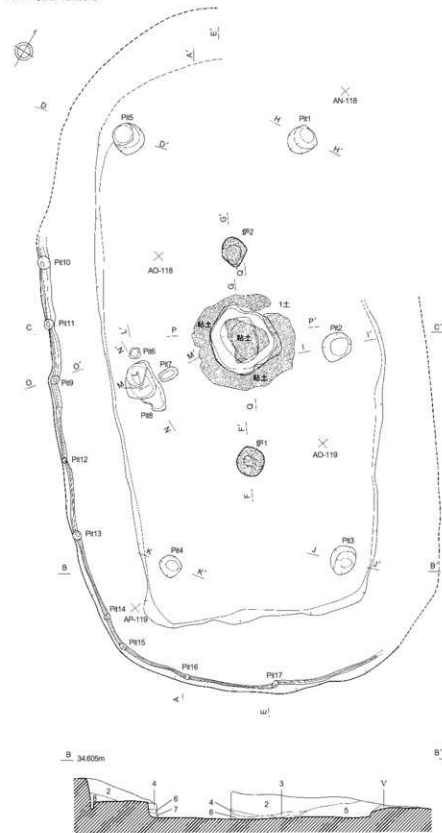


第35号竪穴住居跡内埋設土器

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化粒微量、腐り方
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、腐り方
第3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量

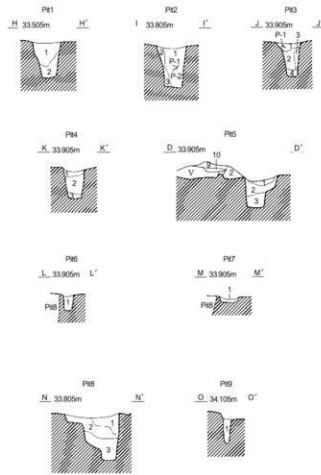
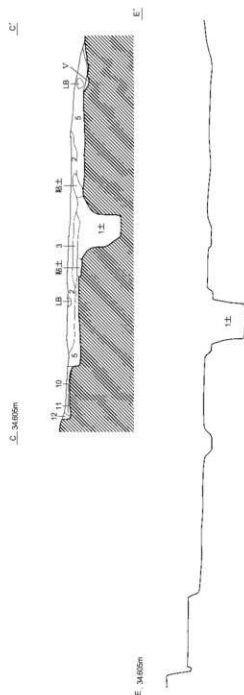
第49図 第35号竪穴住居跡 (2)

第36号竪穴住居跡



第36号竪穴住居跡

- 第1層 褐色土 (10YR4/3) 少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第2層 黄褐色土 (10YR2/3) 少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土 (10YR3/3) 少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第4層 黄褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量, パミスブロック少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第5層 黄褐色土 (10YR3/4) パミス粒少量, パミスブロック少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第6層 黄褐色土 (10YR2/3) 少量, 暗褐色土 (10YR3/4) の底面土
 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) 少量, パミス粒少量, パミスブロック少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量, ローム粒少量
 第8層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, パミスブロック少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第9層 黄褐色土 (10YR3/3) ローム, 暗褐色土 (10YR3/4) 少量, パミス粒少量
 第10層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第11層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第12層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量, パミス粒少量, 炭化粒少量



第36号竪穴住居跡ピット1

- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量, 炭化粒少量
 第2層 黄褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量, 炭化粒少量

第36号竪穴住居跡ピット2

- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第2層 黄褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量, ローム粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第3層 黄褐色土 (10YR3/3) パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量

第36号竪穴住居跡ピット3

- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 暗褐色土 (10YR3/3) 少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第4層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒少量, 炭化粒少量

第36号竪穴住居跡ピット4

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量
 第2層 黄褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量, パミスブロック少量, 炭化粒少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒少量, 炭化粒少量

第36号竪穴住居跡ピット5

- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第2層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第3層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量

第36号竪穴住居跡ピット6

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量

第36号竪穴住居跡ピット7

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量

第36号竪穴住居跡ピット8

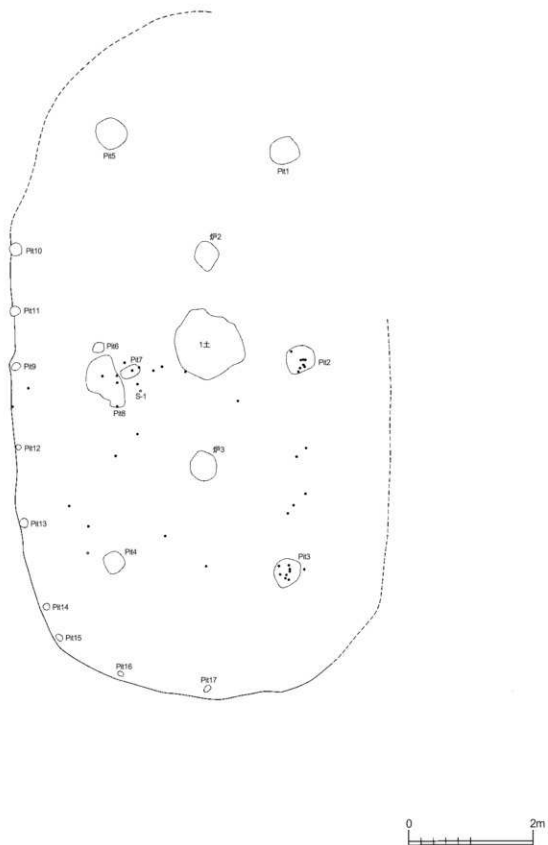
- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒少量

第36号竪穴住居跡ピット9

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, パミス粒少量, 炭化粒少量



第50図 第36号竪穴住居跡 (1)

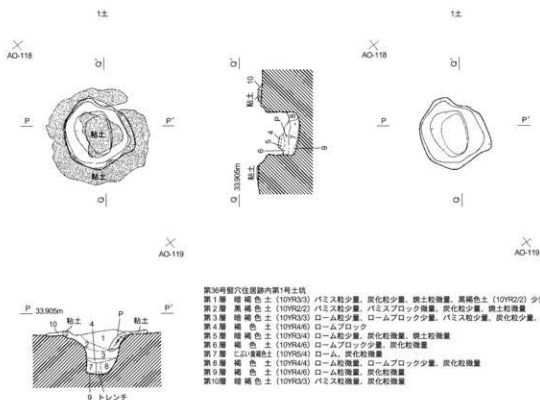


第51図 第36号竪穴住居跡(2)



第36号竪穴住居跡P1
 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、ロームブロック微量、粘土粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
 第3層 暗赤褐色土 (5YR3/6) と赤褐色土 (7.5YR4/8) の混合土
 炭化粒微量、粘土ブロック少量

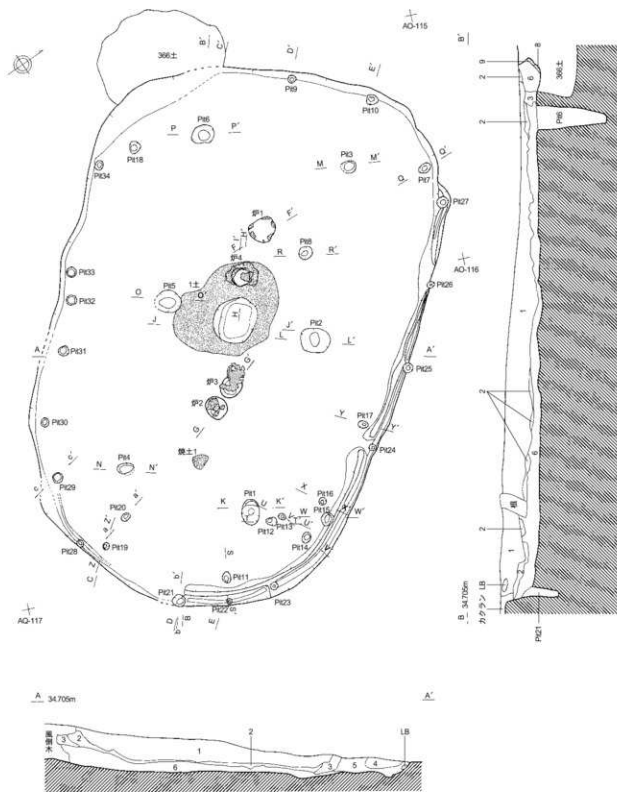
第36号竪穴住居跡 P2
 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) パミス粒微量、炭化粒微量、粘土粒少量



第36号竪穴住居跡内第1号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒少量、炭化粒少量、粘土粒微量、黒褐色土 (10YR2/2) 少量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス粒少量、パミスブロック微量、炭化粒少量、粘土粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、ロームブロック少量、パミス粒少量、炭化粒少量、粘土粒微量
 第4層 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック
 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量、粘土粒微量
 第6層 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック少量、炭化粒微量
 第7層 紅赤褐色土 (10YR5/4) ローム、炭化粒微量
 第8層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化粒微量
 第9層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量、炭化粒微量
 第10層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、炭化粒微量

第52図 第36号竪穴住居跡 (3)

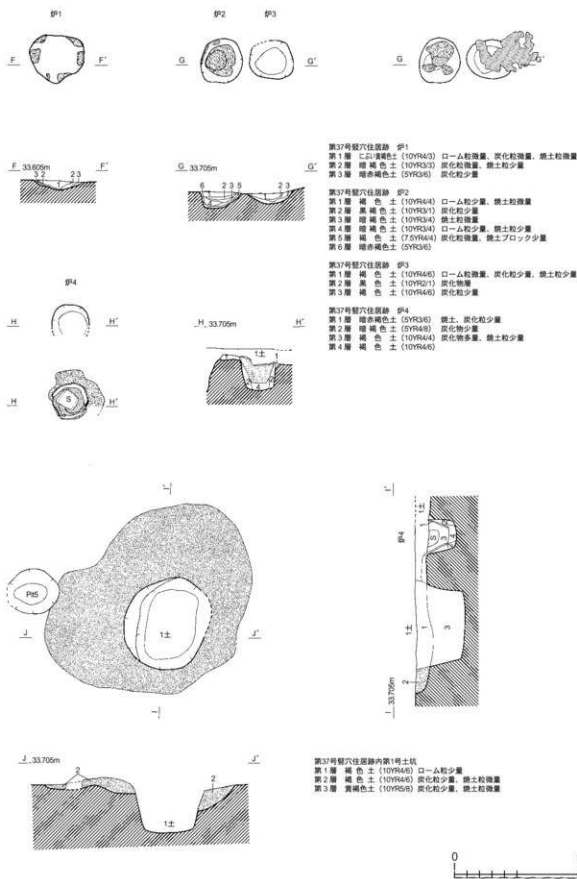
第37号竖穴住居跡



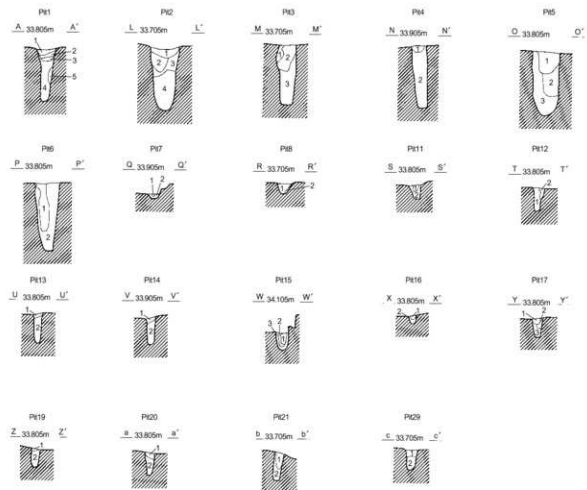
- 第37号竖穴住居跡
- 第1層 黄 色 土 (10YR1.7/1) □—△粒雜
 - 第2層 □砂黄褐色土 (10YR4/3) 黄色土雜, □—△粒雜
 - 第3層 暗 褐色 土 (10YR3/4) 赤褐色土 (10YR4/6) の混合土
黄褐色土雜, □—△粒雜
 - 第4層 □砂黄褐色土 (10YR3/4) □—△粒雜, 炭化粒雜
 - 第5層 暗 褐色 土 (10YR3/4)
 - 第6層 □砂黄褐色土 (10YR3/4)
 - 第7層 □砂黄褐色土 (10YR3/4)
 - 第8層 □砂黄褐色土 (10YR4/3) □—△粒少量



第53图 第37号竖穴住居跡 (1)



第54図 第37号竪穴住居跡(2)



第37号竪穴住居跡ピット1

- 第1層 黄褐色土 (10YR5/6) バミス粒少量、炭化粒少量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) 炭化粒少量、焼土粒微量
- 第3層 黄褐色土 (10YR5/6)
- 第4層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量
- 第5層 黄褐色土 (10YR5/6)

第37号竪穴住居跡ピット2

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、小礫少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量、焼土ブロック少量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量

第37号竪穴住居跡ピット3

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
- 第2層 黄褐色土 (10YR3/1) ローム粒少量
- 第3層 褐色土 (10YR4/6)

第37号竪穴住居跡ピット4

- 第1層 黄褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化粒微量

第37号竪穴住居跡ピット5

- 第1層 黄褐色土 (10YR3/1) ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒少量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、バミス粒微量、炭化粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量

第37号竪穴住居跡ピット6

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒少量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量

第37号竪穴住居跡ピット7

- 第1層 黄褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量

第37号竪穴住居跡ピット8

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6)

第37号竪穴住居跡ピット11

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量
- 第2層 濃い黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒少量

第37号竪穴住居跡ピット12

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量、バミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒少量、炭化粒微量

第37号竪穴住居跡ピット13

- 第1層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量

第37号竪穴住居跡ピット14

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) 炭化粒微量、焼土粒微量
- 第2層 濃い黄褐色土 (10YR5/4)

第37号竪穴住居跡ピット15

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) バミス粒少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
- 第3層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒少量

第37号竪穴住居跡ピット16

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒少量、焼土粒微量
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒微量

第37号竪穴住居跡ピット17

- 第1層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) バミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR4/6)
- 第3層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒微量

第37号竪穴住居跡ピット19

- 第1層 褐色土 (10YR4/6)
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/6)

第37号竪穴住居跡ピット20

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/6)

第37号竪穴住居跡ピット21

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/6)

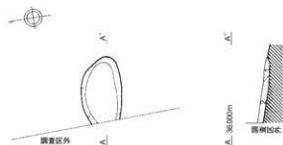
第37号竪穴住居跡ピット29

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) バミス粒少量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) バミス粒微量



第55図 第37号竪穴住居跡 (3)

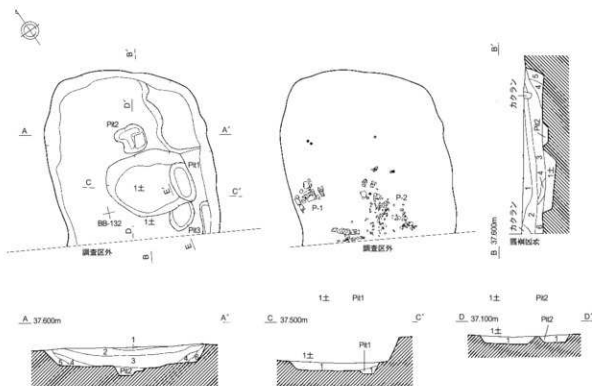
第38号竪穴住居跡カマド



第38号竪穴住居跡カマド
 第1層 褐色土 (75YR4/6) 焼土粒微量、炭化粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量



第39号竪穴住居跡



第39号竪穴住居跡

- 第1層 褐色土 (10YR2/1) 上面に火山灰 (白嶺山) ブロック状に混入
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、火山灰 (十和田) 帯状に混入
 第4層 暗褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量
 第5層 褐色土 (10YR2/1) ローム粒微量
 第6層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量

第39号竪穴住居跡内第1号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量

第39号竪穴住居跡ピット1

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第39号竪穴住居跡ピット2

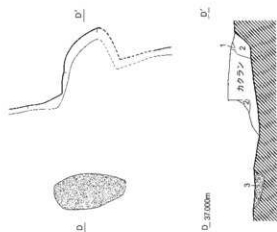
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化粒微量

第39号竪穴住居跡ピット3

- 第1層 褐色土 (10YR4/6) の混合土
 ローム粒微量、ロームブロック微量



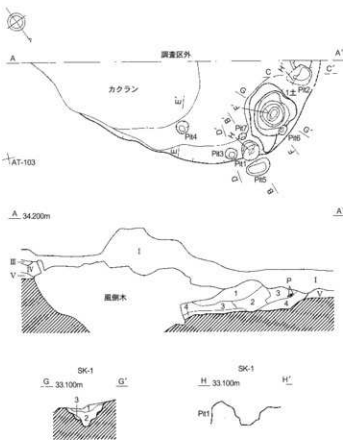
第56図 第38号竪穴住居跡・第39号竪穴住居跡



第40号竪穴住居跡カマド

- 第1層 暗褐色土 (7.0YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第3層 赤褐色土 (5YR4/8) 火床層、炭化粒微量

第41号竪穴住居跡

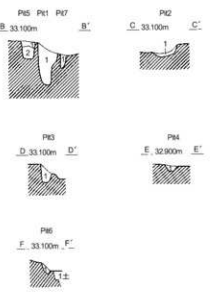


第41号竪穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土
ローム粒少量
- 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) と褐色土 (10YR4/4) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒少量、パミス粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒少量、土器含有
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
ローム粒少量、ロームブロック微量、パミス粒微量、炭化粒微量、炭化物微量

第41号竪穴住居跡内第1号土坑

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、パミス粒少量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、ロームブロック微量、パミス粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量



第41号竪穴住居跡ビット1

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、パミス粒微量

第41号竪穴住居跡ビット2

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、パミス粒微量、炭化粒微量

第41号竪穴住居跡ビット3

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量

第41号竪穴住居跡ビット4

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、パミス粒微量、炭化粒微量

第41号竪穴住居跡ビット5

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量

第41号竪穴住居跡ビット6

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量

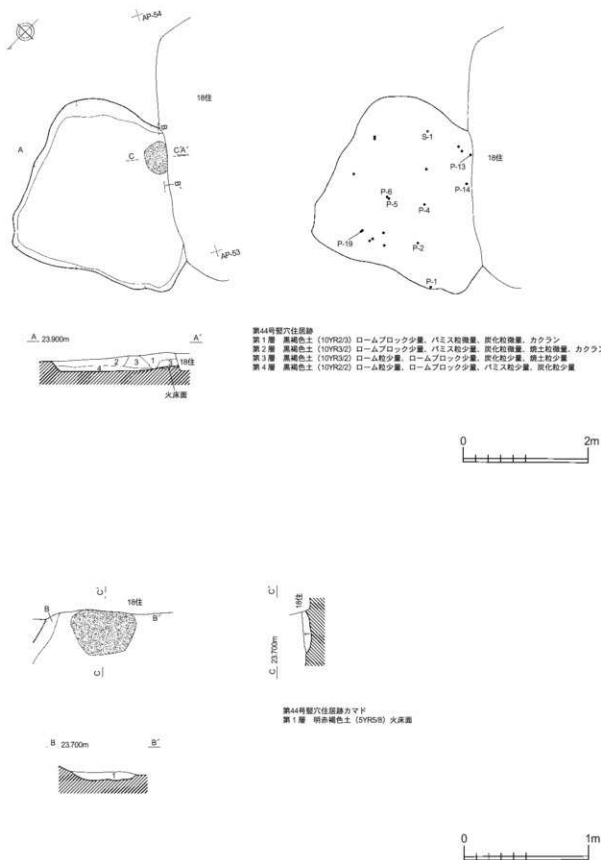
第41号竪穴住居跡ビット7

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量



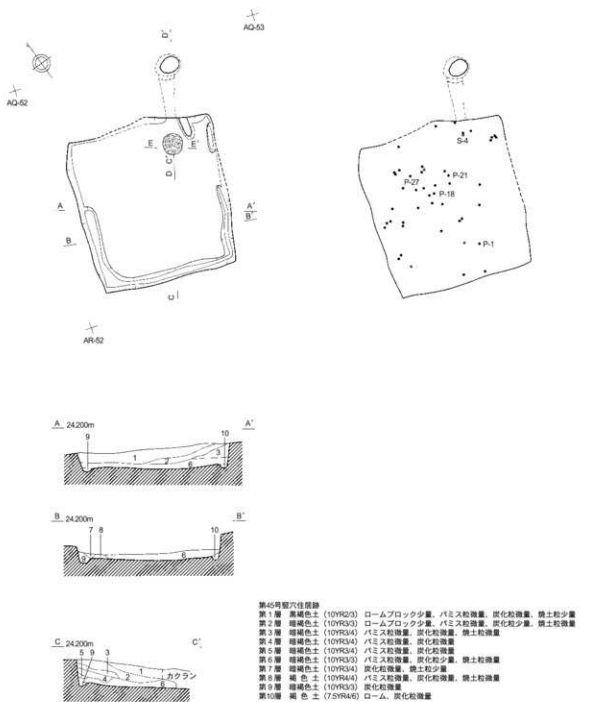
第58図 第40号竪穴住居跡 (2)・第41号竪穴住居跡

第44号竪穴住居跡

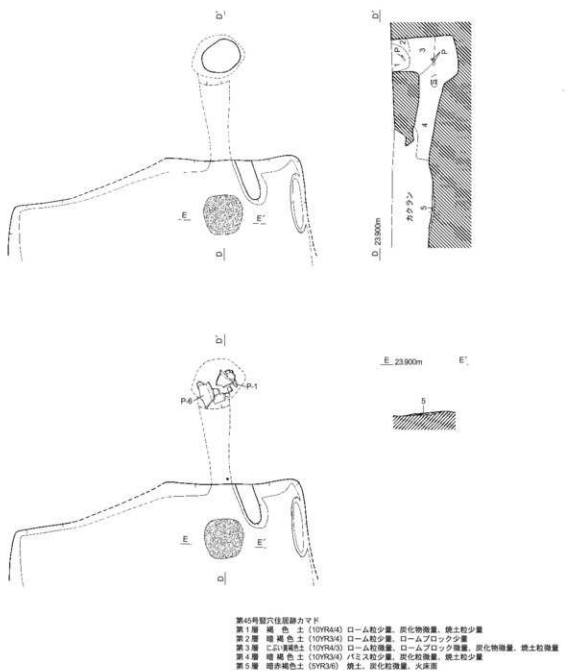


第59図 第44号竪穴住居跡

第45号竪穴住居跡

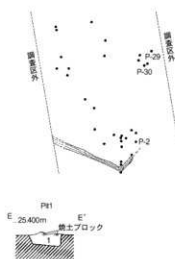
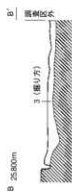
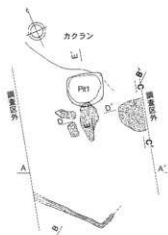


第60図 第45号竪穴住居跡(1)



第61図 第45号竪穴住居跡(2)

第46号竪穴住居跡



第46号竪穴住居跡

- 第1層 黄 色 土 (10YR2/1) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒少量
- 第3層 黄 色 土 (10YR2/1) と褐色土 (10YR4/4) の混合土

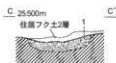
第46号竪穴住居跡ピット1

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量、焼土粒少量



第46号竪穴住居跡カマド

- 第1層 赤褐色土 (5YR4/6) 火床面



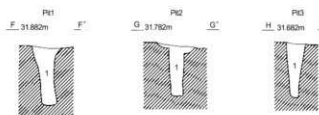
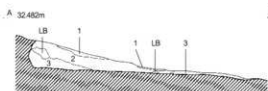
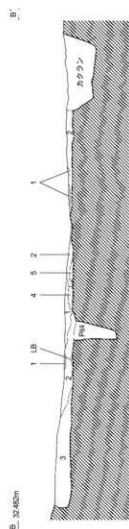
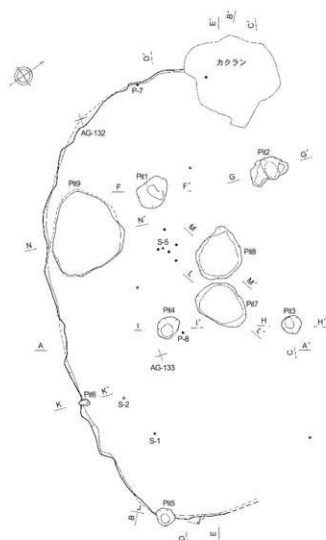
第46号竪穴住居跡焼土

- 第1層 赤褐色土 (5YR4/6) かたくしまる

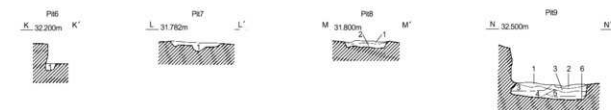
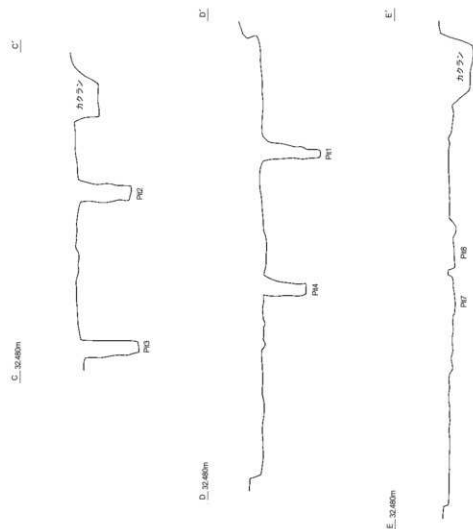


第62図 第46号竪穴住居跡

第47号竪穴住居跡



- 第47号竪穴住居跡
 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量
 第2層 黄褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 第3層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量
 第4層 黄褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
 第5層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量



- 第47号竪穴住居跡ピット1
 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量

- 第47号竪穴住居跡ピット2
 第1層 黒色土 (10YR2/1) と黄褐色土 (10YR2/2) の混合土
 ローム粒微量、炭化粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量

- 第47号竪穴住居跡ピット3
 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量

- 第47号竪穴住居跡ピット4
 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量

- 第47号竪穴住居跡ピット5
 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ロームブロック少量

- 第47号竪穴住居跡ピット6
 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量

- 第47号竪穴住居跡ピット7
 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量

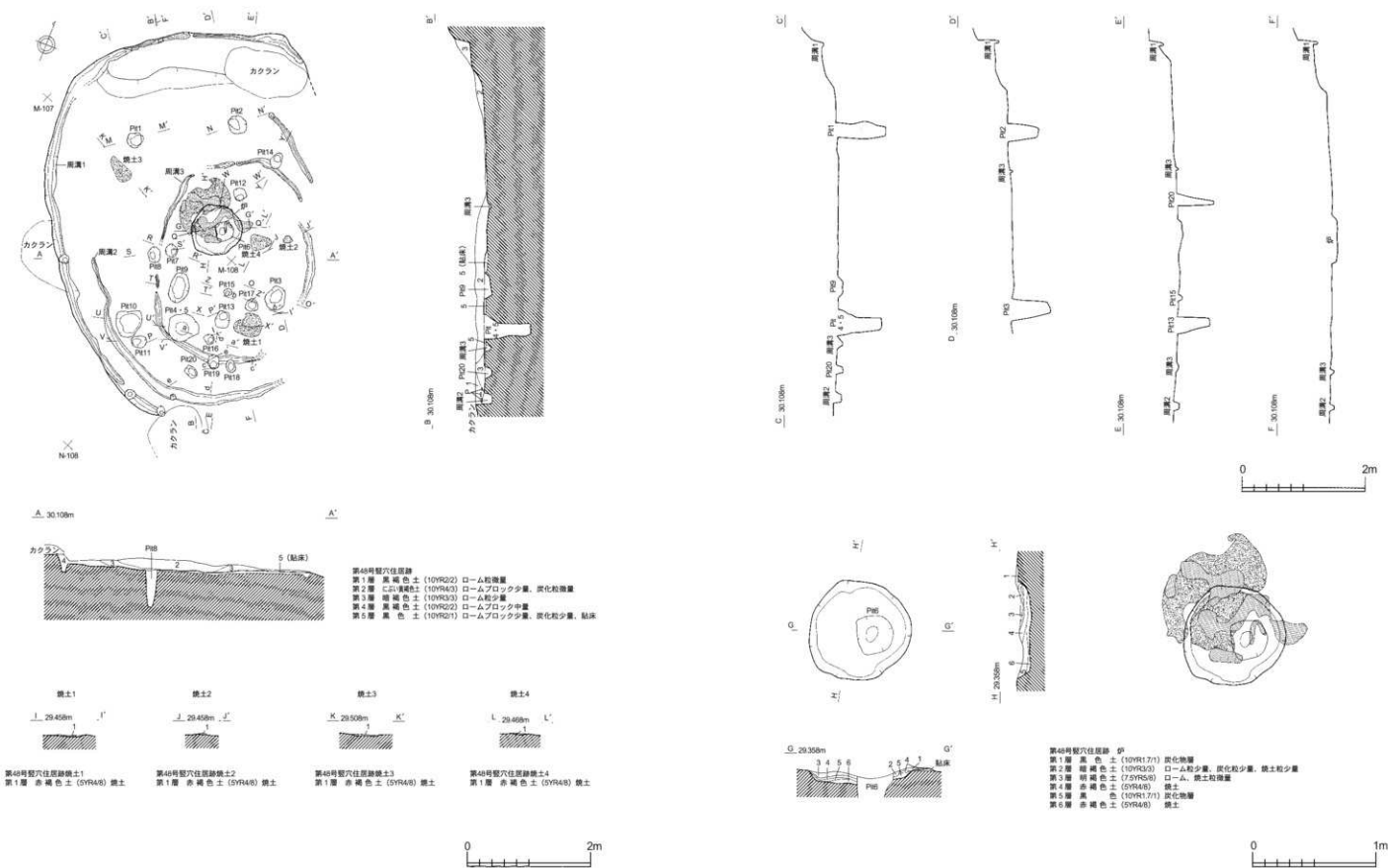
- 第47号竪穴住居跡ピット8
 第1層 黄褐色土 (10YR2/6) ローム、粘土
 第2層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量、炭化粒微量

- 第47号竪穴住居跡ピット9
 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化粒微量、粘土
 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム、粘土
 第3層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
 第5層 黄褐色土 (10YR2/3) ロームブロック少量、炭化粒微量
 第6層 褐色土 (7.5YR4/4)

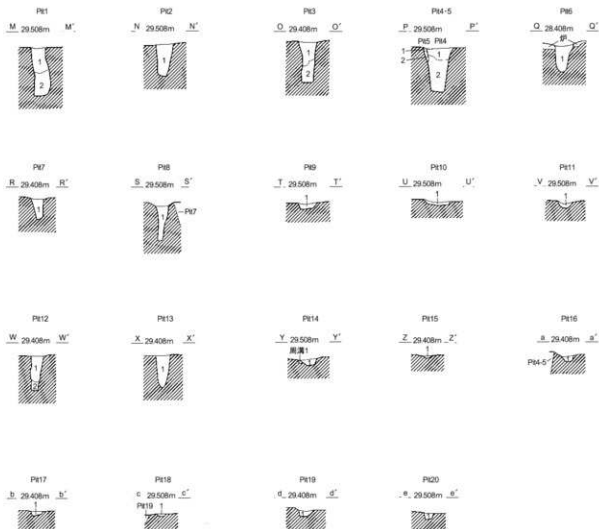


第63図 第47号竪穴住居跡

第48号竪穴住居跡



第64図 第48号竪穴住居跡 (1)



第48号竪穴住居跡ビット1
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック少量

第48号竪穴住居跡ビット2
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量

第48号竪穴住居跡ビット3
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量

第48号竪穴住居跡ビット4
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量

第48号竪穴住居跡ビット5
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量
第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量

第48号竪穴住居跡ビット6
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, 炭化粒少量, 焼土ブロック少量

第48号竪穴住居跡ビット7
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット8
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット9
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量

第48号竪穴住居跡ビット10
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量

第48号竪穴住居跡ビット11
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット12
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック少量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒少量

第48号竪穴住居跡ビット13
第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット14
第1層 暗褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット15
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット16
第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット17
第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット18
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量

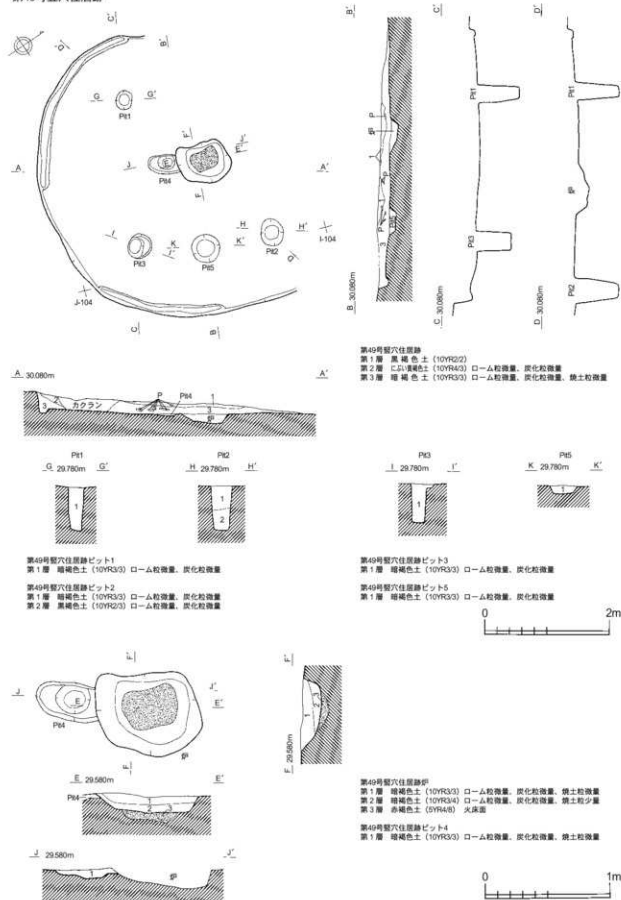
第48号竪穴住居跡ビット19
第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量, 炭化粒微量

第48号竪穴住居跡ビット20
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量



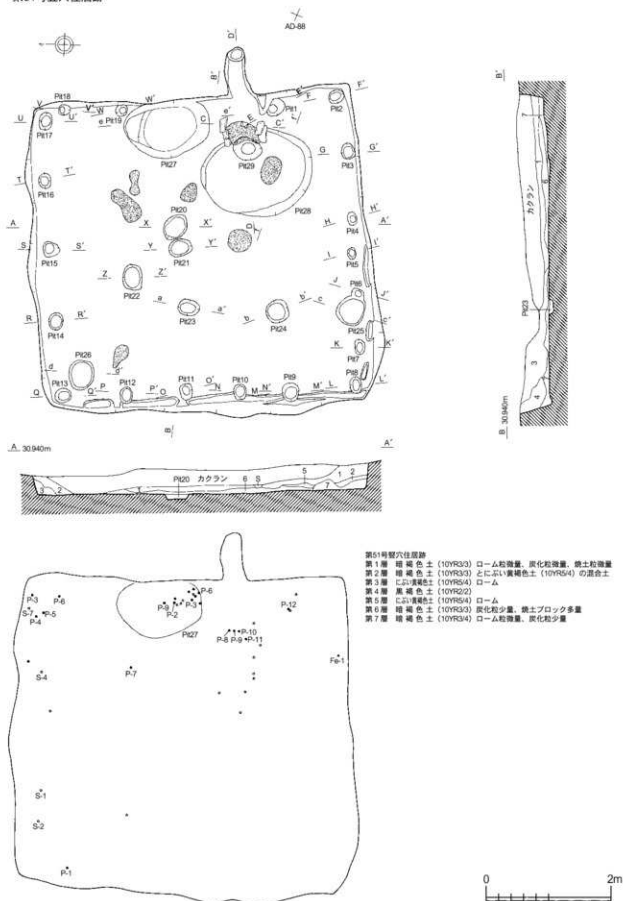
第65図 第48号竪穴住居跡(2)

第49号竪穴住居跡

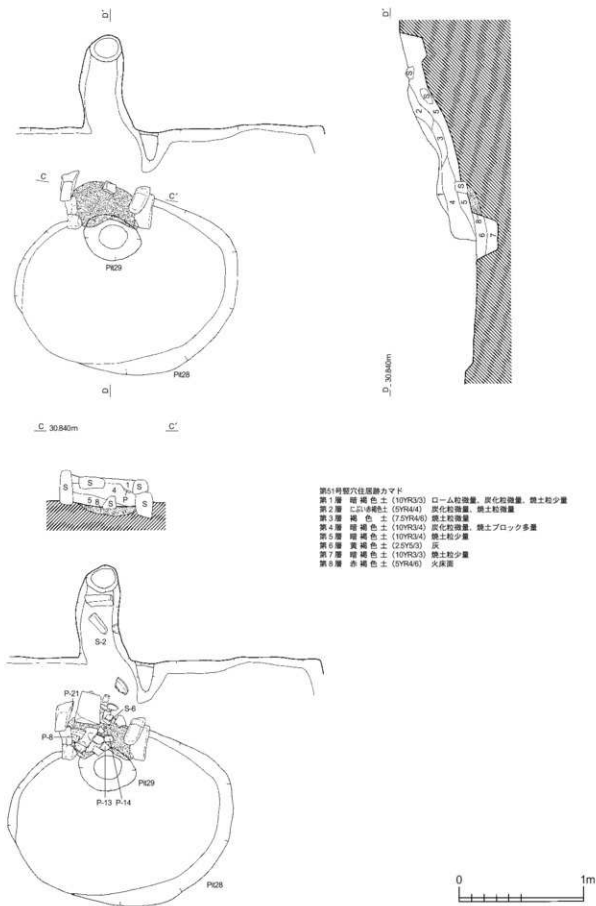


第66図 第49号竪穴住居跡

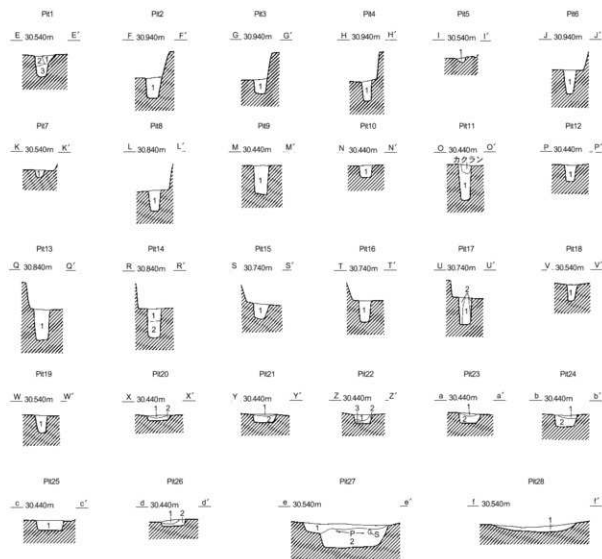
第51号竪穴住居跡



第67図 第51号竪穴住居跡(1)



第68図 第51号竪穴住居跡(2)



第51号竪穴住居跡ビット1
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化粒少量、焼土粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット2
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット3
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット4
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット5
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット6
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット7
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット8
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット9
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット10
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット11
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット12
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット13
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量、
焼土粒微量

第51号竪穴住居跡ビット14
第1層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット15
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒少量

第51号竪穴住居跡ビット16
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒少量

第51号竪穴住居跡ビット17
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、
焼土粒微量

第51号竪穴住居跡ビット18
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット19
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、焼土粒微量

第51号竪穴住居跡ビット20
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/5) 炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット21
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、
焼土粒微量

第2層 褐色土 (10YR4/5) 炭化粒微量、焼土粒微量

第51号竪穴住居跡ビット22
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒少量、焼土粒微量
第2層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化粒少量、焼土粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット23
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/6) 炭化粒微量

第51号竪穴住居跡ビット24
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック微量、炭化粒少量
第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量

第51号竪穴住居跡ビット25
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒少量

第51号竪穴住居跡ビット26
第1層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒少量、焼土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量、焼土粒少量

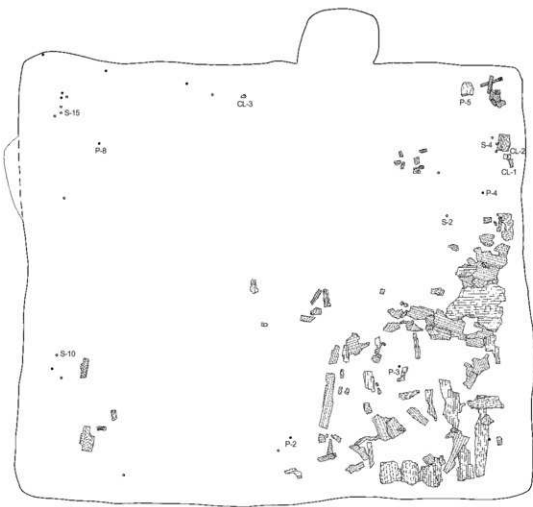
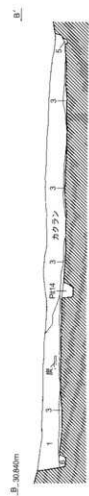
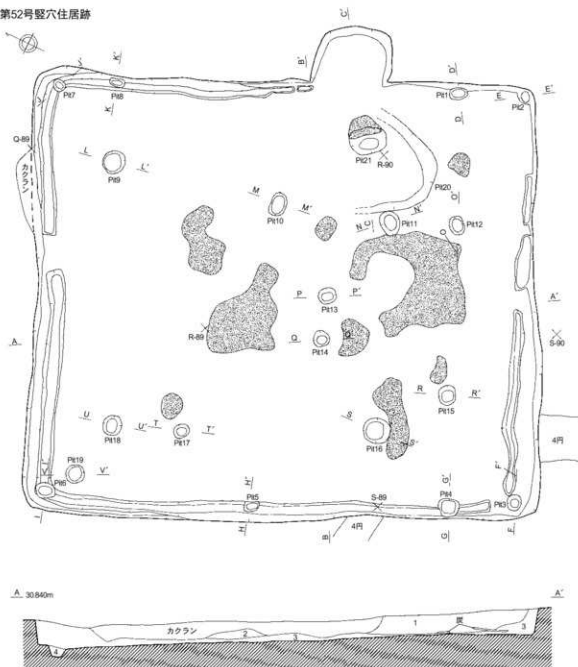
第51号竪穴住居跡ビット27
第1層 炭化粒少量、焼土ブロック多量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量、焼土ブロック少量

第51号竪穴住居跡ビット28
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒少量、焼土ブロック多量



第69図 第51号竪穴住居跡 (3)

第52号竪穴住居跡

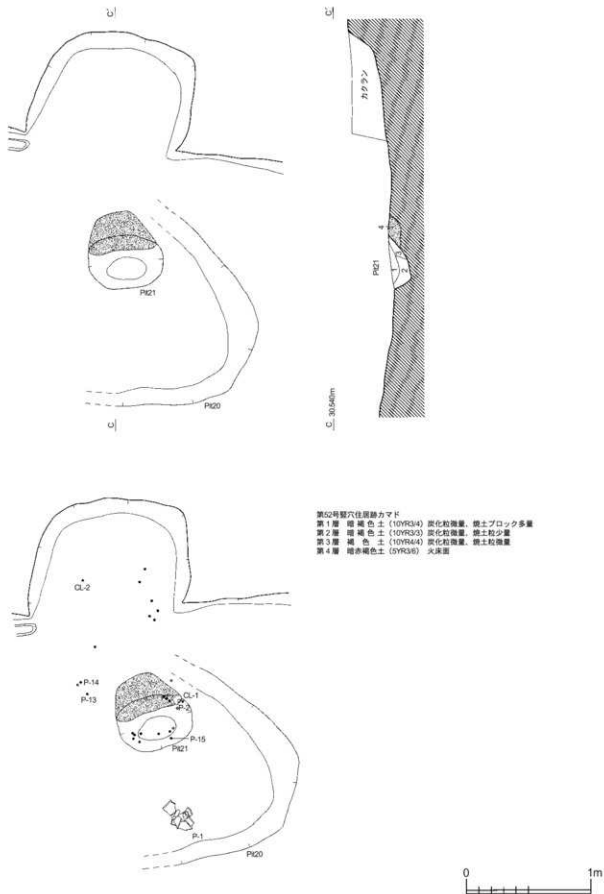


第52号竪穴住居跡

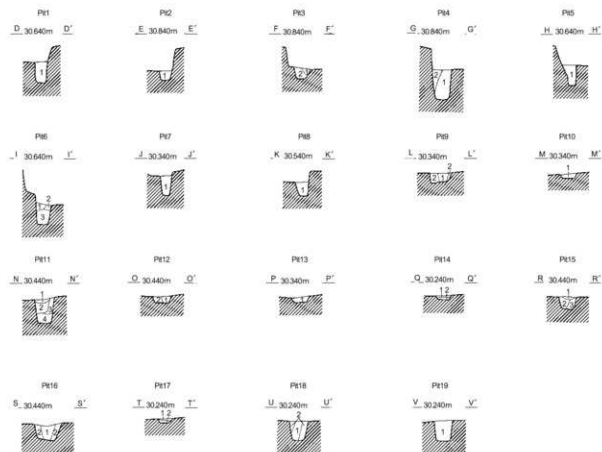
- 第1層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物少量、焼土粒少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物少量、焼土ブロック散見
- 第3層 黄褐色土 (10YR2/3) 少量褐色土 (10YR3/4) の混入土
ロームブロック少量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物散見
- 第5層 褐色土 (10YR4/8) 炭化物散見
- 第6層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化物散見

第70図 第52号竪穴住居跡 (1)





第71図 第52号竪穴住居跡(2)



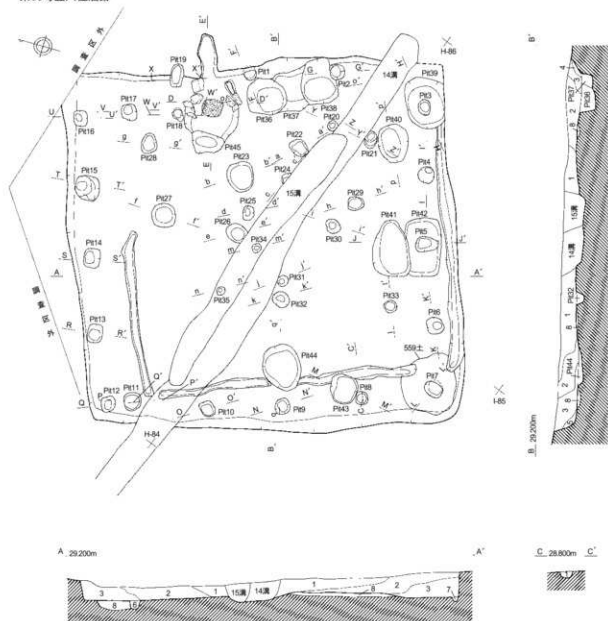
- 第52号竪穴住居跡ビット1
第1層 黒褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット2
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット3
第1層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒少量
- 第52号竪穴住居跡ビット4
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット5
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒少量
- 第52号竪穴住居跡ビット6
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
第3層 褐色土 (10YR4/6)
- 第52号竪穴住居跡ビット7
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒少量、焼土粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット8
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒少量
- 第52号竪穴住居跡ビット9
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒少量、焼土ブロック中量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット10
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土ブロック中量

- 第52号竪穴住居跡ビット11
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土ブロック中量
第2層 褐色土 (10YR4/6)
第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒少量、焼土粒少量
第4層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット12
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量、焼土粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット13
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化粒少量、焼土ブロック少量
- 第52号竪穴住居跡ビット14
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット15
第1層 暗褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒少量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット16
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒少量、焼土粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量、焼土粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット17
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット18
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒少量
第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第52号竪穴住居跡ビット19
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量



第72図 第52号竪穴住居跡 (3)

第53号竪穴住居跡



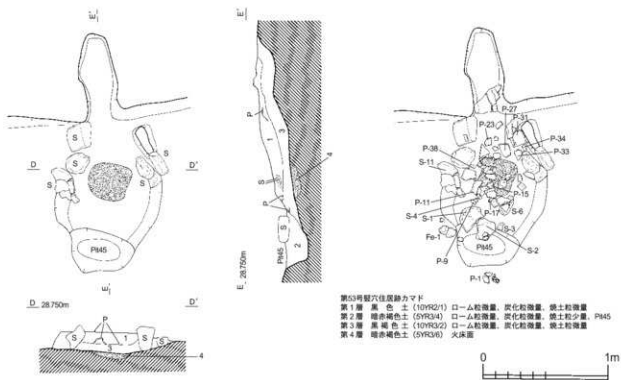
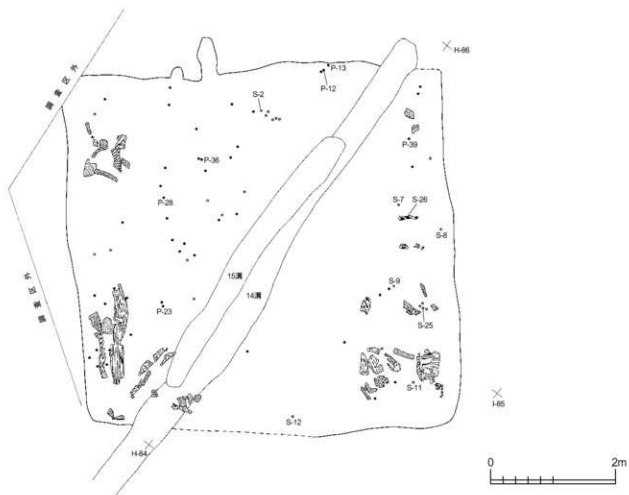
第53号竪穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/6) ローム
- 第5層 褐色土 (10YR4/4) ローム
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量

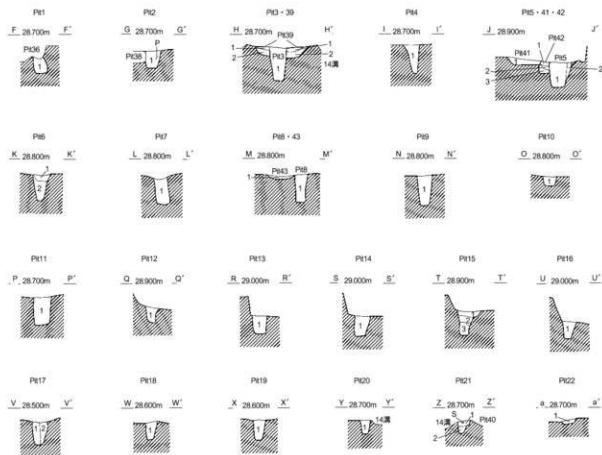
第53号竪穴住居跡内溝

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック少量

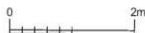
第73図 第53号竪穴住居跡 (1)



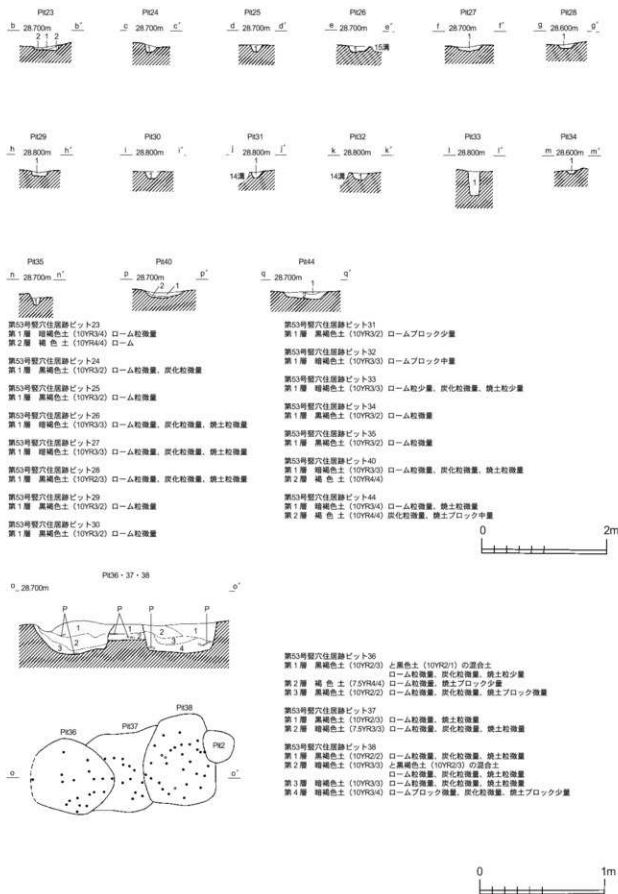
第74図 第53号竪穴住居跡(2)



- | | |
|---|--|
| 第53号竪穴住居跡ビット1
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量, 炭化粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット12
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット2
第1層 暗褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット13
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット3
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット14
第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット39
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒少量
第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土ブロック少量 | 第53号竪穴住居跡ビット15
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
第3層 褐色土 (10YR4/4) |
| 第53号竪穴住居跡ビット4
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット16
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット5
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, 炭化粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット17
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 粘土凝結土 (10YR4/3) ローム粒少量, 炭化粒少量, 焼土粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット41
第1層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒少量 | 第53号竪穴住居跡ビット18
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 焼土粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット42
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒微量
第2層 褐色土 (7.5YR4/8) 炭化粒微量
第3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量, 炭化粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット19
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット6
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット20
第1層 暗褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量, 炭化粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット7
第1層 暗褐色土 (10YR2/3) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土
ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット21
第1層 暗褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット8
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量 | 第53号竪穴住居跡ビット22
第1層 暗褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量 |
| 第53号竪穴住居跡ビット43
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化物微量, 焼土ブロック微量 | |
| 第53号竪穴住居跡ビット9
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量 | |
| 第53号竪穴住居跡ビット10
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, 炭化粒微量 | |
| 第53号竪穴住居跡ビット11
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量 | |

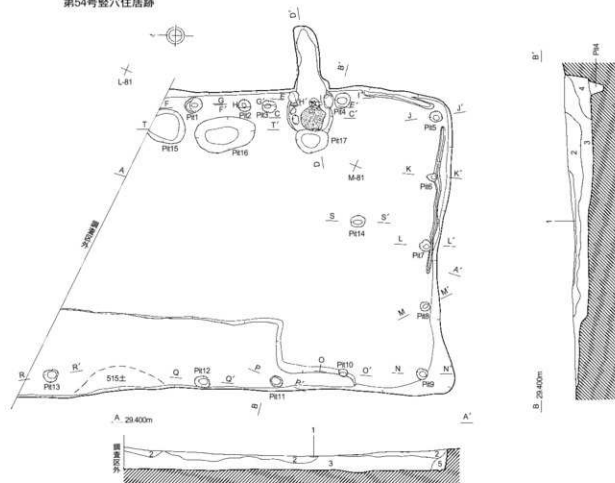


第75図 第53号竪穴住居跡 (3)

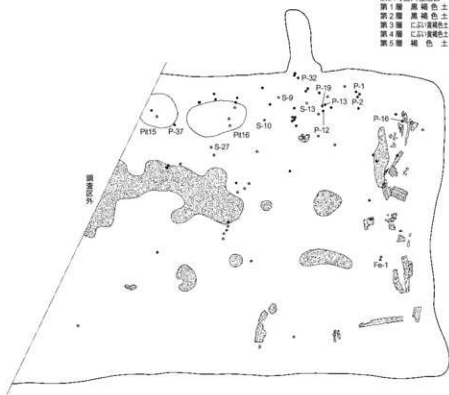


第76図 第53号竪穴住居跡(4)

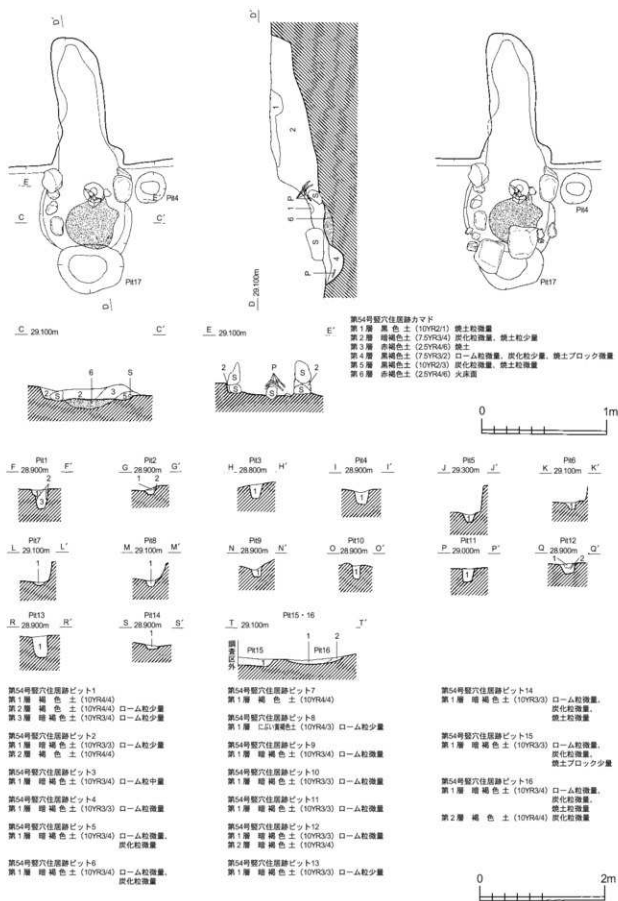
第54号竪穴住居跡



- 第54号竪穴住居跡
- 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) □—△粒少量、鉄土粒微量
 - 第2層 黄褐色土 (10YR3/2) □—△粒少量、炭化粒微量、鉄土粒少量
 - 第3層 白土 (10YR4/3) □—△粒少量、炭化粒微量、鉄土粒中量
 - 第4層 白土 (10YR4/2) □—△粒少量、炭化粒少量、鉄土粒中量
 - 第5層 褐色土 (10YR4/6) □—△

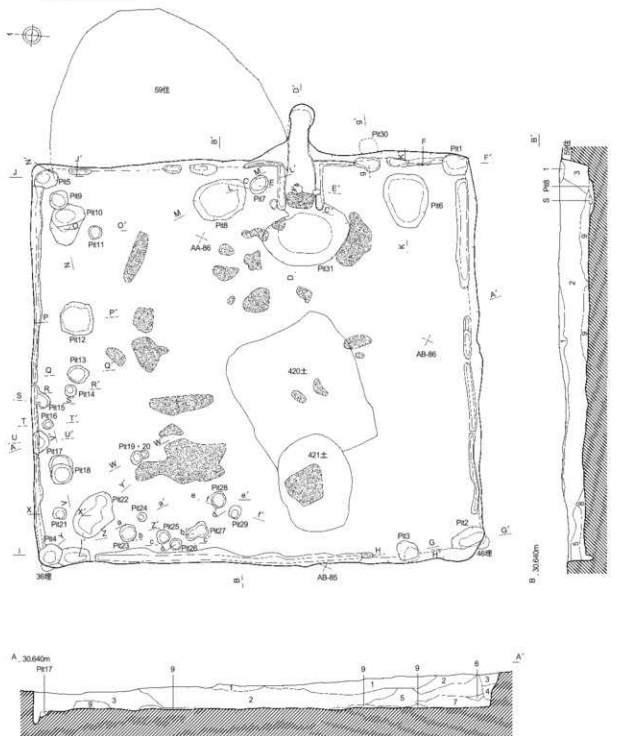


第77図 第54号竪穴住居跡(1)



第78図 第54号竪穴住居跡 (2)

第55号竪穴住居跡



第55号竪穴住居跡

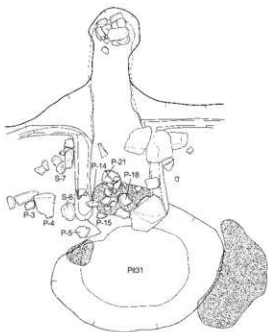
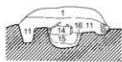
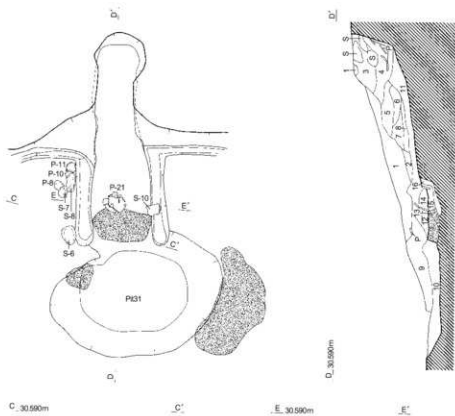
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、焼土粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム
 第4層 暗褐色土 (10YR4/4) ローム
 第5層 暗褐色土 (10YR4/4) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
 ロームブロック少量、炭化粒少量、焼土粒少量
 第6層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量
 第7層 紅褐色土 (10YR4/3) ロームブロック少量、炭化粒少量
 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量、焼土粒微量
 第9層 赤褐色土 (5YR4/8) 焼土、炭化物微量



第79図 第55号竪穴住居跡(1)



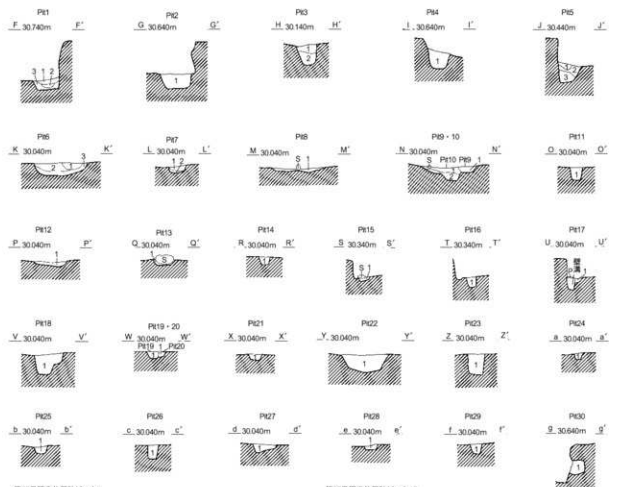
第80図 第55号竪穴住居跡(2)



- 第55号竪穴住居跡カマド
- 第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒少量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量、焼土粒少量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR4/3) ロームブロック少量、焼土粒少量
 - 第4層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、焼土粒少量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒ブロック少量、焼土粒少量
 - 第6層 黄褐色土 (10YR2/2) 焼土粒少量
 - 第7層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム
 - 第8層 赤褐色土 (5YR4/6) 焼土
 - 第9層 赤褐色土 (5YR4/6) 焼土
 - 第10層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、焼土粒少量
 - 第11層 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒少量
 - 第12層 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土粒少量
 - 第13層 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 灰床面
 - 第14層 暗赤褐色土 (5YR3/4)
 - 第15層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム
 - 第16層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、焼土粒



第81図 第55号竪穴住居跡 (3)



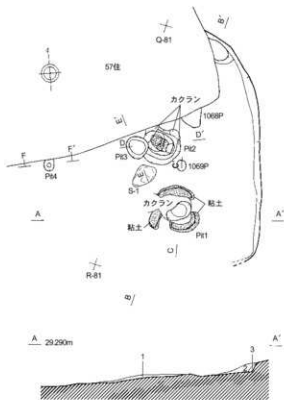
- 第55号竪穴住居跡ビット1
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
第2層 暗褐色土 (10YR4/8) ローム
第3層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量, 炭化粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット2
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) ロームブロック多量
- 第55号竪穴住居跡ビット3
第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量, 炭化粒少量
第2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量, 炭化粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット4
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量, 炭化粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット5
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒少量, 焼土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒多量
第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, 炭化粒少量
- 第55号竪穴住居跡ビット6
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) 炭化粒少量, 焼土粒微量
第2層 赤褐色土 (5YR4/8) 焼土, 炭化粒少量
第3層 黒色土 (10YR2/1) 炭化物層, 焼土粒少量
- 第55号竪穴住居跡ビット7
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒少量
第2層 暗褐色土 (10YR4/4)
- 第55号竪穴住居跡ビット8
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土ブロック微量
- 第55号竪穴住居跡ビット9
第1層 じぶ漬褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量
- 第55号竪穴住居跡ビット10
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) ローム, 炭化粒微量, 焼土粒少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム, 炭化粒微量, 焼土粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット11
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット12
第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒少量
- 第55号竪穴住居跡ビット13
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット14
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量

- 第55号竪穴住居跡ビット15
第1層 じぶ漬褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット16
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット17
第1層 じぶ漬褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット18
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット19・20
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量, 焼土粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット21
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット22
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック多量
- 第55号竪穴住居跡ビット23
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量, 炭化粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット24
第1層 暗褐色土 (10YR4/4)
- 第55号竪穴住居跡ビット25
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) ローム
- 第55号竪穴住居跡ビット26
第1層 じぶ漬褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量
- 第55号竪穴住居跡ビット27
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) ローム
- 第55号竪穴住居跡ビット28
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット29
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量, 炭化粒微量
- 第55号竪穴住居跡ビット30
第1層 黒色土 (10YR2/1) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
ローム粒少量, 炭化粒少量

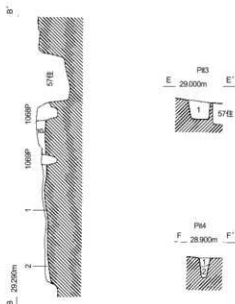


第82図 第55号竪穴住居跡 (4)

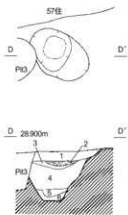
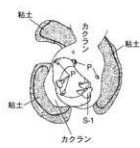
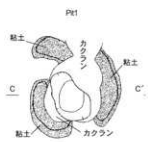
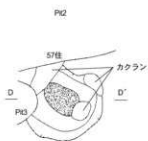
第56号竪穴住居跡



- 第56号竪穴住居跡
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、炭化粒微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 - 第3層 褐色土 (10YR4/6) ローム



- 第56号竪穴住居跡ビット3
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第56号竪穴住居跡ビット4
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量



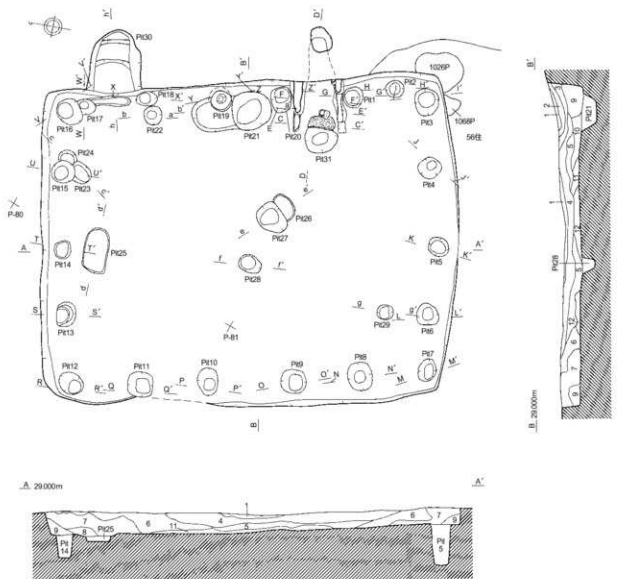
- 第56号竪穴住居跡P・ビット2
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、炭化粒微量、粘土粒微量
 - 第2層 赤褐色土 (5YR4/6) 火床
 - 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 - 第6層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量

- 第56号竪穴住居跡ビット1 (特殊検出)
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量、粘土粒微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量、粘土粒微量
 - 第3層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム



第83図 第56号竪穴住居跡

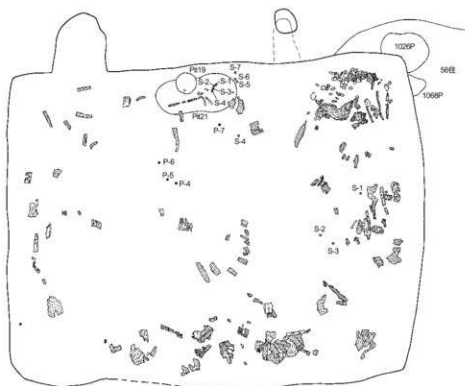
第57号竪穴住居跡



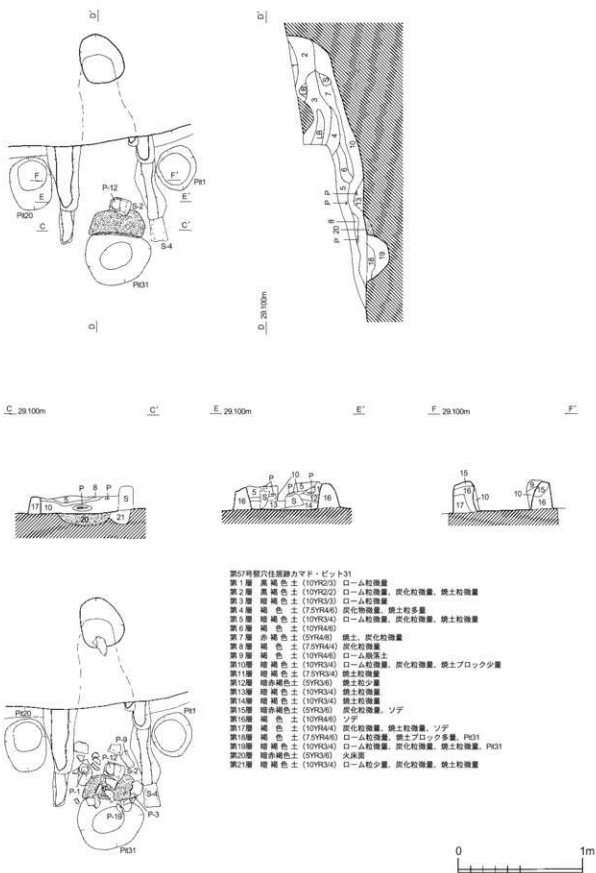
第57号竪穴住居跡

- 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量
- 第2層 黒色土 (10YR2/1) ロームブロック多量
- 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第5層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量、鉄土粒微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR4/4) ロームブロック少量、炭化粒微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック少量、炭化粒微量
- 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
- 第10層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒少量
- 第11層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒少量
- 第12層 灰白暗褐色土 (5YR4/4) 鉄土ブロック多量、炭化物微量

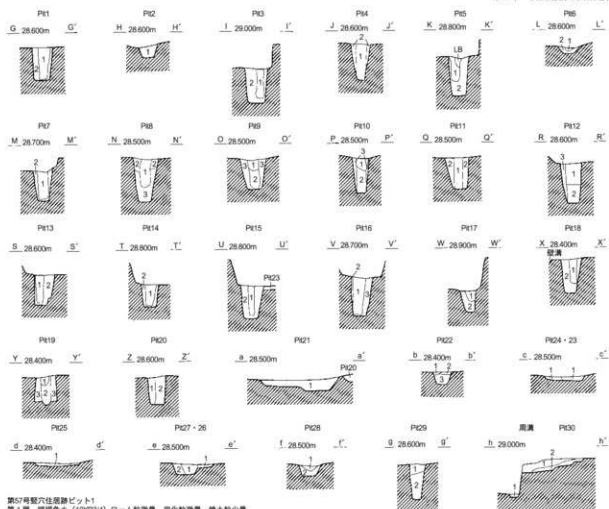
第84図 第57号竪穴住居跡 (1)



第85図 第57号竪穴住居跡(2)

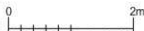


第86図 第57号竪穴住居跡 (3)



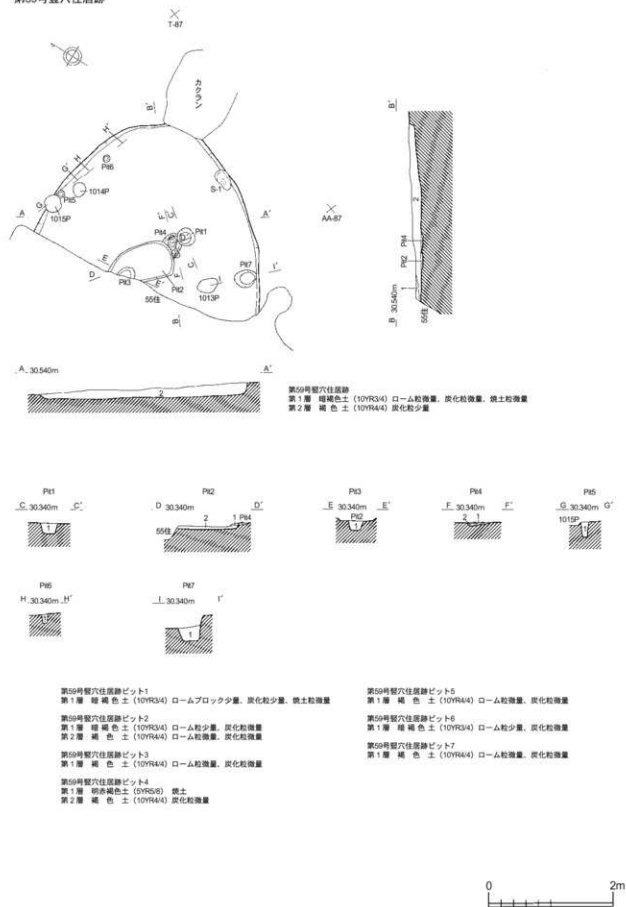
- 第57号竪穴住居跡ピット1
第1層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒少量
第2層 褐色土 (10YR46) ローム粒多量
- 第57号竪穴住居跡ピット2
第1層 褐色土 (10YR46)
第2層 暗褐色土 (10YR32) ローム粒少量, 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR34) ロームブロック多量
- 第57号竪穴住居跡ピット3
第1層 暗褐色土 (10YR32) ローム粒少量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR34) ロームブロック多量
- 第57号竪穴住居跡ピット4
第1層 暗褐色土 (10YR44) ロームブロック少量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) ロームブロック多量
- 第57号竪穴住居跡ピット5
第1層 暗褐色土 (10YR32) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) ロームブロック多量, 炭化物微量
- 第57号竪穴住居跡ピット6
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) ローム粒少量
- 第57号竪穴住居跡ピット7
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) ローム粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒少量, 炭化粒微量
第4層 暗褐色土 (10YR46) ローム粒少量
- 第57号竪穴住居跡ピット8
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) ローム粒少量
第3層 暗褐色土 (10YR32) ローム粒少量, 炭化粒微量
第4層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット9
第1層 暗褐色土 (10YR32) ローム粒少量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR46) 炭化粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット10
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44) 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR46) 炭化粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット11
第1層 暗褐色土 (10YR32) ローム粒微量, 炭化粒少量
第2層 暗褐色土 (10YR46)
- 第57号竪穴住居跡ピット12
第1層 暗褐色土 (10YR46) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR46)
- 第57号竪穴住居跡ピット13
第1層 暗褐色土 (10YR22) ローム粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット14
第1層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) 炭化物微量
- 第57号竪穴住居跡ピット15
第1層 暗褐色土 (10YR34) 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46)

- 第57号竪穴住居跡ピット16
第1層 暗褐色土 (10YR46) 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46)
- 第57号竪穴住居跡ピット17
第1層 暗褐色土 (10YR33) 粘土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44) 炭化粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット18
第1層 暗褐色土 (10YR44) 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44)
第3層 暗褐色土 (10YR44) ロームブロック多量
- 第57号竪穴住居跡ピット19
第1層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44)
第3層 暗褐色土 (10YR44) ロームブロック多量
- 第57号竪穴住居跡ピット20
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒少量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46)
- 第57号竪穴住居跡ピット21
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒少量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット22
第1層 暗褐色土 (10YR33) 炭化粒微量, 粘土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) ローム粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR23) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット23
第1層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒少量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44) ローム粒少量, 炭化粒微量, 炭化粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット24
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44) ローム粒微量, 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR44) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット25
第1層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット26
第1層 暗褐色土 (10YR34) 炭化粒微量, 粘土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR46) 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR23) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット27
第1層 暗褐色土 (10YR34) 炭化粒微量, 粘土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR44) ローム粒微量, 炭化粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット28
第1層 暗褐色土 (10YR23) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット29
第1層 暗褐色土 (10YR46) 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR33) ローム粒微量, 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒微量, 炭化粒微量, 粘土粒微量
- 第57号竪穴住居跡ピット30
第1層 暗褐色土 (10YR44) ローム粒微量, 炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR21) ローム粒微量, 炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR34) ローム粒少量

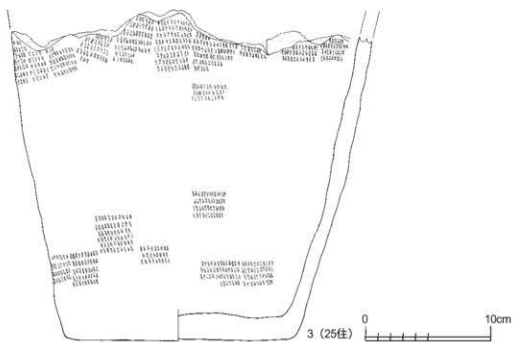
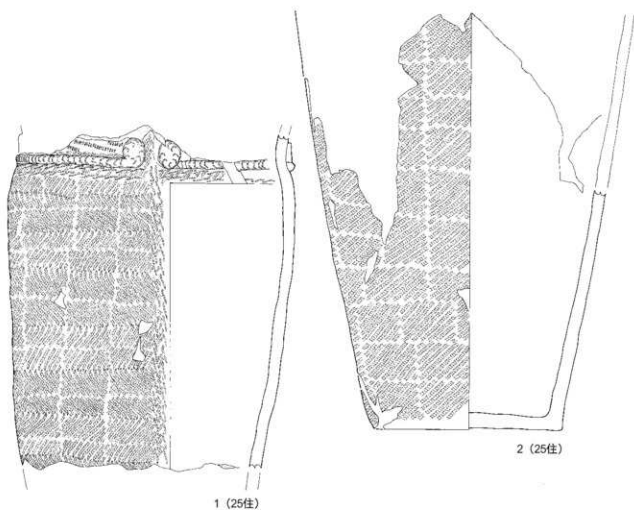


第87図 第57号竪穴住居跡(4)

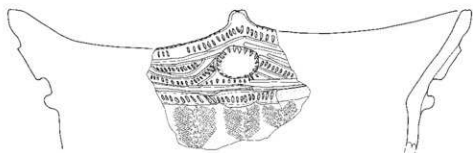
第59号竪穴住居跡



第88図 第59号竪穴住居跡



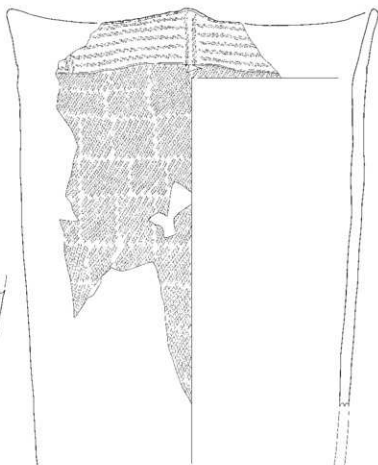
第89図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(1)



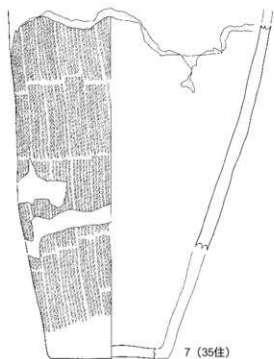
4 (25住)



5 (31住)



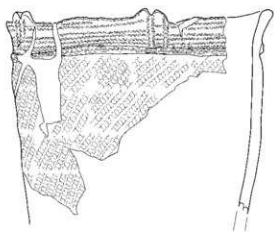
6 (35住)



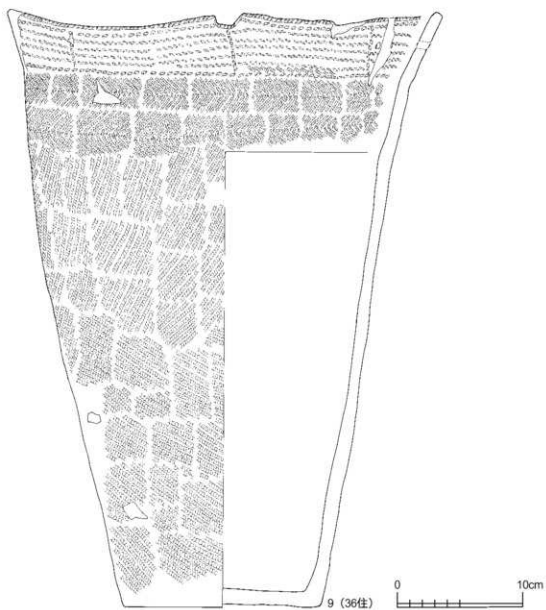
7 (35住)



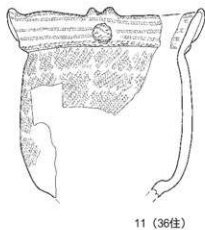
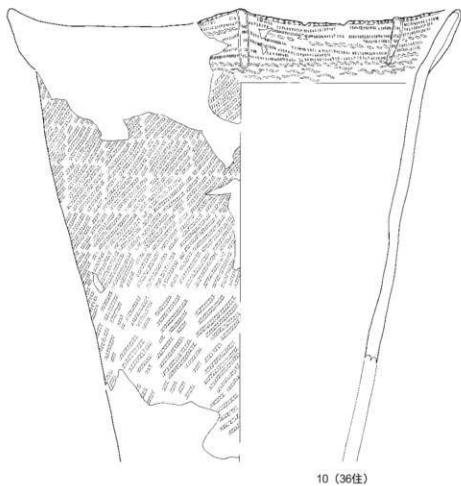
第90図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(2)



8 (36住)



第91図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(3)



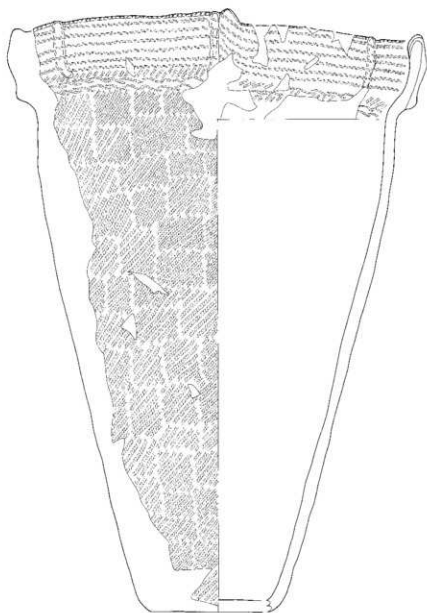
第92図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(4)



12 (36住)



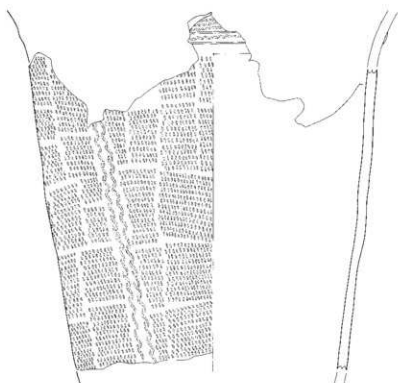
第93図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(5)



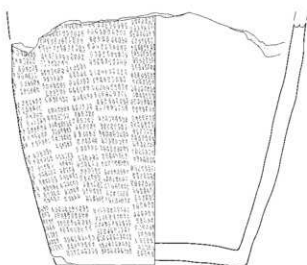
13 (36住)



第94図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(6)



14 (37住)



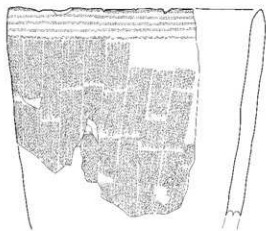
15 (37住)



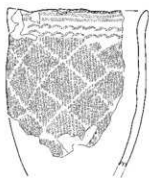
16 (48住)



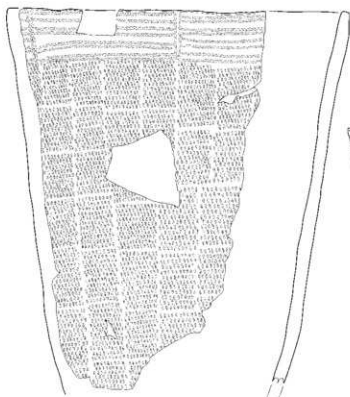
第95図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(7)



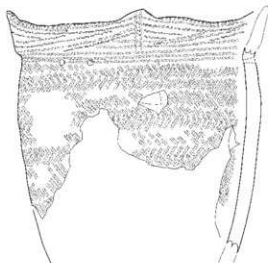
17 (49住)



18 (49住)



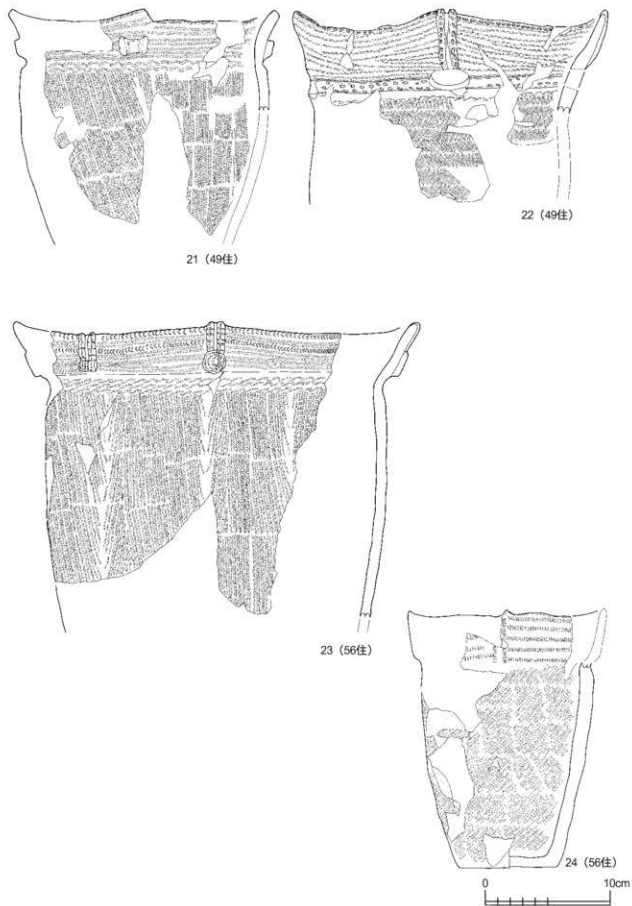
19 (49住)



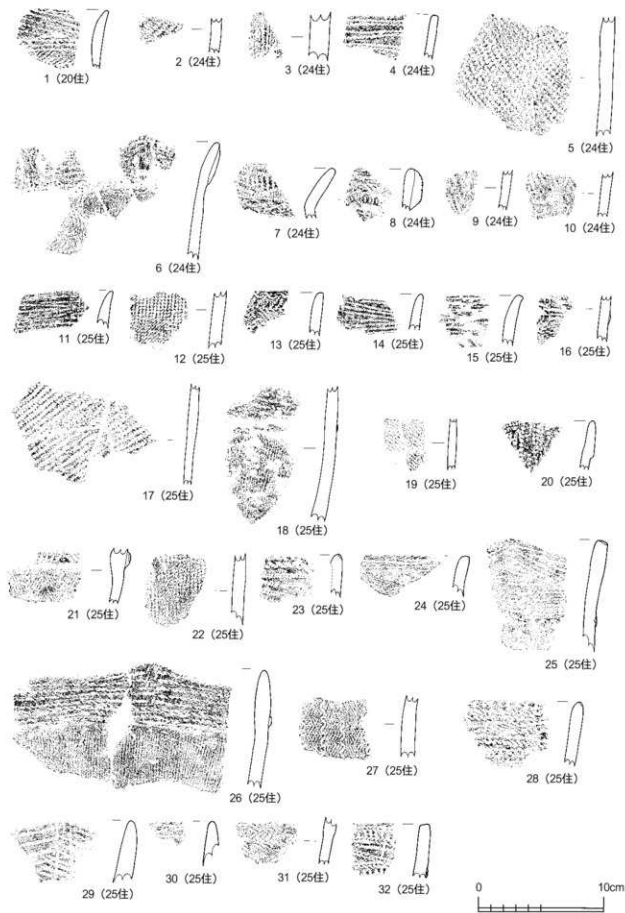
20 (49住)



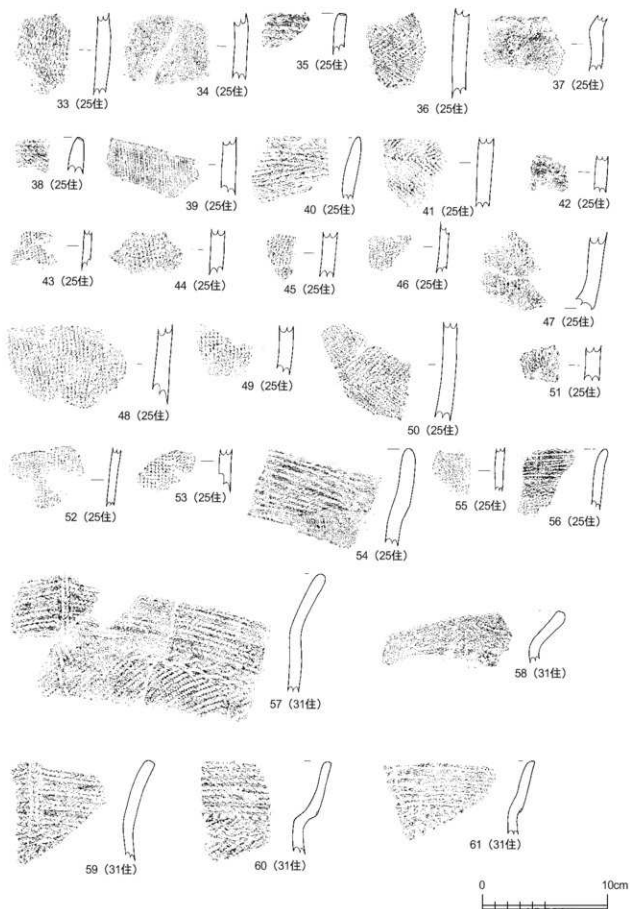
第96図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(8)



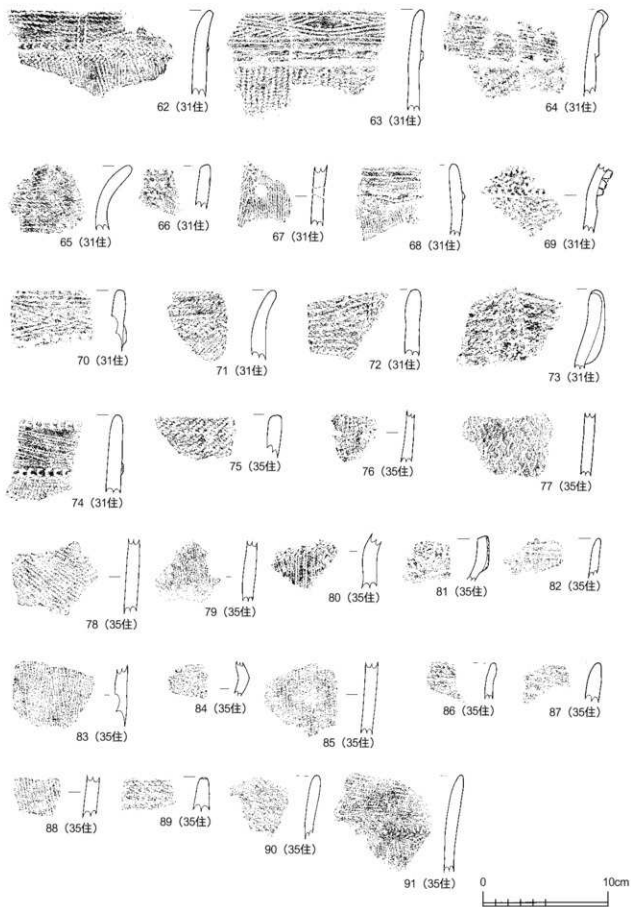
第97図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(9)



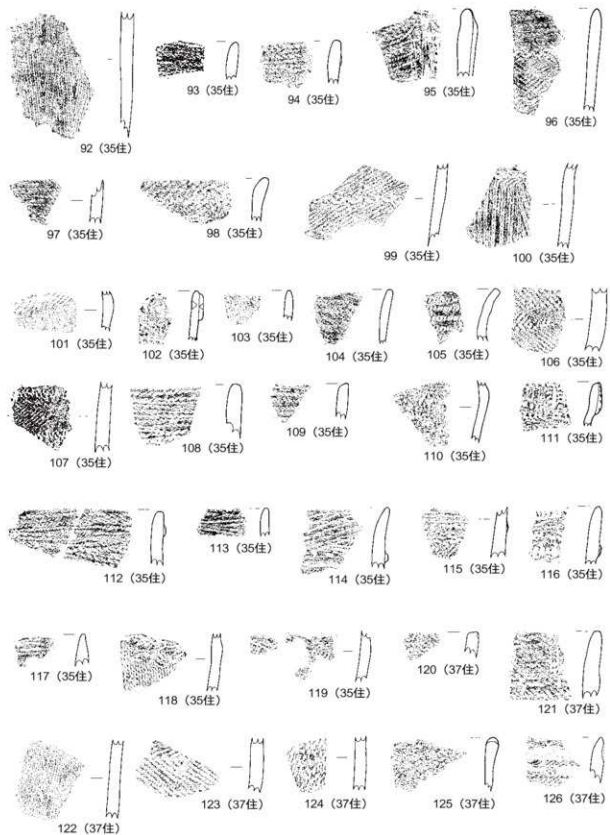
第98図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(10)



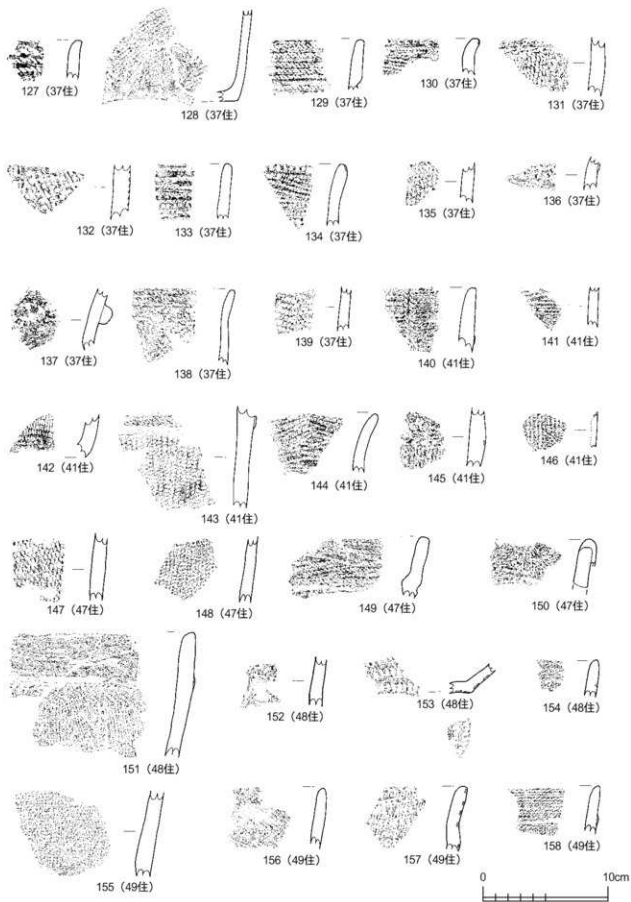
第99図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(11)



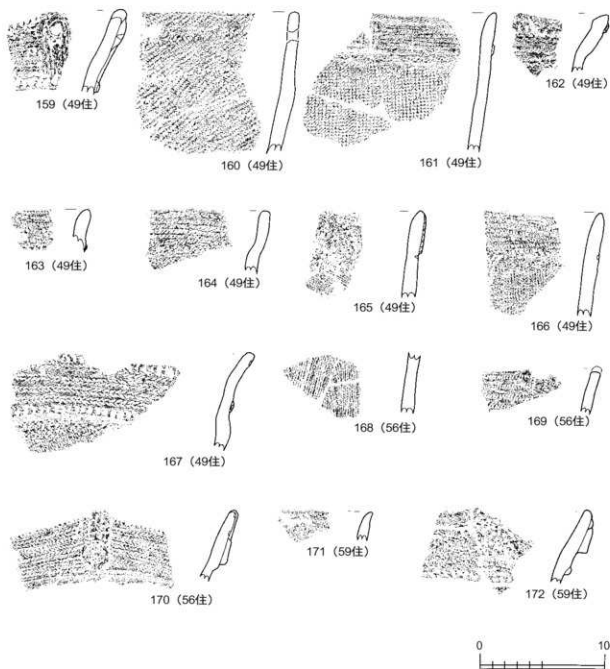
第100図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(12)



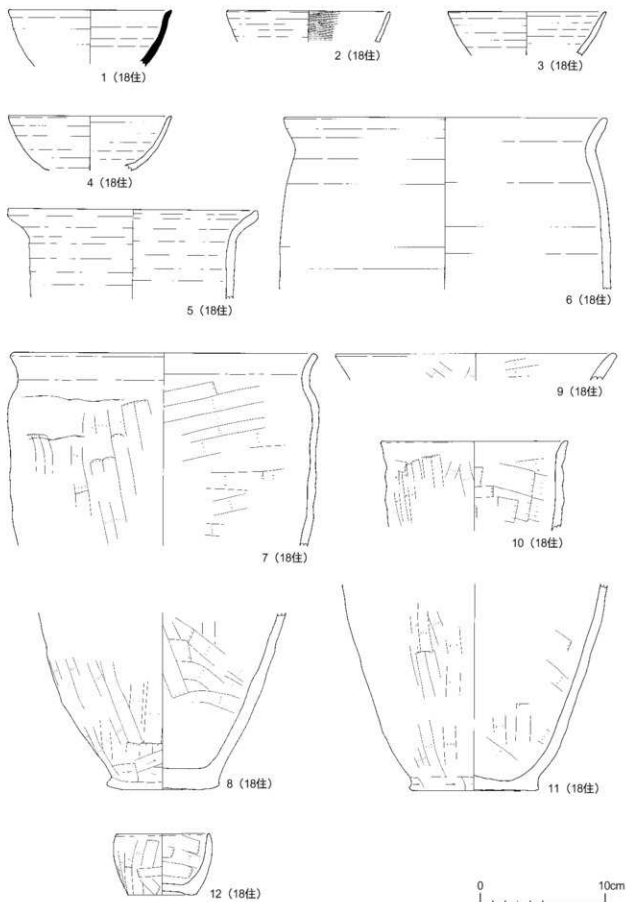
第101図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(13)



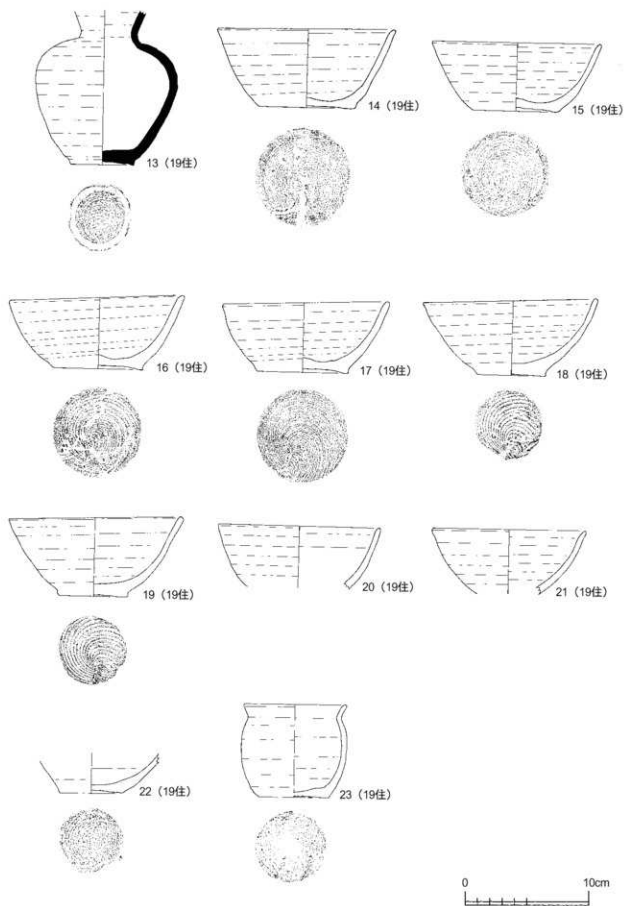
第102図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(14)



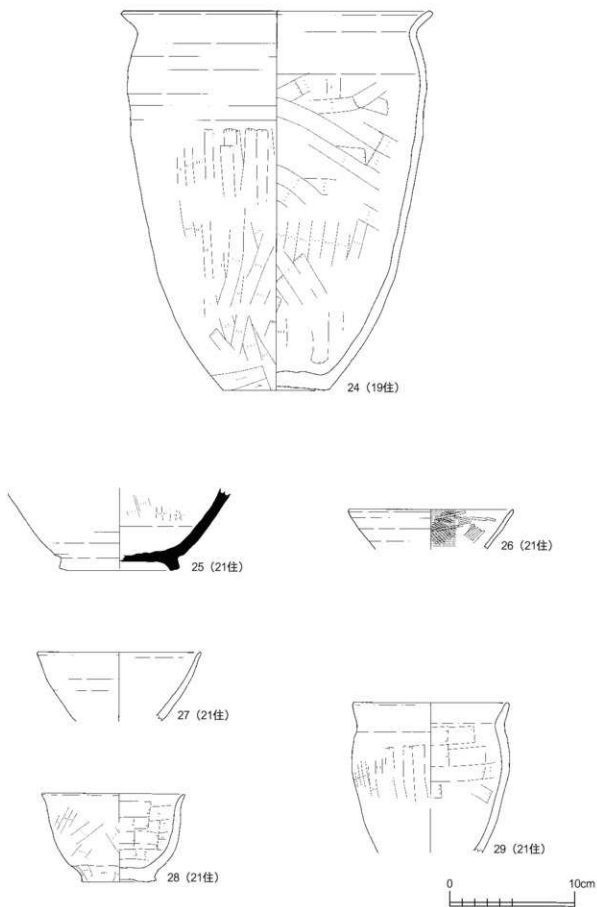
第103図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(15)



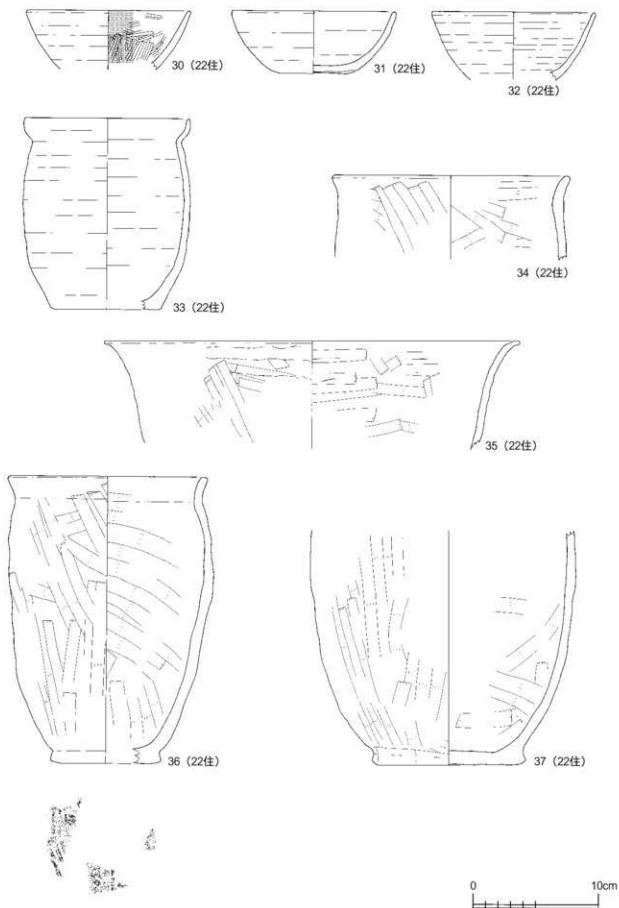
第104図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(16)



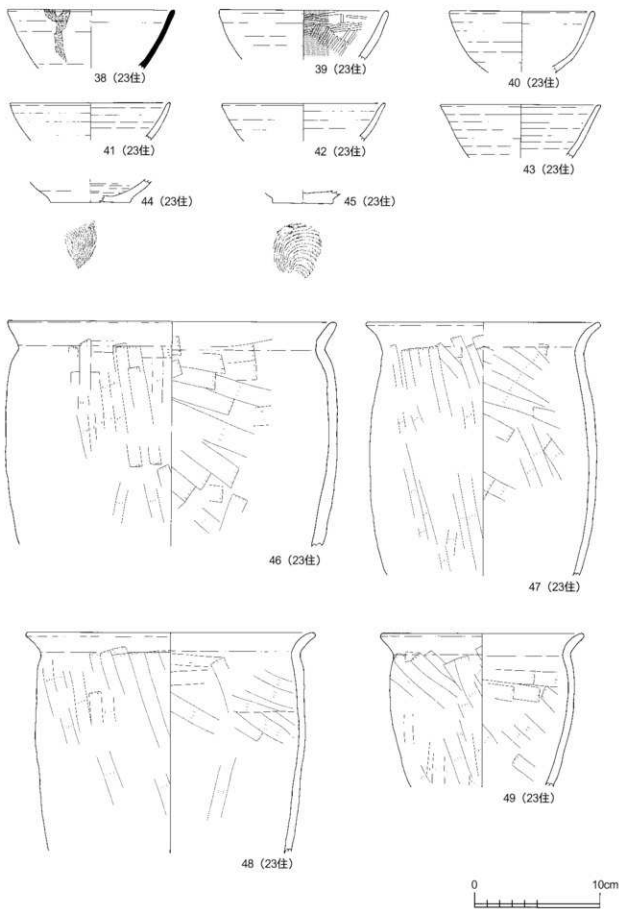
第105図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(17)



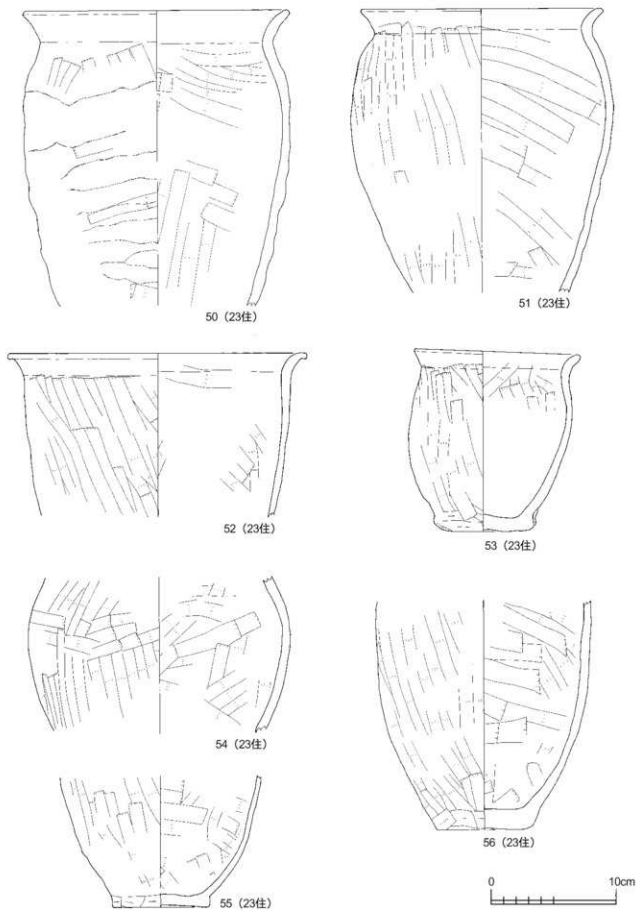
第106図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(18)



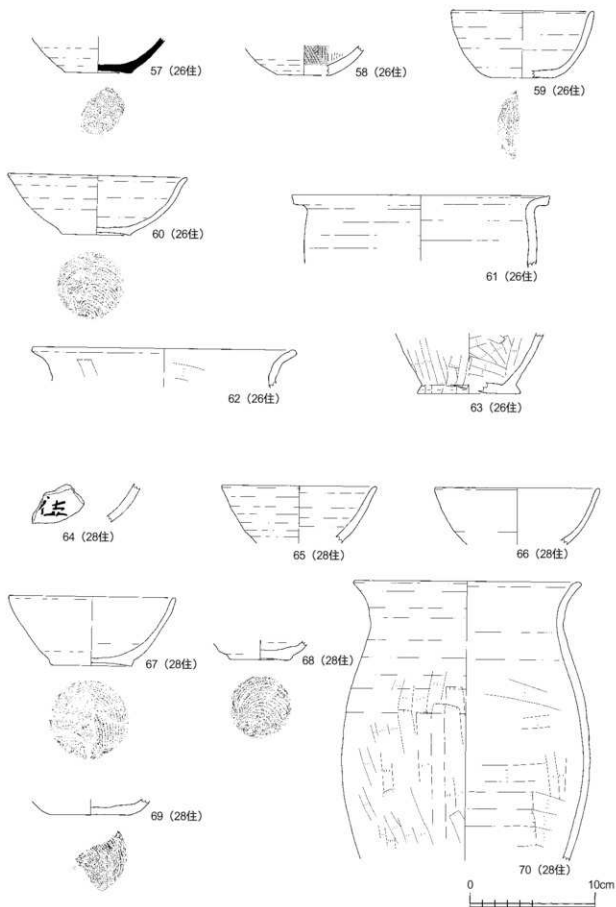
第107図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(19)



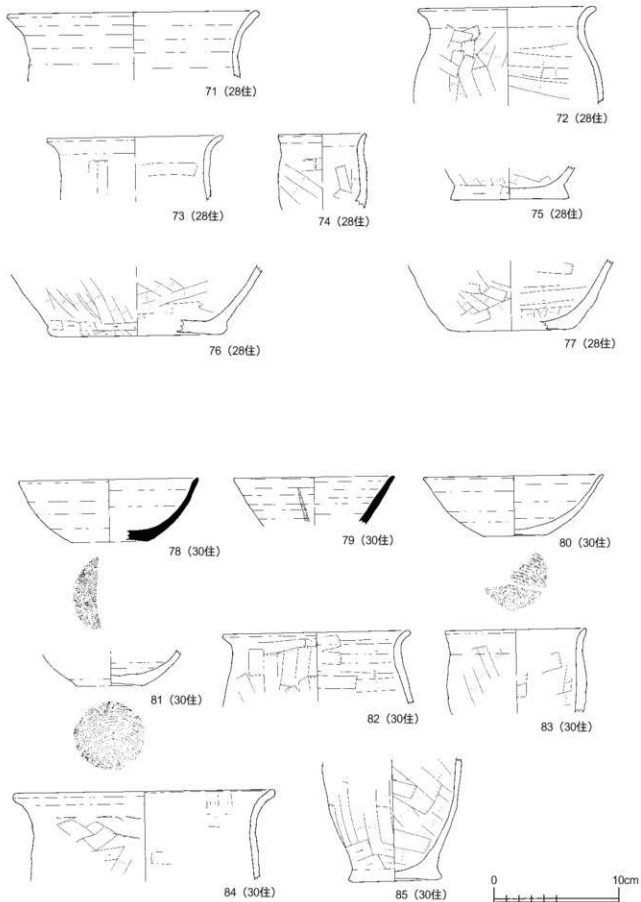
第108図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(20)



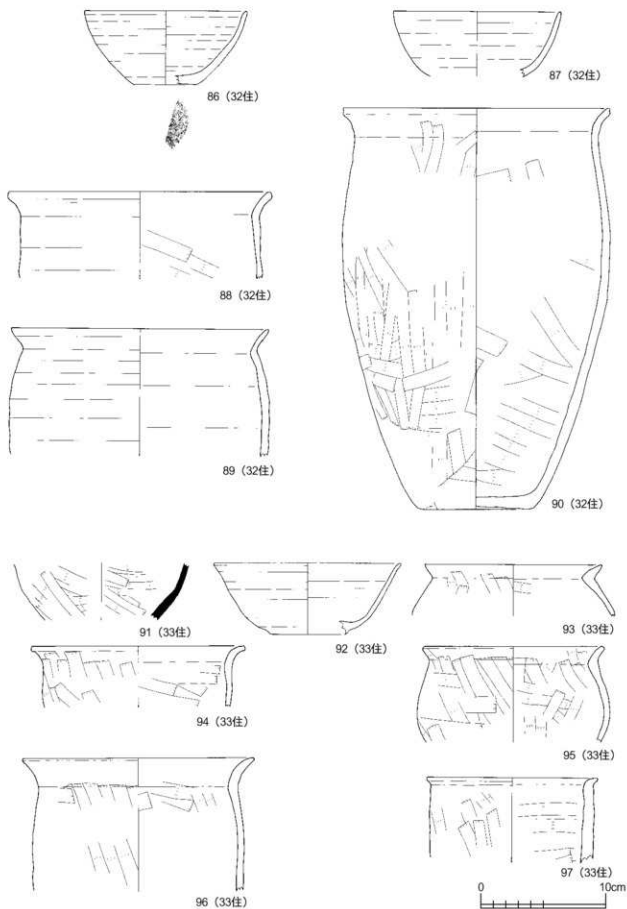
第109図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(21)



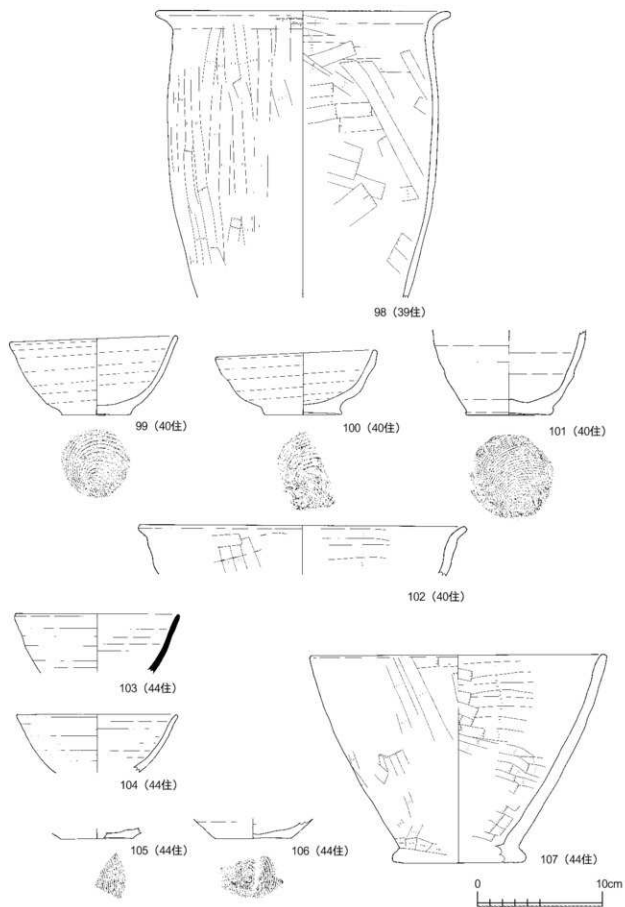
第110図 遺構内出土土器(竪穴住居跡)(22)



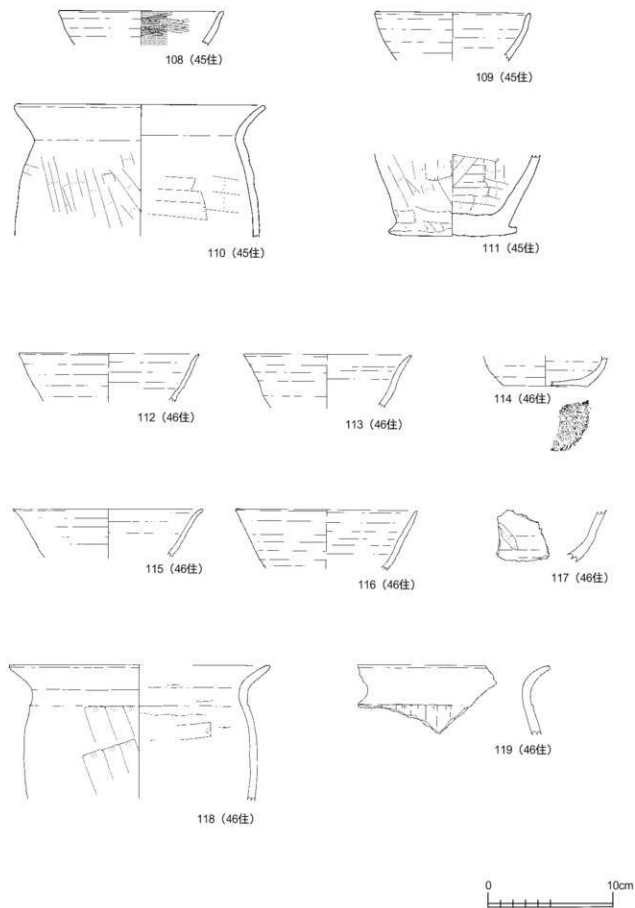
第111図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(23)



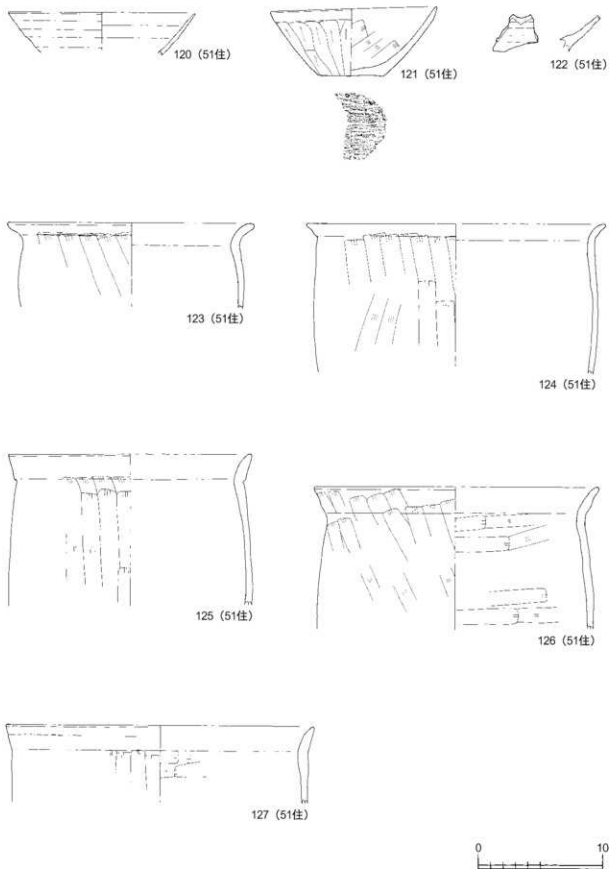
第112図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(24)



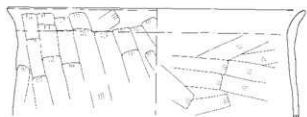
第113図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(25)



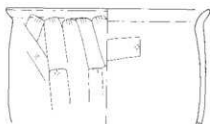
第114図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(26)



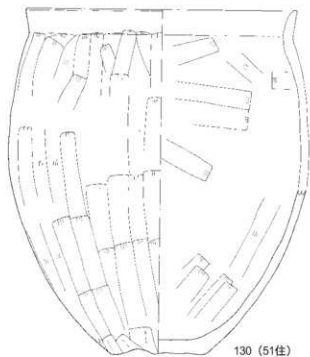
第115図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(27)



128 (51住)



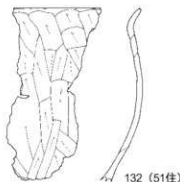
129 (51住)



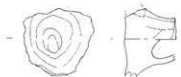
130 (51住)



131 (51住)



132 (51住)



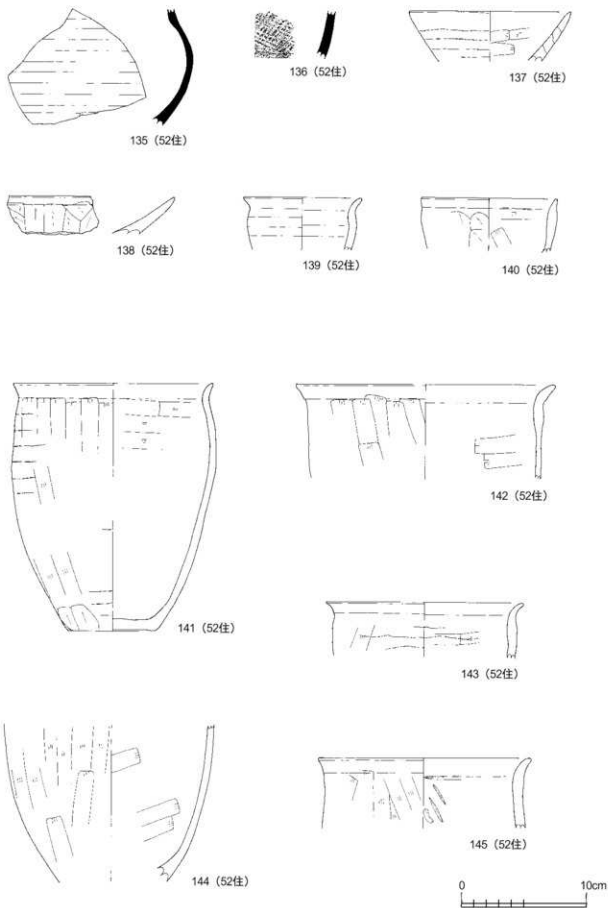
133 (51住)



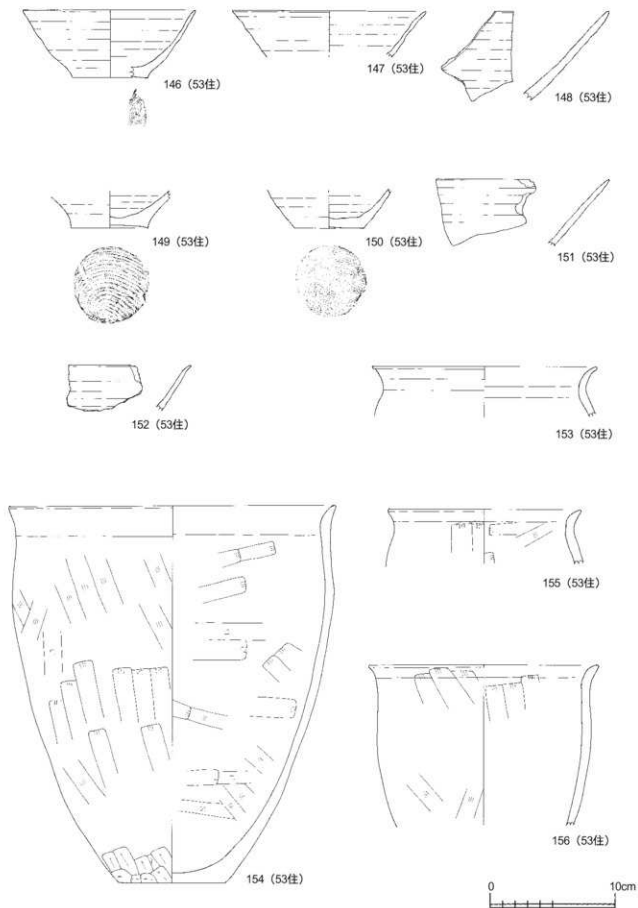
134 (51住)



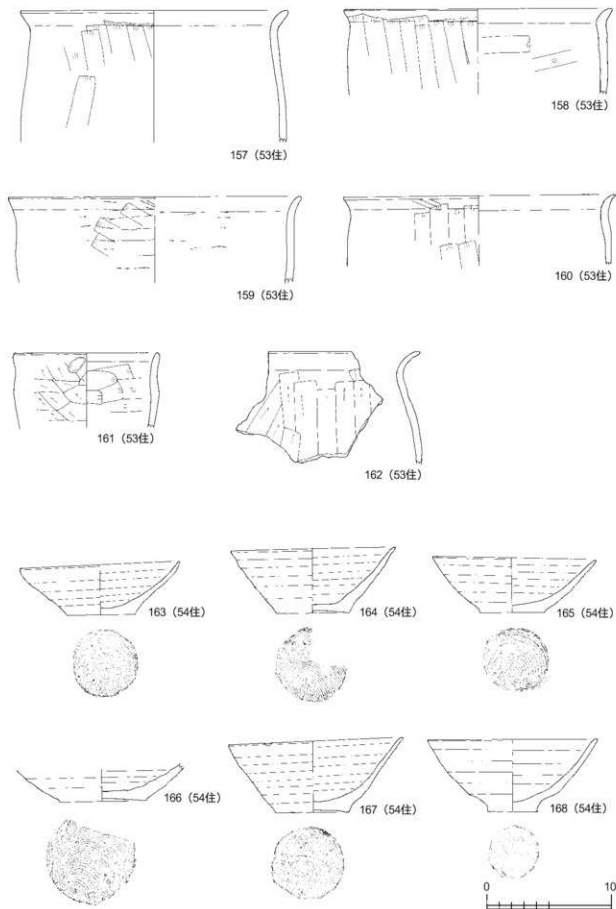
第116図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(28)



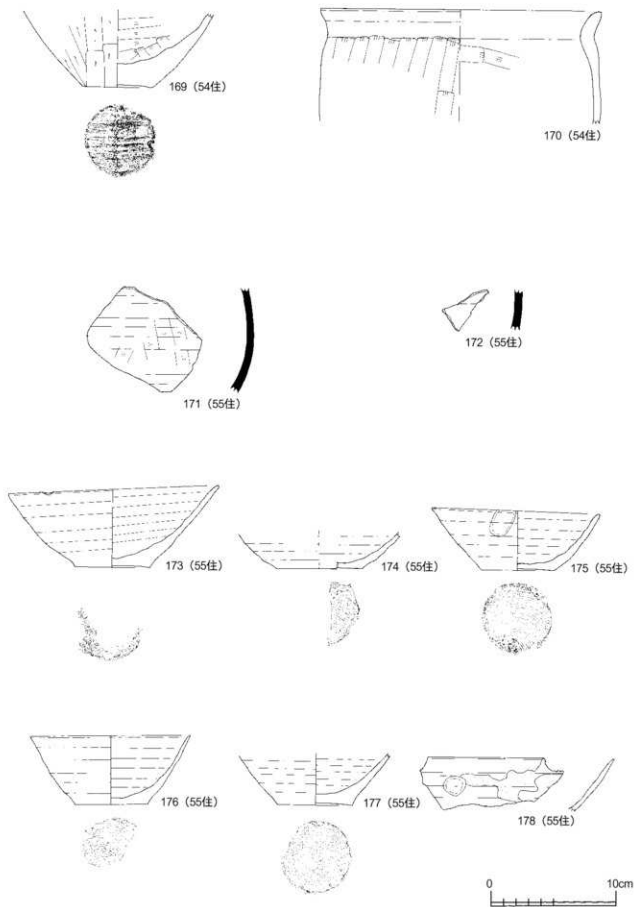
第117図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(29)



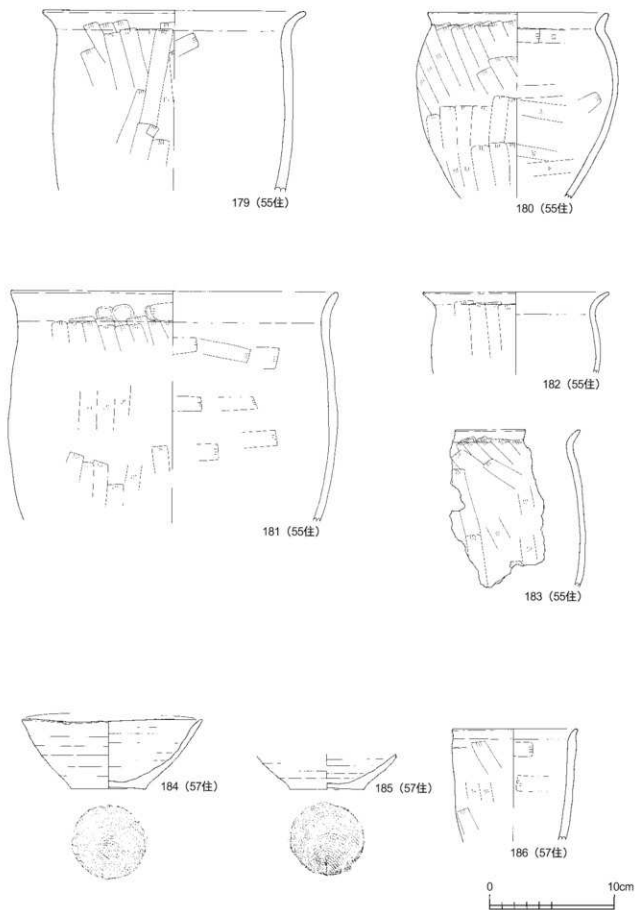
第118図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(30)



第119図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(31)



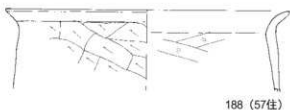
第120図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(32)



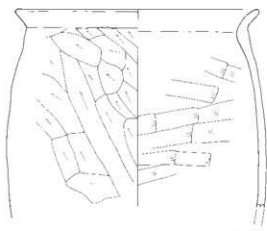
第121図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(33)



187 (57住)



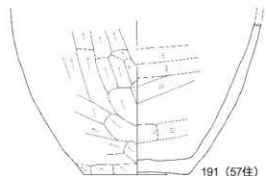
188 (57住)



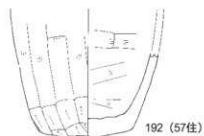
189 (57住)



190 (57住)



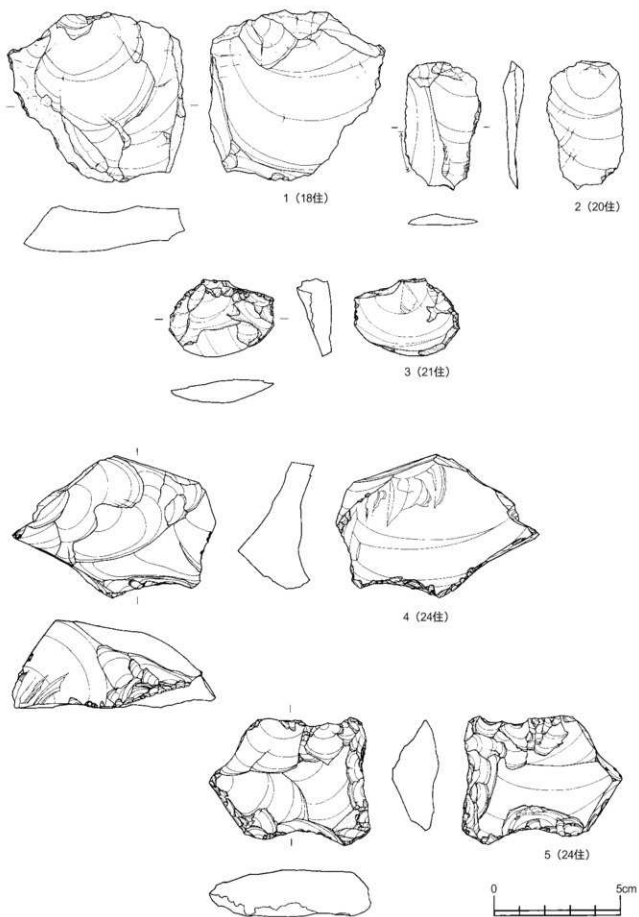
191 (57住)



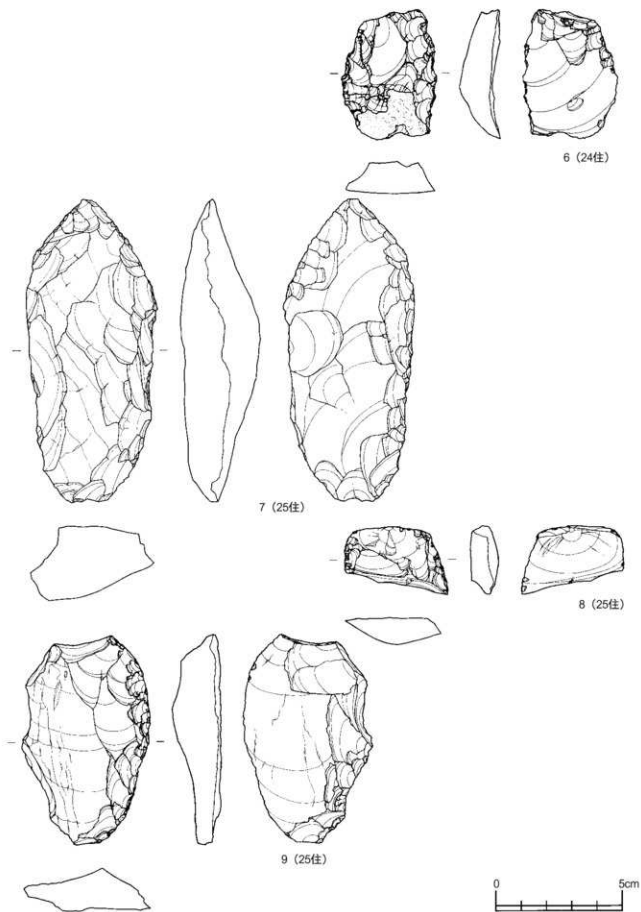
192 (57住)



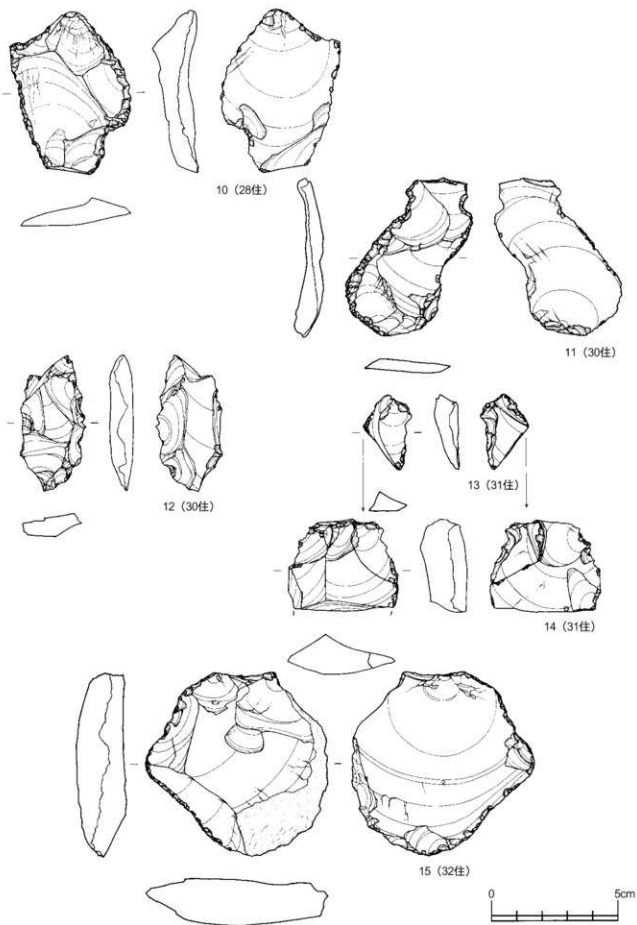
第122図 遺構内出土土器（竪穴住居跡）(34)



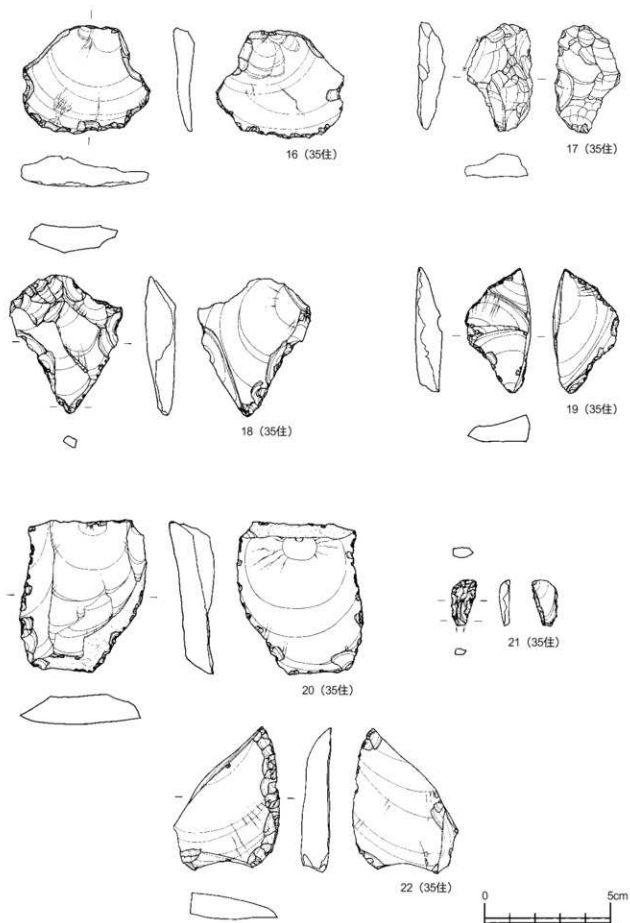
第123図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(1)



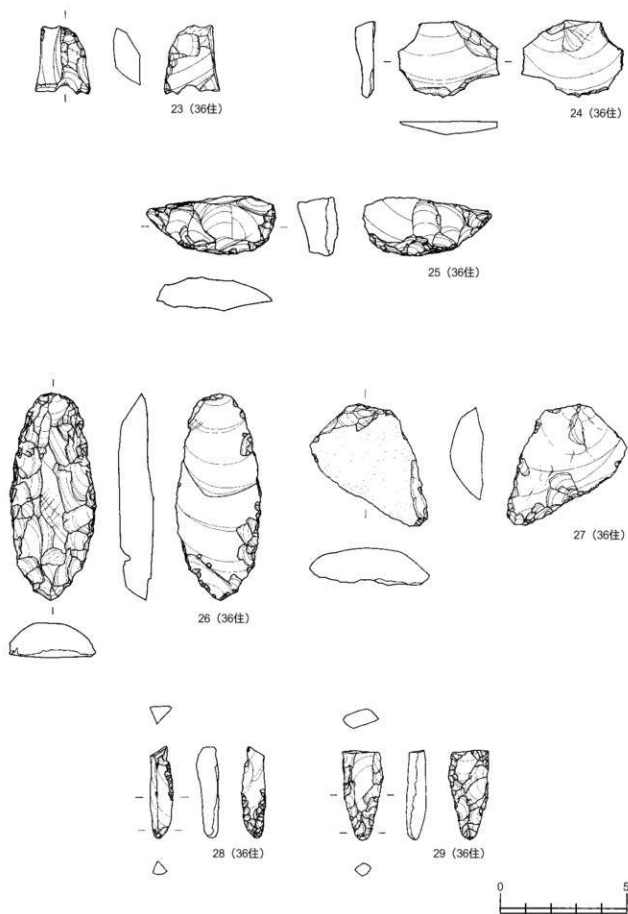
第124図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(2)



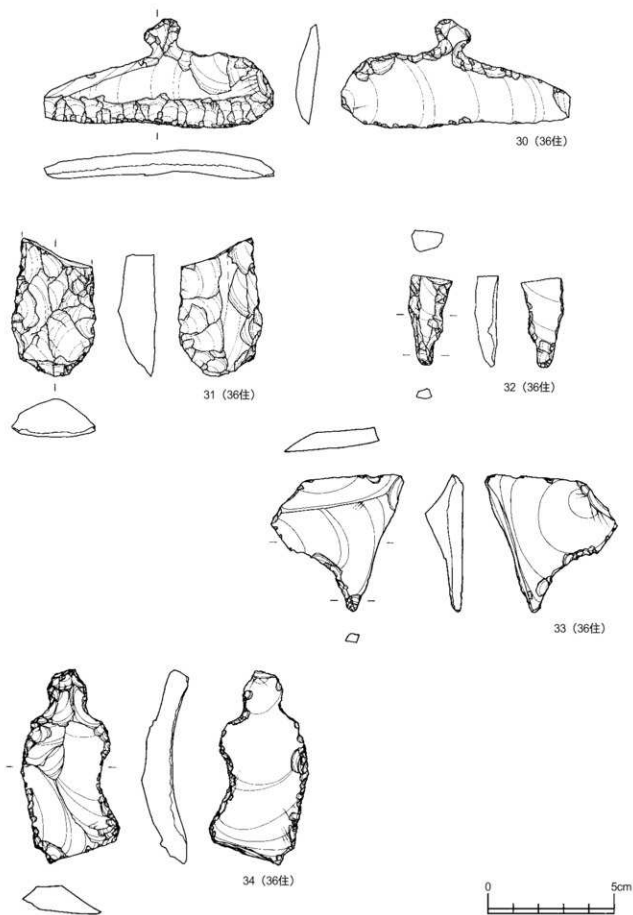
第125図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(3)



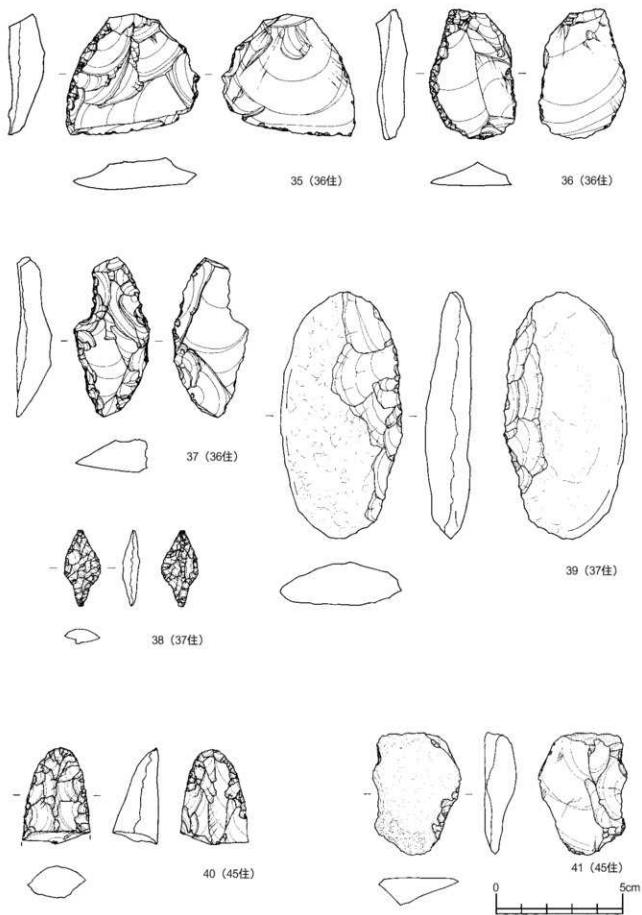
第126図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(4)



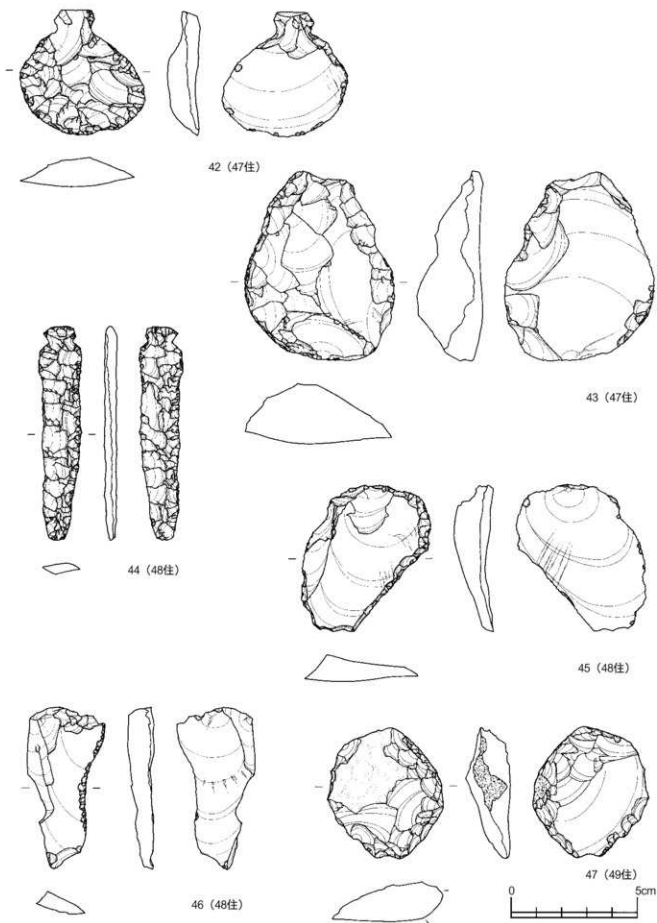
第127図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(5)



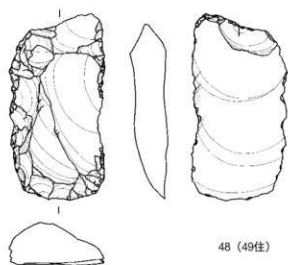
第128図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(6)



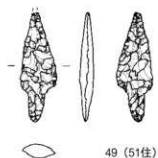
第129図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(7)



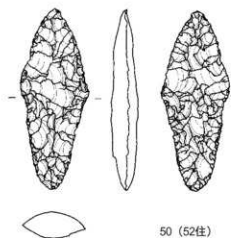
第130図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(8)



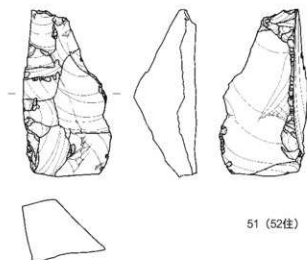
48 (49住)



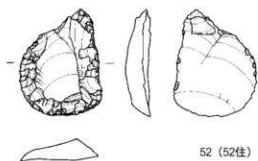
49 (51住)



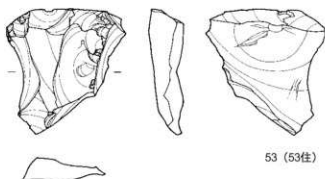
50 (52住)



51 (52住)



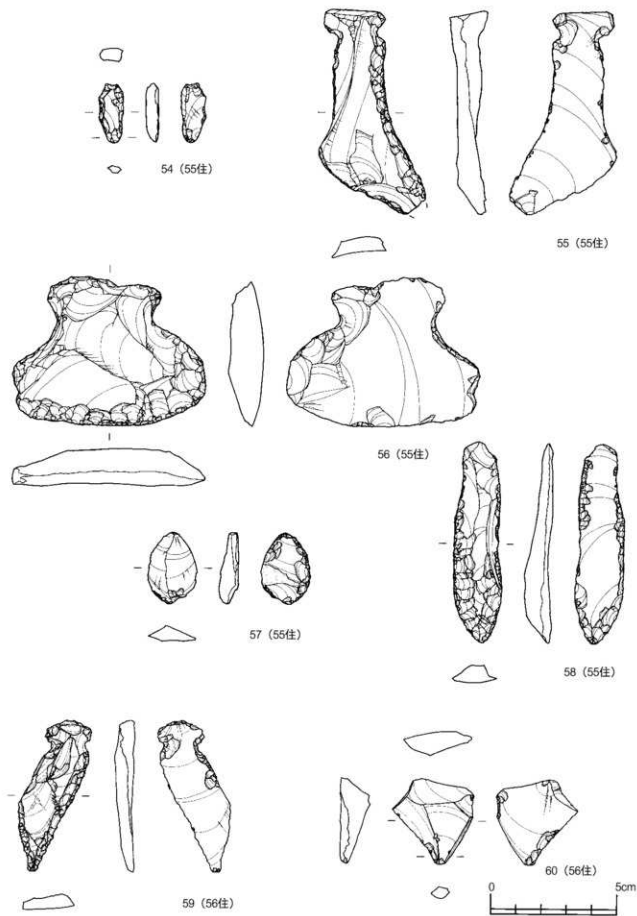
52 (52住)



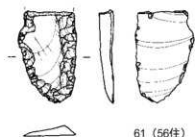
53 (53住)



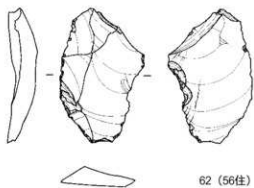
第131図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(9)



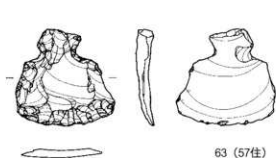
第132図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(10)



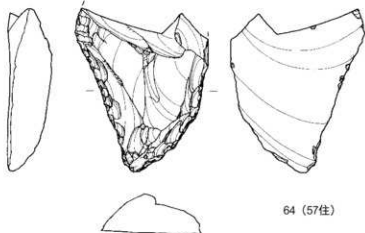
61 (56住)



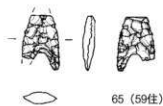
62 (56住)



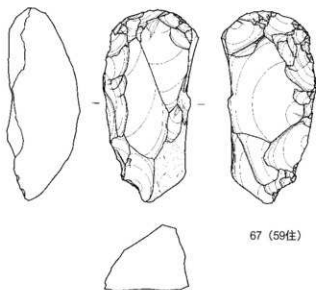
63 (57住)



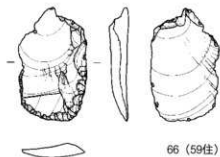
64 (57住)



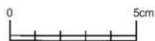
65 (59住)



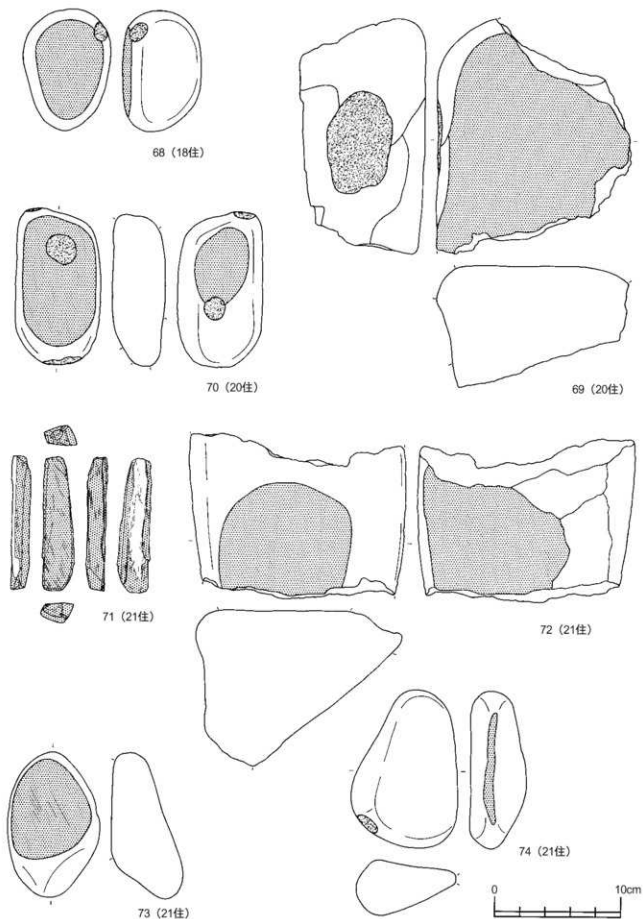
67 (59住)



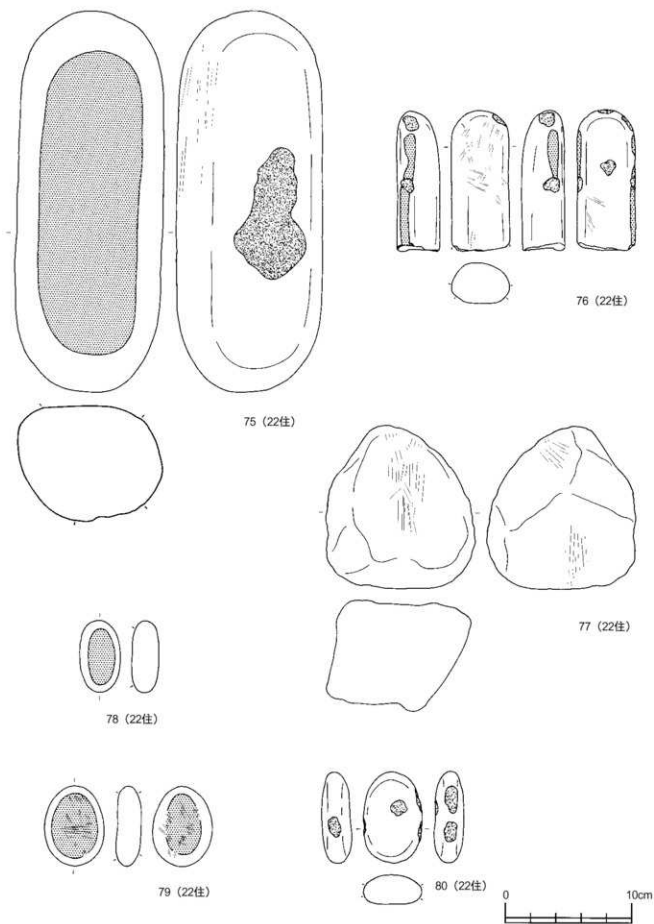
66 (59住)



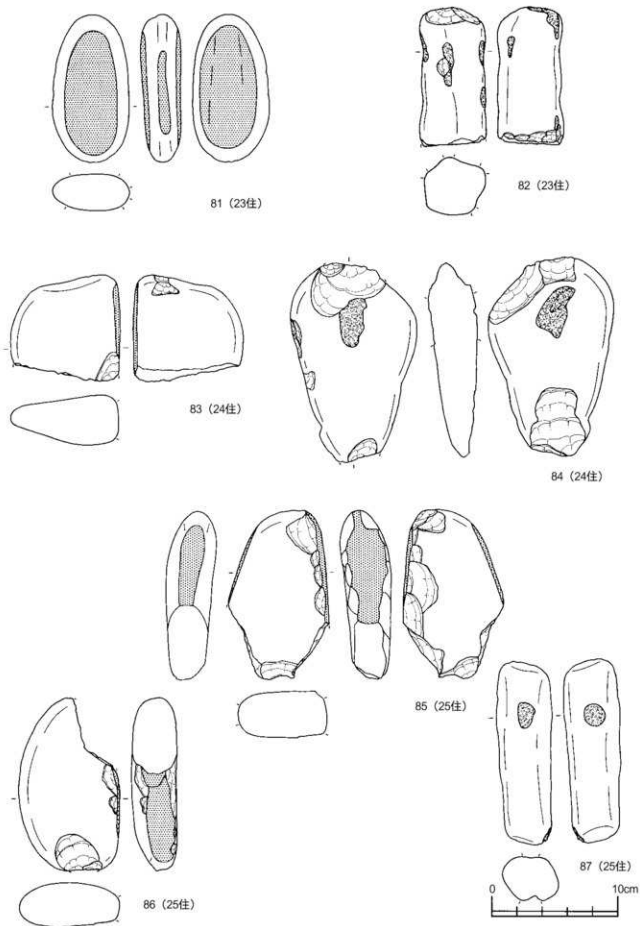
第133図 遺構内出土石器(竪穴住居跡)(11)



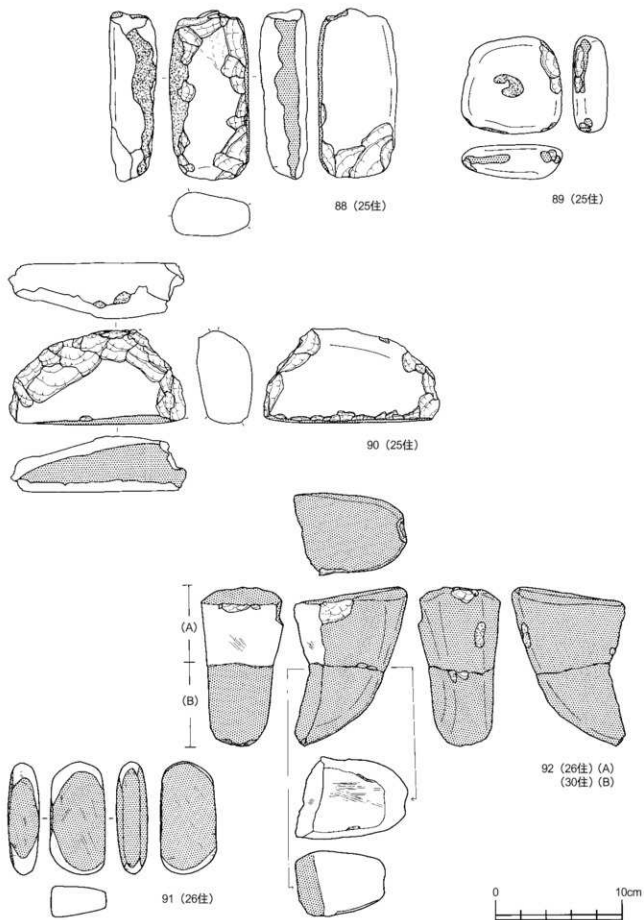
第134図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(12)



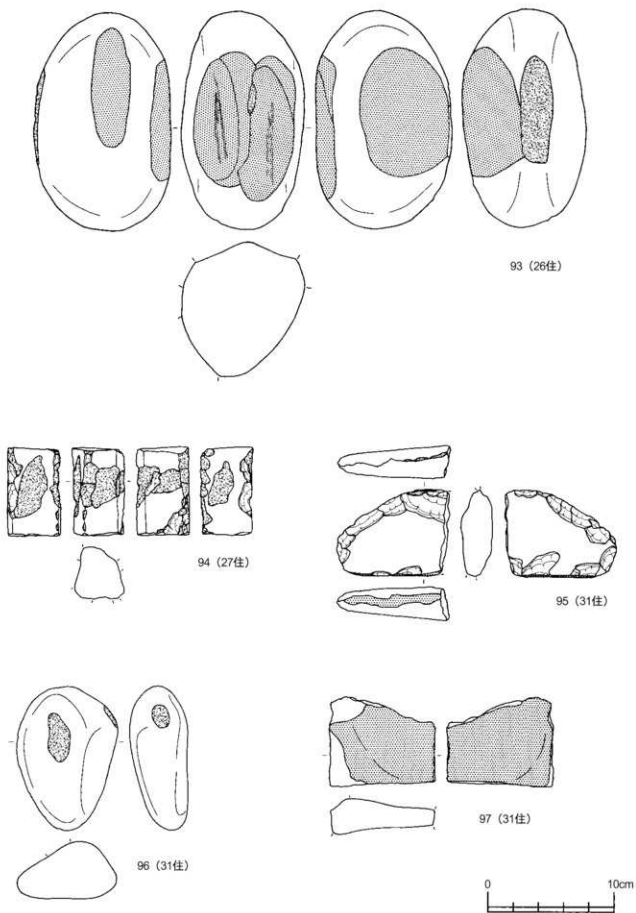
第135図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(13)



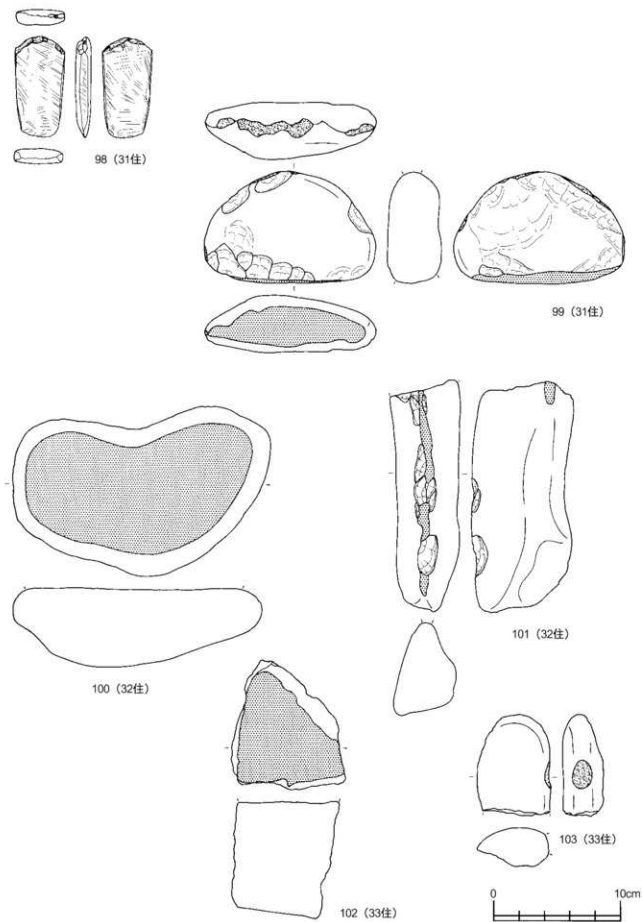
第136図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(14)



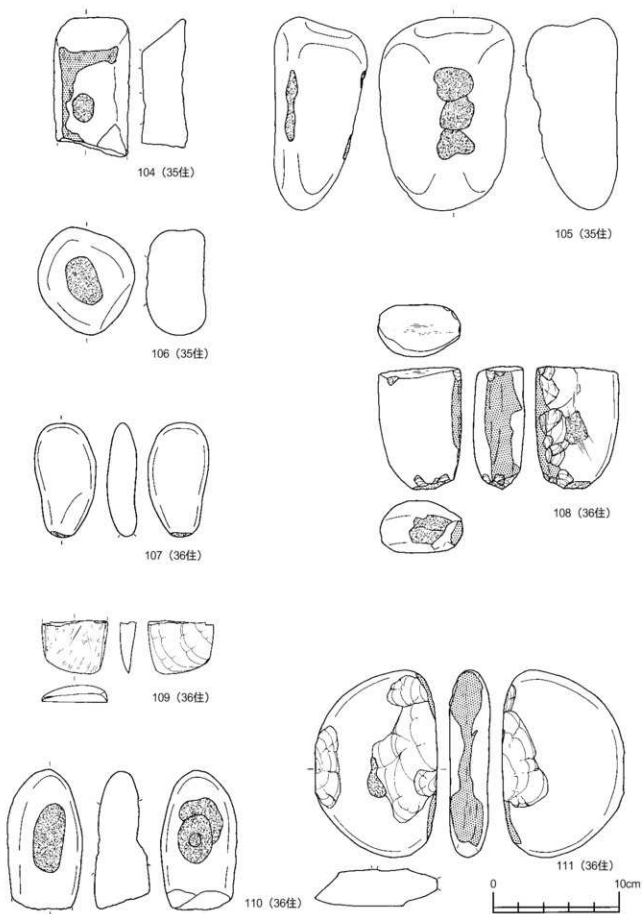
第137図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(15)



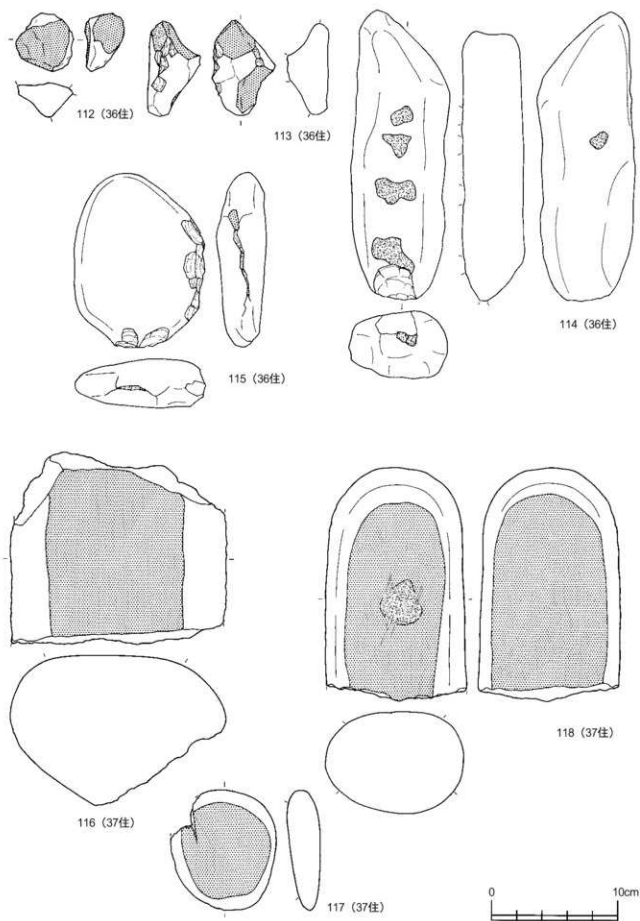
第138図 遺構内出土石器(竪穴住居跡)(16)



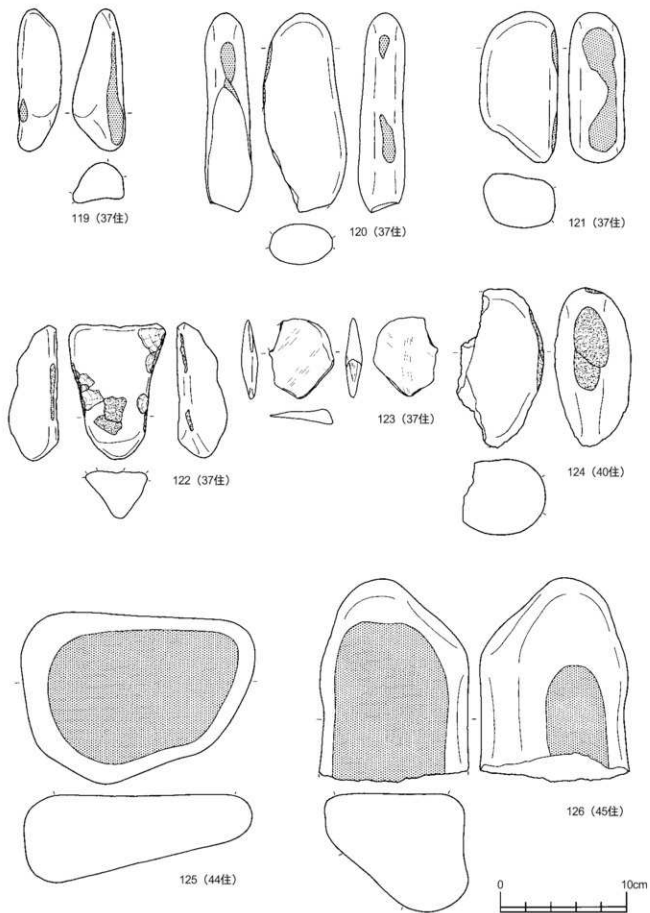
第139図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(17)



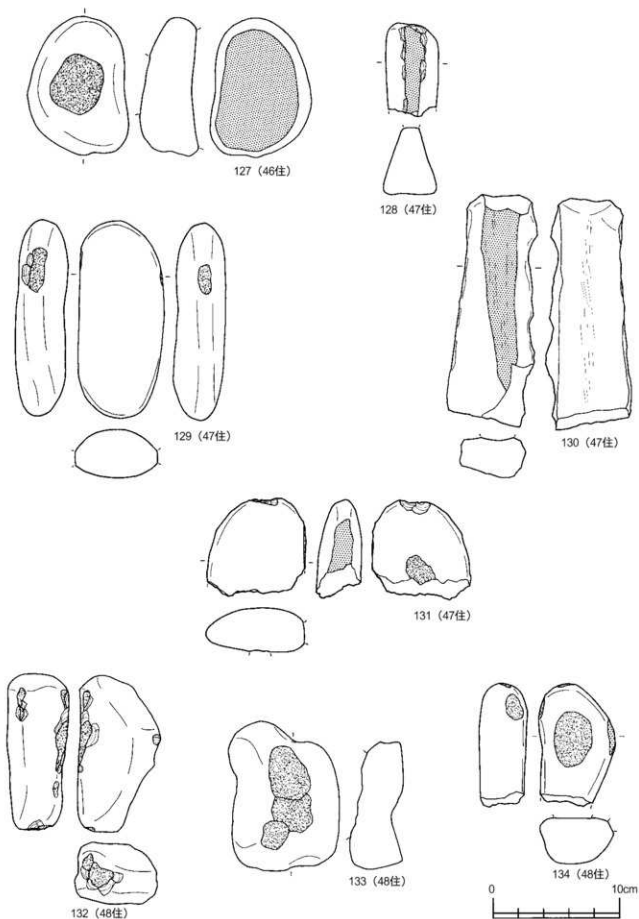
第140図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(18)



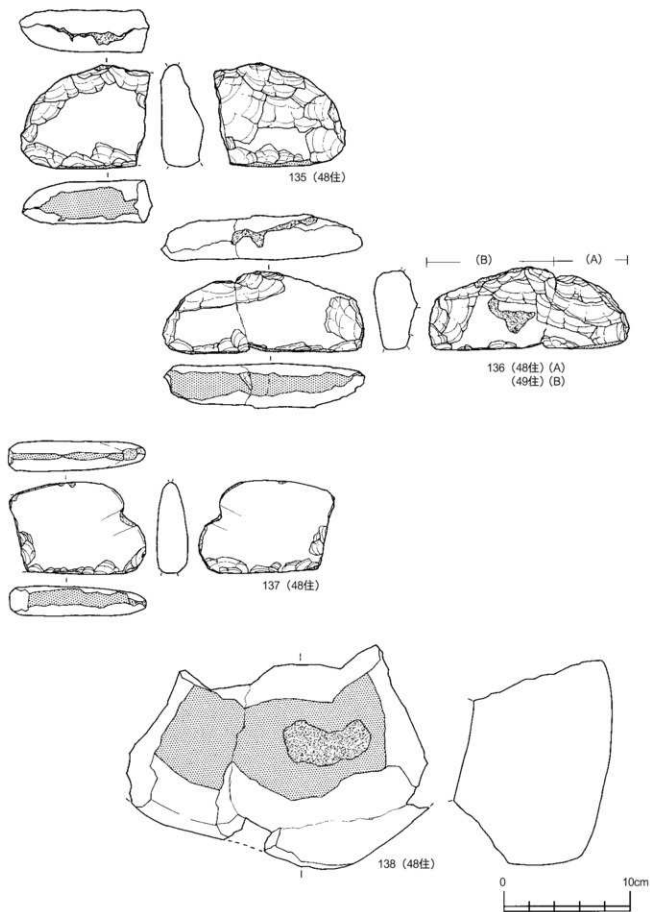
第141図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(19)



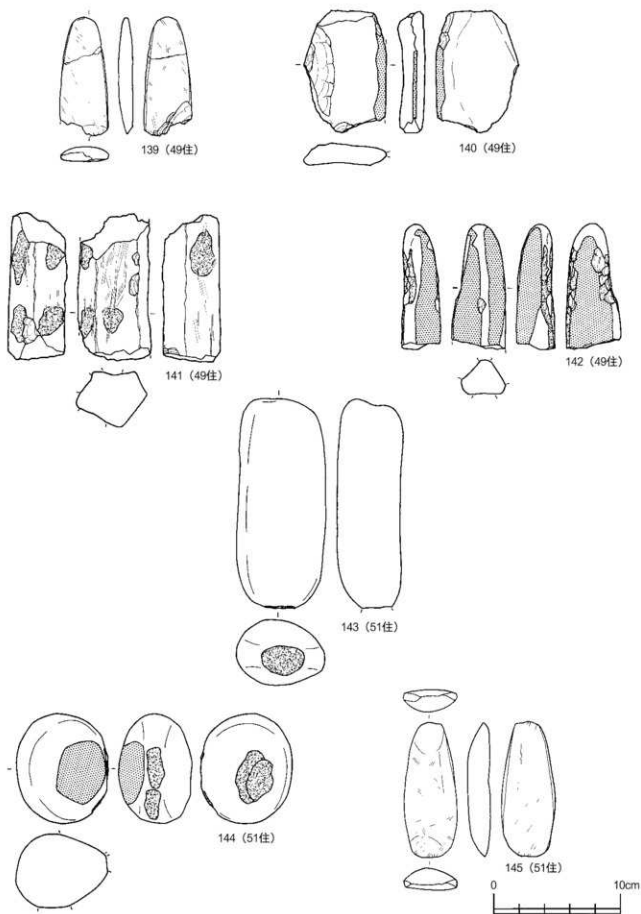
第142図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(20)



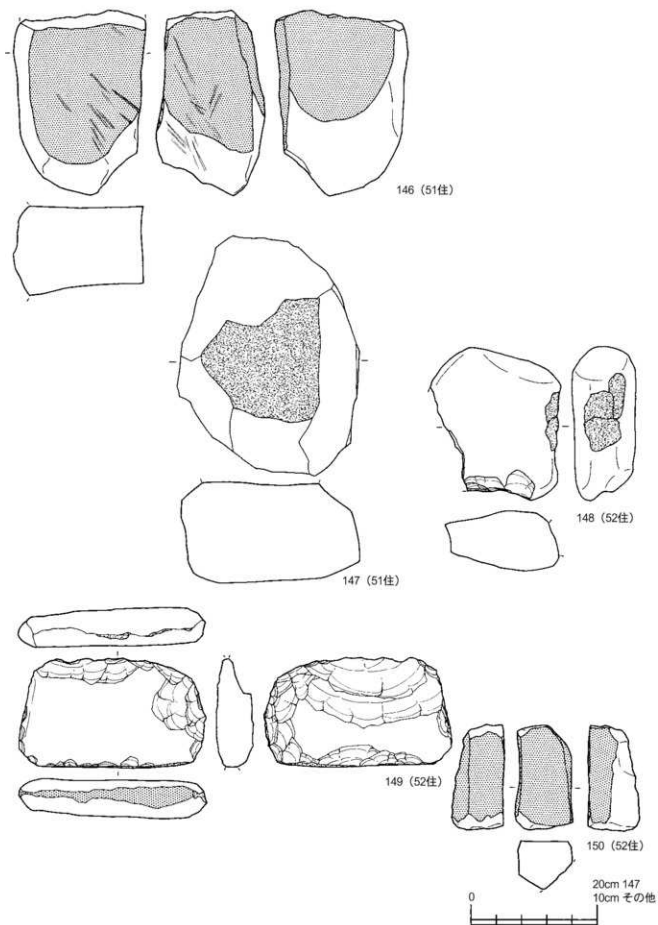
第143図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(21)



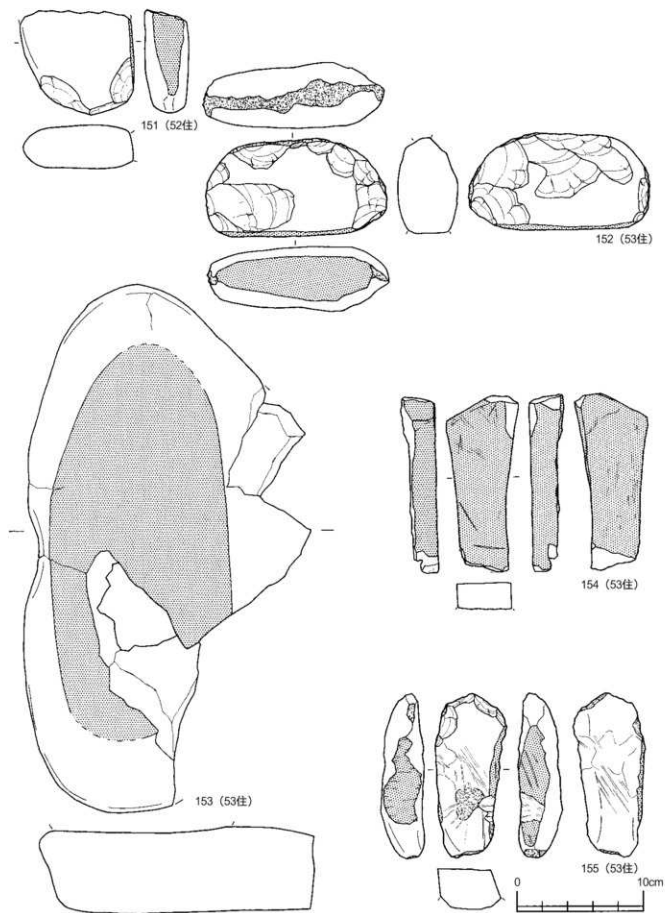
第144図 遺構内出土石器(竪穴住居跡)(22)



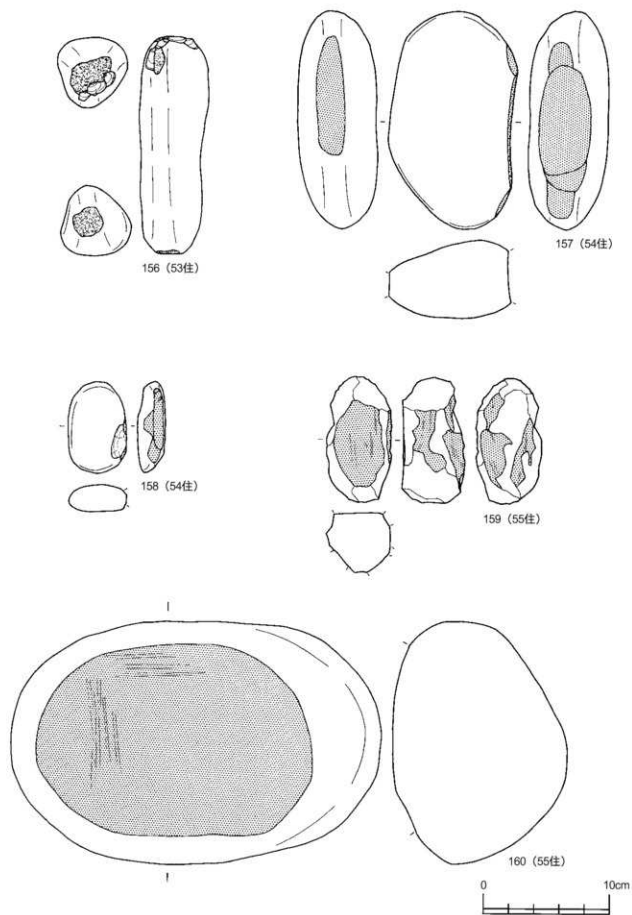
第145図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(23)



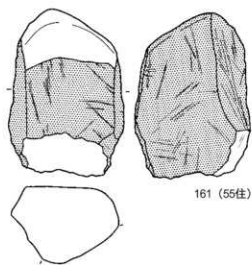
第146図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(24)



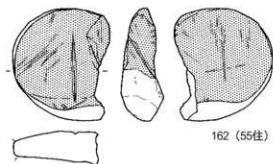
第147図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(25)



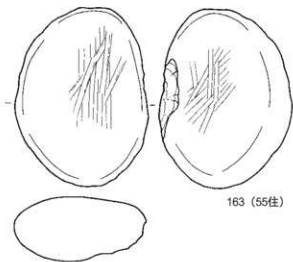
第148図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(26)



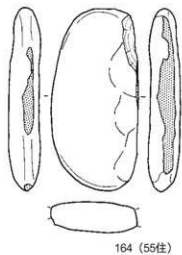
161 (55住)



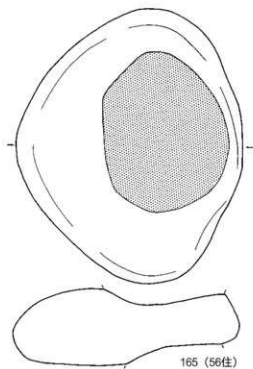
162 (55住)



163 (55住)



164 (55住)

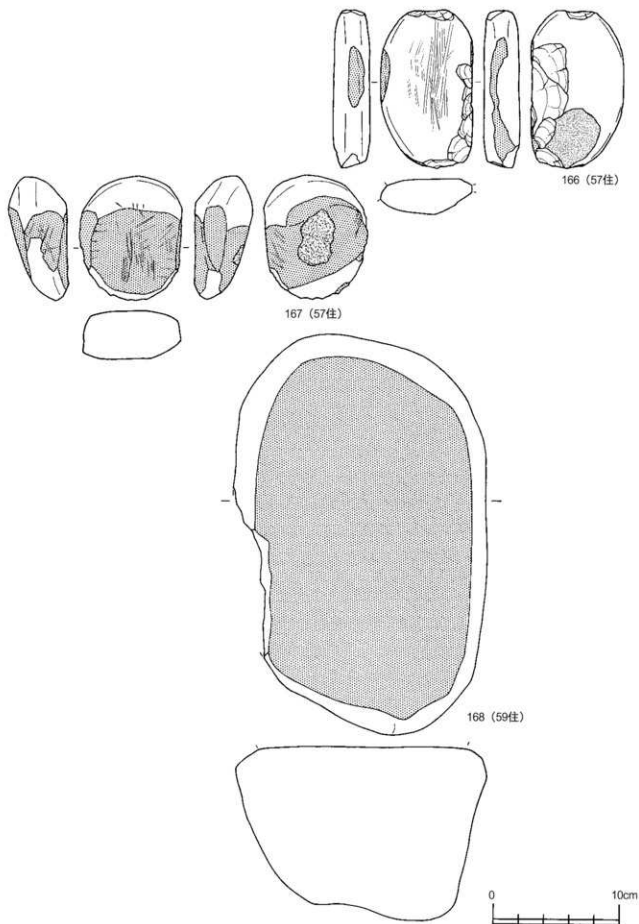


165 (56住)

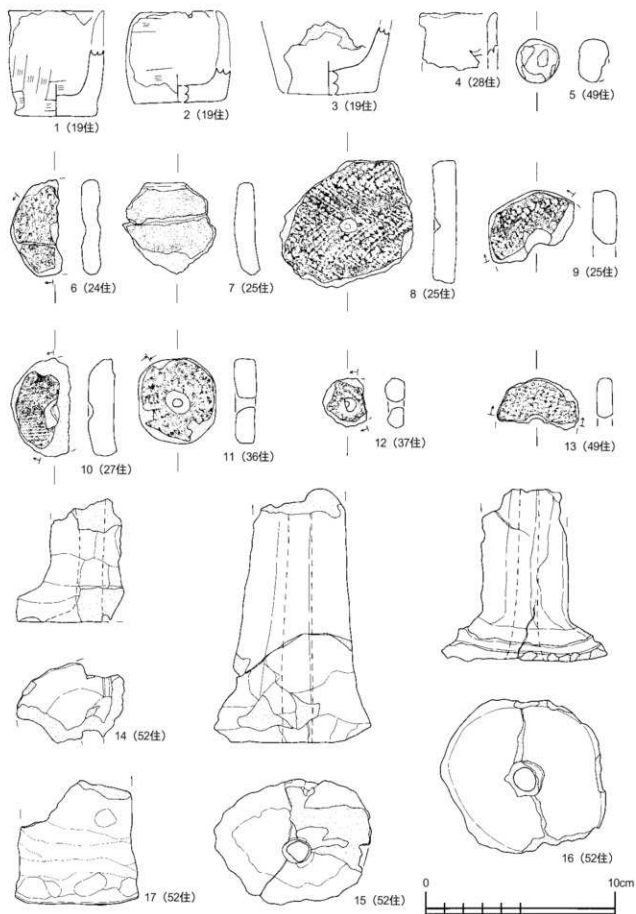


20cm 165
10cm その他

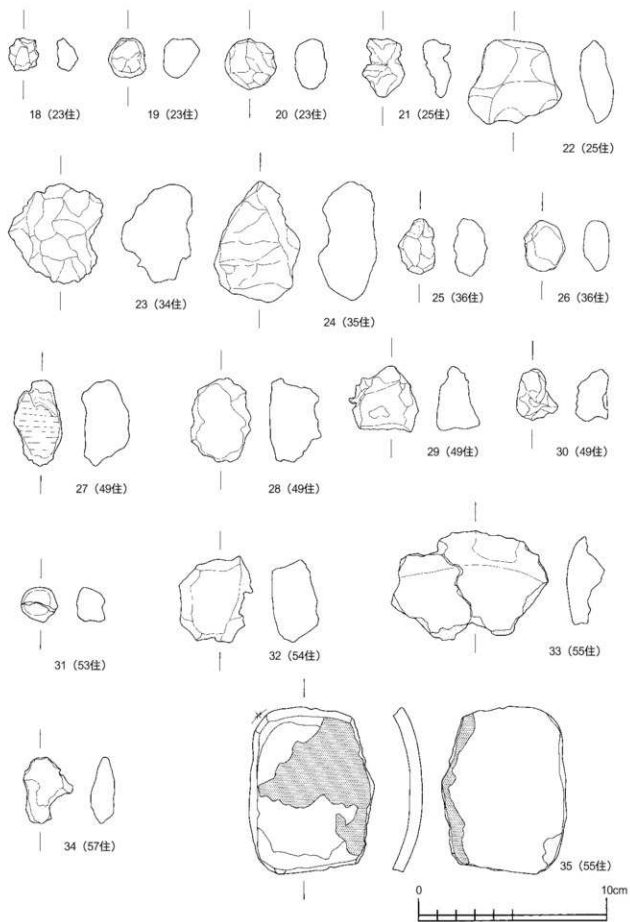
第149図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(27)



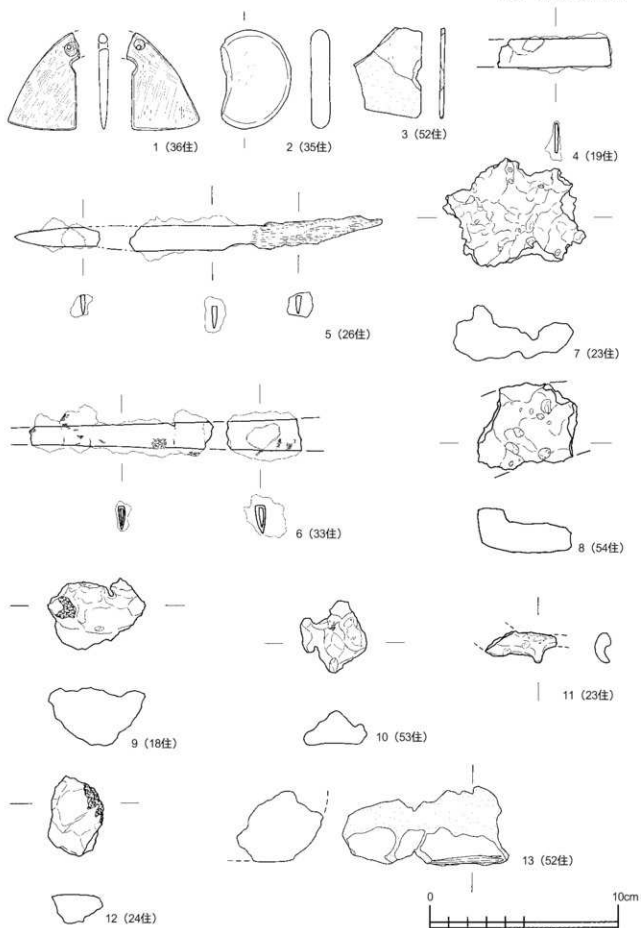
第150図 遺構内出土石器（竪穴住居跡）(28)



第151図 遺構内出土土製品（竪穴住居跡）(1)



第152図 遺構内出土土製品（竪穴住居跡）(2)



第153図 遺構内出土石製品・鉄関連遺物（竪穴住居跡）

2. 竪穴遺構

第2号竪穴遺構（第11図、第154図）

〔位置・確認層〕 A S・A T-123グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形はおおむね円形を呈する。規模は、355cm×346cmである。深さは、東壁が38cm、西壁が47cm、南壁が44cm、北壁が42cmである。

〔壁〕外側へ直線的に立ち上がる。

〔床〕大谷火山灰相当の第VI層を床面としている。若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

〔壁溝〕なし。

〔ピット・柱穴〕1基検出した。規模は48×46×14cmである。

〔付属施設〕なし。

〔覆土〕8層に分層した。覆土上位の第1～3層は攪乱層と思われる。覆土下位は、黒褐色土、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕土器は覆土より第II群5a類土器（第156図1）、第II群6類土器（第156図2、3）が出土している。石器は、覆土より石斧（第157図2）が出土している。

〔時期〕出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第3号竪穴遺構（第9図、第154図）

〔位置・確認層〕 A R・A T-106グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は攪乱により全容は不明だが、おおむね不整形円形を呈すると思われる。規模は、426cm×268cmである。深さは、東壁が74cm、西壁が40cm、南壁が56cm、北壁が60cmである。住居内側に段を有する。平面形は不整形円形を呈し、規模は208cm×202cmである。段の高さは、20～24cmである。

〔壁〕壁は外側へ直線的に立ち上がる。

〔床〕大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦である。また、内側にテラス状の段を有する。

〔壁溝〕なし。

〔ピット・柱穴〕1基検出した。規模は、ピット1が50×42×22cmである。

〔付属施設〕内側に段を確認した。段の壁は緩やかに立ち上がる。断底面は平面形が不整形円形を呈し、規模は、208×204×24cmを測る。底面はおおむね平坦である。

〔覆土〕11層に分層した。第1・2層に暗褐色土、第4層に黒褐色土、第5、6、8層にぶい黄褐色土が堆積する。段状の部分には暗褐色土が堆積する。段上部の第1～8層は攪乱層の可能性も考えられる。

〔出土遺物〕覆土より第II群5a類土器（第156図4）、第II群6類土器（第156図5、6）が出土している。石器は覆土より敲磨器（第157図3、4）が出土している。

〔時期〕遺物の出土は見られるが、攪乱の可能性も考えられ、時期は不明である。

（蝦名 純）

第4号竪穴遺構（第6図、第155図）

[位置・確認層] U-76、77グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第903号柱穴状ビット、第905号柱穴状ビット、第906号柱穴状ビット、第992号柱穴状ビット、第1004号柱穴状ビットと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 北西側について、壁、床等を明瞭に確認できなかったため、全容は不明である。平面形は、おおむね楕円形を基調とするものと思われる。確認できる最大幅は234cmである。深さは、南壁が62cmである。

[壁] 確認できる南壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[床] 月見野火山灰、大谷火山灰に相当する第VI層を床面としている。おおむね平坦であるが、南東側から北東側に向かって若干の傾斜が見られる。

[壁溝] 南西壁際と北東～東壁際で巡っている。南西壁際は幅10～20cm、深さ6cm、北東～東壁際は幅11～16cm、深さ5cmである。

[ビット・柱穴] なし。

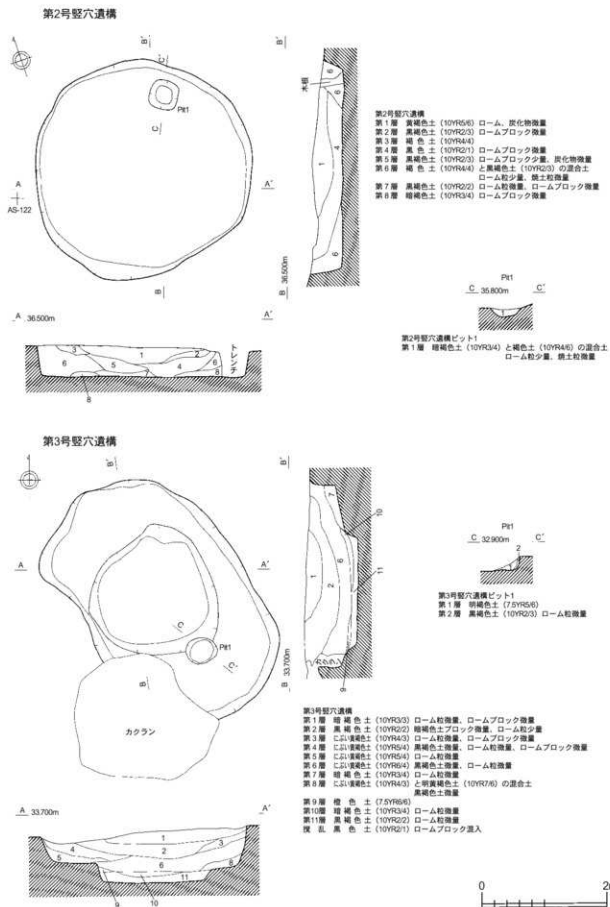
[付属施設] なし。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群5a類土器（第156図7、8）が出土している。石器は、第1層より剥片（第157図1）が2点出土している。

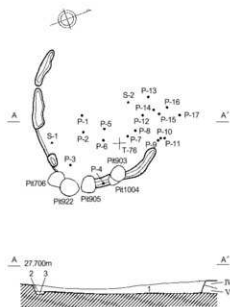
[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

（小野 貴之）

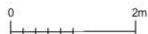


第154図 第2号竪穴遺構・第3号竪穴遺構

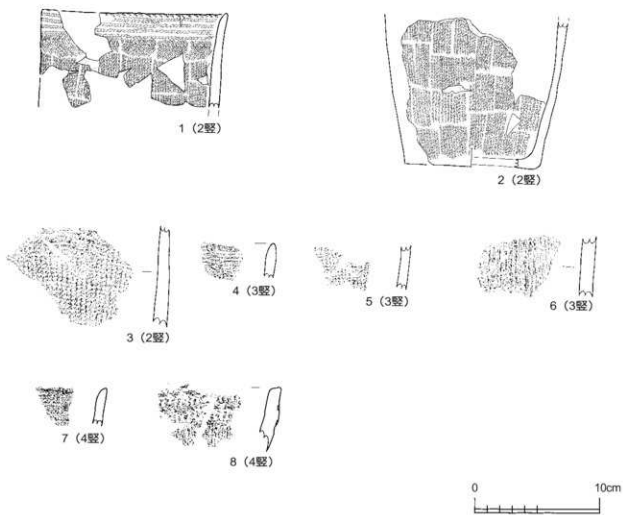
第4号竪穴遺構



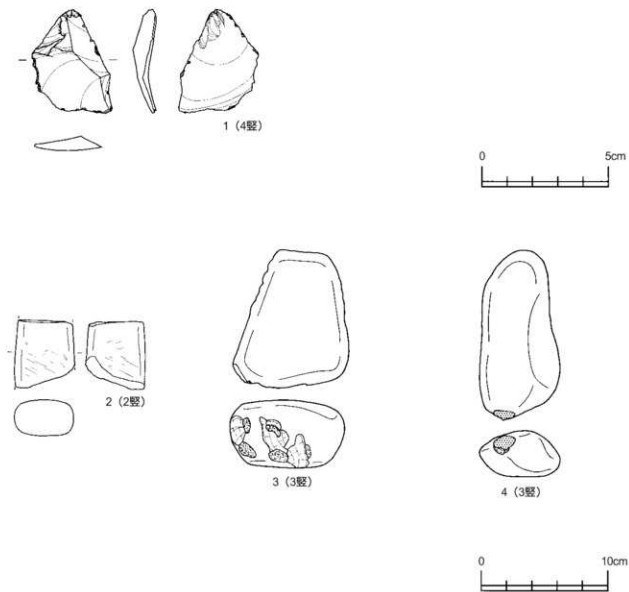
第4号竪穴遺構
 第1層 黄褐色土 (10YR3/3) □—△粒少量, 炭化粒微量, 焼土粒微量
 第2層 黄褐色土 (10YR3/3) □—△粒中量
 第3層 黄褐色土 (10YR2/3) □—△粒微量



第155図 第4号竪穴遺構



第156図 遺構内出土土器（竪穴遺構）



第157図 遺構内出土石器（竪穴遺構）

3. 土坑

第250号土坑（第10図、第158図）

[位置・確認層] S-130グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は長方形で、開口部で長軸138cm、短軸98cm、底面で長軸116cm、短軸80cm、深さは38cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。西壁及び南壁の一部に熱を受けた箇所が見られる。

[底面] 第VI層を底面としている。北側の一部に熱を受けた箇所が見られる。

[覆土] 5層に分層した。第2層、第5層が炭化物層である。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 炭化物以外の遺物は検出されなかった。

[時期] 炭化材の分析結果から近世の時期が考えられる。

第253号土坑（第5図、第158図）

[位置・確認層] A Q・A R-54グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第18号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な方形で、開口部は98cm×92cm、底面は90cm×84cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へやや緩やかに立ち上がる

[底面] おおむね平坦である。中央部に不整形を呈する落ち込みが見られる。重複する第18号竪穴住居跡煙道の残存部の可能性も考えられる。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。ローム粒、ロームブロック、焼土粒を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 重複関係から平安時代以降の時期が考えられる。

第254号土坑（第5図、第158図）

[位置・確認層] A R-54グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は長方形で、開口部は60cm×48cm、底面は56cm×40cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。北隅でピットを確認した。規模は25×23×5cmである。

[覆土] 2層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。第1層中にロームブロックを少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第255号土坑（第5図、第158図）

[位置・確認層] A R-57グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は66cm×56cm、底面は66cm×50cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、にぶい黄褐色土が堆積する。第2層中に十和田a火山灰を微量、ローム粒及びロームブロックを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第256号土坑（第11図、第158図）

[位置・確認層] A O-134、135グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は長方形で、開口部は112cm×84cm、底面は102cm×68cm、深さは25cmである。

[壁] 北壁がやや緩やかな角度で立ち上がる他、外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。黒色土が少量混入し、ロームブロックを少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第215図1）が出土している。

[時期] 不明である。

第257号土坑（第11図、第158図）

[位置・確認層] A P-135グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は74cm×64cm、底面は62cm×48cm、深さは18cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側に起伏が見られる他、北東側へ若干の傾斜が見られる。

[覆土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積する。第2層に褐色土が多量混入し、人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第258号土坑（第13図、第159図）

[位置・確認層] A P-144グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は56cm×48cm、底面は50cm×40cm、深さは44cmである。

[壁] ほぼ直角に近い角度で直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第259号土坑（第13図、第159図）

[位置・確認層] AG・AF-146グリッドに位置する。第VI層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は46cm×46cm、底面は44cm×44cm、深さは26cmである。
[壁] ほぼ直角に近い角度で直線的に立ち上がる。
[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。
[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第260号土坑（第13図、第159図）

[位置・確認層] AO-139グリッドに位置する。第VI層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は80cm×54cm、底面は52cm×22cm、深さは20cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 中央部は若干丸みを帯びる。
[覆土] 2層に分層した。第1層は攪乱層と思われる。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第261号土坑（第13図、第159図）

[位置・確認層] AL-135グリッドに位置する。第VI層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は102cm×96cm、底面は76cm×70cm、深さは20cmである。
[壁] 外側へやや緩やかな角度で立ち上がる。
[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。
[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5a類土器（第215図2、3）、第II群6類土器（第215図4）が出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第262号土坑（第11図、第159図）

[位置・確認層] AS-124、125グリッドに位置する。第VI層において確認した。
[重複] 第35号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は82cm×70cm、底面は84cm×80cm、深さは78cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。ロームブロックを少量含み、黒色土が混入する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉かそれ以前と思われる。

第263号土坑 (第11図、第159図)

[位置・確認層] AP-118グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は76cm×76cm、底面は66cm×62cm、深さは12cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 2層に分層した。黒色土と黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第264号土坑 (第13図、第159図)

[位置・確認層] AQ-142グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は144cm×124cm、底面は138cm×118cm、深さは32cmである。

[壁] ほぼ直角に近い角度で立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 8層に分層した。黒褐色土、褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第3、7層に褐色土が堆積し、黒褐色土、暗褐色土と交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第265号土坑 (第13図、第159図)

[位置・確認層] AO-142グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 本遺構は風倒木に壊されている。

[平面形・規模] 平面形は不整な長方形で、開口部は132cm×96cm、底面は120cm×88cm、深さは18cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 中央部へ若干の傾斜が見られる。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土、黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第266号土坑（第13図、第160図）

[位置・確認層] AN-143グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な長方形で、開口部は107cm×77cm、底面は95cm×63cm、深さは10cmである。

[壁] 南壁が緩やかに立ち上がる他、おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北壁側から南壁へ緩やかに傾斜している。

[覆土] 3層に分層した。第2層は炭化物層である。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第268号土坑（第13図、第160図）

[位置・確認層] AK-144、145グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は260cm×214cm、底面は214cm×198cm、深さは118cmである。

[壁] 東～西壁にかけて一部屈曲して立ち上がる。南壁側は内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 32層に分層した。褐色土主体に堆積する。覆土上層は、黒褐色土と褐色土が交互に堆積し、人為堆積と思われる。覆土下層及び壁際には壁崩落土と思われる褐色土が堆積する。覆土下層は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第33層より敲磨器（第243図104）が1点出土している。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第269号土坑（第13図、第160図）

[位置・確認層] AJ-144、145グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は220cm×194cm、底面は212cm×180cm、深さは152cmである。

[壁] 西～北壁が内側へオーバーハングして立ち上がる。南～東壁は一部屈曲し、外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 中央から東壁へ若干の傾斜が見られる。

[覆土] 16層に分層した。黒色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。覆土上層は黒色土と暗褐色土と褐色土の混合土が堆積し、人為堆積と思われる。覆土下層及び壁際には褐色土が堆積し、壁崩落土と思われ、自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第270号土坑（第9図、第161図）

[位置・確認層] AM-113、114グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は66cm×58cm、底面は170cm×164cm、深さは116cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 9層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。覆土下層は褐色土と、黒褐色土、暗褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第9、7層、覆土より第II群6類土器（第201図1、第215図5～9）が出土している。石器は、覆土より剥片が2点出土している。土製品は、第7、1層、覆土より焼成粘土塊（第257図10～13）が4点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第271号土坑（第9図、第161図）

[位置・確認層] AL-112、113グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は132cm×112cm、底面は212cm×212cm、深さは108cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、袋状を呈する。

[底面] 中央部にかけて若干の傾斜が見られる。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 13層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。覆土上層の第1層ににぶい黄褐色土が堆積し、覆土下層では黒褐色土と褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第II群5a類土器（第215図11、12）、第3層、覆土より第II群6類土器（第215図10、13～15）が出土している。石器は、覆土より不定形石器（第228図1）が1点、第11層、覆土より敲磨器（第243図105、106）が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第272号土坑（第9図、第161図）

[位置・確認層] AQ-112グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形で、開口部は82cm×80cm、底面は174cm×168cm、深さは124cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央部へかけて緩やかな傾斜が見られる。

[覆土] 12層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。第3層、第9層の黄褐色土は壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11層、覆土より第Ⅱ群5 a類土器(第215図16~20)、第Ⅱ群6類土器(第201図2、第215図21、22)、土師器(甕)(第227図1)が出土している。石器は第11層より不定形石器(第228図2)が1点、覆土より敲磨器(第243図107)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第273号土坑(第9図、第162図)

[位置・確認層] AM・AN-111、112グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は132cm×104cm、底面は164cm×156cm、深さは126cmである。

[壁] 北~北西側では底面上部でやや屈曲して立ち上がる他、内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、黒褐色土主体に堆積する。第6層は壁崩落土と思われる明黄褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5 a類土器(第215図25、27)、覆土より第Ⅱ群5 b類土器(第215図26)、底面、第7、1層、覆土より第Ⅱ群6類土器(第215図23、24、28)が出土している。石器は、第5層より敲磨器(第243図108)が1点出土している。土製品は、第1層より焼成粘土塊(第257図14)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第274号土坑(第9図、第162図)

[位置・確認層] AT-104、105、BA-104、105グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第363号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は東西方向に長い楕円形で、開口部は(568)cm×152cm、底面は(566)cm×150cm、深さは98cmである。

[壁] 南壁の東側の一部が外側へ直線的に立ち上がる他、内側へ若干オーバーハングして立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 5層に分層した。褐色土主体に堆積する。第2層にロームブロックが中量混入している。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1、3、4層より第Ⅱ群6類土器(第215図29~31)が出土している。石器は、第2層、覆土より不定形石器(第228図3~5)が3点、覆土よりその他の剥片(第228図6)が1点、第2、1層、覆土より剥片が31点、第2層より半円状扁平打製石器(第243図109)が1点、第1層より敲磨器(第243図110)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第275号土坑(第9図、第162図)

[位置・確認層] AT-101グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は46cm×44cm、底面は40cm×38cm、深さは8cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第276号土坑（第9図、第162図）

[位置・確認層] A S-101グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は70cm×66cm、底面は50cm×46cm、深さは56cmである。

[壁] ほぼ直角に近い角度で立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 3層に分層した。褐色土、黒褐色土と褐色土の混合土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第286号土坑（第13図、第163図）

[位置・確認層] A F-149、150グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は168cm×144cm、底面は200cm×190cm、深さは110cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 16層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群6類土器（第215図32）が出土している。石器は、覆土より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第287号土坑A（第13図、第163図）

[位置・確認層] A G-149グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第287号土坑Bと重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は54cm×(46)cm、底面は34cm×(26)cm、深さは36cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 2層に分層した。暗褐色土と褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1、2層よりIV群土器（第202図3、4）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期前葉と思われる。

第287号土坑B（第13図、第163図）

〔位置・確認層〕 A G-149グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 第287号土坑Bと重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、開口部は146cm×142cm、底面は226cm×214cm、深さは178cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 おおむね平坦である。

〔覆土〕 19層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。また、第287号土坑Bが埋められた後、第287号土坑Aが掘り込まれた可能性が考えられる。

〔出土遺物〕 土器は、第3層より第IV群土器（第215図33）が出土している。石器は、第3層より敲磨器が1点、覆土より剥片が1点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代後期と思われる。

第288号土坑（第13図、第164図）

〔位置・確認層〕 A G-149、150グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は120cm×118cm、底面は180cm×176cm、深さは106cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 おおむね平坦である。

〔覆土〕 16層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。壁際に壁崩落土と思われる褐色土が見られる。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、覆土より第II群5a類土器（第215図34）が出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊（第257図15～17）が3点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代後期と思われる。

第289号土坑（第13図、第164図）

〔位置・確認層〕 A F・A G-148グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、開口部は148cm×134cm、底面は224cm×216cm、深さは136cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 おおむね平坦である。

〔覆土〕 20層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。壁際に壁崩落土と思われる褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 石器は、第20層より石筥（第229図7）が1点、覆土より不定形石器（第229図8）が1点、剥片が1点出土している。

〔時期〕 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第290号土坑（第13図、第164図）

[位置・確認層] A I・A J-150、151グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第31号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は180cm×176cm、底面は214cm×210cm、深さは124cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。東壁で若干直線的に立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 27層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積し、褐色土は壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5 a類土器（第215図37）、第27層、覆土より第IV群土器（第202図5、第203図6、第215図35、36）、土師器（甕）（第227図2）が出土している。石器は、第27層より台石が1点、覆土より不定形石器が1点、石核が1点、剥片（第229図9、10）が27点出土している。土製品は、第27層よりミニチュア土器（第257図1）、覆土より土玉（第257図4）が1点、第27層、覆土より焼成粘土塊（第257図18、19）が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第291号土坑（第13図、第165図）

[位置・確認層] A K・A L-149、150グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整円形で、開口部は212cm×170cm、底面は212cm×206cm、深さは100cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。南壁際に底面ピットを有する。

[覆土] 27層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、褐色土は壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5 b類土器（第215図39）、第1層より第II群6類土器（第215図38）、覆土より第IV群土器（第215図40～42）が出土している。石器は、第27層より台石（第244図111）が1点、覆土より剥片が1点出土している。土製品は、覆土より土器片利用土製品（第257図6）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第292号土坑（第13図、第165図）

[位置・確認層] A F-147グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は78cm×64cm、底面は136cm×128cm、深さは66cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 6層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積する。覆土上層は第1、2層にロームが堆積し、人為堆積と思われる。覆土下層は暗褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第293号土坑（第13図、第165図）

[位置・確認層] A E-147グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第295号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は152cm×148cm、底面は148cm×148cm、深さは52cmである。

[壁] 一部外側へ直線的に立ち上がる他、おおむね内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 8層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。覆土下層の第6層中に十和田a火山灰が微量混入し、第7層ににぶい黄褐色土が堆積する。覆土上層は、黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。覆土上層は自然堆積、覆土下層は人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群5a類土器（第215図47）、第4、3、1層より第IV群土器（第203図7、8、第215図43～46、第216図48～50）が出土している。石器は、第1層より不定形石器（第229図12、13）が3点、その他の剥片（第230図14）が1点、剥片（第229図11、15）が12点、敲磨器（第244図112）が1点出土している。土製品は、第3、1層、覆土より焼成粘土塊（第258図20～22）が3点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期初頭と思われる。

第294号土坑（第13図、第166図）

[位置・確認層] A N・A O-146、147グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は256cm×170cm、底面は200cm×106cm、深さは40cmである。

[壁] 壁は北側の一部が緩やかに傾斜して立ち上がる他、おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 壁際から中央へ緩やかな傾斜が見られる。

[覆土] 6層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第216図51、52）、覆土より第IV群土器（第216図53）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第295号土坑（第13図、第166図）

[位置・確認層] A E・A F-147グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第293号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は106cm×(46)cm、底面は92cm×(42)cm、深さは14cm

である。

[壁] 壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第296号土坑 (第13図、第166図)

[位置・確認層] AG・AH-150、151グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第29号溝状土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は形で、開口部は296cm×(186)cm、底面は296cm×268cm、深さは202cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 59層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。壁際に壁崩落土と思われる褐色土、にぶい黄褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、覆土より剥片が1点、敲磨器 (第244図113) が1点、砥石 (第244図114) が1点出土している。

[時期] 重複関係、形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第297号土坑 (第13図、第167図)

[位置・確認層] AG-149グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は102cm×70cm、底面は92cm×70cm、深さは24cmである。

[壁] ほぼ直角に近い角度で立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群5a類土器 (第216図59)、第2層、第1層、覆土より第IV群土器 (第216図54～58) が出土している。石器は、第2層より敲磨器が1点、第1層より剥片が5点出土している。土製品は、第1層よりミニチュア土器 (第257図2) が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第298号土坑 (第11図、第167図)

[位置・確認層] AL-132グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は168cm×124cm、底面は146cm×106cm、深さは20cmである。

[壁] 壁は北東側が傾斜地のため不明だが、おおむね直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるが、おおむね平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第299号土坑（第13図、第167図）

[位置・確認層] AO-145、146グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第1号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は84cm×72cm、底面は68cm×50cm、深さは24cmである。

[壁] 壁は南東側で緩やかに立ち上がる他、おおむね直線的に立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 4層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第300号土坑（第5図、第167図）

[位置・確認層] BD-54グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は150cm×138cm、底面は204cm×194cm、深さは152cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 41層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。壁際に壁崩落土と思われる褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第301号土坑（第5図、第168図）

[位置・確認層] BE-54グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は120cm×100cm、底面は170cm×152cm、深さは88cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。西壁は直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるが、おおむね平坦である。

[覆土] 23層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第302号土坑（第5図、第168図）

[位置・確認層] BH-54、55グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は222cm×216cm、底面は240cm×204cm、深さは96cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 底面全体に起伏が見られる。

[覆土] 22層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より須恵器（坏）（第227図3）、第2層、覆土より土師器（坏）（第227図4、5）が出土している。石器は、第2層より敲磨器（第245図115）が1点出土している。鉄関連遺物は、第2層より羽口（第258図44）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より平安時代と思われる。

第303号土坑（第5図、第168図）

[位置・確認層] BC-57グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は83cm×43cm、底面は63cm×47cm、深さは24cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。西壁の一部は内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 5層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積する。第3層中に焼土ブロック、炭化物を多量含み、第5層中に多量の土師器片が見られる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、3層より土師器（甕）（第227図6～8）が出土している。

[時期] 出土遺物より平安時代と思われる。

第304号土坑（第5図、第168図）

[位置・確認層] BC-56、BD-56、57グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は88cm×68cm、底面は90cm×66cm、深さは36cmである。

[壁] 東壁は外側へ直線的に立ち上がる。北壁～南壁にかけて内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 3層に分層した。褐色土と暗褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第216図60）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第305号土坑（第5図、第169図）

[位置・確認層] BC-55、56、BD-55、56グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は120cm×114cm、底面は214cm×208cm、深さは166cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 18層に分層した。暗褐色土、明黄褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第17層より第Ⅱ群6類土器（第216図61）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第307号土坑（第14図、第169図）

[位置・確認層] BH-154グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は120cm×110cm、底面は122cm×108cm、深さは84cmである。

[壁] 一部内側へオーバーハングして立ち上がる他、ほぼ直角に近い角度で立ち上がる

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 5層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5a類土器（第216図62）、第Ⅳ群土器（第216図63）が出土している。石器は、第4層より敲磨器（第245図116）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第310号土坑（第9図、第169図）

[位置・確認層] AM-111、112グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第337号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は170cm×140cm、底面は190cm×186cm、深さは94cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央にかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 6層に分層した。黄褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。覆土上層ににぶい黄褐色土、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5層、覆土より第Ⅱ群5a類土器（第216図65～67）、第5層、覆土より第Ⅱ群6類土器（第216図64、68～70）、覆土より第Ⅳ群土器（第216図71）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第311号土坑（第9図、第169図）

[位置・確認層] AL-111グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は86cm×66cm、底面は140cm×128cm、深さは100cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 中央から北側へかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 10層に分層した。褐色土、暗褐色土主体に堆積する。覆土上層の第2～5層にぶい黄褐色土と褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第Ⅱ群5a類土器(第216図72)、覆土より第Ⅱ群6類土器(第216図73、74)が出土している。石器は、第9層より石皿(第245図117)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第313号土坑A(第9図、第170図)

[位置・確認層] AL-112グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第38号溝状土坑と重複し、本遺構が古い。また、第313C号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は224cm×174cm、底面は214cm×200cm、深さは130cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 21層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積する。褐色土は壁崩落土と思われ自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層、覆土より第Ⅱ群5a類土器(第216図75、78、79)、第Ⅱ群6類土器(第216図76、77、80)が出土している。石器は、第6層より砥石(第245図119)、第2層、覆土より敲磨器(第245図119)が2点、第2層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第313C号土坑(第9図、第170図)

[位置・確認層] AL・AM-112グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第313A号土坑、第38号溝状土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は210cm×(150)cm、底面は190cm×170cm、深さは116cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。北東壁で若干屈曲して立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 13層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積する。覆土上層から底面にかけて褐色土と暗褐色土、黒褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第Ⅱ群6類土器(第216図81)が出土している。石器は、第9、7、5、3層より敲磨器(第245図120、第246図121、123)が5点、第5層より半円状扁平打製石器(第246図122)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第314号土坑（第9図、第170図）

[位置・確認層] AM-112グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第368号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は190cm×138cm、底面は226cm×148cm、深さは120cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 14層に分層した。褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、覆土より石斧（第246図124）が1点出土している。

[時期] 重複関係等より縄文時代前期末葉かそれ以前と思われる。

第316号土坑（第9図、第171図）

[位置・確認層] AN・AO-113、114グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第339号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は92cm×88cm、底面は124cm×108cm、深さは104cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、袋状を呈する。

[底面] 南側から北側へ緩やかな傾斜が見られる。

[覆土] 10層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器（第216図82）、第Ⅳ群土器（第216図83）が出土している。石器は、第1層より剥片（第230図16）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第317号土坑（第9図、第171図）

[位置・確認層] AO-114グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は98cm×88cm、底面は174cm×154cm、深さは132cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 10層に分層した。黒褐色土、明黄褐色土、褐色土主体に堆積する。覆土上層の第5層は明黄褐色土が厚く堆積する。また、覆土下層は、褐色土と暗褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5層より第Ⅱ群5a類土器（第203図10、第216図85）、第Ⅱ群5b類土器（第203図9）、第6層、覆土より第Ⅱ群6類土器（第216図84、86）が出土している。石器は、第10層より石皿（第246図125）が1点、覆土より不定形石器（第230図17）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第319号土坑（第9図、第171図）

〔位置・確認層〕 A P・A Q-113グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は164cm×138cm、底面は202cm×192cm、深さは118cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 おおむね平坦である。

〔覆土〕 20層に分層した。黒色土、黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第19、15、13、6層、覆土より第II群6類土器（第204図11）が出土している。石器は、第19層より敲磨器（第246図126）が1点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第325号土坑（第11図、第172図）

〔位置・確認層〕 A S-119、120、A T-119グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 第326号土坑と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は194cm×158cm、底面は190cm×174cm、深さは108cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 おおむね平坦である。

〔覆土〕 15層に分層した。暗褐色土、褐色土、黒褐色土主体に堆積する。覆土下層は褐色土と、暗褐色土、黒褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第15、5、2層、覆土より第II群5 a類土器（第204図12、13、第216図87、89、90、92）、第15、2層、覆土より第II群6類土器（第217図88、91、93、94）が出土している。石器は、第11、2、覆土より剥片が3点、第2層、覆土より不定形石器（第230図18、19）が3点、第15層より敲磨器（第247図127）が1点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊（第258図24）が1点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第326号土坑（第11図、第172図）

〔位置・確認層〕 A S-119グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 第325号土坑と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は(140)cm×158cm、底面は198cm×194cm、深さは120cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 中央から東側へかけて若干の傾斜が見られる。

〔覆土〕 16層に分層した。暗褐色土、黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第9層、覆土より第II群5 a類土器（第217図95）、第8層、覆土より第II群5 b類土器（第205図14、第217図97）、第4層より第II群6類土器（第217図96）が出土している。石器は、

第13層より半円状扁平打製石器（第247図128）が1点、覆土より剥片が1点、敲磨器（第247図129）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第327号土坑（第11図、第172図）

[位置・確認層] AR・AQ-119グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第354号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は(156)cm×134cm、底面は164cm×(162)cm、深さは130cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 12層に分層した。黒褐色土主体に堆積する。覆土下層の第11層には明褐色土が堆積し、壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5A類土器（第217図98～100）、第II群6類土器（第217図101～104）が出土している。石器は、覆土より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第328号土坑（第9図、第172図）

[位置・確認層] AO-116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は126cm×126cm、底面は122cm×120cm、深さは30cmである。

[壁] 全体として若干内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 8層に分層した。暗褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。第1層及び第8層ににぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第8、3層より剥片が2点出土している。

[時期] 不明である。

第329号土坑（第9図、第173図）

[位置・確認層] AO・AN-115、116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は90cm×82cm、底面は84cm×78cm、深さは22cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 中央から東側へ若干の傾斜が見られる。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土、黄褐色土、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群6類土器が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第330号土坑（第9図、第173図）

〔位置・確認層〕A O-116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕第358号柱穴状ビットと重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形で、開口部は44cm×36cm、底面は38cm×32cm、深さは4cmである。

〔壁〕外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕おおむね平坦である。

〔覆土〕黒褐色土が堆積する。ローム粒を中量、ロームブロックを少量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕土器は、覆土より第II群5a類土器（第217図108）、第II群6類土器（第217図105、106）、第IV群土器（第217図107）が出土している。

〔時期〕不明である。

第331号土坑（第9図、第173図）

〔位置・確認層〕A N-115グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は円形で、開口部は86cm×80cm、底面は78cm×72cm、深さは22cmである。

〔壁〕外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕平坦である。

〔覆土〕3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積する。第2層中にロームブロックを少量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕土器は、覆土より第II群6類土器（第217図109）が出土している。

〔時期〕出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第332号土坑（第9図、第173図）

〔位置・確認層〕A N-116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形で、開口部は100cm×84cm、底面は96cm×74cm、深さは12cmである。

〔壁〕外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕平坦である。

〔覆土〕黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

第333号土坑（第9図、第173図）

〔位置・確認層〕A N-116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形で、開口部は90cm×78cm、底面は80cm×66cm、深さは14cmであ

る。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 中央から北東側へ緩やかな傾斜が見られる。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。ローム粒、ロームブロックを少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第334号土坑（第9図、第173図）

[位置・確認層] AN-114グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第359号柱穴状ビットと重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な方形で、開口部は100cm×86cm、94cm×82cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 中央から北東側へ若干の傾斜が見られる。中央東寄りで底面ビットを有する。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土が堆積する。底面ビット第1層は、第3層に相当すると思われる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群6類土器（第217図110、111）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第335号土坑（第9図、第173図）

[位置・確認層] AL-114、115グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第360号柱穴状ビットと重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は160cm×140cm、底面は140cm×128cm、深さは24cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるが、おおむね平坦である。

[覆土] 5層に分層した。黒褐色土、にぶい黄褐色土主体に堆積する。第2、3層中にロームブロックを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、1層より第II群5a類土器（第217図112、113）、第1層、覆土より第II群6類土器（第217図114、115）が出土している。石器は、第1層より敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第336号土坑（第9図、第173図）

[位置・確認層] AL-115、116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は96cm×84cm、底面は82cm×76cm、深さは20cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 2層に分層した。黒褐色土と褐色土が堆積する。第2層中に黒色土が混入し、ロームブロック

を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器(第217図116)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第337号土坑(第9図、第173図)

[位置・確認層] AM-111、112グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] 第310号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は128cm×(76)cm、底面は108cm×(72)cm、深さは28cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側に起伏が見られる他、おおむね平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉がそれ以前と思われる。

第338号土坑(第9図、第174図)

[位置・確認層] AL-116グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] 第19号埋設土器遺構、第34号溝状土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は166cm×130cm、底面は(122)cm×94cm、深さは63cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。溝状土坑との重複部分で若干の起伏が見られる。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土と黒褐色土主体に堆積する。第1～3層中にロームブロックを少量～中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第Ⅱ群6類土器(第217図117、118)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構の重複関係より、縄文時代前期後半と思われる。

第339号土坑(第9図、第174図)

[位置・確認層] AO-113、114グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] 第316号土坑と重複し、本遺構が古い

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は114cm×80cm、底面は176cm×172cm、深さは148cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 21層に分層した。黒褐色土、明黄褐色土、暗褐色土主体に堆積する。明黄褐色土は壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6層、覆土より第Ⅱ群5a類土器(第217図120、122)、第15、2層より第Ⅱ群6類土器(第217図119、121)が出土している。石器は、第17層より敲磨器が1点、第15層、覆土より剥片が4点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第344号土坑（第9図、第174図）

[位置・確認層] A Q-114グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は156cm×(128)cm、底面は210cm×194cm、深さは132cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 15層に分層した。黄褐色土、褐色土、黒褐色土主体に堆積する。覆土上層から下層にかけて黄褐色土、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第15、9層より第II群5 a類土器（第217図123、124、第218図129）、第15、11層、覆土より第II群5 b類土器（第205図15、第218図126、127）、第15層、覆土より第II群6類土器（第218図125）、覆土より第IV群土器（第218図128）が出土している。石器は、第15、13層より敲磨器（第247図130）が2点、第11層より剥片が1点、石皿（第247図131）が1点出土している。土製品は、第15層より焼成粘土塊（第258図25、26）が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第346号土坑（第9図、第174図）

[位置・確認層] A P・A Q-118グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は70cm×64cm、底面は60cm×54cm、深さは6cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ緩やかな傾斜が見られる。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第218図130）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第348号土坑（第13図、第175図）

[位置・確認層] A K-146グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は176cm×156cm、底面は196cm×136cm、深さは128cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 23層に分層した。黒褐色土、褐色土、暗褐色土主体に堆積する。覆土上層は黒褐色土が堆積する。覆土上層から覆土下層にかけてロームが堆積し、壁崩落土と思われる。ロームは第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。覆土最下層に暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第349号土坑（第14図、第175図）

[位置・確認層] B E・B F-155グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は(66)cm、底面は(60)cm、深さは14cmである。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 平坦である。また、南壁際で熱を受けた箇所を確認した。

[覆土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。第1層中に焼土ブロック、炭化粒を微量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、確認面より土師器（甕）(第227図9)、土師器（壺）(第227図10)が出土している。

[時期] 出土遺物より平安時代と思われる。

第350号土坑（第13図、第175図）

[位置・確認層] A F・A G-148グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は228cm×194cm、底面は134cm×114cm、深さは178cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央にかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 20層に分層した。黒褐色土、褐色土、暗褐色土主体に堆積する。覆土上層は黒褐色土が堆積する。覆土上層から覆土下層にかけてロームが堆積し、壁崩落土と思われる。ロームは第VI層下位の大谷火山灰出自と思われる。覆土最下層に暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第351号土坑（第13図、第176図）

[位置・確認層] A D・A E-150グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な半円形で、開口部の最長部は216cm、底面の最長部は216cm、深さは134cmである。

[壁] 内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 20層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第18層、覆土より第IV群土器（第218図131、132）が出土している。石器は、第13層より敲磨器（第247図132）が1点、石皿（第247図133）が1点、第11層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期前葉と思われる。

第353号土坑（第11図、第176図）

[位置・確認層] AR-119グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は92cm×78cm、底面は80cm×66cm、深さは28cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 3層に分層した。褐色土と暗褐色土が堆積する。第1層中にロームブロックを中量、第3層中にロームブロックを少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第354号土坑（第11図、第176図）

[位置・確認層] AR-119グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第327号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は170cm×150cm、底面は192cm×186cm、深さは148cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 19層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、褐色土主体に堆積する。覆土下層は褐色土と黒褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第13、8、3層より第II群6類土器（第218図133～135）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第355号土坑（第11図、第176図）

[位置・確認層] AT-119、120グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は100cm×90cm、底面は214cm×204cm、深さは102cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央にかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第4層より第II群5b類土器（第218図137）、第7、3、2層より第II群6類土器（第218図136、138、139）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第356号土坑（第11図、第177図）

[位置・確認層] A T-120、121グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は132cm×120cm、底面は248cm×236cm、深さは142cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 平坦である。

[覆土] 8層に分層した。黒褐色土と明黄褐色土主体に堆積する。第3層はロームで覆土上層から下層にかけて厚く堆積する。覆土最下層に黒褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第2層より台石（第248図134）が1点出土している。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

第357号土坑（第9図、第177図）

[位置・確認層] A T-100グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は66cm×64cm、底面は62cm×50cm、深さは60cmである。

[壁] ほぼ直角に近い角度で立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第1層中にローム粒を中量含み、第2、3層にローム粒を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第218図140）が出土している。土製品は、第1層よりミニチュア土器（第257図3）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第358号土坑（第9図、第177図）

[位置・確認層] B A-105グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は72cm×64cm、底面は68cm×60cm、深さは6cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。褐色土が少量混入している。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第218図141）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第359号土坑（第9図、第177図）

[位置・確認層] A T-102グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は64cm×58cm、底面は58cm×46cm、深さは32cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土とぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器（第218図142）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第361号土坑（第9図、第177図）

[位置・確認層] A T・B A-103、104グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は76cm×64cm、底面は62cm×46cm、深さは50cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 4層に分層した。暗褐色土、黒褐色土が堆積する。第2、3層中にロームブロックを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器（第218図143）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第362号土坑（第9図、第177図）

[位置・確認層] A T-104グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は110cm×92cm、底面は176cm×172cm、深さは84cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 13層に分層した。暗褐色土、黒褐色土主体に堆積する。覆土上層の第3、4層中にロームブロックを含む。覆土下層は黒褐色土主体に堆積する。覆土上層は人為堆積、覆土下層は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5 a類土器（第218図145、146）、第12層より第Ⅱ群6類土器（第218図144）が出土している。石器は、第11層より敲磨器が1点、第12層より不定形石器（第230図20）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第363号土坑（第9図、第178図）

[位置・確認層] A T-104グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第274号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は48cm×44cm、底面は52cm×34cm、深さは66cmであ

る。

[壁] おおむね外側へ直線的に立ち上がるが、北壁は屈曲して立ち上がる。

[底面] 北側から南側へかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 10層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。覆土下層の第8層に黒褐色土が混入し、第9層中にロームブロックを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器(第218図147、148)が出土している。石器は、覆土より、石篋(第231図21)が1点、剥片が1点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊(第258図27、28)が2点出土している。

[時期] 重複関係及び出土遺物より、縄文時代前期末葉と思われる。

第364号土坑(第178図)

[位置・確認層] B A-97グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は64cm×50cm、底面は52cm×38cm、深さは6cmである。

[壁] おおむね外側へ緩やかに立ち上がるが、西壁はほぼ直角に近い角度で立ち上がる。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。焼土粒、焼土ブロックを多量含み、人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第365号土坑(第9図、第178図)

[位置・確認層] A Q・A R-114グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は116cm×96cm、底面は182cm×160cm、深さは100cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏は見られるがおおむね平坦である。

[覆土] 13層に分層した。黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土主体に堆積する。覆土全体に炭化粒、炭化物を含むロームが堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5a類土器(第218図149、150)、第Ⅱ群6類土器(第218図151)が出土している。石器は、覆土より敲磨器(第248図135)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第366号土坑(第9図、第178図)

[位置・確認層] A P・A Q-115、116グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第37号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は204cm×174cm、底面は190cm×170cm、深さは124cm

である。

[壁] 北～西壁は外側へ直線的に立ち上がるが、南～東壁は内側へ若干オーバーハングして立ち上がる。

[底面] 平坦である。

[覆土] 8層に分層した。にぶい黄褐色土、黒色土、黒褐色土、明黄褐色土が堆積する。明黄褐色土と黒褐色土、黒色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 重複関係より縄文時代前期末葉がそれ以前と思われる。

第367号土坑（第9図、第179図）

[位置・確認層] AM・AN-113グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第368号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は148cm×136cm、底面は202cm×202cm、深さは118cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 17層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。第13層にロームが堆積し、壁崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11層より第II群5a類土器（第218図153、154）、第13、5、1層より第II群6類土器（第218図152、155、156）が出土している。石器は、第13、1層より不定形石器（第231図22、23）が2点、第14、10、2層より敲磨器（第248図136）が3点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第368号土坑（第9図、第179図）

[位置・確認層] AM-112、113、AN-113グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第314号土坑、第367号土坑と重複し、本遺構は第314号土坑より新しく、第367号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は(94)cm×92cm、底面は154cm×150cm、深さは106cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央にかけて若干の傾斜が見られる。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、黄褐色土主体に堆積する。第3層中に焼土ブロック及び土器の出土が見られ、第3層下位の第4層にはロームが比較的厚く堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層、覆土より第II群5a類土器（第218図157、161）、第2層より第II群5b類土器（第218図160）、第3層、覆土より第II群6類土器（第206図16、第218図158、159）が出土している。石器は、覆土より石匙（第231図24）が1点、敲磨器（第248図137、138）が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第370号土坑（第11図、第179図）

[位置・確認層] AM・AN-125グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は140cm×118cm、底面は104cm×(40)cm、深さは9cmである。

[壁] 北～南壁は外側へ直線的に立ち上がる。東壁は緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側はおおむね平坦である。中央から北東側へ傾斜が見られる。

[覆土] 2層に分層した。黒色土と黒褐色土が堆積する。第1層中に炭化粒を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5a類土器（第218図162）が出土している。土製品は、覆土より土器片利用土製品（第257図7）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第371号土坑（第5図、第179図）

[位置・確認層] BB-69グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は132cm×110cm、底面は214cm×200cm、深さは132cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] おおむね平坦である。

[覆土] 11層に分層した。暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土主体に堆積する。覆土全体に黄褐色土及び褐色土が混合する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形状より縄文時代の可能性が考えられる。

（蝦名 純）

第372号土坑（第13図、第180図）

[位置・確認層] AH-144・145グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は97cm×78cm、底面は72cm×70cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の傾斜が見られる。

[覆土] 黒褐色土が堆積し、壁際にロームブロックを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第373号土坑（第12図、第180図）

[位置・確認層] L・M-131グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は57cm×42cm、底面は38cm×28cm、深さは16cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 2層に分層した。黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層より敲磨器（第249図139）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第378号土坑（第8図、第180図）

[位置・確認層] L-103グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は123cm×113cm、底面は118cm×108cm、深さは11cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 壁側から中央へ向かう若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第219図163）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第379号土坑（第8図、第180図）

[位置・確認層] L・M-102グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は163cm×143cm、底面は160cm×142cm、深さは12cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群5a類土器（第219図164）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第380号土坑（第8図、第180図）

[位置・確認層] L-102・103グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は127cm×126cm、底面は129cm×128cm、深さは23cmである。

[壁] 北壁は外側へ直線的に立ち上がる。南壁は内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第Ⅱ群5 a類土器（第219図166、167）が、第3層より第Ⅱ群6類土器（第219図165）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第382号土坑（第6図、第180図）

[位置・確認層] N-89グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は138cm×99cm、底面は134cm×120cm、深さは96cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 10層に分層した。黒褐色土、暗褐色土と黄褐色土、明褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第10、9、4、3層より第Ⅱ群5 a類土器（第207図17、18、第219図168、171、172）が、第9、5層より第Ⅱ群6類土器（第219図169、170）が出土している。石器は、第10層より不定形石器（第232図25、26）が2点、剥片が2点、敲磨器が1点、第9層より台石・石皿が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第384号土坑（第6図、第181図）

[位置・確認層] M・N-88グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は95cm×84cm、底面は175cm×164cm、深さは65cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 6層に分層した。第5層は、崩落土と思われ、覆土下位は自然堆積の可能性が考えられる。覆土上位は、遺物が廃棄されており、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、3、2層より第Ⅱ群5 b類土器（第207図19、第219図173～175）が、第1層より第Ⅱ群6類土器（第219図176）が出土している。石器は、覆土より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第385号土坑（第6図、第181図）

[位置・確認層] L-88グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は100cm×94cm、底面は91cm×80cm、深さは37cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。南西壁はやや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 4層に分層した。黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第Ⅱ群6類土器（第219図177）が出土している。

石器は第3層より石錐（第232図27）が1点、挟入扁平磨製石器（第249図140）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第386号土坑（第7図、第181図）

[位置・確認層] AD・AE-89グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は102cm×69cm、底面は85cm×56cm、深さは22cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。底面中央部と北壁の間に底面ピットを有する。

[覆土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より土師器片が出土している。

[時期] 出土遺物より平安時代と思われる。

第387号土坑（第7図、第181図）

[位置・確認層] AD・AE-89グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は74cm×72cm、底面は114cm×97cm、深さは62cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第Ⅱ群5a類土器（第219図178、179）が出土している。石器は、第3層より剥片が1点、第1層より不定形石器、剥片が各1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第388号土坑（第7図、第181図）

[位置・確認層] AC・AD-89・90グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は130cm×103cm、底面は168cm×149cm、深さは70cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁側から中央へ向かう若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 9層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積するが、第1、5、6層は同一個体土器を包含し、第3層には、焼土の廃棄が認められる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、6、5、4、3、1層より第Ⅱ群5a類土器（第207図20、第219図181、182、185、186、189）が、第8、5、4、3、2層より第Ⅱ群6類土器（第219図180、183、184、187、188）が出土している。石器は、第8層より不定形石器（第232図28）が1点、剥片が3点、第7層より石匙（第232図29）、不定形石器、剥片が各1点、第6、3層より剥片が各1点、第1層より不定形石器が1点出土している。土製品は、第3層より焼成粘土塊（第258図29）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第389号土坑（第7図、第181図）

[位置・確認層] AC-88グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は98cm×90cm、底面は88cm×78cm、深さは37cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 4層に分層した。暗褐色土と褐色土、黄褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器（第219図190）が出土している。石器は、第1層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第390号土坑（第7図、第182図）

[位置・確認層] AB-87・88グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は122cm×104cm、底面は92cm×92cm、深さは69cmである。

[壁] 東壁は外側へ直線的に立ち上がる。西壁は外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 9層に分層した。黒褐色土、暗褐色土と褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第Ⅱ群5a類土器（第219図191）、第4層より第Ⅱ群6類土器（第219図192）が出土している。石器は、第7層より敲磨器が1点、第6層より剥片が2点、覆土より石匙（第232図31）が1点、不定形石器（第233図32）が1点、剥片が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第391号土坑（第7図、第182図）

[位置・確認層] AB-88グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は84cm×78cm、底面は107cm×73cm、深さは75cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲しフラスコ状を呈する。南東壁、北西壁は一部外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東壁から西壁にむかう若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 7層に分層した。黒褐色土、暗褐色土と褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第Ⅱ群5 a類土器(第208図21)が、第7、5、2層より第Ⅱ群6類土器(第219図193~195)が出土している。石器は第6層より石核が1点、第5層より敲磨器(第249図141)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第392号土坑(第6図、第182図)

[位置・確認層] T・AA-87・88グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第1079号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は163cm×151cm、底面は169cm×160cm、深さは113cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲しフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。

[覆土] 11層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積するが、第11層を主体として、多量の遺物が廃棄されており、人為堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第11層より第Ⅱ群5 a類土器(第208図22~24、第209図26、27)が、第11層より第Ⅱ群6類土器(第209図28、第249図142)が出土している。石器は第11層より不定形石器(第233図34)が1点、剥片が1点、砥石が1点、第9層より石匙(第233図34)が1点、剥片が3点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊(第258図30、31)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第395号土坑(第6図、第182図)

[位置・確認層] R・S-86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は170cm×85cm、底面は135cm×59cm、深さは46cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北西壁から南東壁に向かう傾斜が見られる。

若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。中央北寄りに底面ピットを有する。

[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積するが、埋納された状況で遺物が出土しており、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5 a類土器(第210図29)が出土している。石器は、第3層より石鎌(第233図35~39)が5点、石匙(第233図40)が1点、磨製石斧(第250図143、144)が2点、台石・石皿(第250図145)が1点、第2層より石鎌(第234図47~51)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第413号土坑（第7図、第183図）

〔位置・確認層〕 A D-84グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は106cm×95cm、底面は85cm×78cm、深さは18cmである。

〔壁〕 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕 壁側から中央へ向かう緩やかな傾斜が見られる。

〔覆土〕 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第1層より第II群6類土器（第219図200）が出土している。

石器は、第1層より半円状扁平打製石器（第250図146）が1点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第418号土坑A（第7図、第183図）

〔位置・確認層〕 A C-86・87グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 第418号土坑Bと重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 平面形、開口部規模、底面規模は不明で、深さは84cmである。

〔壁〕 残存部は、内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲しフラスコ状を呈する。

〔底面〕 残存部は、壁側から中央へ若干の傾斜が見られる。

〔覆土〕 5層に分層した。暗褐色土主体に堆積し、第2、3層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第5、4、1層より第II群6類土器（第220図202～204）が出土している。石器は、第5層より不定形石器が1点、剥片が1点、第1層より敲磨器（第250図147）が1点、覆土より剥片が1点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第418号土坑B（第7図、第183図）

〔位置・確認層〕 A C-86・87グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 第418号土坑Aと重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は138cm×86cm、底面は141cm×131cm、深さは138cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。一部の壁は開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がる。

〔底面〕 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

〔覆土〕 15層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第13、14層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第3、2層より第II群5 a類土器（第220図211、212）が、第11、8、6層より第II群5 b類土器（第220図207、209、210）が、第17、16、9層より第II群6類土器（第220図205、206、

208) が出土している。石器は、第10層より不定形石器 (第234図52) が2点、第8、5層より剥片が各1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第419号土坑 (第7図、第183図)

[位置・確認層] AC・AD-85・86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は159cm×114cm、底面は194cm×140cm、深さは113cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 16層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第11、16層は崩落土の可能性が考えられるが、第14層中に個体土器を包含しており、人為堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第14、9、8、5、2層より第II群5a類土器 (第210図30、第220図213、215、216、219、222)、第15、10、7、6、4、3、1層より第II群6類土器 (第220図214、217、218、220、221、223) が出土している。石器は、第14層より石匙 (第234図53) が1点、第12層より不定形石器が1点、剥片が1点、第9層より半円状扁平打製石器が1点、第8層より剥片が1点、第7層より不定形石器が1点、第5層より剥片が2点、敲磨器 (第250図148) が1点、第4層より剥片が1点、第3層より剥片が1点、第2層より不定形石器 (第234図55、第235図56) が2点、剥片が1点、半円状扁平打製石器 (第251図149) が1点、覆土より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第420号土坑 (第7図、第184図)

[位置・確認層] AB-86グリッドに位置する。第55号竪穴住居跡床面において確認した。

[重複] 第55号竪穴住居跡、第421号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な方形で、開口部は長軸幅220cm、短軸幅195cm、底面は長軸幅240cm、短軸幅228cm、深さは80cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。底面中央部と北壁隅に各1基の底面ピットを有する。

[覆土] 18層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、ロームを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第17、15、12層より第II群5a類土器 (第220図224、226、227) が、第16、6、2層より第II群6類土器 (第220図225、228、229) が出土している。石器は、第15層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第421号土坑 (第7図、第184図)

[位置・確認層] AB-85・86グリッドに位置する。第55号竪穴住居跡床面において確認した。

[重複] 第55号竪穴住居跡、第420号土坑と重複し、本遺構は、第420号土坑より新しく、第55号竪穴住

居跡より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は154cm×118cm、底面は204cm×185cm、深さは88cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央部に若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 21層に分層した。各層ブロック状に堆積し、第1層、第6層には焼土が見られる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第21、10、7、3、1層より第Ⅱ群5a類土器（第220図230、231、234、237、238）が、第9、8、7、6、2層より第Ⅱ群6類土器（第220図232、233、235、236）が出土している。石器は、第10層より敲磨器が1点、第8層より敲磨器が1点、第7層より台石・石皿が1点、第2層より不定形石器（第235図57）が1点出土している。土製品は、第2層より土器片利用土製品（第257図8）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第430号土坑（第6図、第184図）

[位置・確認層] AA-85グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は76cm×70cm、底面は70cm×70cm、深さは46cmである。

[壁] 南東壁は外側へ直線的に立ち上がる。北西壁は内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 西壁から東壁に向かう若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層より不定形石器（第235図58）が1点、敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第433号土坑（第6図、第185図）

[位置・確認層] AA-83グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は62cm×56cm、底面は39cm×31cm、深さは29cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 壁際から中央へ向かう若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第434号土坑（第6図、第185図）

[位置・確認層] T・AA-83・84グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は136cm×122cm、底面は140cm×93cm、深さは33cmで

ある。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。南東壁際、中央部北西よりに各1基の底面ピットを有する。

[覆土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群5a類土器（第221図242）、第2層より第Ⅱ群6類土器（第221図241）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第485号土坑（第7図、第185図）

[位置・確認層] AB-78グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は95cm×86cm、底面は82cm×72cm、深さは17cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器（第221図244）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第486号土坑（第7図、第185図）

[位置・確認層] AB-78・79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第1186号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は92cm×89cm、底面は74cm×68cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第488号土坑（第7図、第185図）

[位置・確認層] AA・AB-79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は116cm×92cm、底面は82cm×76cm、深さは12cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器（第221図245、246）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第489号土坑（第7図、第185図）

[位置・確認層] AA-78グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は81cm×63cm、底面は63cm×50cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第490号土坑（第7図、第185図）

[位置・確認層] AA-79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は75cm×62cm、底面は50cm×40cm、深さは15cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 2層に分層した。暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群6類土器が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第491号土坑（第6図、第185図）

[位置・確認層] T-79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は132cm×132cm、底面は122cm×119cm、深さは23cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 2層に分層した。暗褐色土、褐色土主体が堆積する。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群5a類土器（第221図247）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第497号土坑（第6図、第186図）

[位置・確認層] R-77グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は104cm×93cm、底面は136cm×124cm、深さは156cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。一部の壁はさらに外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 22層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積するが、第18層中に見られる個体土器や第8層に見られる炭化物からは人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第21、18、8、5、1層より第Ⅱ群5a類土器（第210図31、第221図250、251、255、257）が、第22、13、11、10、3層より第Ⅱ群6類土器（第221図249、252～254、256）が出土している。石器は、第18層より挟入扁平磨製石器（第251図150）が1点、第1層より剥片が1点出土している。土製品は、覆土よりイチジク型土製品（第257図5）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第498号土坑（第6図、第186図）

[位置・確認層] M-73グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第499号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は114cm×104cm、底面は130cm×116cm、深さは86cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 8層に分層した。覆土中位から下位はロームが厚く堆積しており、人為堆積と思われるが、覆土上位については、自然堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第Ⅱ群5a類土器（第221図258）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第499号土坑（第6図、第186図）

[位置・確認層] M-73グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第498号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は89cm×26cm、底面は79cm×23cm、深さは13cmである。

[壁] 残存部は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉ないしそれ以前と思われる。

第501号土坑（第6図、第186図）

[位置・確認層] N-75グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は101cm×99cm、底面は125cm×116cm、深さは60cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 7層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第1層の黄褐色土は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5a類土器(第221図261)が、第3、2層より第Ⅱ群6類土器(第221図259、260)が出土している。石器は、第3層より敲磨器(第251図151)が1点、台石・石皿(第251図152)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第502号土坑(第6図、第187図)

[位置・確認層] M-76・77グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長118cm、底面は最長74cm、深さは100cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲しフラスコ状を呈する。

[底面] 中央から外側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 8層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第4層中のロームブロックは、崩落土の可能性も考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器が出土している。

石器は、覆土より剥片が1点、敲磨器(第251図153)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第504号土坑(第6図、第187図)

[位置・確認層] M・N-77、78グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は113cm×108cm、底面は197cm×182cm、深さは131cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲しフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 15層に分層した。覆土中位から下位にはロームブロックが見られ、上位には焼土が見られる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第12、11、4、2層より第Ⅱ群5a類土器(第221図266、268~270)が、第14、13、11層より第Ⅱ群6類土器(第221図264、265、267)が出土している。石器は、第12層より不定形石器(第235図59)が1点、剥片が1点、第2層より石匙(第236図60)が1点、剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第508号土坑（第6図、第187図）

[位置・確認層] M-79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長205cm、底面は最長201cm、深さは166cmである。

[壁] 全体として外側へ屈曲して立ち上がる。一部の壁はやや内側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 11層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、暗褐色土にはロームブロックが含まれる。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11層より第II群5 a類土器（第221図271）が、第11、8、6、3、2、1層より第II群6類土器（第221図272～279）が出土している。石器は、第11層より剥片が4点、第5層より敲磨器が1点、第2層より不定形石器（第236図61）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第509号土坑（第6図、第187図）

[位置・確認層] N-79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径158cm、底面は長径162cm、深さは49cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 6層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積するが、第2層にロームが堆積しており、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第II群5 a類土器（第222図281）が、第6、2、1層より第II群6類土器（第222図280、282、283）が出土している。石器は、第6層より不定形石器（第236図62）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第512号土坑（第6図、第188図）

[位置・確認層] O-79グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は106cm×105cm、底面は130cm×127cm、深さは58cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 7層に分層した。褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第6層より不定形石器（第236図63）が1点、第5層より不定形石器が1点、その他の剥片石器が1点出土している。鉄関連遺物は、第5層より腕形鍛冶滓（第258図45）が1点出土し

ている。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第514号土坑（第6図、第188図）

[位置・確認層] O-79、80グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は69cm×66cm、底面は156cm×154cm、深さは150cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 5層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5層より第II群5 a類土器（第222図284）、第II群7類土器（第226図455）が出土している。石器は、第5層より敲磨器が1点、台石・石皿（第251図154）が1点、第4層より不定形石器（第237図64）が1点、敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第515号土坑（第6図、第188図）

[位置・確認層] M-80グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は256cm×230cm、底面は280cm×188cm、深さは109cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。北西壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 9層に分層した。覆土下位は褐色土が堆積し、人為堆積と思われる。覆土上位は暗褐色土主体に堆積し、自然堆積の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第8、4層より第II群5 a類土器（第222図286、291）が、第9、7、6、5、4、2、1層より第II群6類土器（第222図285、287～290、292、293）が出土している。石器は、第9層より不定形石器が2点、剥片が1点、第8層より剥片が1点、第6層より石篋（第237図65）が1点、第5層より剥片が1点、第4層より不定形石器が3点、剥片が1点、第3層より剥片が1点出土している。土製品は、第5層より焼成粘土塊（第258図32）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第516号土坑（第6図、第188図）

[位置・確認層] Q-79・80グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第517号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は101cm×89cm、底面は90cm×70cm、深さは16cmであ

る。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[覆土] 褐色土が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期後半ないしそれ以降と思われる。

第517号土坑（第6図、第189図）

[位置・確認層] Q-79・80グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第516号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は138cm×99cm、底面は124cm×186cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群6類土器（第222図294）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第518号土坑（第6図、第189図）

[位置・確認層] N・O-81グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な長方形で、開口部は長軸幅139cm、短軸幅102cm、底面は長軸幅123cm、短軸幅79cm、深さは30cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群5a類土器（第210図32）が出土している。石器は、第1層より石鏃（第237図66）が1点、石槍（第237図67）が1点、石匙（第237図68）が1点、挟入扁平磨製石器（第252図155）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第519号土坑（第6図、第189図）

[位置・確認層] O-81グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は70cm×58cm、底面は66cm×51cm、深さは20cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 中央から壁際へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第526号土坑（第6図、第189図）

[位置・確認層] N-82グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は117cm×85cm、底面は103cm×75cm、深さは26cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層より敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第527号土坑（第6図、第189図）

[位置・確認層] O-83グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は139cm×122cm、底面は189cm×181cm、深さは118cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 6層に分層した。黒褐色土、暗褐色土と褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4、3、2層より第II群5a類土器（第222図296～299）が、第6層より第II群6類土器（第222図295）が出土している。石器は、第6層より不定形石器（第238図69）が1点、剥片が1点、石核が1点、第5層より敲磨器（第252図156）が1点、第4層より敲磨器（第252図157）が1点、台石・石皿（第252図158）が1点、第3層より不定形石器が1点、第2層より敲磨器（第252図159）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第528号土坑（第6図、第190図）

[位置・確認層] P-83グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は199cm×194cm、底面は224cm×200cm、深さは117cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ビットを有し、また、おおむね南北方向並びに東西方向に十字状に溝が見られる。

[覆土] 12層に分層した。覆土下層には明褐色土も堆積するが崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、2層より第Ⅱ群5 a類土器（第222図303、306）が、第10、7、6、4、3層より第Ⅱ群6類土器（第222図300～302、304、305）が出土している。石器は、第7層より石核が1点、第5層よりその他の剥片石器が1点、剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第531号土坑（第6図、第190図）

[位置・確認層] P・Q-84グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は160cm×119cm、底面は200cm×187cm、深さは132cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。北西壁は開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。底面中央南西寄りに底面ピットを有する。

[覆土] 18層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第15、10、7、6、4層より第Ⅱ群5 a類土器（第222図307、310、312、第223図313、315）が、第14、11、9、5、3層より第Ⅱ群6類土器（第222図308、309、311、第223図314、316、317）が出土している。石器は、第14層より不定形石器（第238図70）が1点、剥片が2点、敲磨器（第252図160）が2点、第13層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第532号土坑（第6図、第190図）

[位置・確認層] P-84グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は114cm×86cm、底面は127cm×125cm、深さは72cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 5層に分層した。暗褐色土と褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第Ⅱ群5 a類土器（第223図320）が、第4、3層、覆土より第Ⅱ群6類土器（第223図318、319）が出土している。石器は、第2層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第533号土坑（第6図、第191図）

[位置・確認層] Q-84・85グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な方形で、開口部は長軸幅106cm、短軸幅144cm、底面は長軸幅170cm、短軸幅164cm、深さは116cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。底面中央に1基、また、底面中央から南西壁際にかけて1基、計2基の底面ピットを有する。

[覆土] 10層に分層した。10層中に見られる個体土器や第1層に厚く堆積する褐色土から人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第10、9、7、5層より第Ⅱ群5a類土器(第211図33、第223図324～326)が、第10、9、6、4、2、1層より第Ⅱ群6類土器(第223図321～323、327～330)が出土している。石器は、第10層より剥片が1点、第9層より半円状扁平打製石器(第253図161)が1点、第8層より敲磨器が1点、第7層より剥片が1点、第3層より敲磨器(第253図162)が1点、第1層より不定形石器(第238図71)が1点、剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第535号土坑(第6図、第191図)

[位置・確認層] P-85グリッドに位置する。第16号溝跡底面において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は129cm×108cm、底面は127cm×126cm、深さは78cmである。

[壁] 南壁は内側へオーバーハングして立ち上がる。北壁は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 7層に分層した。褐色土、黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第Ⅱ群5a類土器(第211図34)、第7、3層より第Ⅱ群6類土器(第223図331、332)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第537号土坑(第6図、第191図)

[位置・確認層] O・P-85グリッドに位置する。第16号溝跡底面において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は158cm×122cm、底面は150cm×134cm、深さは45cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。一部の壁はやや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 11層に分層した。暗褐色土、褐色土が堆積し、暗褐色土はロームブロックを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器(第223図333)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第539号土坑（第6図、第191図）

〔位置・確認層〕 R-86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は113cm×105cm、底面は137cm×121cm、深さは92cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

〔底面〕 南側から北側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

〔覆土〕 13層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積するが、第13層など廃棄された状況で遺物が出土しており、人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第4、3、2層より第II群5 a類土器（第211図35、第223図337、338）が、第11、8、4、3、1層より第II群6類土器（第223図334～336、339）が出土している。石器は、第12層より石匙（第238図72）が1点、剥片が1点、第11層より敲磨器が1点、第9層より不定形石器が1点、剥片が1点、敲磨器が2点、半円状扁平打製石器（第253図163）が2点、第8層より不定形石器が1点、第3層より不定形石器（第238図73）が1点、第2層より敲磨器（第253図164）が1点出土している。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第545号土坑（第6図、第192図）

〔位置・確認層〕 N-86グリッドに位置する。第16号溝跡底面において確認した。

〔重複〕 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は86cm×72cm、底面は77cm×64cm、深さは11cmである。

〔壁〕 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 北東側から南西側へ傾斜が見られる。

〔覆土〕 黄褐色土が堆積し、ロームブロックを多量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 遺構間の重複関係より平安時代ないしそれ以前と思われる。

第548号土坑（第6図、第192図）

〔位置・確認層〕 N-88グリッドに位置する。第VI層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は99cm×84cm、底面は160cm×140cm、深さは77cmである。

〔壁〕 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

〔底面〕 ほぼ平坦である。中央東寄りに底面ピットを有する。

〔覆土〕 4層に分層した。褐色土、黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 土器は、第2層より第II群5 a類土器（第223図344）が、第9、6、3、2層より第II群

6類土器（第223図340～343）が出土している。石器は、第4層より不定形石器が1点、剥片が3点、第3層より不定形石器が1点、剥片が1点、第2層より剥片が1点、覆土より剥片が2点、第1層より敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第549号土坑（第6図、第192図）

[位置・確認層] M・N-86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は182cm×113cm、底面は185cm×133cm、深さは116cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。一部の壁は、さらに開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 13層に分層した。暗褐色土主体に堆積し、第3層中のロームブロック、第7、9、11層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第14、9層より第II群5 a類土器（第223図347、350）が、第17層より第II群5 b類土器（第223図345）が、第16、11、10、8、4、3、1層より第II群6類土器（第223図346、348、349、351～354）が出土している。石器は、第6層より剥片が2点、第4層より剥片が1点、覆土より剥片が3点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第551号土坑（第6図、第192図）

[位置・確認層] L・M-86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は131cm×84cm、底面は124cm×73cm、深さは36cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 3層に分層した。褐色土、黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5 a類土器（第211図36）、石器は第2層より石匙（第239図74）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第552号土坑（第6図、第192図）

[位置・確認層] M・N-86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は71cm×56cm、底面は56cm×43cm、深さは16cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 2層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第553号土坑（第6図、第193図）

[位置・確認層] M-85、86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は239cm×236cm、底面は225cm×218cm、深さは118cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に1基、中央東寄りに1基、計2基の底面ピットを有する。

[覆土] 16層に分層した。黒褐色土、暗褐色土と褐色土、黄褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第14、13、9、8、6、5、2層より第II群5a類土器（第224図357、358、361～364、366）が、第16、12、11、5層より第II群6類土器（第223図356、第224図359、360、365）が出土している。石器は、第5層より不定形石器が1点、剥片が1点、半円状扁平打製石器が1点出土している。土製品は第3層より土器片利用土製品（第257図9）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第554号土坑（第6図、第192図）

[位置・確認層] L-85・86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は115cm×77cm、底面は102cm×66cm、深さは21cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 3層に分層した。褐色土、黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は第3層より石鏃（第239図75、76）が2点、石槍（第239図77、78）が2点、石錐（第240図79）が1点、石匙（第240図80）が1点、磨製石斧（第253図165）が1点、第1層より磨製石斧（第253図166）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第555号土坑（第6図、第193図）

[位置・確認層] K・L-84・85グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は271cm×260cm、底面は272cm×262cm、深さは100cm

である。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に段構造を有する1基、南西壁際並びに北東壁寄りに各1基、計3基の底面ピットを有する。また、中央底面ピットから南壁際にかけて1条の溝を有する。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、褐色土、黄褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、6、5、4、1層より第Ⅱ群5a類土器（第212図38、第224図368、370、371、374）が、第7、6、1層より第Ⅱ群5b類土器（第211図37）、第7、5、3、2、1層より第Ⅱ群6類土器（第224図367、369、372、373、375）が出土している。石器は、第5層より剥片が1点、敲磨器が1点、半円状扁平打製石器（第253図167）が1点、第4層より不定形石器が2点、微細が2点、剥片が8点、敲磨器（第253図168）が3点、砥石（第254図169）が1点、第2層より石鏃（第240図81）が1点、第2層より剥片が2点、第2層より敲磨器（第254図170）が1点、第1層より石鏃（第240図82）が1点、微細が1点、剥片が10点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第556号土坑（第6図、第194図）

[位置・確認層] K-83・84グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は194cm×188cm、底面は219cm×204cm、深さは128cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、壁中位で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 10層に分層した。褐色土、黄褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、2、1層より第Ⅱ群5a類土器（第212図39、第224図378～380）が、第6、5層より第Ⅱ群6類土器（第224図376、377）が出土している。石器は、第10層より磨製石斧（第254図171）が1点、敲磨器が1点、第1層より敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第557号土坑（第6図、第194図）

[位置・確認層] K-86グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は120cm×90cm、底面は110cm×78cm、深さは30cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 4層に分層した。褐色土、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器（第224図381）が出土している。石器は第2層より剥片

が1点、磨製石斧（第254図172）が1点、敲磨器（第254図173）が1点、覆土より敲磨器が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第558号土坑（第6図、第194図）

[位置・確認層] K-86・87グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は75cm×55cm、底面は63cm×42cm、深さは11cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は覆土より剥片が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第559号土坑（第6図、第194図）

[位置・確認層] I-85・86グリッドに位置する。第53号竪穴住居跡床面において確認した。

[重複] 第53号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は102cm×90cm、底面は156cm×154cm、深さは75cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 10層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第II群5a類土器（第224図385）が、第8、6、3、2層より第II群6類土器（第224図382～384）が出土している。石器は第10層より敲磨器が1点、第6層より敲磨器（第254図174）が2点、台石・石皿が1点、覆土より不定形石器が1点、剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第560号土坑（第6図、第195図）

[位置・確認層] Q・R-85グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は152cm×150cm、底面は158cm×153cm、深さは41cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ビットを有する。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土、黄褐色土が堆積し、第3層中には多量の遺物が廃棄された状況で包含される。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第Ⅱ群5 a類土器（第224図386）が、第1層より第Ⅱ群6類土器（第224図387）が出土している。石器は、第3層より敲磨器が2点、半円状扁平打製石器が1点、挟入扁平磨製石器（第254図175）が1点、石皿・台石（第254図176）が1点、第1層より敲磨器（第255図177）が1点、台石・石皿が2点、覆土より敲磨器が2点、台石・石皿が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第561号土坑（第6図、第195図）

[位置・確認層] P・Q-83グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は203cm×193cm、底面は202cm×191cm、深さは120cmである。

[壁] 北壁は外側へ直線的に立ち上がる。南壁は内側へオーバーハングして立ち上がり全体として袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。底面中央に段構造を有する底面ビットを有する。また、中央から南壁際にかけて1条の溝が見られる。

[覆土] 17層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、第3層、第16層、第17層のロームは崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第16、15、13、11、10、9、6、4、3、2層より第Ⅱ群6類土器（第224図388～393、第225図394～396）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第565号土坑（第6図、第195図）

[位置・確認層] J-84グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は68cm×61cm、底面は63cm×56cm、深さは22cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器（第225図397）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第566号土坑（第6図、第196図）

[位置・確認層] I-84グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長86cm、底面は最長80cm、深さは80cmである。

[壁] 全体としてやや内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第568号土坑（第6図、第196図）

[位置・確認層] R-85グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は93cm×90cm、底面は85cm×74cm、深さは53cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5a類土器（第212図40）が出土している。石器は、第1層より石鏃（第240図83～85）が3点、石錐（第240図86）が1点、磨製石斧（第255図178）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第569号土坑（第6図、第196図）

[位置・確認層] AA-88・89グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は140cm×130cm、底面は168cm×160cm、深さは122cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] 壁際から中央へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。中央に底面ピットが見られる。また、中央からおおむね北、東、西、南東、南西の各壁際へ計5条の溝が見られる。

[覆土] 14層に分層した。暗褐色土、褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第13、12、9、6、4層より第II群5a類土器（第225図399、400、403、406、408、409）が、第14、11、10、8、7、5、3、2層より第II群6類土器（第225図398、401、402、404、405、407、410、411）が出土している。石器は、第13層より敲磨器が1点、第11層より敲磨器（第255図179、180）が2点、第8層より半円状扁平打製石器が1点、台石・石皿が1点、第5層より剥片が1点、第2層より剥片が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第571号土坑（第6図、第196図）

[位置・確認層] Q・R-86・87グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下にお

いて確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は171cm×151cm、底面は183cm×169cm、深さは57cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央北東寄りに底面ピットを有する。

[覆土] 10層に分層した。暗褐色土、褐色土が堆積する。覆土中位から下位は褐色土が堆積し、覆土上位の第1層暗褐色土は炭化物を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、1層より第Ⅱ群5 a類土器（第225図412、414）が、第3層より第Ⅱ群6類土器（第225図413）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第572号土坑（第6図、第197図）

[位置・確認層] T-84・85グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は107cm×89cm、底面は122cm×120cm、深さは63cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] 壁際から中央へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、1層より第Ⅱ群5 a類土器（第212図41、第225図415～419）が、第4、3、2層より第Ⅱ群6類土器（第225図416～418）が出土している。石器は、第3層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第573号土坑（第6図、第197図）

[位置・確認層] P・Q-85グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は83cm×64cm、底面は180cm×168cm、深さは110cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。底面中央に底面ピットを有する。

[覆土] 12層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11、10、8層より第Ⅱ群5 a類土器（第225図420、422）、第2層より、第Ⅱ群

5b類土器(第225図424)、第11、10、8、1層より第Ⅱ群6類土器(第213図42、第225図421、423、425)が出土している。石器は、第10層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第575号土坑(第7図、第197図)

[位置・確認層] AC-85・86グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] 第576号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は102cm×81cm、底面は143cm×124cm、深さは103cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 10層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、第5層、第9層はロームブロックを、第6層は炭化物を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、2層、覆土より第Ⅱ群5a類土器(第225図426、429、431)、第6、3、1層より第Ⅱ群6類土器(第226図427、428、430)が出土している。石器は、第9層より敲磨器が1点、第7層より石匙(第240図87)が1点、半円状扁平打製石器(第255図181)が1点、第6層より敲磨器が2点、第2層より敲磨器(第255図182)が1点、覆土より石匙(第241図88)が1点、不定形石器(第241図89)が1点、剥片が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第576号土坑(第7図、第197図)

[位置・確認層] AC-85グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] 第575号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は105cm×109cm、底面は116cm×120cm、深さは73cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 10層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第9、6、3層より第Ⅱ群5a類土器(第226図432、433、435)が、第5、1層より第Ⅱ群6類土器(第226図434、436)が出土している。石器は、第6層から石錐(第241図90)が1点、剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第577号土坑(第6図、第198図)

[位置・確認層] O-88・89グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は87cm×78cm、底面は140cm×137cm、深さは99cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、壁中位で上方に屈曲し、さらに開口部付近で外側へ屈曲して立ち上がりフラスコ状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 7層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第Ⅱ群5 a類土器(第226図438)が、第1層より第Ⅱ群5 b類土器(第226図441)が、第8、4、2層より第Ⅱ群6類土器(第226図437、439、440)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第579号土坑(第6図、第198図)

[位置・確認層] P・Q-79・80グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は147cm×121cm、底面は138cm×122cm、深さは36cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。南西壁は、外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 5層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第Ⅱ群5 a類土器(第226図444)が、第4層より第Ⅱ群5 b類土器(第226図442)、第3層より第Ⅱ群6類土器(第226図443)が出土している。石器は、第4層より剥片が1点、第2層より不定形石器(第241図91)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第580号土坑(第6図、第198図)

[位置・確認層] K-84・85グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下において確認した。

[重複] 第586号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は183cm×118cm、底面は209cm×198cm、深さは135cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲しフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央に底面ピットを有する。

[覆土] 23層に分層した。暗褐色土、褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4、1層より第Ⅱ群5 a類土器(第226図445、447)が、第3層より第Ⅱ群5 b類土器(第226図446)出土している。石器は、覆土より石匙(第241図92)が1点、不定形石器が2点、剥片が8点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第581号土坑（第6図、第198図）

[位置・確認層] M-87グリッドに位置する。第16号溝跡底面において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は136cm×119cm、底面は148cm×142cm、深さは50cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 3層に分層した。暗褐色土と褐色土が交互に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第3層より石鏃（第241図93～97）が5点、磨製石斧が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第583号土坑（第6図、第199図）

[位置・確認層] O-87グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は127cm×117cm、底面は117cm×101cm、深さは31cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。北西壁際に底面ピットを有する。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層より石匙（第242図98）が1点出土している。土製品は、第1層より焼成粘土塊（第258図33）が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代と思われる。

第584号土坑（第6図、第199図）

[位置・確認層] M-80グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長152cm、底面は最長178cm、深さは104cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がり袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。壁際を巡る1条の溝が見られる。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土、黄褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群5a類土器（第226図448）が出土している。石器は、覆土より不定形石器（第242図99）が2点、その他の剥片石器が1点、剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第585号土坑（第6図、第199図）

[位置・確認層] L-83・84グリッドに位置する。第VI層において風倒木痕と思われる攪乱下において

確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は127cm×122cm、底面は179cm×174cm、深さは84cmである。

[壁] 全体として内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。中央東寄りに底面ピットを有する。

[覆土] 4層に分層した。褐色土主体に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5b類土器(第226図450)が、第2層より第Ⅱ群6類土器(第226図449)が出土している。石器は、第4層より石匙(第242図100)が1点、不定形石器(第242図101)が1点、剥片が2点、第1層より敲磨器が2点、覆土より剥片が1点、挟入扁平磨製石器(第256図184)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第586号土坑(第6図、第199図)

[位置・確認層] J・K-84・85グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] 第580号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は265cm×203cm、底面は250cm×186cm、深さは86cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部の壁は内側へオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で外側へ屈曲し立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。

[覆土] 7層に分層した。暗褐色土主体に堆積し、褐色土は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群5a類土器(第226図451)が出土している。石器は、覆土より不定形石器が1点、剥片が1点、敲磨器(第256図185)が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉と思われる。

第587号土坑(第6図、第200図)

[位置・確認層] AA-91グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は68cm×61cm、底面は59cm×54cm、深さは16cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器(第226図452)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第588号土坑(第6図、第200図)

[位置・確認層] T-89グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は65cm×59cm、底面は57cm×50cm、深さは11cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器(第226図453)が出土している。石器は、第1層より剥片が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第590号土坑(第6図、第200図)

[位置・確認層] S-83グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] 第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は62cm×55cm、底面は49cm×47cm、深さは10cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第Ⅱ群6類土器(第214図45)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

第591号土坑(第6図、第200図)

[位置・確認層] Q-90グリッドに位置する。第Ⅵ層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は102cm×66cm、底面は97cm×56cm、深さは12cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

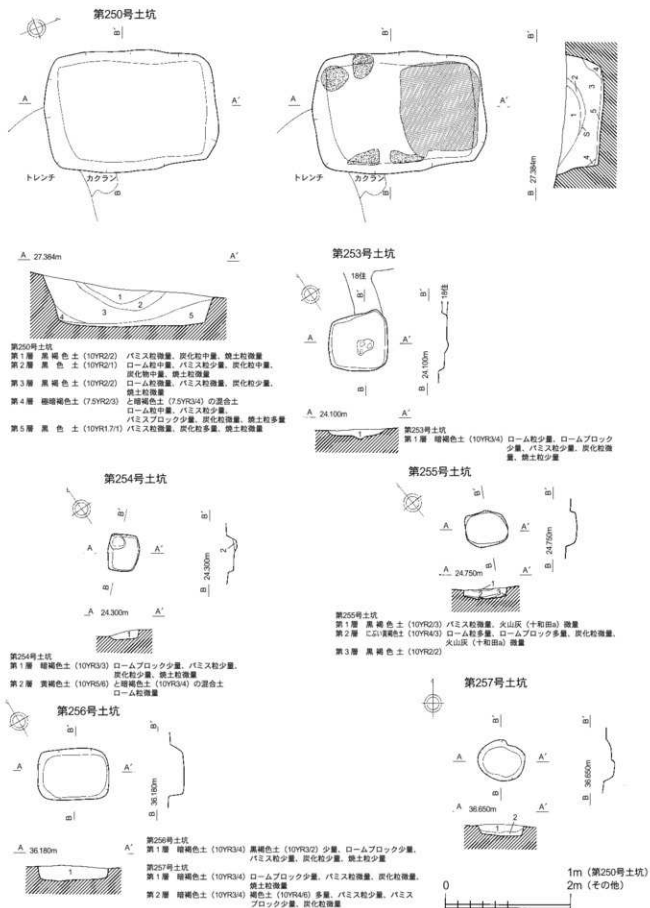
[底面] ほぼ平坦である。

[覆土] 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

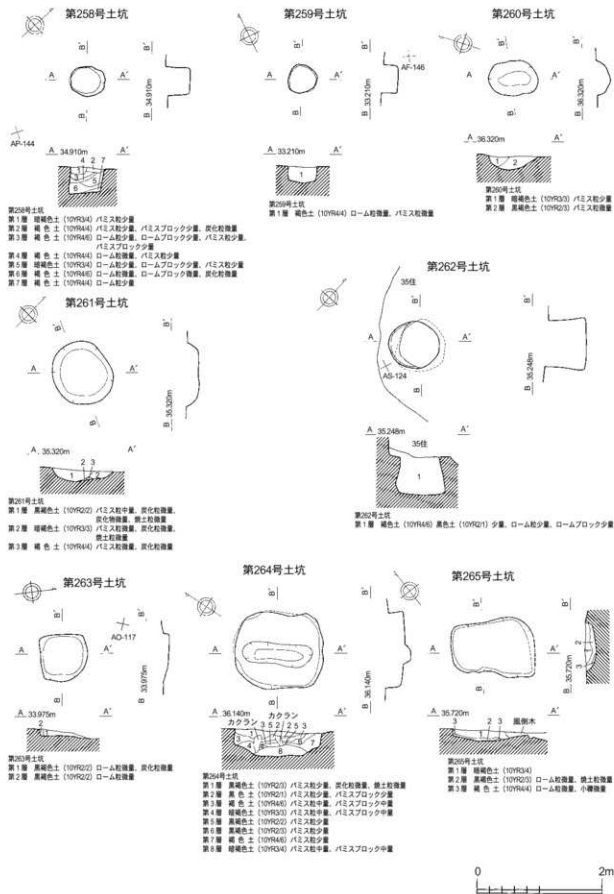
[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群6類土器(第226図454)が出土している。石器は、第1層より石鏃(第242図102、103)が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期後半と思われる。

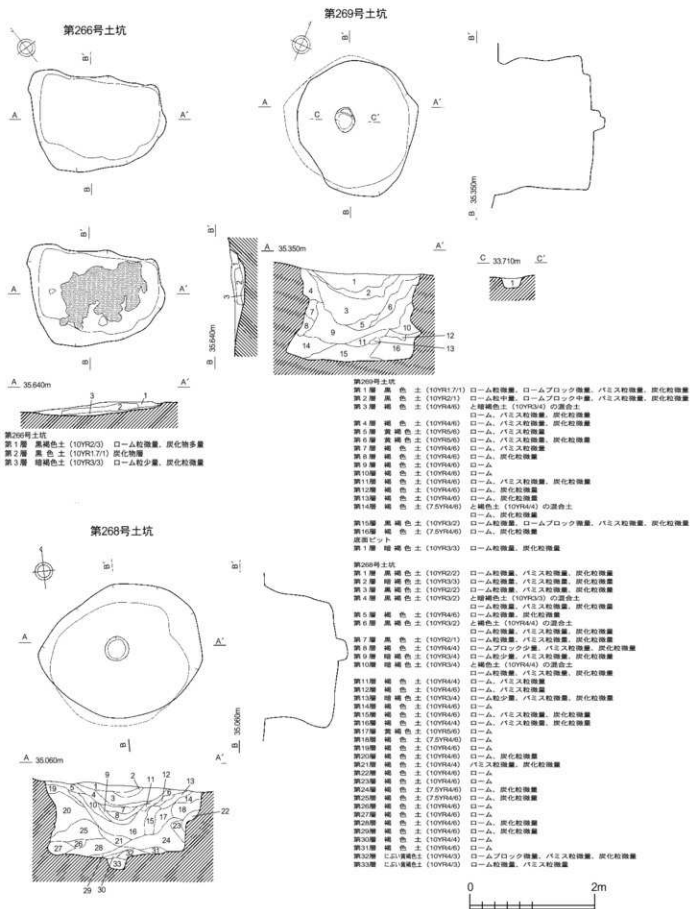
(小野 貴之)



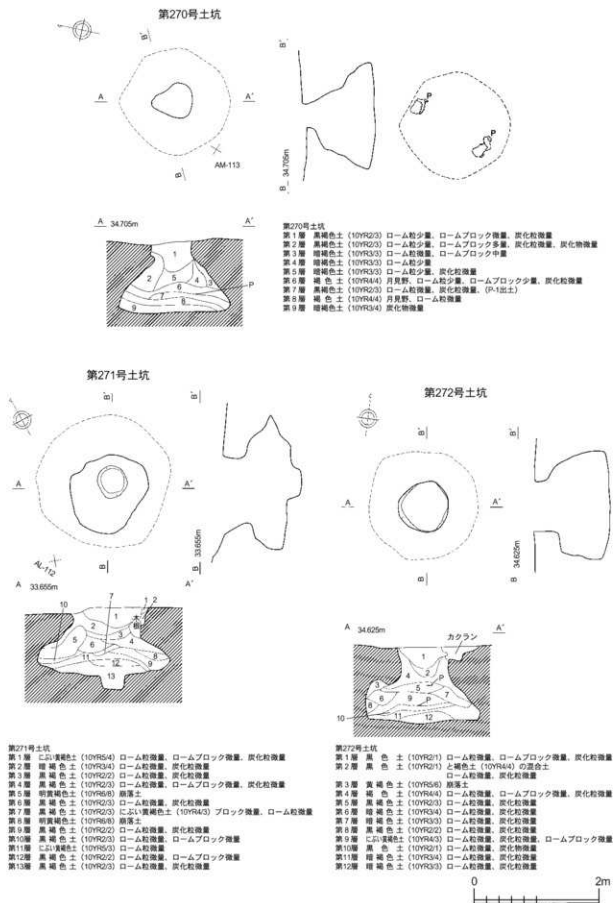
第158図 土坑 (1) (250土・253~257土)



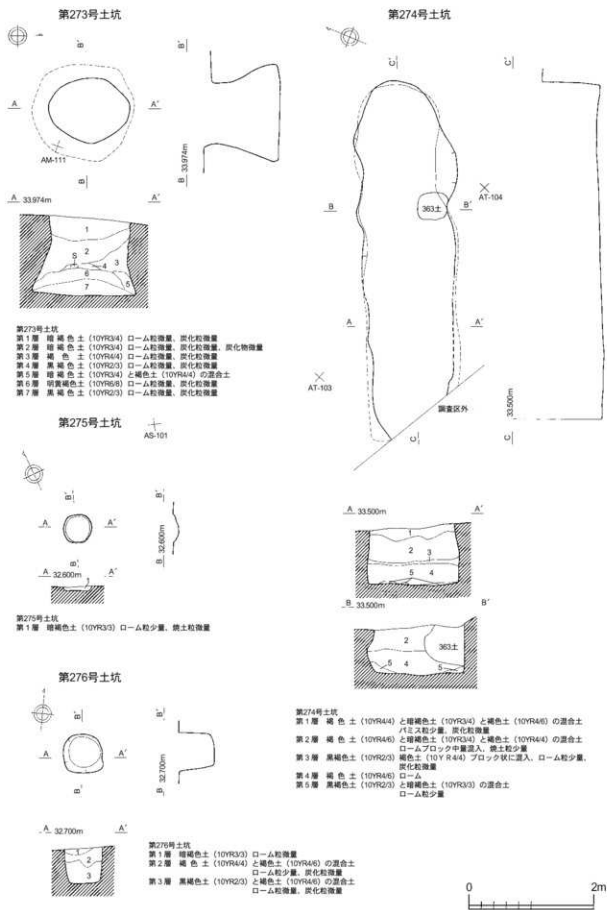
第159図 土坑 (2) (258~265土)



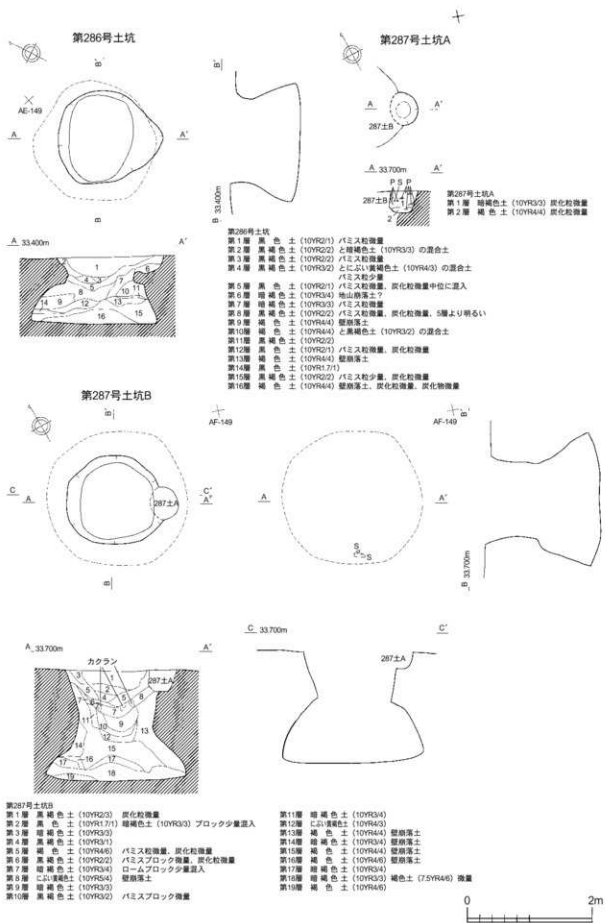
第160図 土坑 (3) (266土・268土・269土)



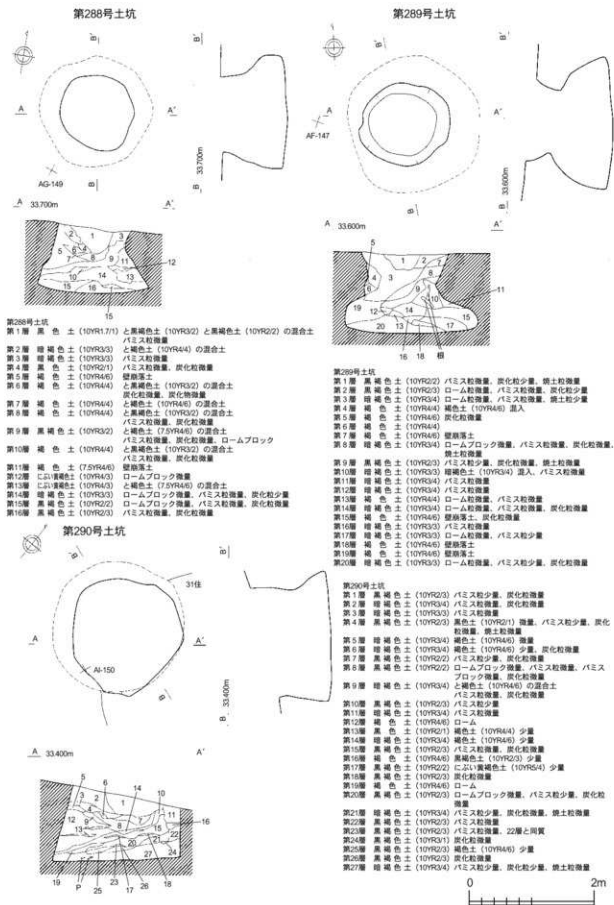
第161図 土坑 (4) (270~272土)



第162図 土坑 (5) (273~276土)

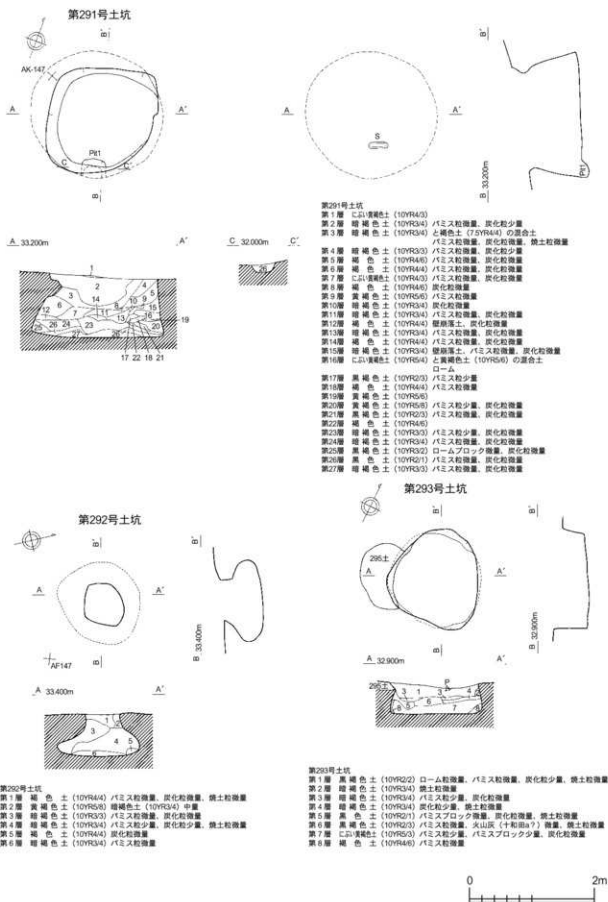


第163図 土坑 (6) (286~287±B)



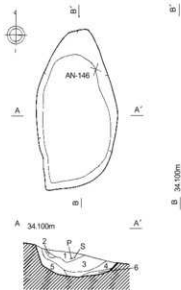
0 2m

第164図 土坑 (7) (288~290土)



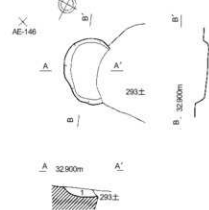
第165図 土坑 (8) (291~293土)

第294号土坑



- 第294号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス粒少量、炭化粒微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量
 - 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック少量、パミス粒少量
 - 第5層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、ロームブロック少量
 - 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、パミス粒微量

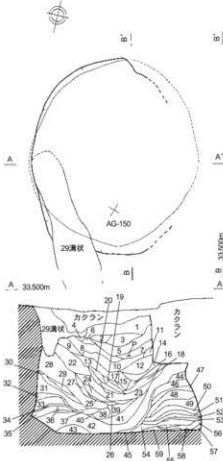
第295号土坑



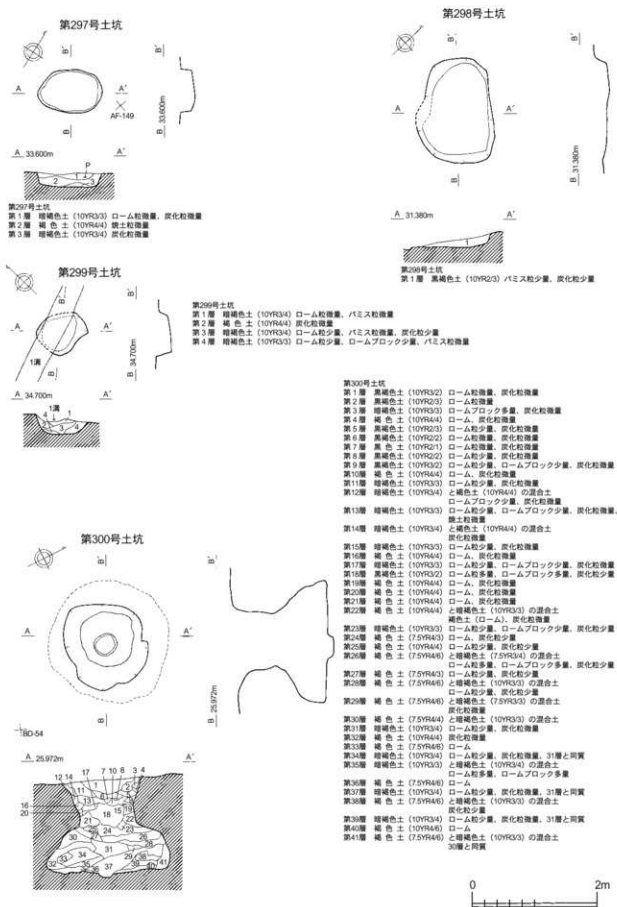
- 第295号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/1) パミス粒少量、炭化粒少量、焼土粒微量

- 第296号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック微量、パミス粒少量、炭化粒微量
 - 第2層 黒色土 (10YR2/1) パミス粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
 - 第3層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量、パミス粒少量、炭化粒微量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量
 - 第5層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、パミス粒少量、炭化粒少量、炭化物少量、炭化粒微量、焼土粒微量
 - 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
 - 第7層 黒褐色土 (10YR3/4) 多量、パミス粒少量、炭化粒少量、炭化物少量
 - 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土 (10YR2/3) 中量、パミス粒微量、炭化粒少量、炭化物少量
 - 第9層 灰色硬結土 (10YR4/3) パミス粒微量
 - 第10層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス粒微量、炭化粒少量、炭化物少量、焼土粒微量
 - 第11層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量
 - 第12層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量、パミスブロック微量
 - 第13層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量
 - 第14層 褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第15層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量
 - 第16層 灰色硬結土 (10YR4/3)
 - 第17層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第18層 褐色土 (10YR4/4) と埋納物土 (10YR3/4) の混合土

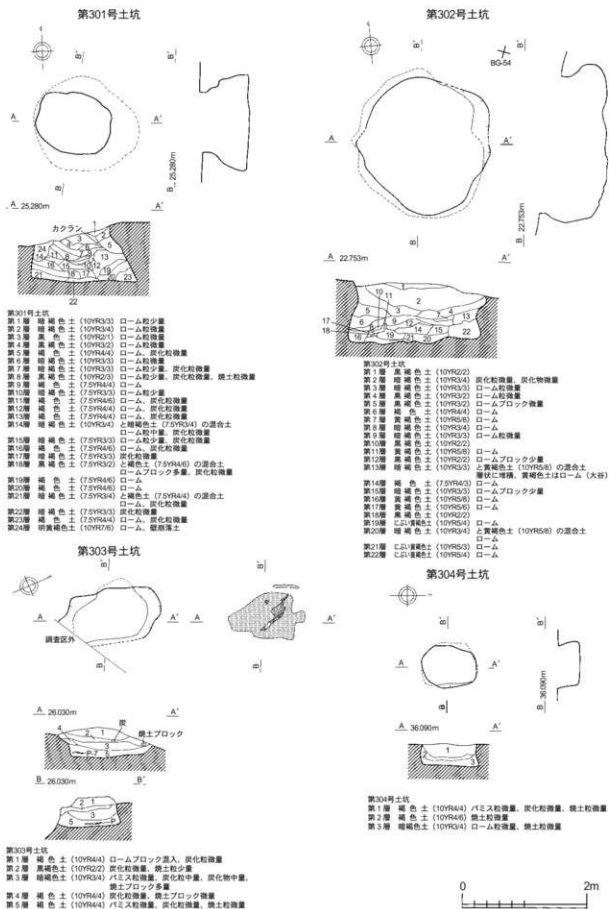
第296号土坑



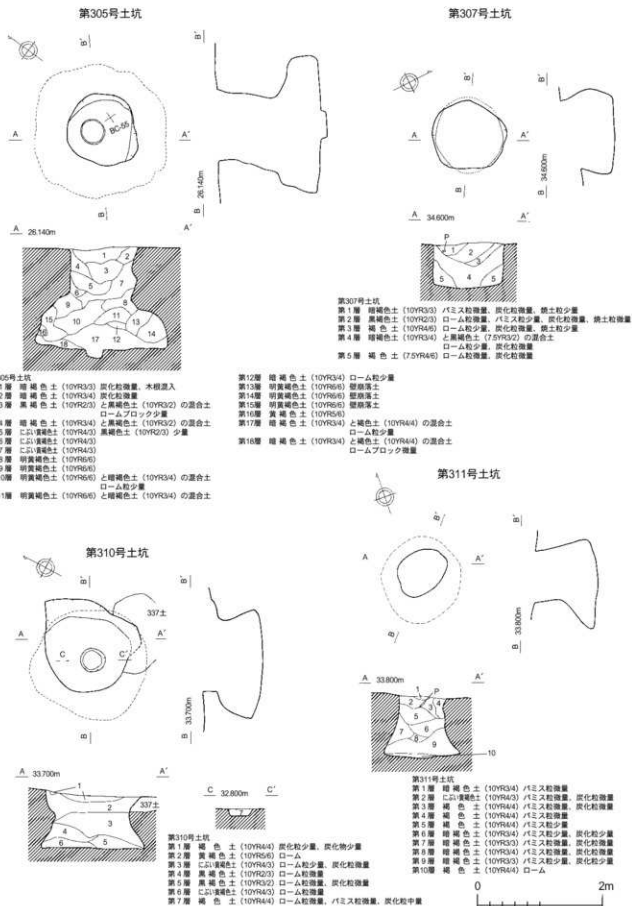
第166図 土坑 (9) (294~296土)



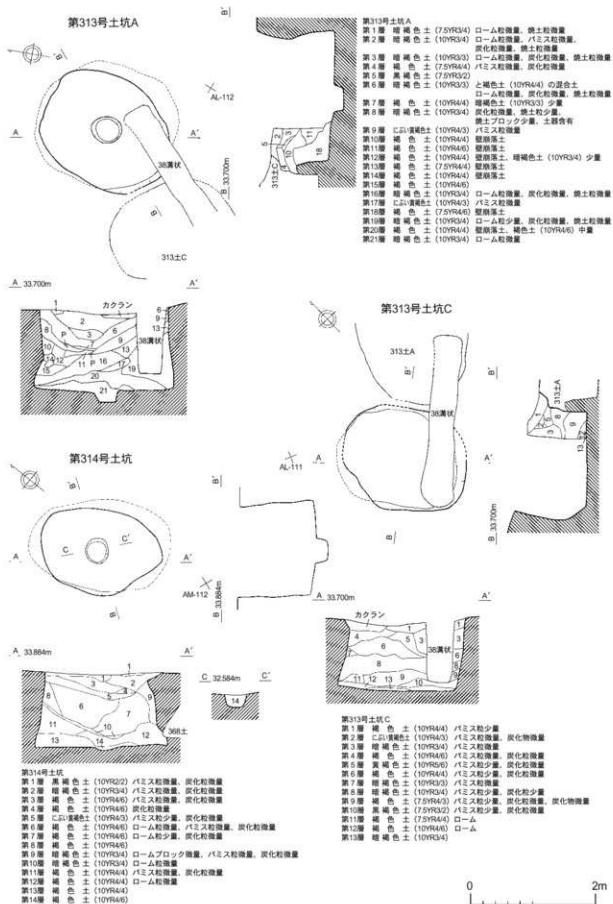
第167図 土坑 (10) (297~300土)



第168図 土坑 (11) (301~304土)

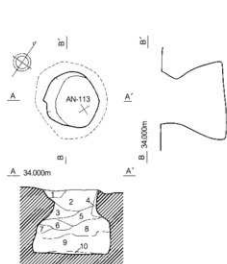


第169図 土坑 (12) (305土・307土・310土・311土)



第170図 土坑 (13) (313土A~314土)

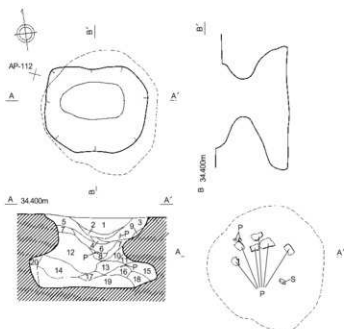
第316号土坑



第316号土坑

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR3/2) 少量、ローム粒少量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/6) 壁崩落土
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第10層 褐色土 (10YR4/6) 壁崩落土

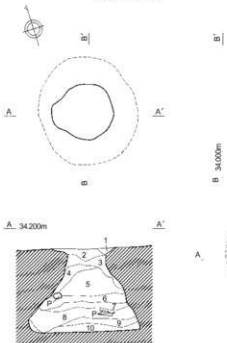
第319号土坑



第319号土坑

- 第1層 黒色土 (10YR1/3/1) ローム粒微量
- 第2層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量、ロームブロック多量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
- 第4層 黒色土 (10YR2/1) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
- 第5層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、ロームブロック多量
- 第6層 礫状暗褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化粒微量
- 第7層 礫状暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
- 第8層 礫状暗褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量、土器含有
- 第9層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、炭化粒微量、火山灰微量
- 第10層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム
- 第11層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム、にぶい黄褐色土は少なめ
- 第12層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム
- 第13層 礫状暗褐色土 (10YR5/3) ローム粒微量、炭化粒微量、土器含有層
- 第14層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム
- 第15層 黄褐色土 (10YR5/6) とにぶい黄褐色土 (10YR5/4) の混合土
- 第16層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム、にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 中層
- 第17層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム
- 第18層 礫状暗褐色土 (10YR5/4) ローム
- 第19層 礫状暗褐色土 (10YR4/3) ローム、炭化粒微量
- 第20層 礫状暗褐色土 (10YR5/4) と黄褐色土 (10YR5/6) の混合土
- ローム

第317号土坑



第317号土坑

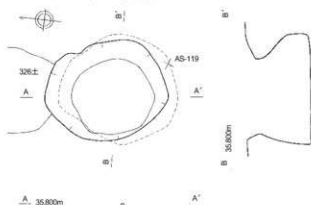
- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量
- 第2層 黄褐色土 (10YR5/3) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) と黒褐色土 (10YR3/3) の混合土
- 第5層 明黄褐色土 (10YR6/6) 黒色土微量、土器含有

- 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量、炭化物微量
- 第7層 褐色土 (10YR4/4) と黄褐色土 (10YR5/6) の混合土
- 第8層 褐色土 (10YR4/4) パミス粒少量、炭化粒少量
- 第9層 褐色土 (10YR4/6) と明褐色土 (7.5YR5/6) の混合土
- 第10層 礫状暗褐色土 (10YR4/3) パミス粒少量、炭化粒微量



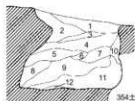
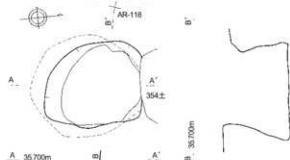
第171図 土坑 (14) (316土・317土・319土)

第325号土坑



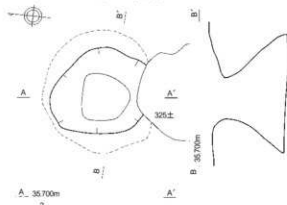
- 第325号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR6/3) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR6/3) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第3層 暗褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量、パミスブロック微量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第5層 暗褐色土 (10YR4/6) ローム
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量、パミス粒少量、炭化粒微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量、パミス粒少量、炭化粒微量、炭化物微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、パミスブロック微量、炭化粒微量
- 第9層 暗褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量、パミス粒少量、炭化粒微量
- 第10層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、パミスブロック微量、炭化粒微量
- 第11層 暗褐色土 (10YR4/6) ローム
- 第12層 高褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、パミス粒微量
- 第13層 高褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、パミス粒少量、パミスブロック少量、炭化粒微量
- 第14層 高褐色土 (10YR2/3) 暗褐色土 (10YR4/6) 少量、ローム粒少量
- 第15層 高褐色土 (10YR2/3) ロームブロック少量、パミス粒微量、炭化粒少量、炭化物少量

第327号土坑



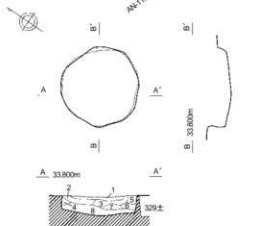
- 第327号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR6/4) と暗褐色土 (10YR2/3) の混合土
ローム粒少量、炭化粒微量
- 第3層 高褐色土 (10YR2/1) ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第4層 高褐色土 (10YR2/3) 暗褐色土 (10YR4/4) 少量、ローム粒少量、
ロームブロック少量、炭化粒微量
- 第5層 高褐色土 (10YR1/7/1) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第6層 高褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第7層 高褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR6/1) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第9層 高褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化物粒微量
- 第10層 暗褐色土 (10YR3/3) 高褐色土 (10YR2/1) の混合土
と暗褐色土 (7.5YR4/6) 微量、ローム粒少量、炭化粒微量、
炭化物微量
- 第11層 明黄褐色土 (10YR6/8) と暗褐色土 (7.5YR7/6) の混合土
ロームブロック
- 第12層 高褐色土 (7.5YR3/2) ローム粒少量、ロームブロック少量

第326号土坑



- 第326号土坑
- 第1層 高褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量、パミス粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土 (10YR2/3) 中量、ローム粒微量、パミ
ス粒微量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、炭化粒微量、小磚微量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、パミスブロック微量、炭化粒微量
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、パミス粒微量、炭化粒微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、パミス粒微量、炭化粒微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第8層 高褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、パミスブロック少量、炭化粒微量
- 第9層 高褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、ロームブロック少量、パミス粒微
量、パミスブロック微量、炭化粒微量
- 第10層 高褐色土 (10YR2/3) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
パミス粒少量、炭化粒微量、炭化物微量
- 第11層 高褐色土 (10YR2/3) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第12層 高褐色土 (10YR2/3) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第13層 高褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒微量
- 第14層 高褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
- 第15層 暗褐色土 (10YR4/6) ローム、高褐色土 (10YR2/3) 混入
- 第16層 高褐色土 (10YR2/3) パミス粒少量、炭化粒微量

第328号土坑

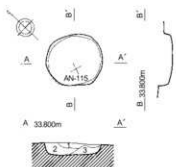


- 第328号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR4/3) と暗褐色土 (7.5YR5/6) の混合土
ローム、炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒少量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒少量、炭化物微量
- 第4層 高褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第5層 高褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、炭化物微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR4/4) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR4/6) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
ローム粒少量、炭化粒微量、パミス粒微量、炭化粒微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒微量



第172図 土坑 (15) (325~328土)

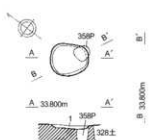
第329号土坑



第329号土坑

第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 土に漬褐色土 (10YR4/2) ローム粒少量、炭化粒微量
第3層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒微量

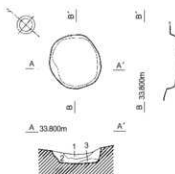
第330号土坑



第330号土坑

第1層 黄褐色土 (10YR2/5) ローム粒中量、ロームブロック少量、炭化粒微量

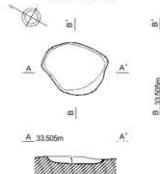
第331号土坑



第331号土坑

第1層 黄褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒微量

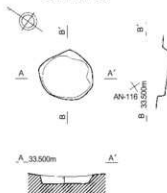
第332号土坑



第332号土坑

第1層 黄褐色土 (10YR2/3) パズル粒微量、炭化粒微量

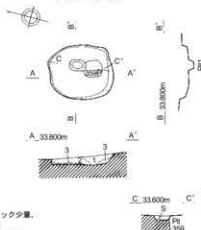
第333号土坑



第333号土坑

第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、ロームブロック少量、パズル粒少量、炭化粒微量

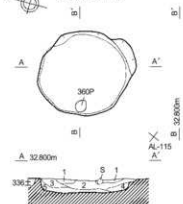
第334号土坑



第334号土坑

第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
第2層 黄褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、炭化粒微量
第3層 土に漬褐色土 (10YR5/3)

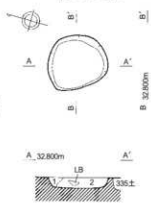
第335号土坑



第335号土坑

第1層 黄褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、暗色頁
第2層 土に漬褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、ロームブロック中量
第4層 暗褐色土 (7.5YR5/6) ローム、パズルブロック微量
第5層 黄褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、ロームブロック微量

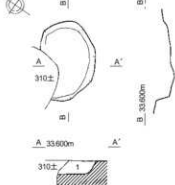
第336号土坑



第336号土坑

第1層 黄褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 黄色土 (10YR2/1) ブロック、ローム粒少量、ロームブロック微量

第337号土坑

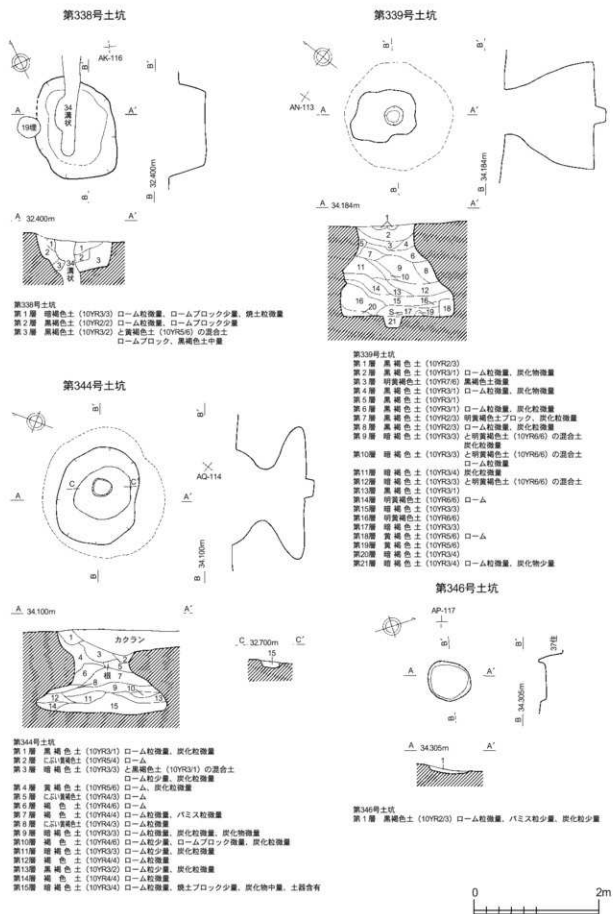


第337号土坑

第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量

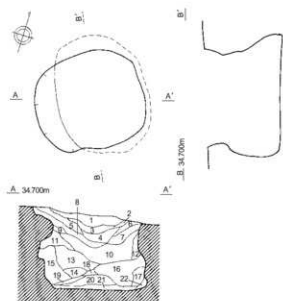


第173図 土坑 (16) (329~337土)



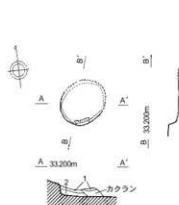
第174図 土坑 (17) (338土・339土・344土・346土)

第348号土坑



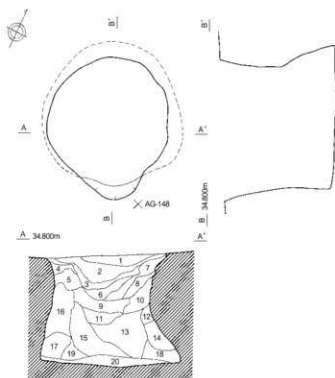
- 第348号土坑
- 第1層 黒色土 (10YR2/1) と黒褐色土 (10YR3/2) の混合土
ローム粒微量、炭化粒微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒微量、パミス粒微量
 - 第3層 黒色土 (10YR1/7/1) と黒褐色土 (10YR3/2) の混合土
ローム粒微量、パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
ローム粒少量、ロームブロック少量、パミス粒微量、炭化粒微量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量
 - 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム粒少量、炭化粒微量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 - 第8層 褐色土 (10YR4/4) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土
ローム、炭化粒微量
 - 第9層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 - 第10層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量、パミス粒微量
 - 第11層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 - 第12層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム、パミス粒微量
 - 第13層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 - 第14層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム
 - 第15層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第16層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム
 - 第17層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム
 - 第18層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 - 第19層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 - 第20層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化粒微量
 - 第21層 暗褐色土 (10YR3/4) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム粒中量、炭化粒微量
 - 第22層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム

第349号土坑



- 第349号土坑
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒微量、焼土ブロック微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第350号土坑

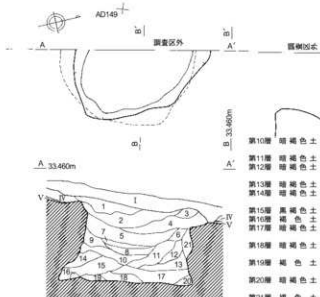


- 第350号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化粒微量
 - 第2層 黒色土 (10YR2/1) と黒褐色土 (10YR3/2) の混合土
ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
 - 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) と褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒少量、炭化物少量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/6) と黒褐色土 (10YR3/2) の混合土
ローム、炭化粒微量
 - 第5層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第6層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第7層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム、炭化粒微量
 - 第8層 褐色土 (10YR4/6) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土
ローム、炭化粒微量
 - 第9層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第10層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム、炭化粒微量
 - 第11層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第12層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第13層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第14層 褐色土 (10YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第15層 褐色土 (10YR4/6) と褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム、炭化粒少量
 - 第16層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第17層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム、炭化粒微量
 - 第18層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム、炭化粒微量
 - 第19層 暗褐色土 (7.5YR5/3) ローム、炭化粒微量
 - 第20層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒少量



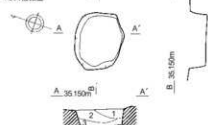
第175図 土坑 (18) (348~350土)

第351号土坑



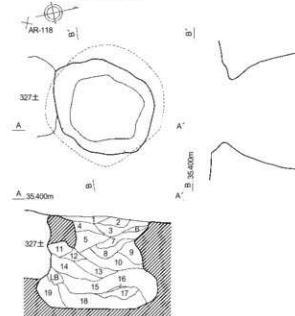
- 第351号土坑
- 第1層 黒色土 (10YR2/1) と暗褐色土 (10YR2/3) の混合土
ロームブロック少量、パミスブロック微量、炭化粒
物少量
- 第2層 明黄褐色土 (10YR6/8) ローム粒物、パミス粒物、暗褐色土 (10YR3/3)
少量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒物、炭化粒物、パミス粒物少量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、
炭化粒物
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、
炭化粒物
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、炭化粒物
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、炭化粒物
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、炭化粒物
- 第9層 黒褐色土 (10YR2/2) と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量
- 第10層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、炭化粒物
- 第11層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、炭化粒物
- 第12層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、炭化粒物
- 第13層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、炭化粒物
- 第14層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、パミスブロック少量、炭化粒物
- 第15層 黒褐色土 (10YR2/2) と黒褐色土 (10YR4/4) の混合土
ローム、パミス粒物、炭化粒物
- 第16層 褐色土 (7.5YR4/6) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム、パミス粒物、炭化粒物
- 第17層 暗褐色土 (7.5YR3/4) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム、パミス粒物、炭化粒物
- 第18層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム、パミス粒物、炭化粒物
- 第19層 褐色土 (10YR4/4) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム、パミス粒物、炭化粒物
- 第20層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム粒物、パミス粒物、炭化粒物
- 第21層 褐色土 (10YR4/6) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム (暗褐色土)、パミス粒物

第353号土坑



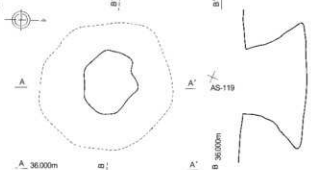
- 第353号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒物少量、ロームブロック中量、炭化粒物、
粘土粒物
- 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒物少量、炭化粒物、粘土粒物
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒物少量、ロームブロック少量、炭化粒物

第354号土坑



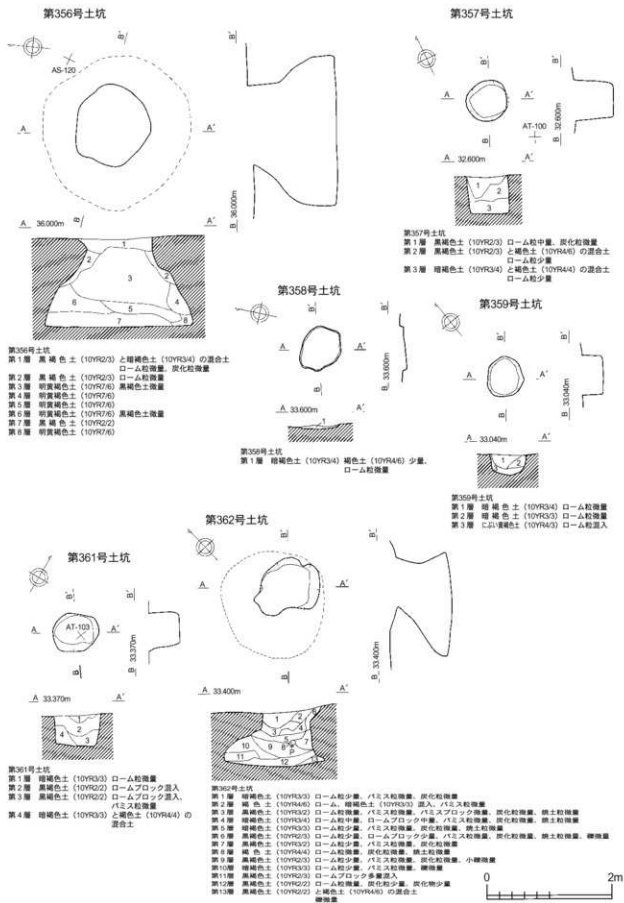
- 第354号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒物、炭化粒物
- 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) と暗褐色土 (10YR3/3) の混合土
ローム粒物、炭化粒物
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒物、炭化粒物
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/2) の混合土
ローム粒物、炭化粒物
- 第5層 暗褐色土 (10YR2/2) と黒褐色土 (10YR4/6) の混合土
ローム粒物、炭化粒物
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (10YR4/6) の混合土
ローム粒物、炭化粒物
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒物少量、炭化粒物
- 第8層 褐色土 (10YR2/1) ローム粒物少量、炭化粒物
- 第9層 暗褐色土 (10YR2/2) と黒褐色土 (10YR4/6) の混合土
ローム粒物少量、炭化粒物
- 第10層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒物少量、ロームブロック少量、炭化粒物
- 第11層 褐色土 (7.5YR4/6) と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土
ローム粒物少量、炭化粒物
- 第12層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ロームブロック少量
- 第13層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ローム粒物少量、ロームブロック少量、炭化粒物
- 第14層 暗褐色土 (10YR2/2) と黒褐色土 (10YR4/6) の混合土
ローム粒物少量、ロームブロック少量、ロームブ
ロック少量、炭化粒物
- 第15層 褐色土 (7.5YR4/6) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ロームブロック中量、炭化粒物
- 第16層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ロームブロック中量、炭化粒物
- 第17層 褐色土 (7.5YR4/6) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ロームブロック中量、炭化粒物
- 第18層 暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (7.5YR4/6) の混合土
ロームブロック中量、炭化粒物
- 第19層 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック中量

第355号土坑



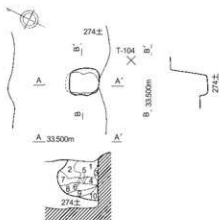
- 第355号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒物少量、炭化粒物少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒物、炭化粒物
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土少量、ローム粒物、炭化粒物
- 第4層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒物少量、炭化粒物、粘土粒物
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒物、炭化粒物
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒物、ロームブロック少量、炭化粒物
- 第7層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒物、ロームブロック少量、炭化粒物

第176図 土坑 (19) (351土・353~355土)



第177図 土坑 (20) (356~359土・361土・362土)

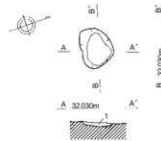
第363号土坑



第363号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土
炭化粒微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス粒微量、炭化粒微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
- 第5層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、パミス粒微量
- 第8層 褐色土 (10YR4/4) と暗褐色土 (10YR3/4) の混合土
黄褐色土 (10YR2/2) 混入、ローム粒少量
- 第9層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック混入
- 第10層 黄褐色土 (10YR2/2)

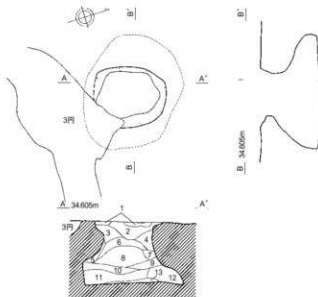
第364号土坑



第364号土坑

- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) パミス粒微量、炭化粒微量、
炭化物微量、焼土粒少量、
焼土ブロック少量

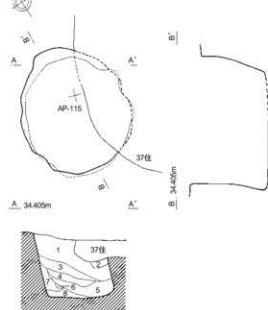
第365号土坑



第365号土坑

- 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量、パミス粒微量、炭化粒微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第3層 黄褐色土 (10YR5/5) と濃い黄褐色土 (10YR4/3) の混合土
ローム
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、パミス粒微量
- 第5層 黄褐色土 (10YR5/5) ローム
- 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
- 第7層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化粒微量
- 第8層 明褐色土 (7.5YR5/6) ローム
- 第9層 黄褐色土 (10YR5/5) ローム、炭化粒微量
- 第10層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量、炭化粒微量、土器含有
- 第11層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量、パミス粒少量、炭化粒微量
- 第12層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、パミス粒微量、炭化物微量
- 第13層 黄褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量

第366号土坑

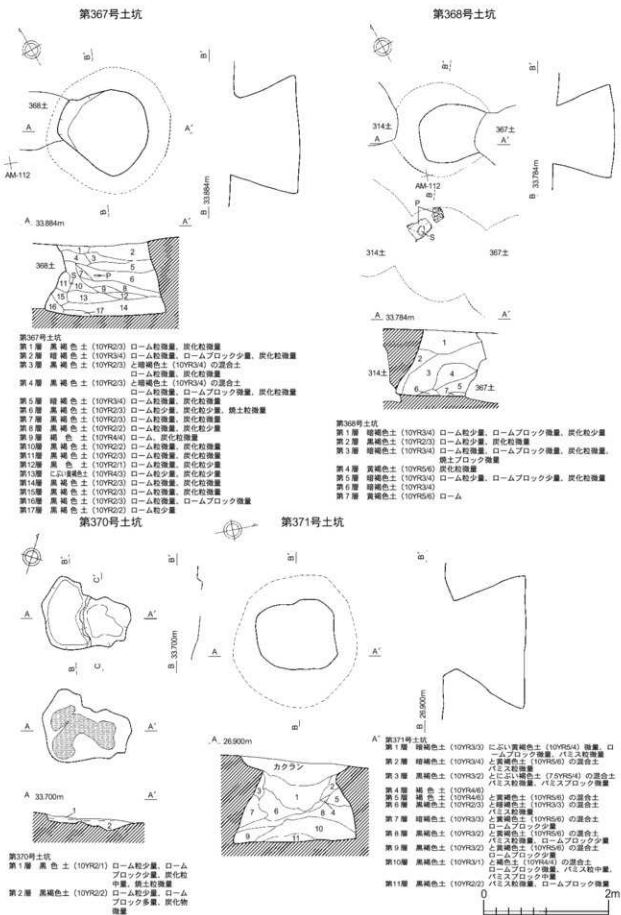


第366号土坑

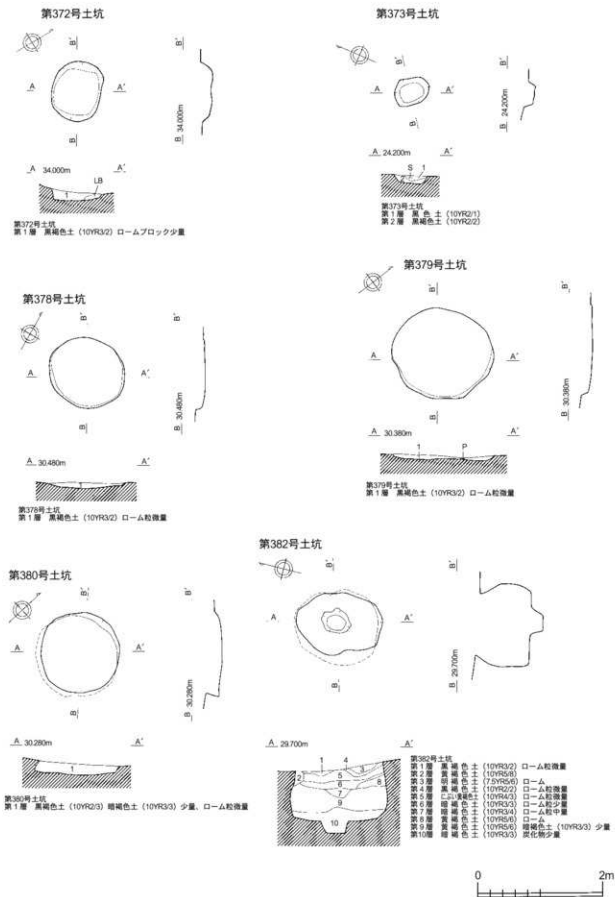
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 混入、ローム粒少量、
炭化粒少量
- 第2層 明黄褐色土 (10YR5/5) ローム
- 第3層 黒色土 (10YR2/1) 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 少量、ローム粒微量
- 第4層 明黄褐色土 (10YR5/5) ローム粒微量
- 第5層 明黄褐色土 (10YR5/5) ローム
- 第6層 黄褐色土 (10YR3/2)
- 第7層 明黄褐色土 (10YR5/5) ローム
- 第8層 黄褐色土 (10YR3/2) 明黄褐色土 (10YR5/5) 少量、ローム粒微量



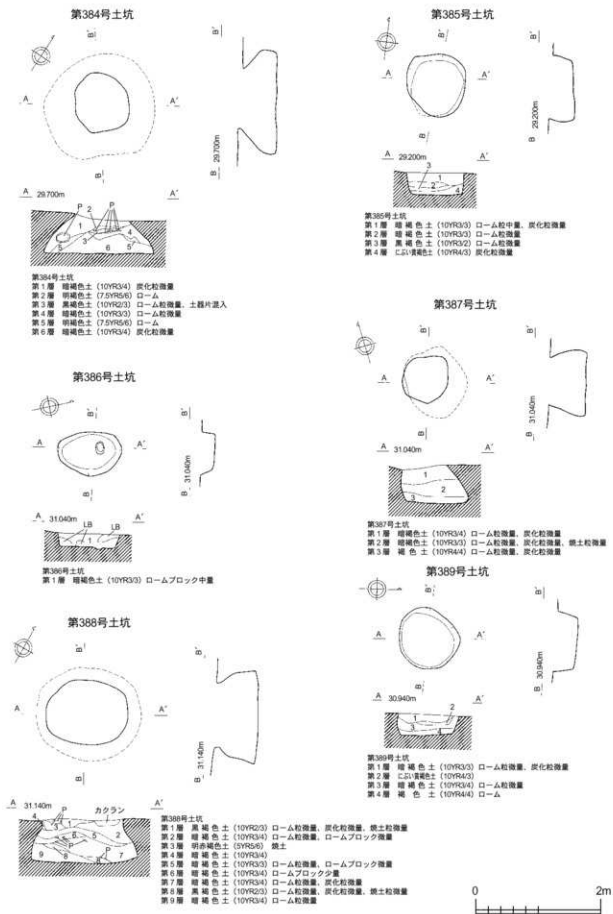
第178図 土坑 (21) (363~366土)



第179図 土坑 (22) (367土・368土・370土・371土)

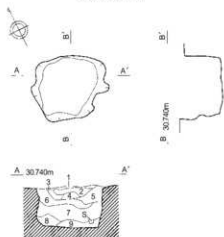


第180図 土坑 (23) (372土・373土・378～380土・382土)



第181図 土坑 (24) (384~389土)

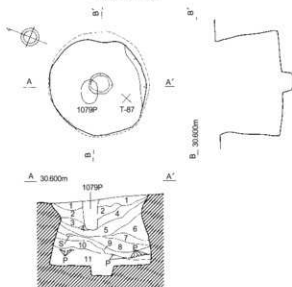
第390号土坑



第390号土坑

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量
 第4層 暗褐色土 (10YR4/4)
 第5層 暗褐色土 (10YR4/4)
 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量、炭化粒微量
 第7層 暗褐色土 (10YR4/4) □-△
 第8層 暗褐色土 (10YR4/3) □-△
 第9層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量、炭化粒微量

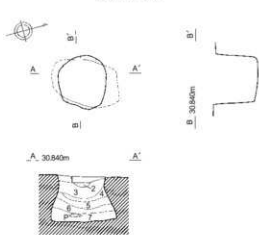
第392号土坑



第392号土坑

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量、炭化粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量、炭化粒微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量、ロームブロック微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量、炭化粒微量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量、ロームブロック微量
 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量、炭化粒微量
 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量、炭化粒微量
 第9層 暗褐色土 (10YR2/3) □-△粒微量、炭化粒微量
 第10層 暗褐色土 (10YR4/4) □-△
 第11層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒微量、炭化粒微量

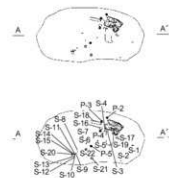
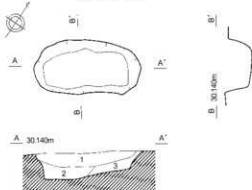
第391号土坑



第391号土坑

- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR4/4) □-△粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量、炭化粒微量
 第4層 暗褐色土 (10YR4/4) □-△ブロック少量、炭化粒微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/2) 炭化粒微量
 第6層 暗褐色土 (10YR4/4) □-△
 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量

第395号土坑

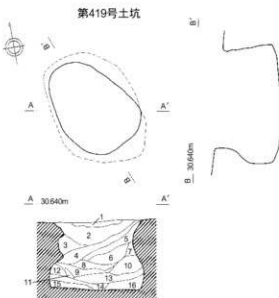
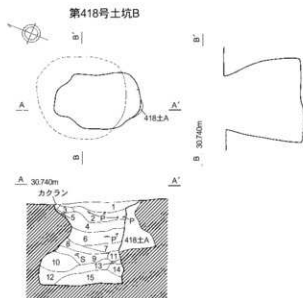
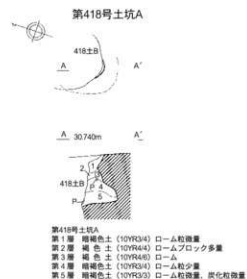
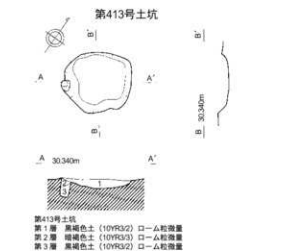


第395号土坑

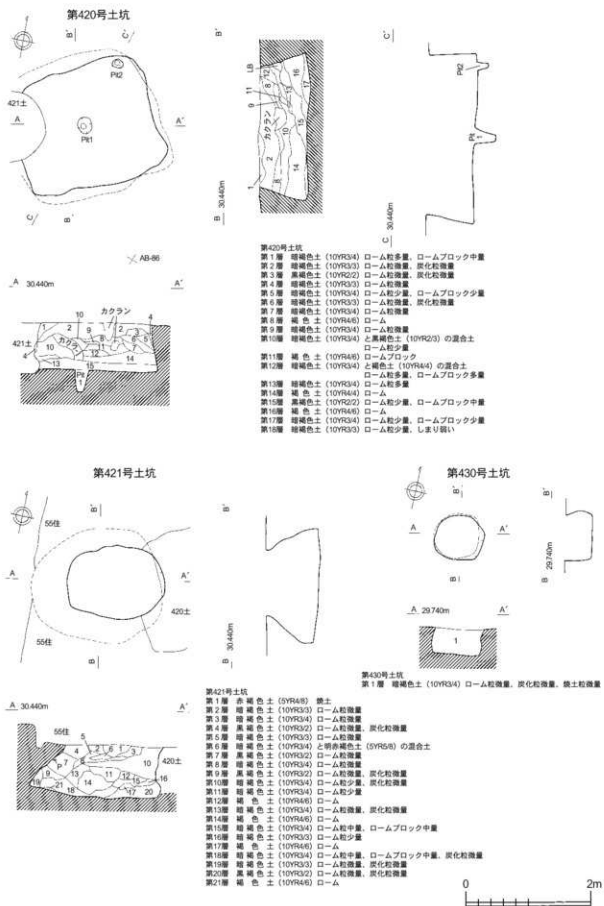
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒微量、炭化粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量、炭化粒微量



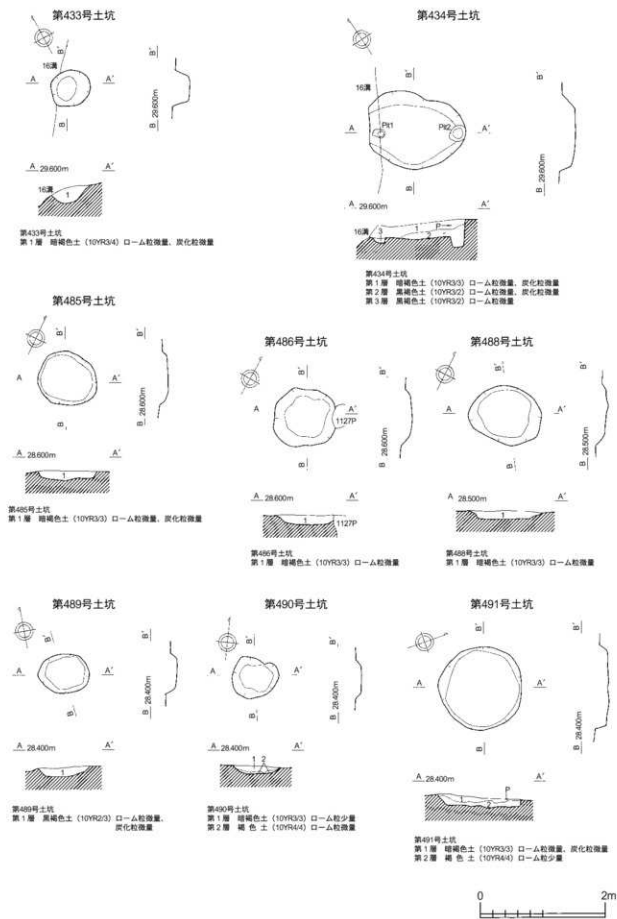
第182図 土坑 (25) (390~392土・395土)



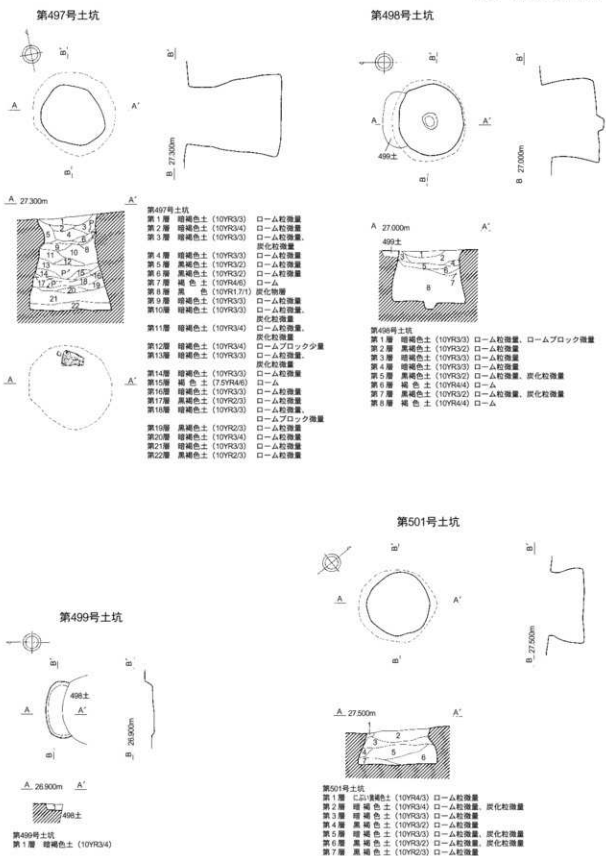
第183図 土坑 (26) (413土・418土A~419土)



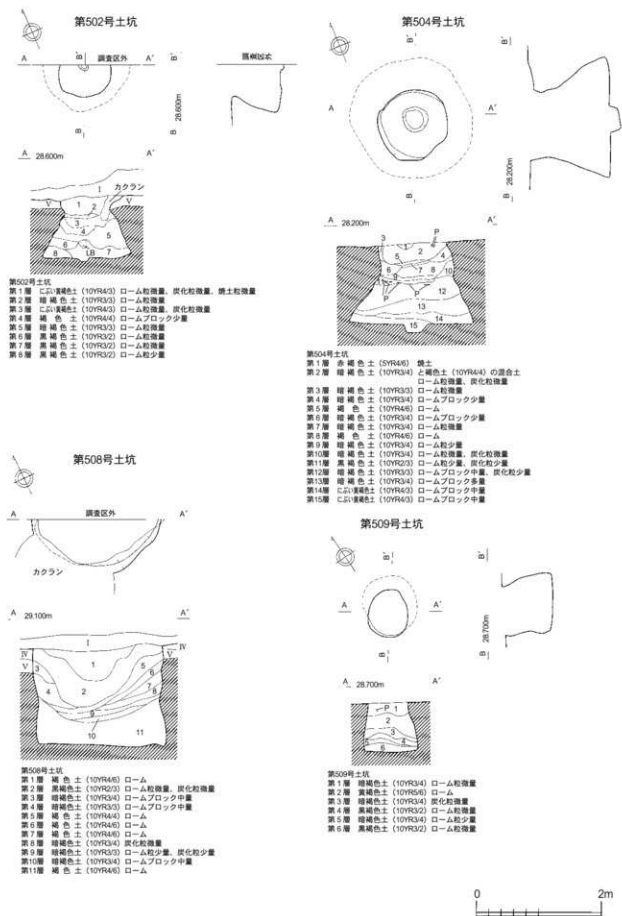
第184図 土坑 (27) (420土・421土・430土)



第185図 土坑 (28) (433土・434土・485土・486土・488土・489土)

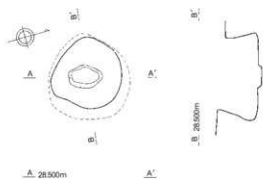


第186図 土坑 (29) (497~499土・501土)



第187図 土坑 (30) (502土・504土・508土・509土)

第512号土坑



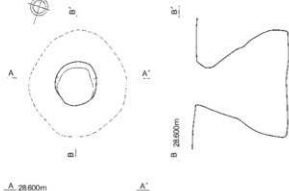
A. 28,500m



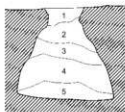
第512号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4)
 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 第3層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 第4層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 第5層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、ロームブロック少量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
 第7層 褐色土 (10YR4/4)

第514号土坑



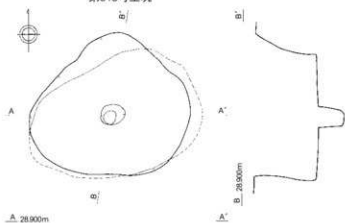
A. 28,600m



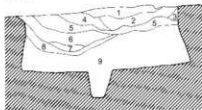
第514号土坑

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4)
 第4層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化粒少量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量

第515号土坑



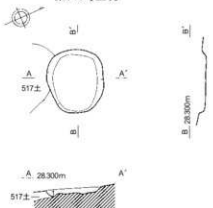
A. 28,900m



第515号土坑

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
 第6層 褐色土 (10YR4/4) ローム
 第7層 褐色土 (10YR4/6) ローム
 第8層 赤褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量、炭化粒微量
 第9層 褐色土 (10YR4/4) ローム

第516号土坑



A. 28,300m

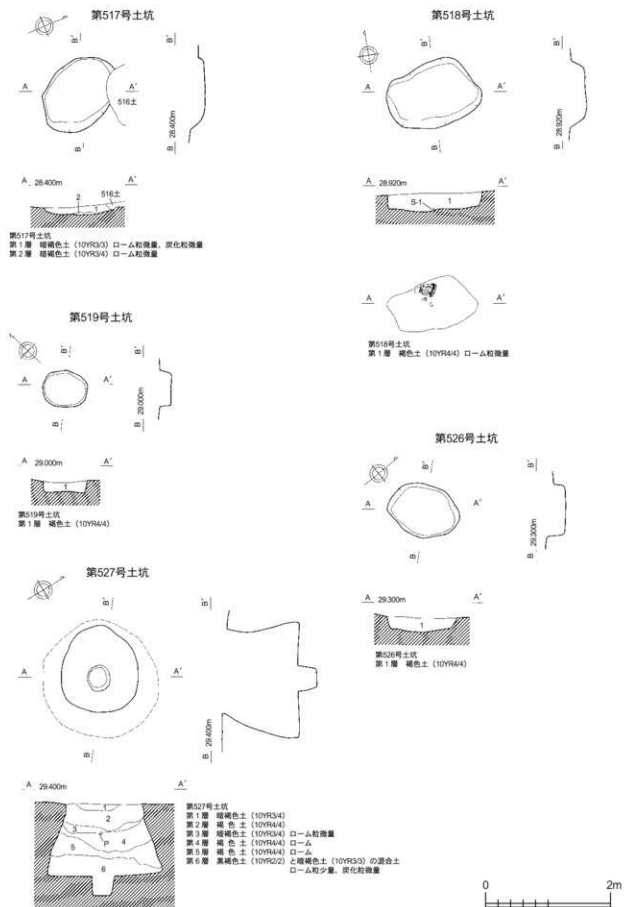


第516号土坑

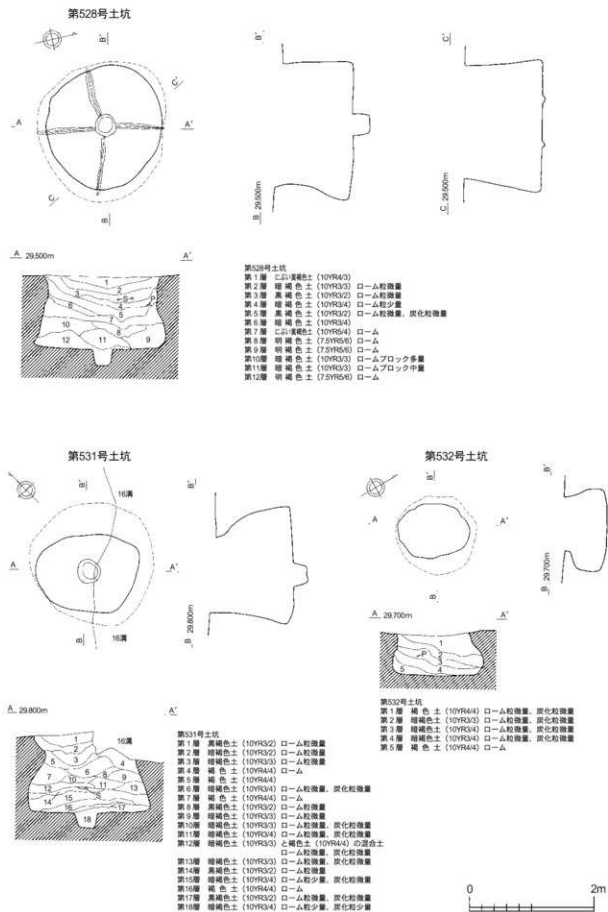
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒微量



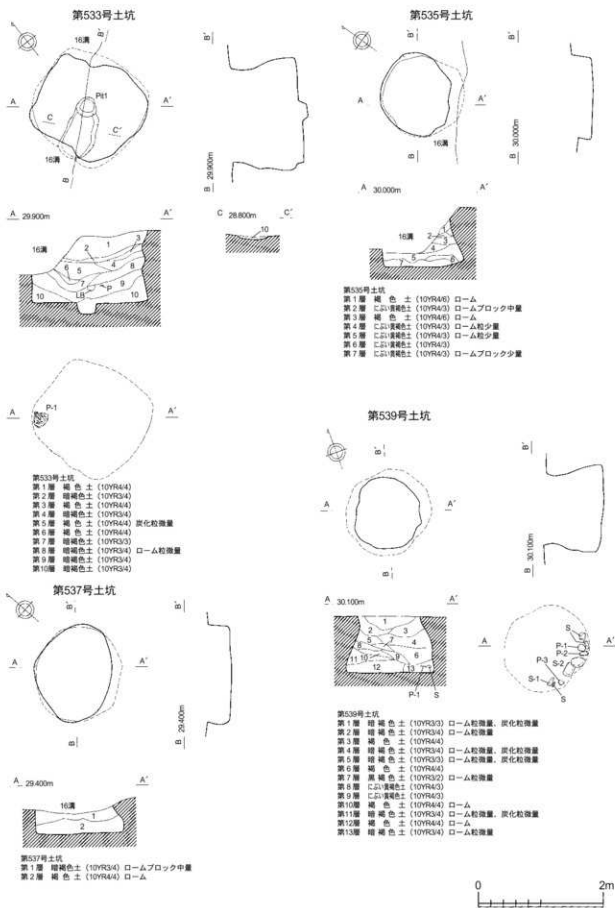
第188図 土坑 (31) (512土・514～516土)



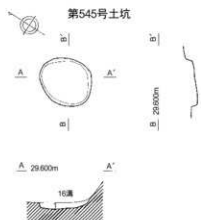
第189図 土坑 (32) (517~519土・526土・527土)



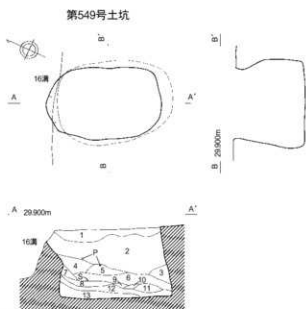
第190図 土坑 (33) (528土・531土・532土)



第191図 土坑 (34) (533土・535土・537土・539土)



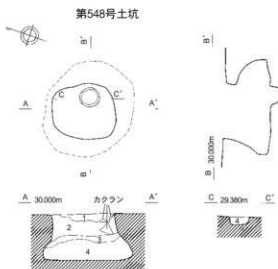
第545号土坑
第1層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロック多量



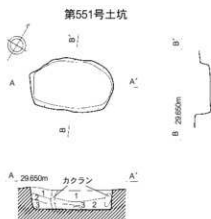
第549号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック多量
第4層 黄褐色土 (10YR3/2) 炭化物少量
第5層 暗褐色土 (10YR3/4)
第6層 暗褐色土 (10YR3/3)
第7層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム
第8層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量、炭化粒微量
第9層 褐色土 (10YR4/4) ローム
第10層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒微量
第11層 褐色土 (10YR4/4) ローム
第12層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化粒中量、炭土粒微量
第13層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒微量



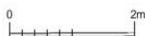
第552号土坑
第1層 黄褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量



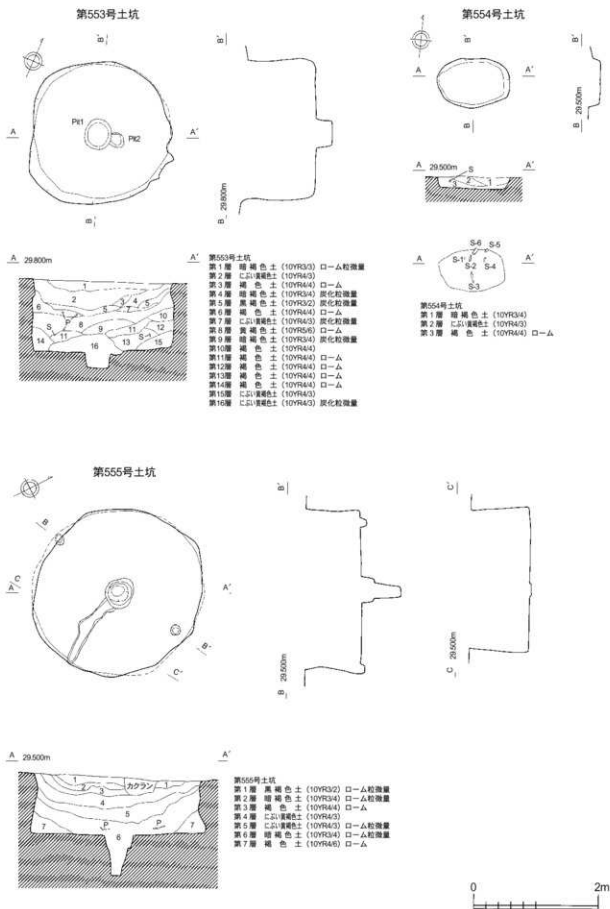
第548号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量、炭化粒微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム
第3層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 炭化粒微量
第4層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 炭化粒微量



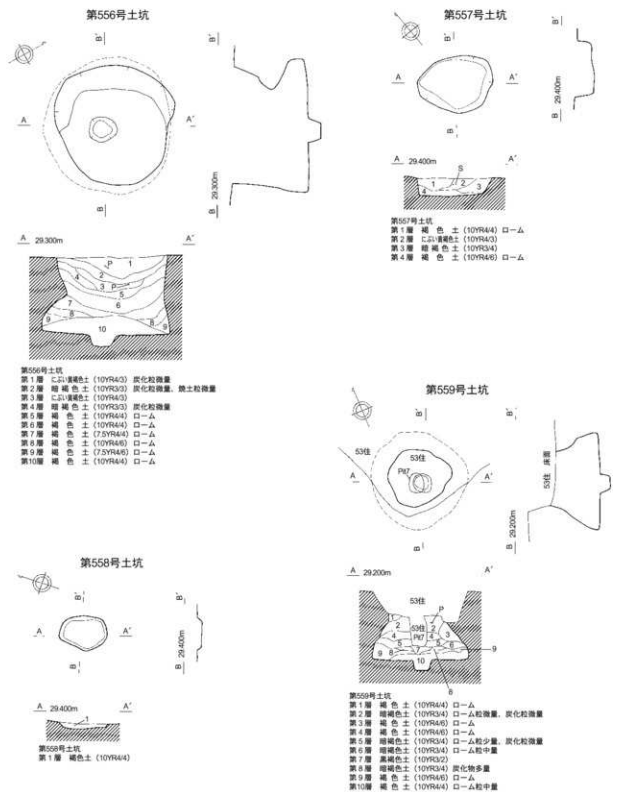
第551号土坑
第1層 濃い黄褐色土 (10YR4/3)
第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム
第3層 褐色土 (10YR4/6) ローム



第192図 土坑 (35) (545土・548土・549土・551土・552土)

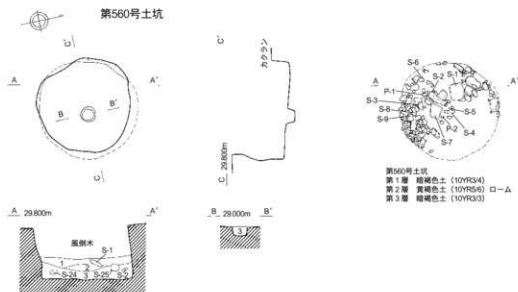


第193図 土坑 (36) (553~555土)

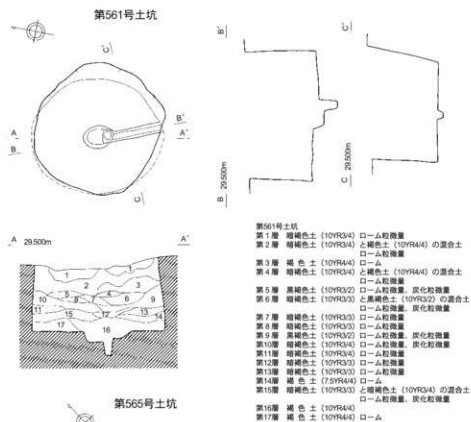


第194図 土坑 (37) (556~559土)

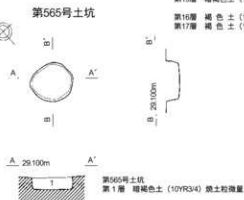
第560号土坑



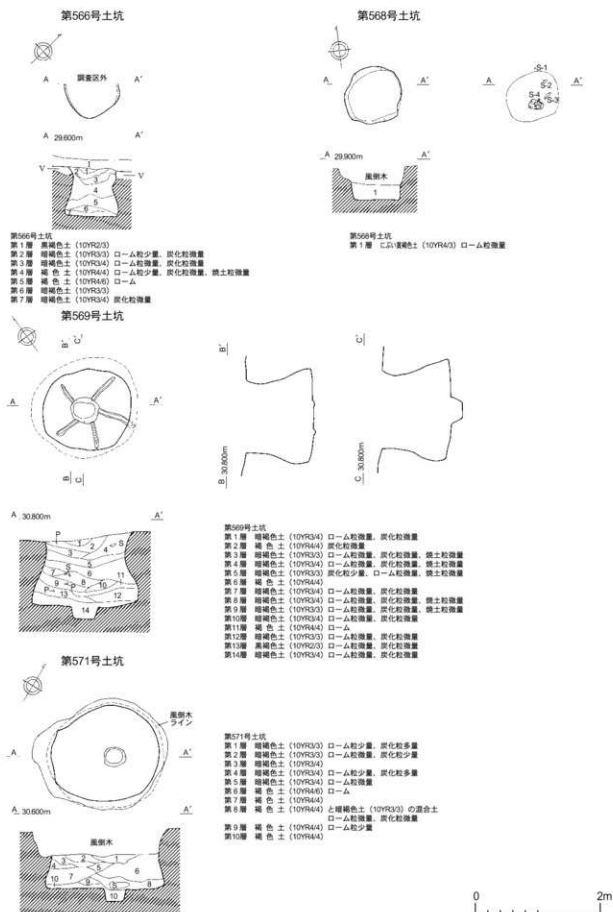
第561号土坑



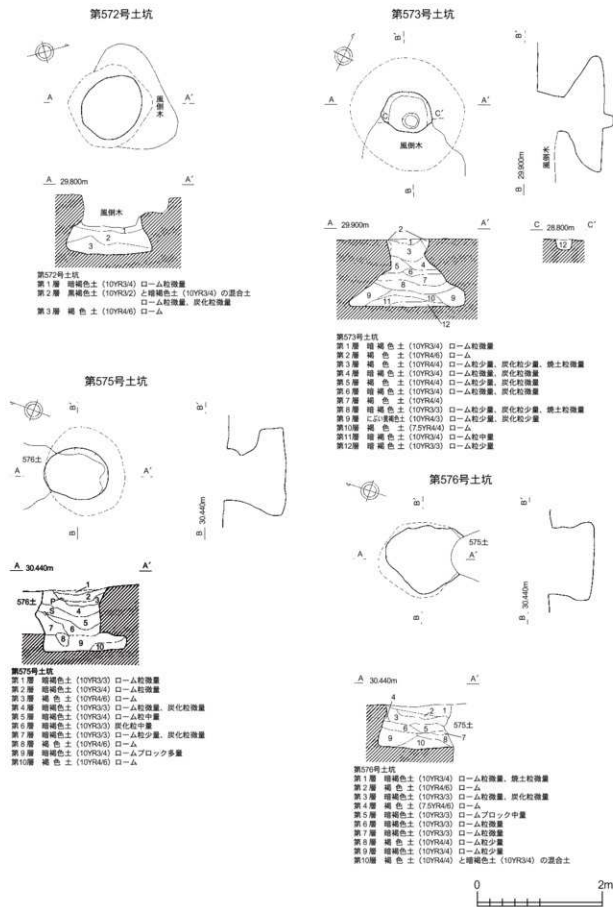
第565号土坑



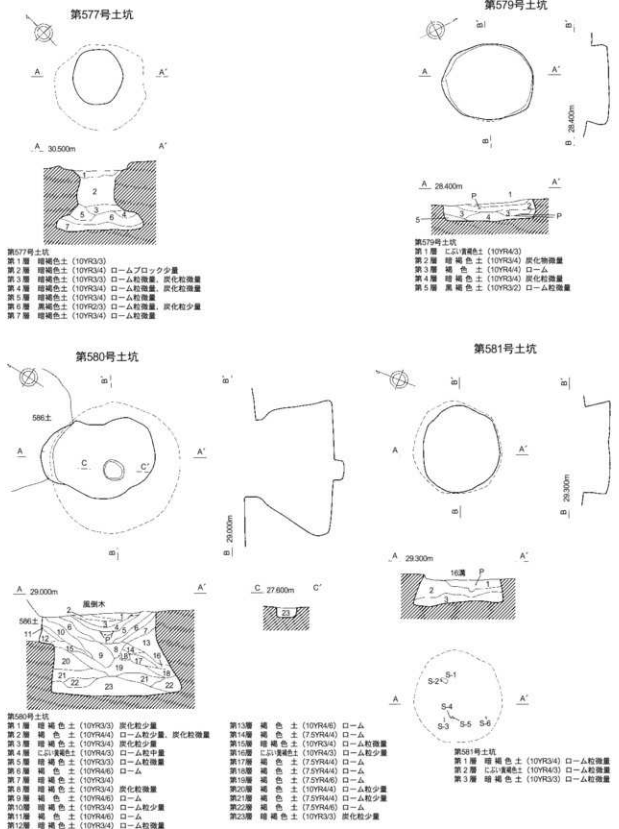
第195図 土坑 (38) (560土・561土・565土)



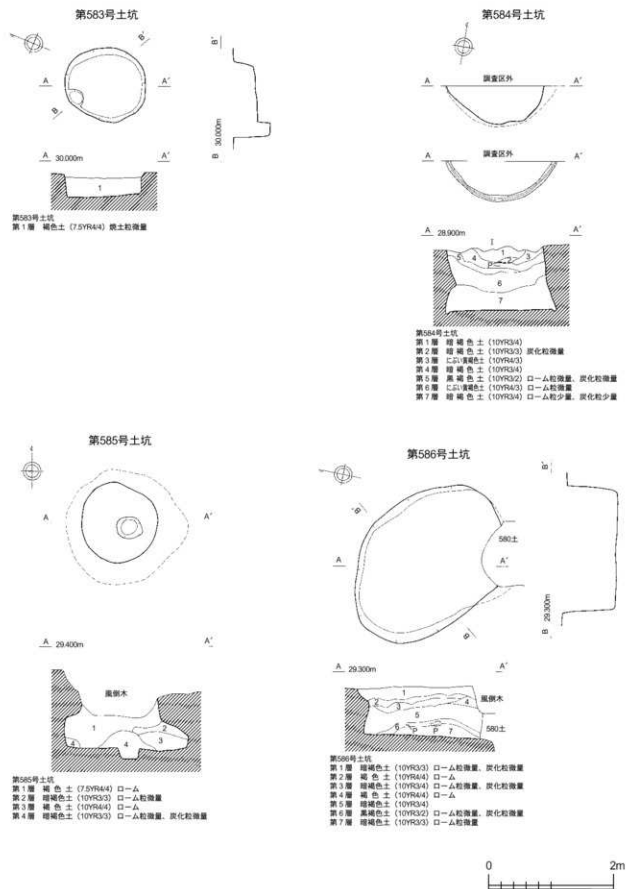
第196図 土坑 (39) (566土・568土・569土・571土)



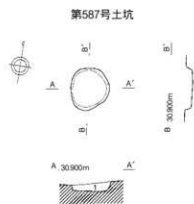
第197図 土坑 (40) (572土・573土・575土・576土)



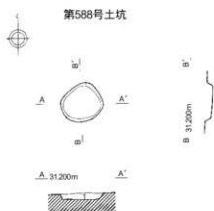
第198図 土坑 (41) (577土・579～581土)



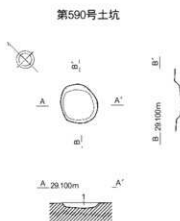
第199図 土坑 (42) (583~586土)



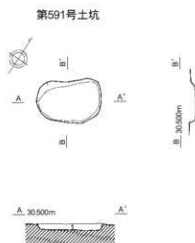
第587号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) 炭化粒少量



第588号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 口-A粒微量、炭化粒微量



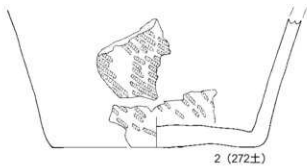
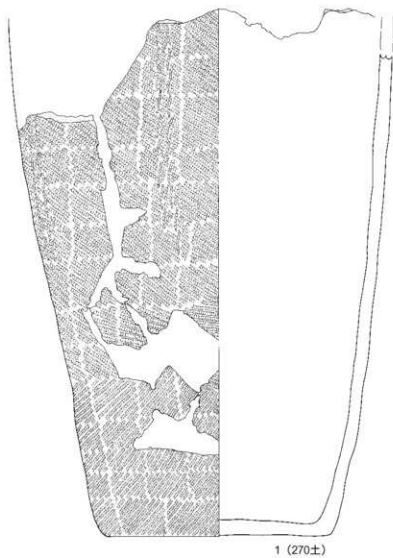
第590号土坑
第1層 黄褐色土 (10YR2/3) 口-A粒少量、炭化粒微量



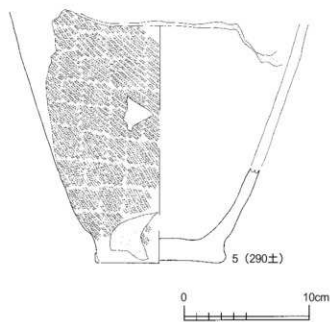
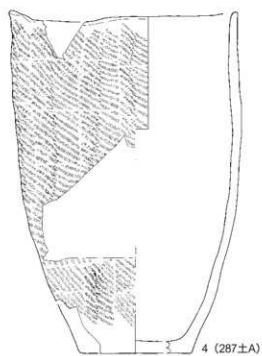
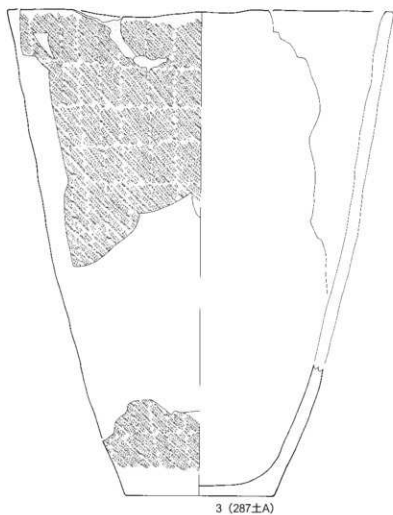
第591号土坑
第1層 灰(黄)褐色土 (10YR4/3)



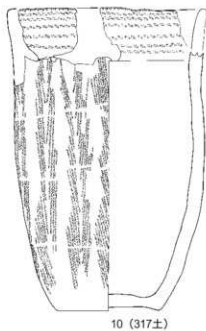
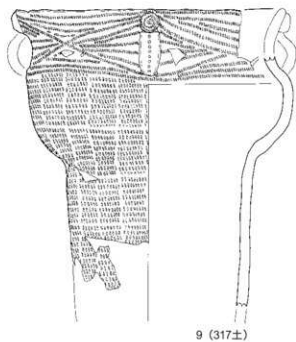
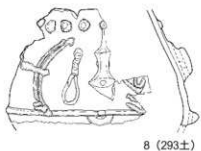
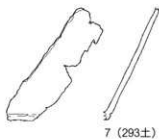
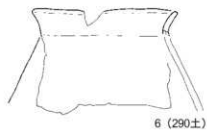
第200図 土坑 (43) (587土・588土・590土・591土)



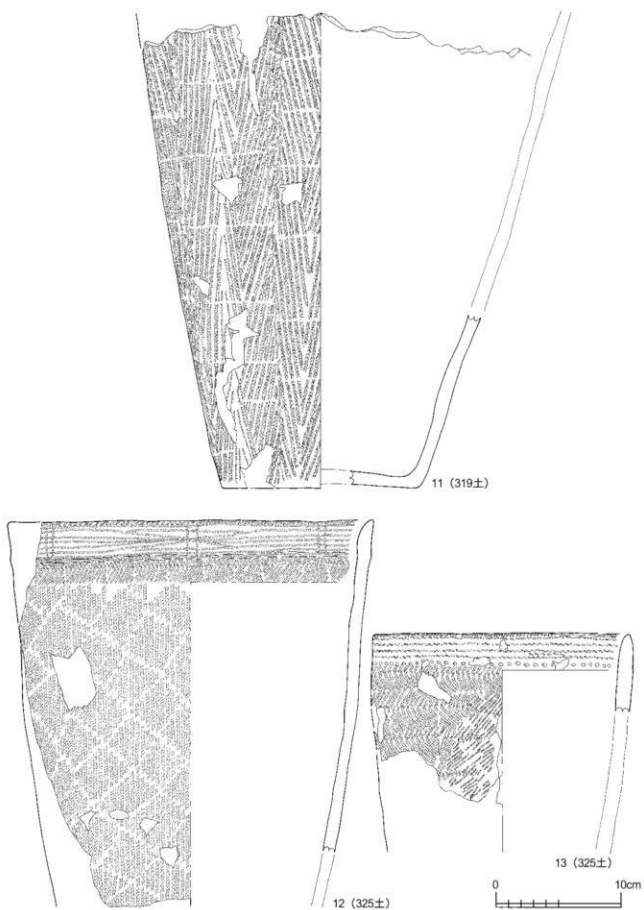
第201図 遺構内出土土器（土坑）(1)



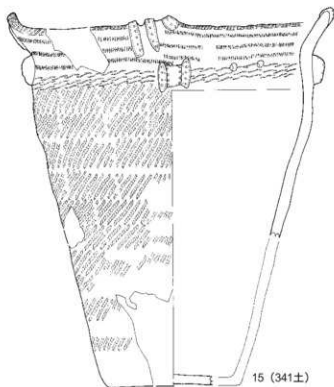
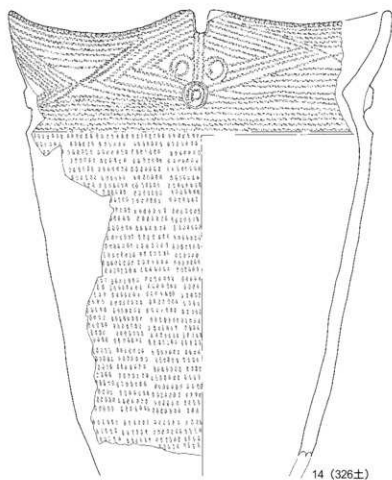
第202図 遺構内出土土器（土坑）(2)



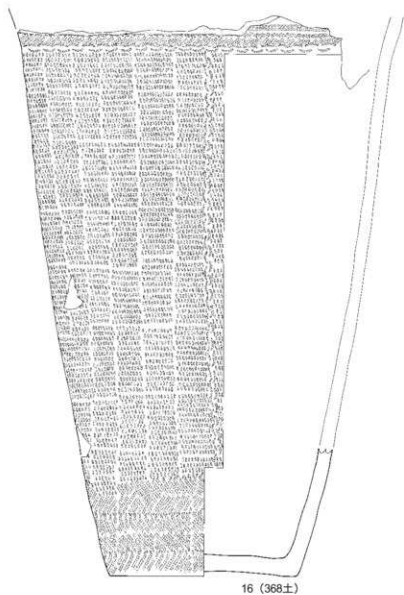
第203図 遺構内出土土器(土坑)(3)



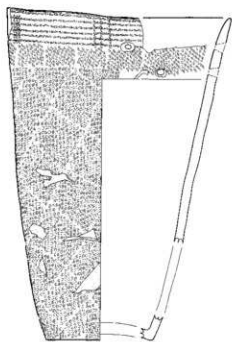
第204図 遺構内出土土器（土坑）(4)



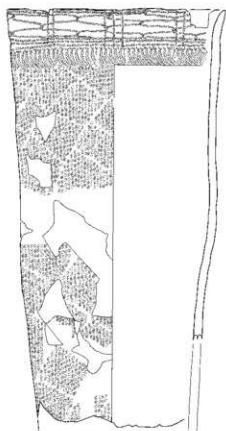
第205図 遺構内出土土器(土坑) (5)



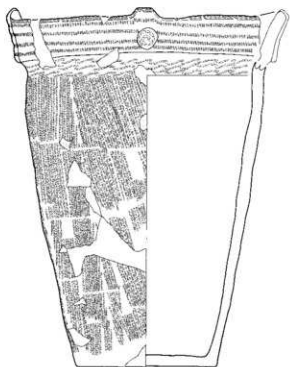
第206図 遺構内出土土器 (土坑) (6)



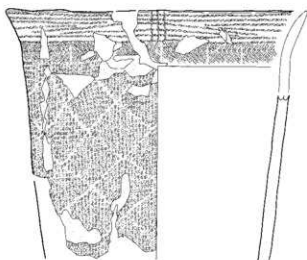
17 (382土)



18 (382土)



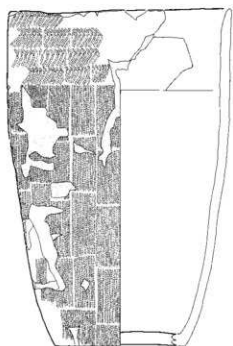
19 (384土)



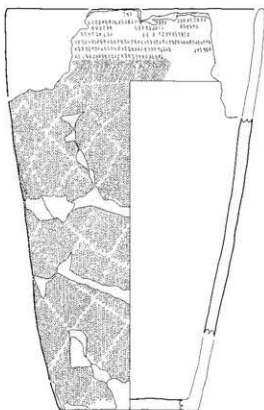
20 (388土)



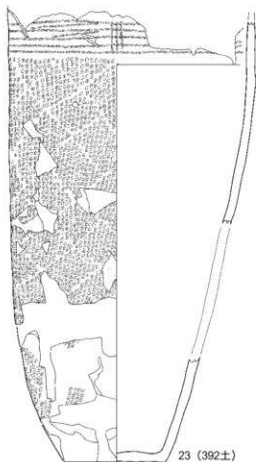
第207図 遺構内出土土器（土坑）(7)



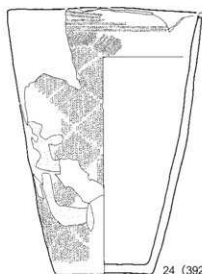
21 (391土)



22 (392土)



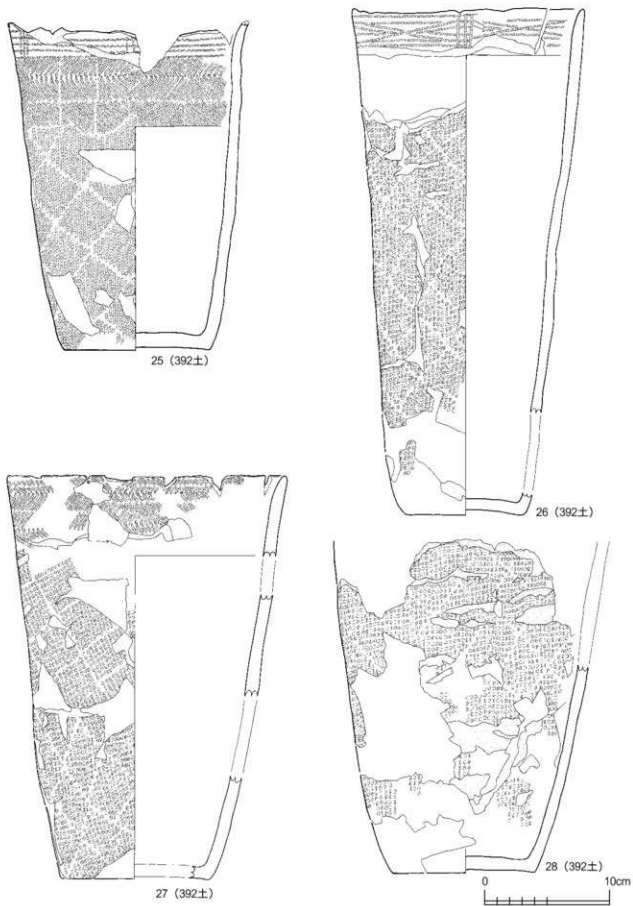
23 (392土)



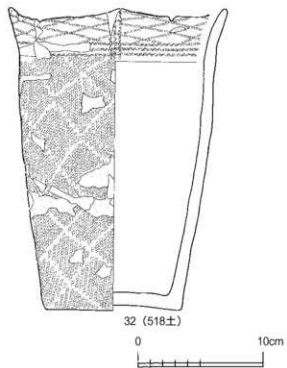
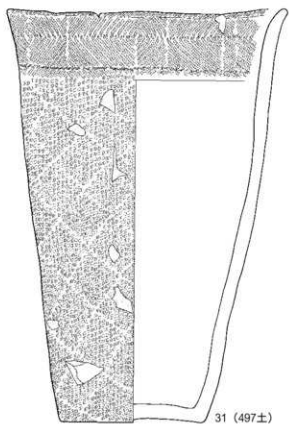
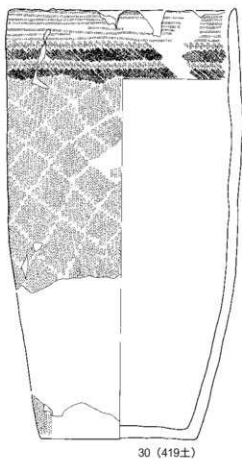
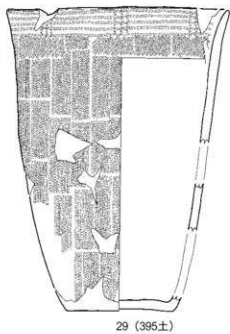
24 (392土)



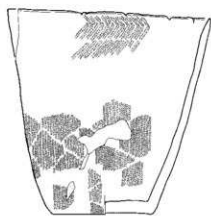
第208図 遺構内出土土器（土坑）(8)



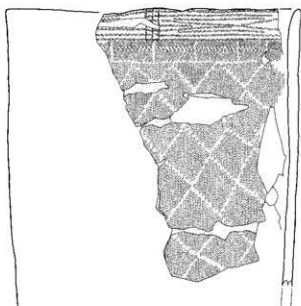
第209図 遺構内出土土器（土坑）(9)



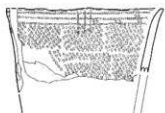
第210図 遺構内出土土器（土坑）(10)



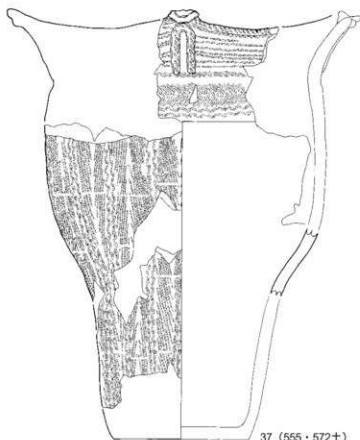
33 (533土)



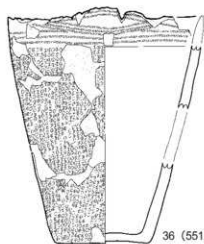
35 (539土)



34 (535土)



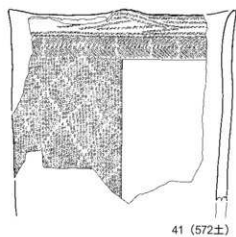
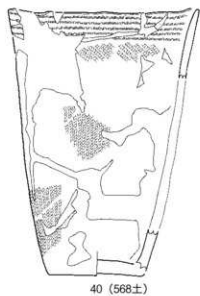
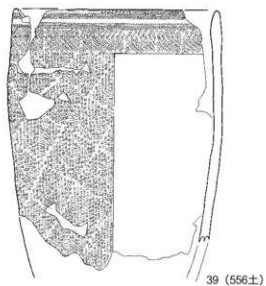
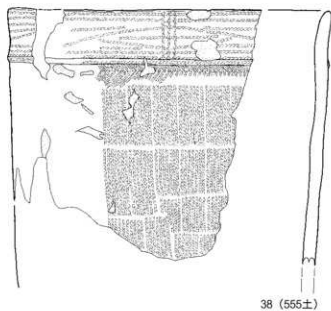
37 (565・572土)



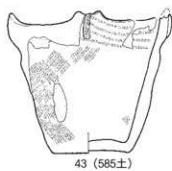
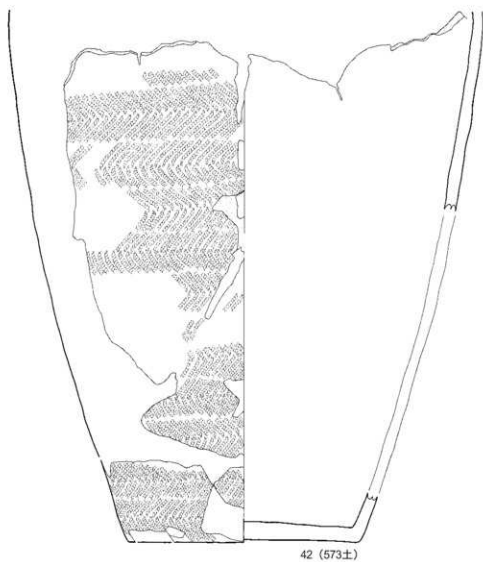
36 (551土)



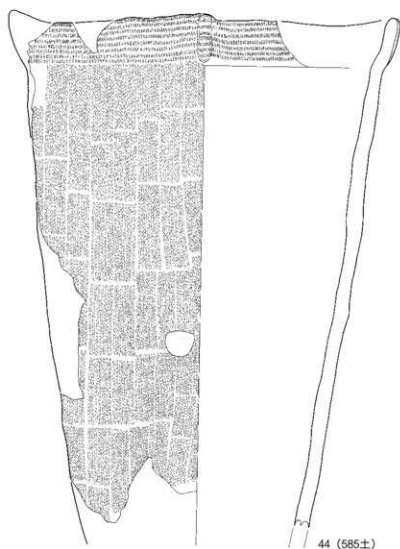
第211図 遺構内出土土器(土坑)(11)



第212図 遺構内出土土器（土坑）(12)



第213図 遺構内出土土器（土坑）(13)



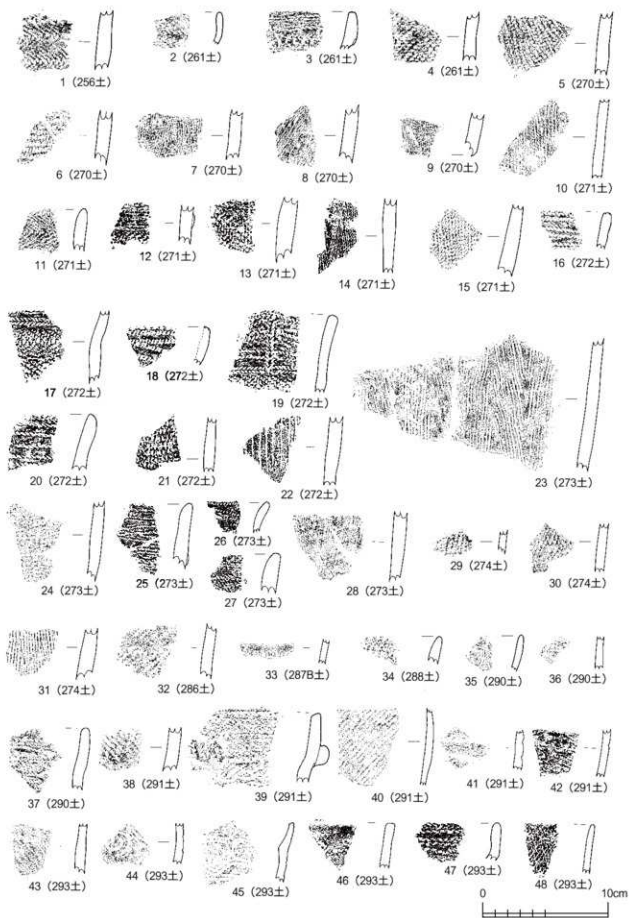
44 (585±)



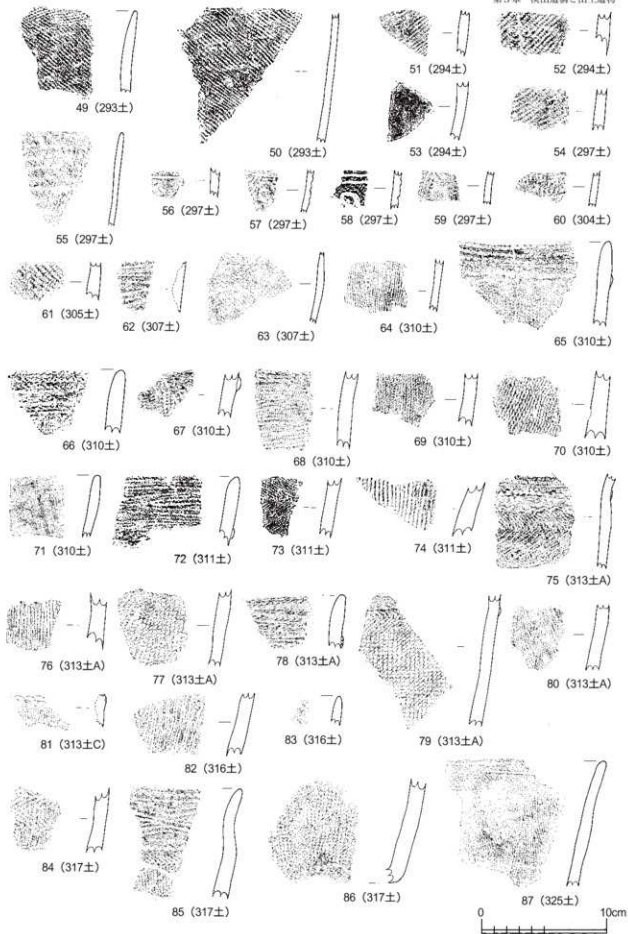
45 (590±)



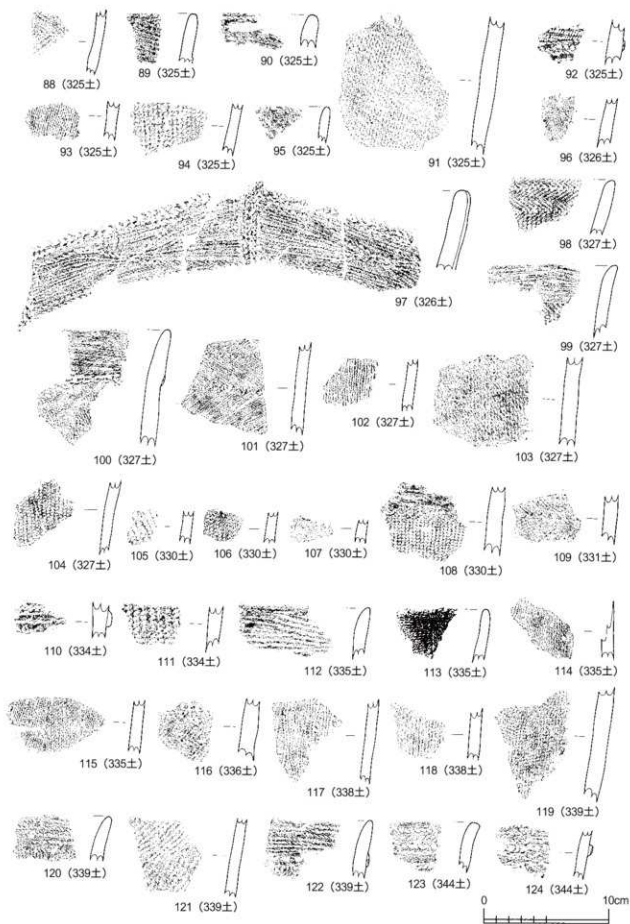
第214図 遺構内出土土器（土坑）(14)



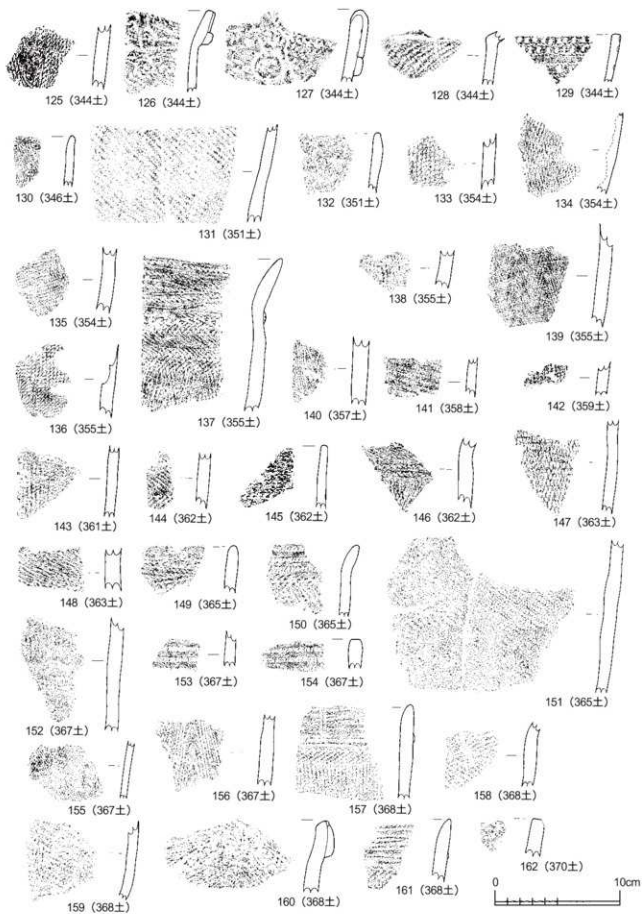
第215図 遺構内出土土器(土坑)(15)



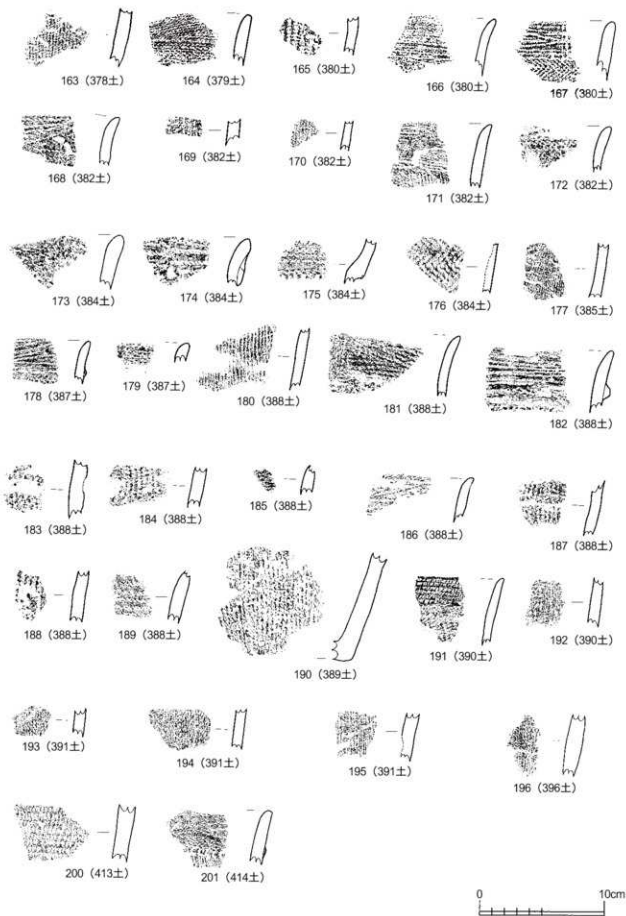
第216図 遺構内出土土器（土坑）(16)



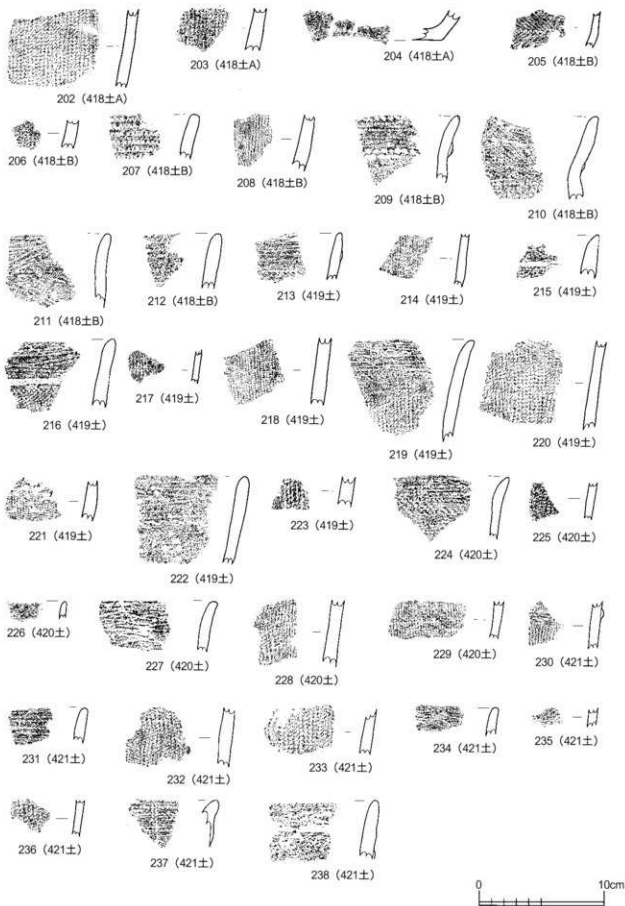
第217図 遺構内出土土器（土坑）(17)



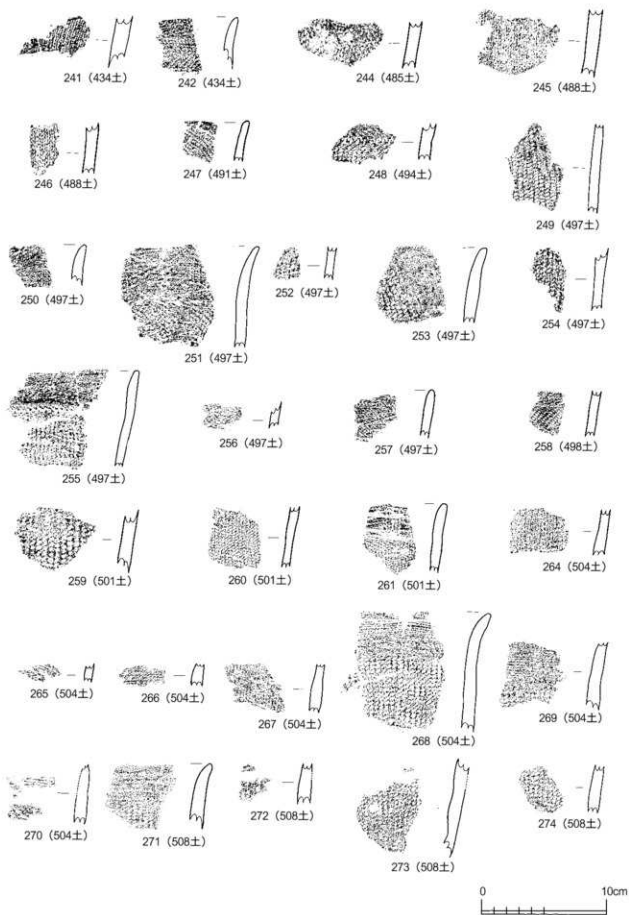
第218図 遺構内出土土器（土坑）(18)



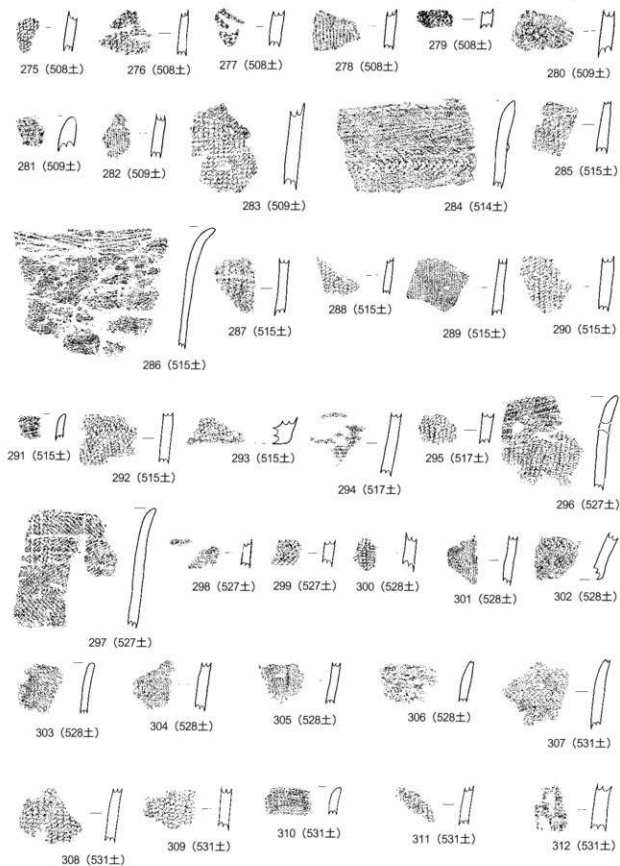
第219図 遺構内出土土器（土坑）(19)



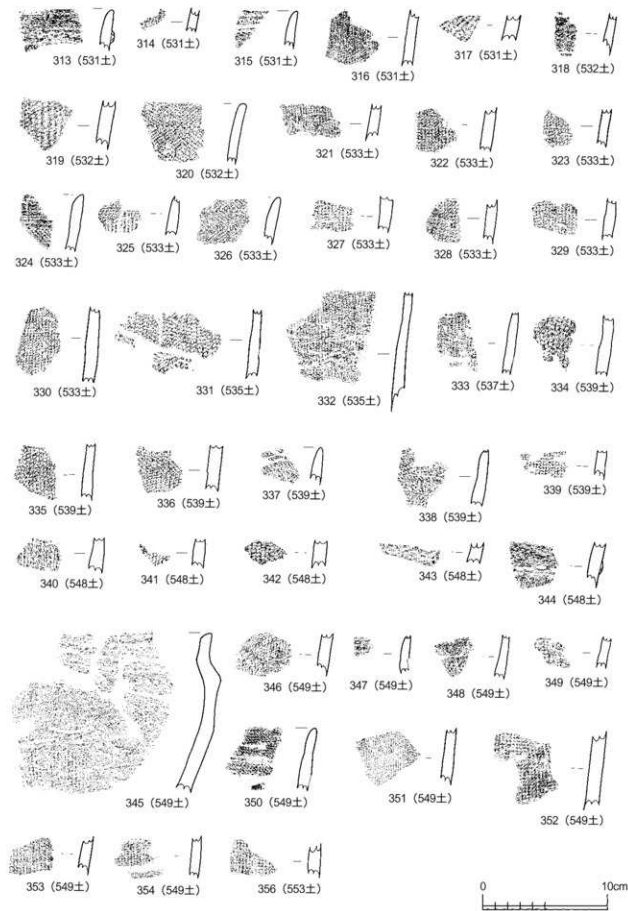
第220図 遺構内出土土器（土坑）(20)



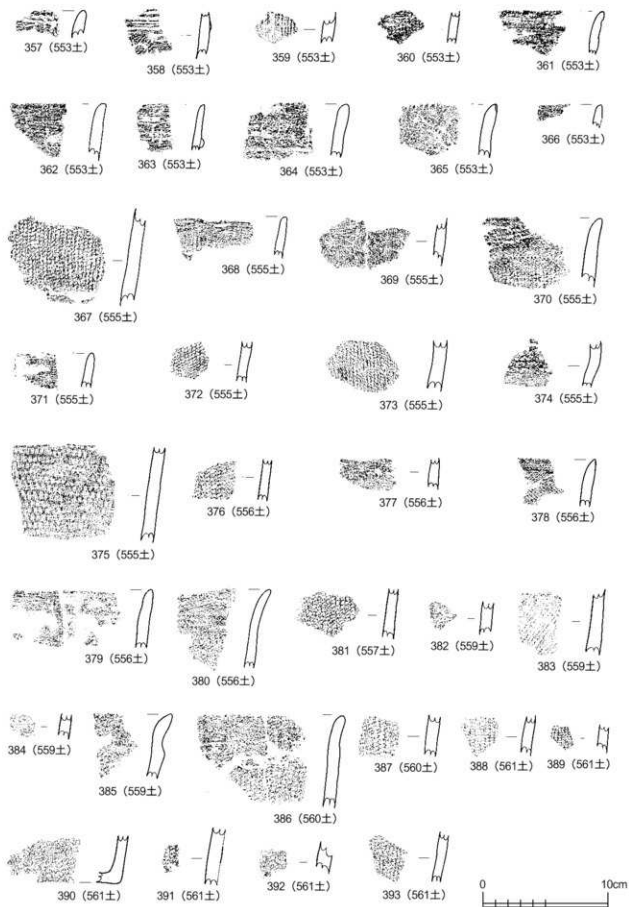
第221図 遺構内出土土器 (土坑) (21)



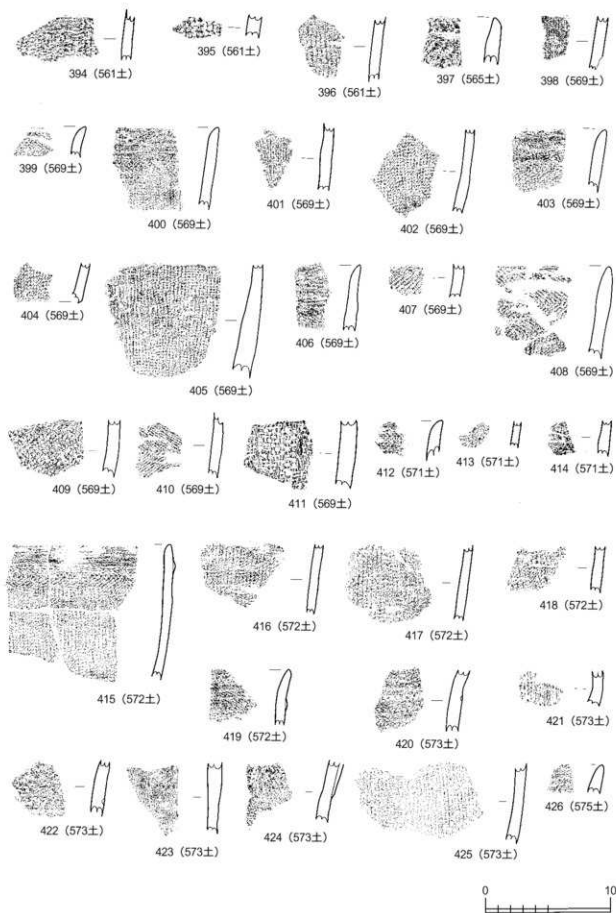
第222図 遺構内出土土器 (土坑) (22)



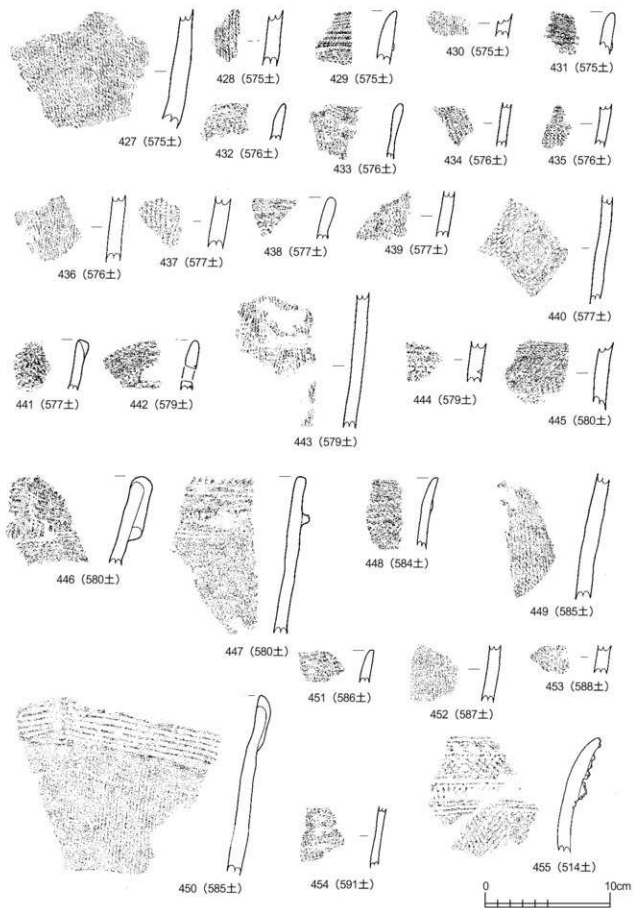
第223図 遺構内出土土器（土坑）(23)



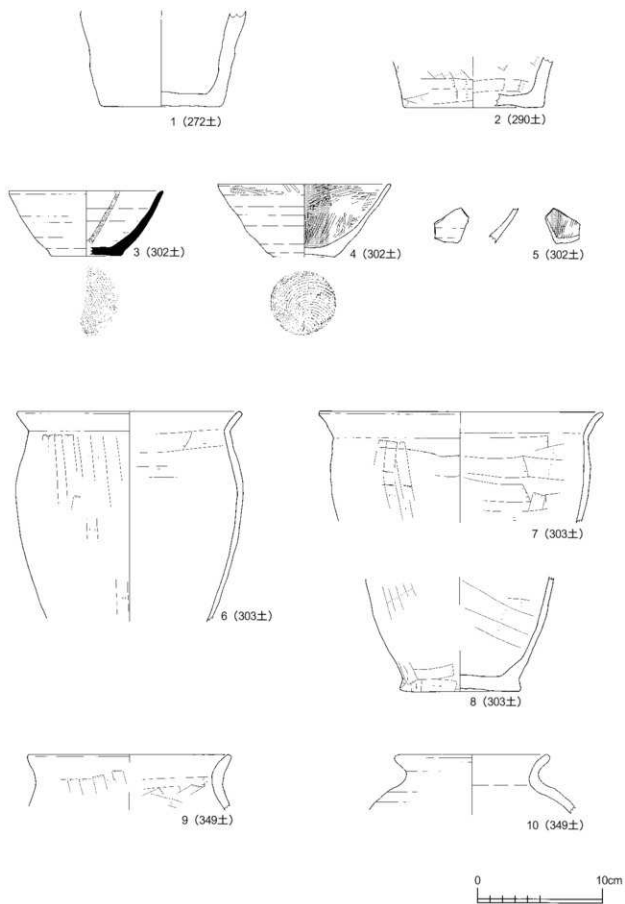
第224図 遺構内出土土器 (土坑) (24)



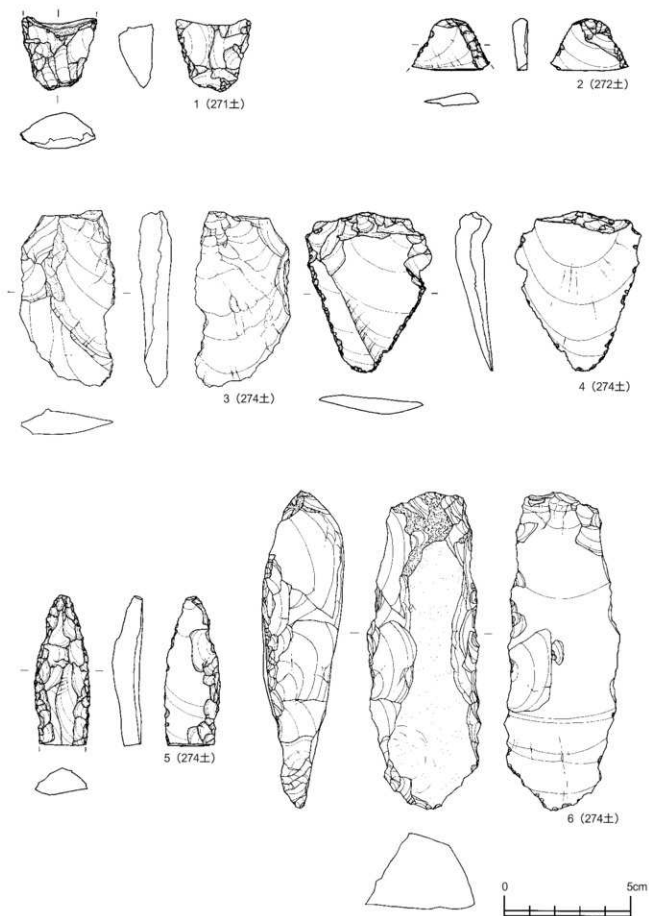
第225図 遺構内出土土器 (土坑) (25)



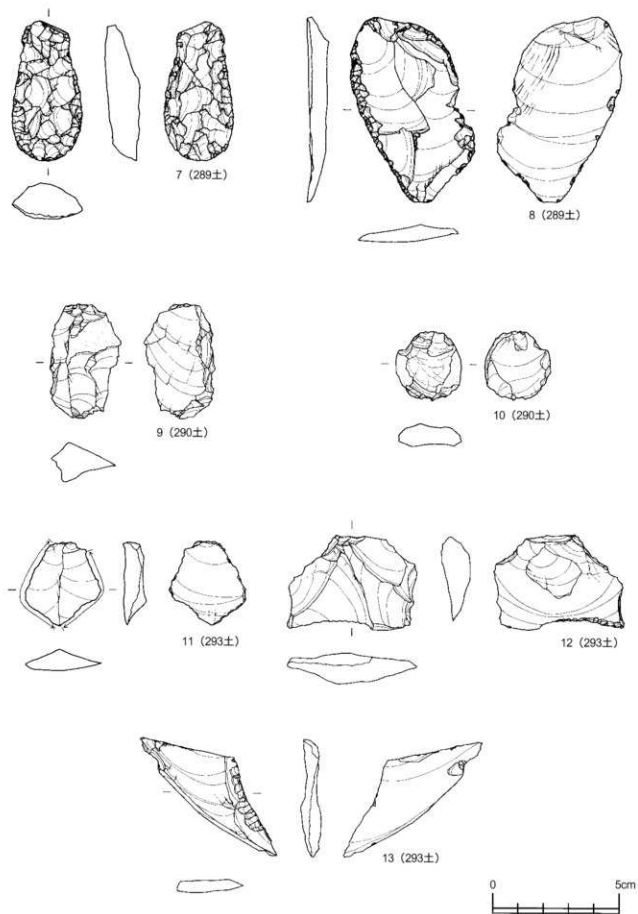
第226図 遺構内出土土器（土坑）(26)



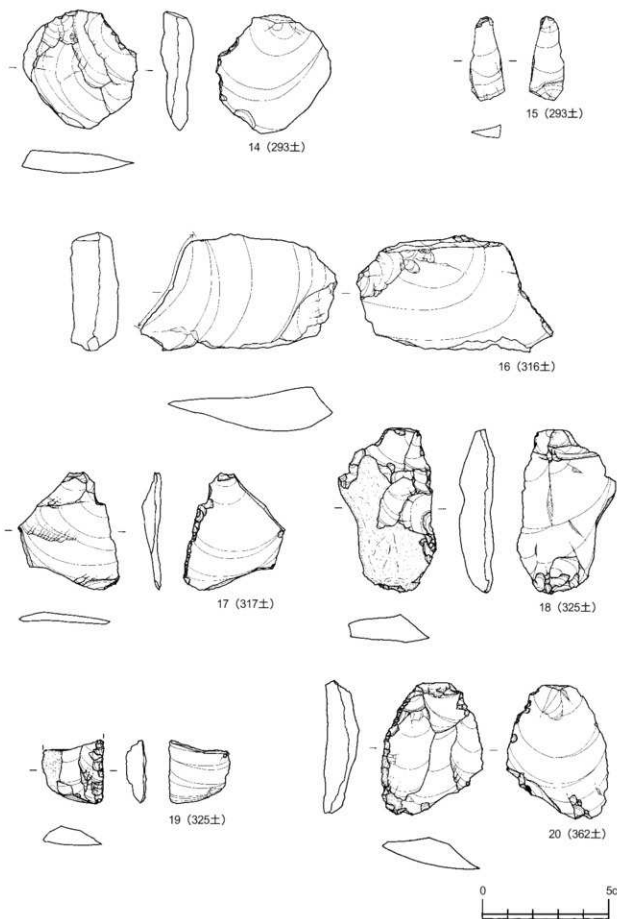
第227図 遺構内出土土器（土坑）(27)



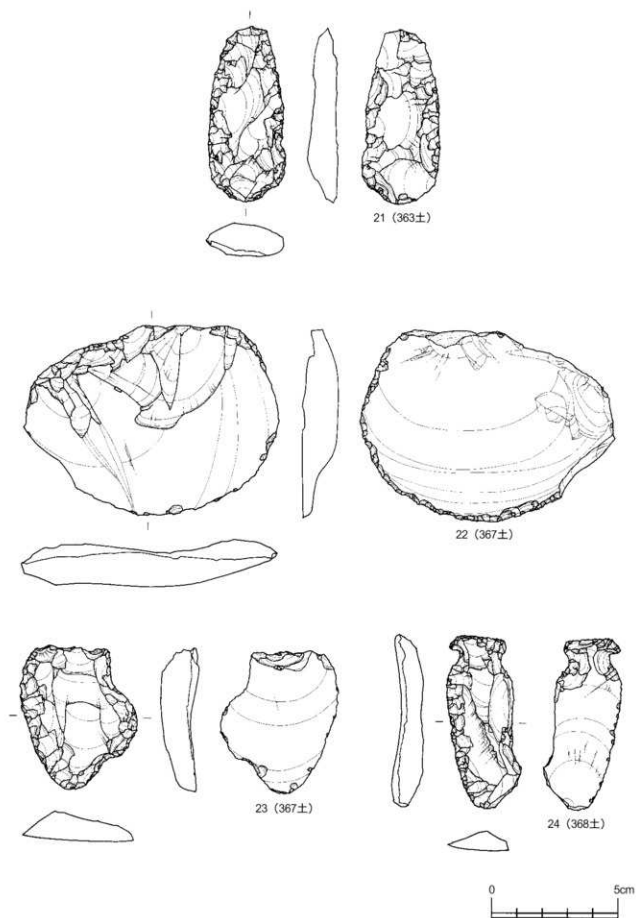
第228図 遺構内出土石器（土坑）(1)



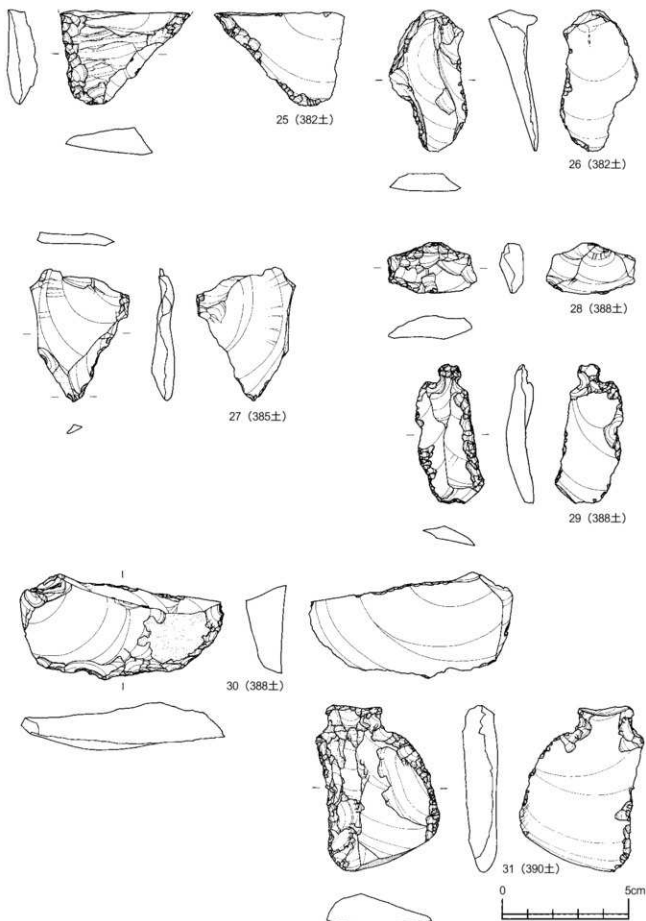
第229図 遺構内出土石器（土坑）(2)



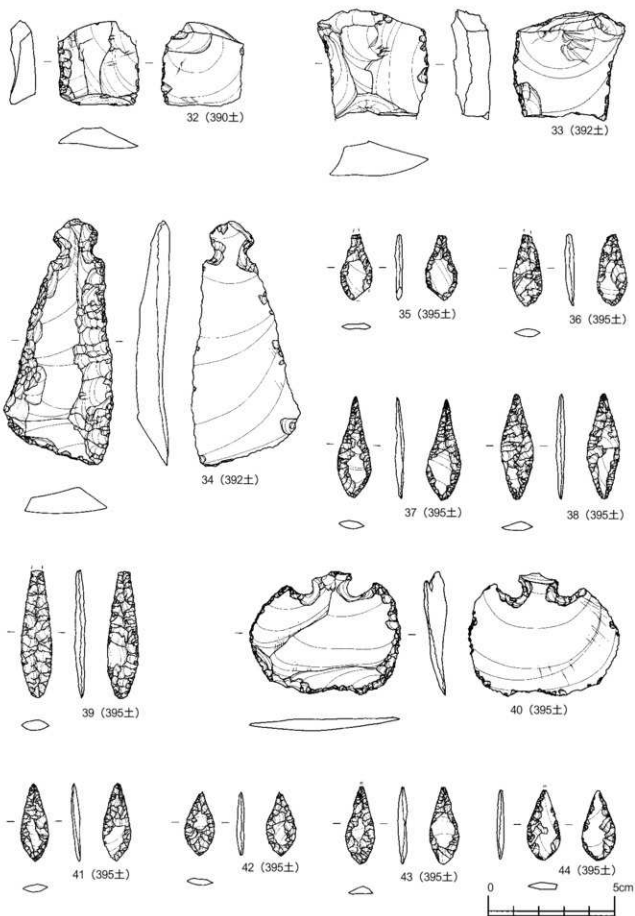
第230図 遺構内出土石器（土坑）(3)



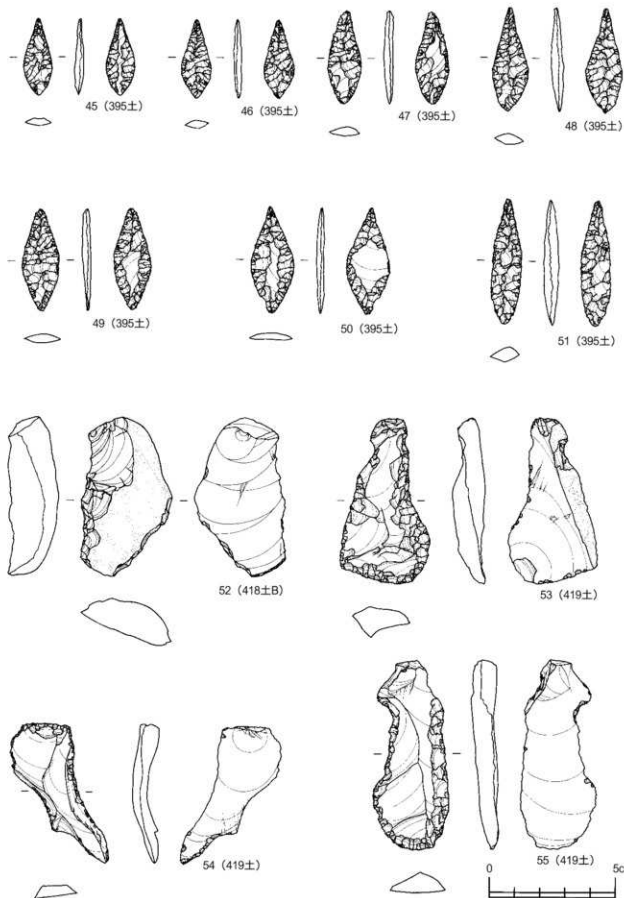
第231圖 遺構内出土石器(土坑)(4)



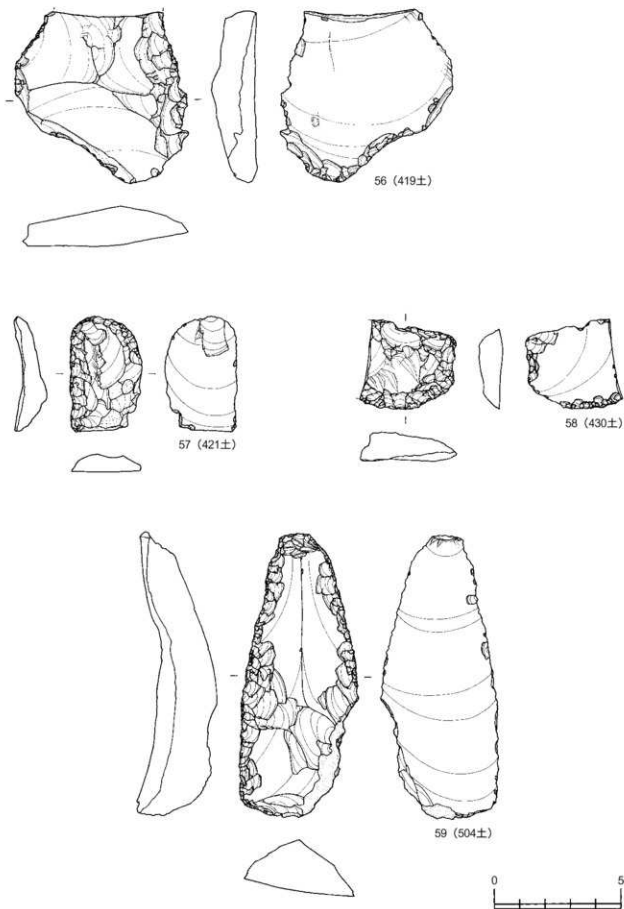
第232図 遺構内出土石器(土坑)(5)



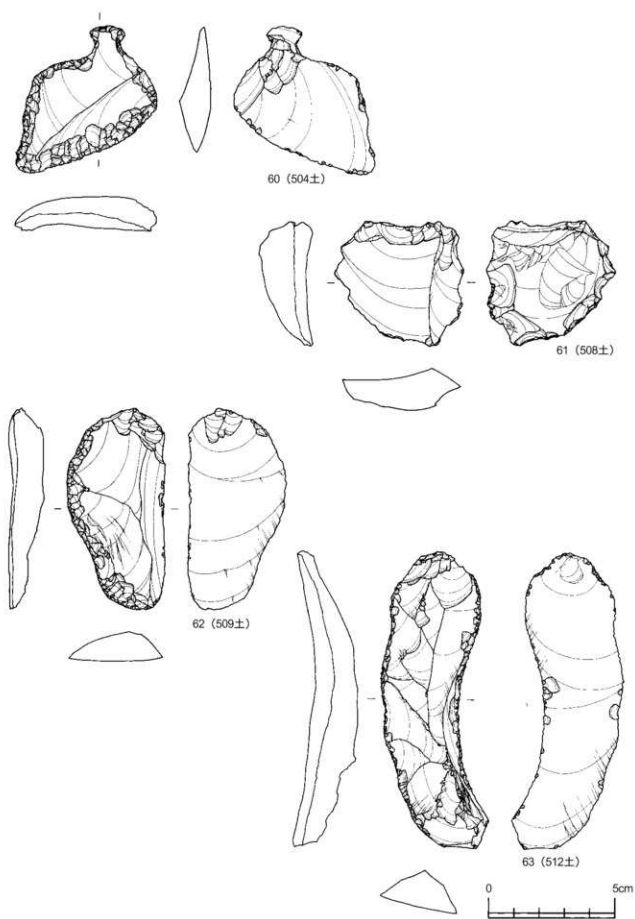
第233図 遺構内出土石器(土坑)(6)



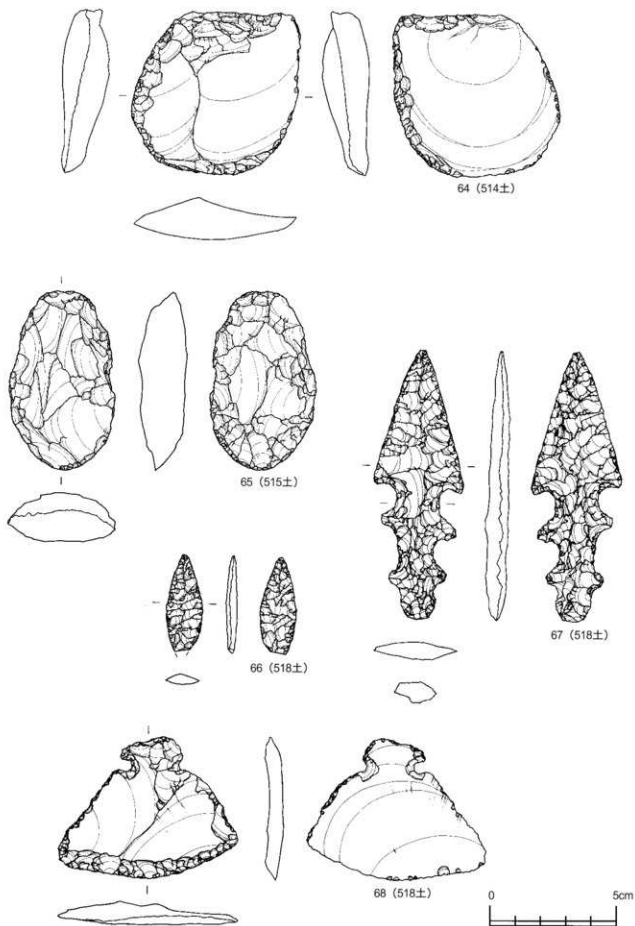
第234図 遺構内出土石器（土坑）(7)



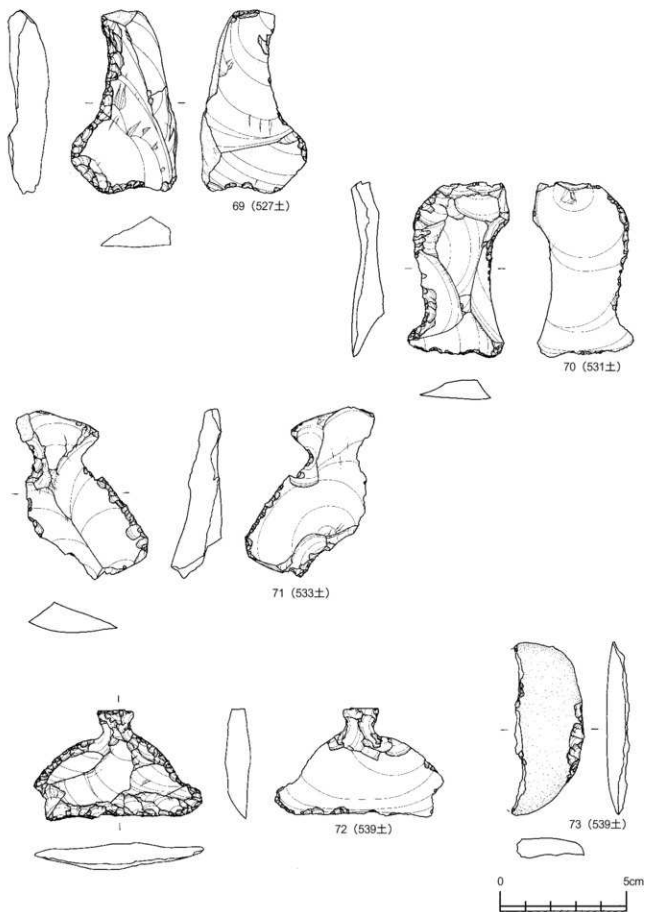
第235図 遺構内出土石器(土坑)(8)



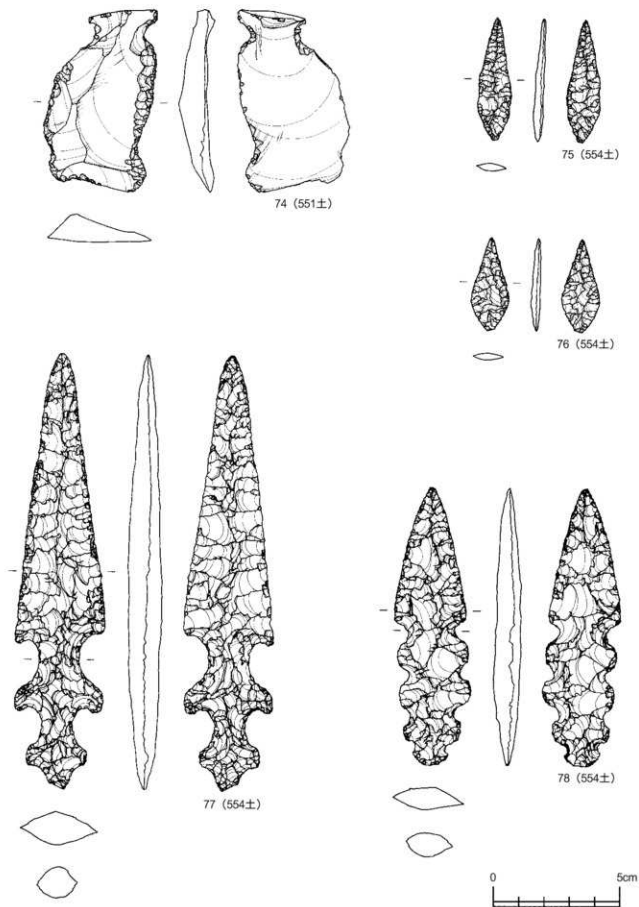
第236図 遺構内出土石器（土坑）(9)



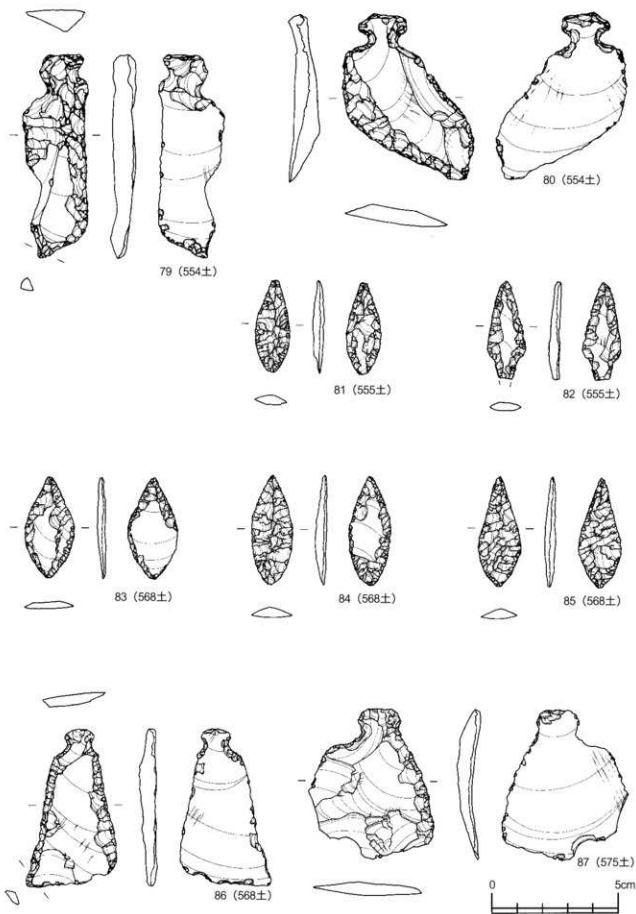
第237図 遺構内出土石器（土坑）(10)



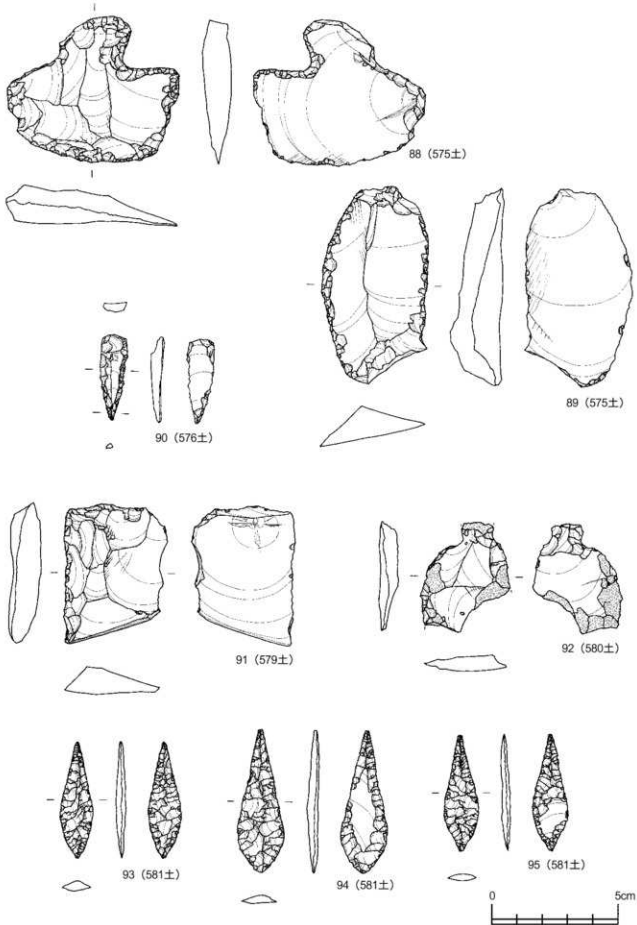
第238図 遺構内出土石器（土坑）(11)



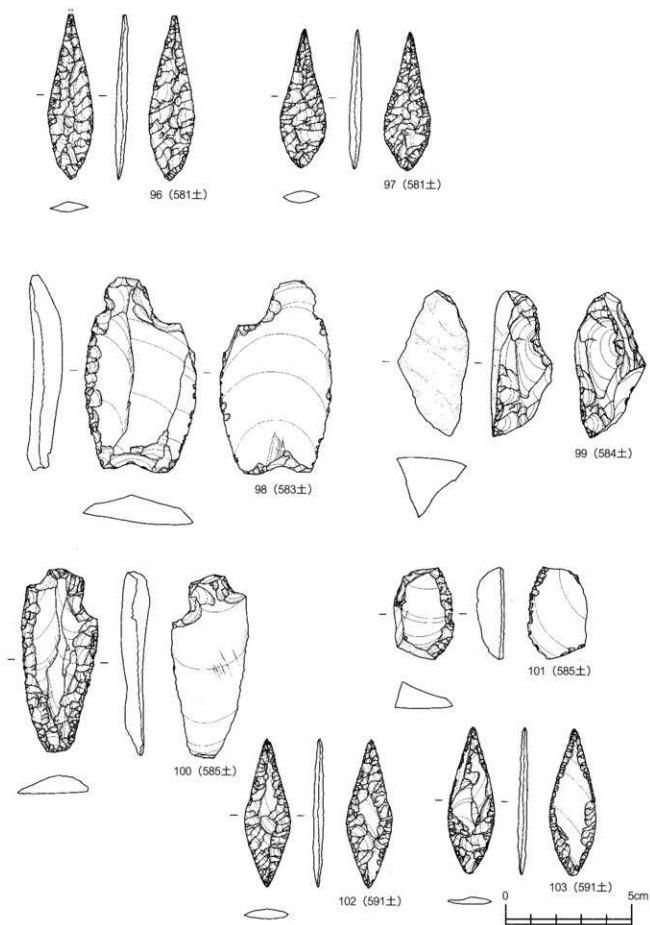
第239図 遺構内出土石器（土坑）(12)



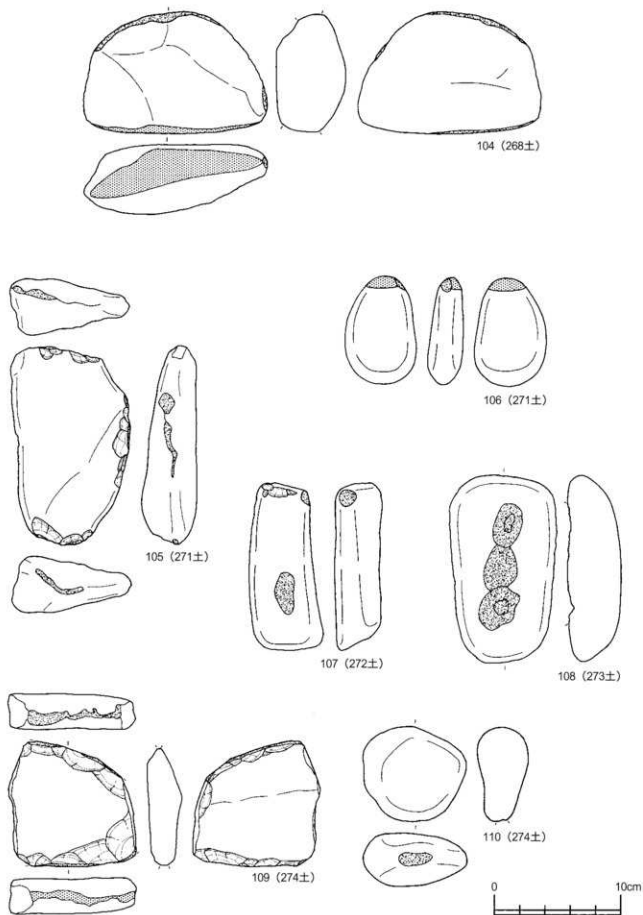
第240図 遺構内出土石器（土坑）(13)



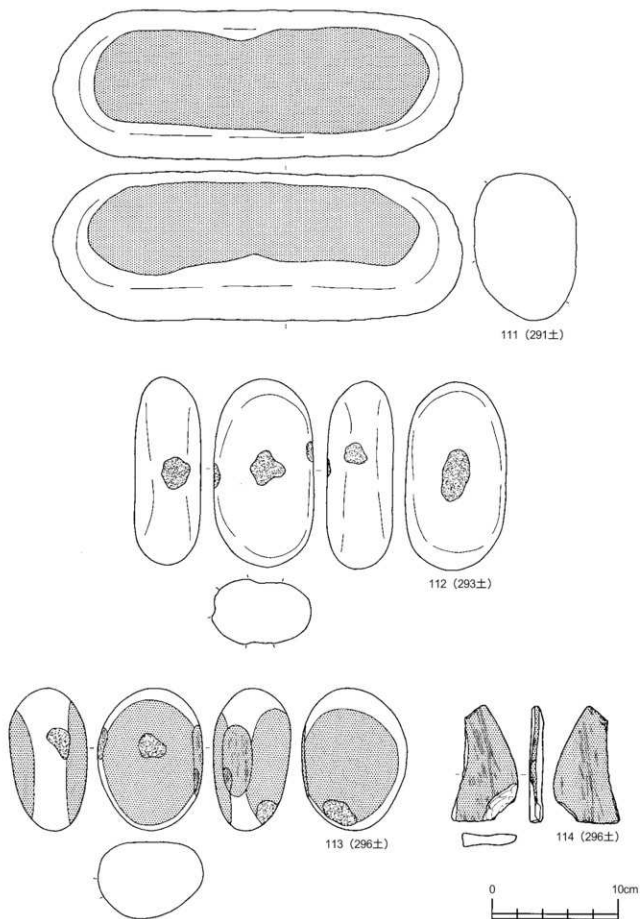
第241図 遺構内出土石器(土坑)(14)



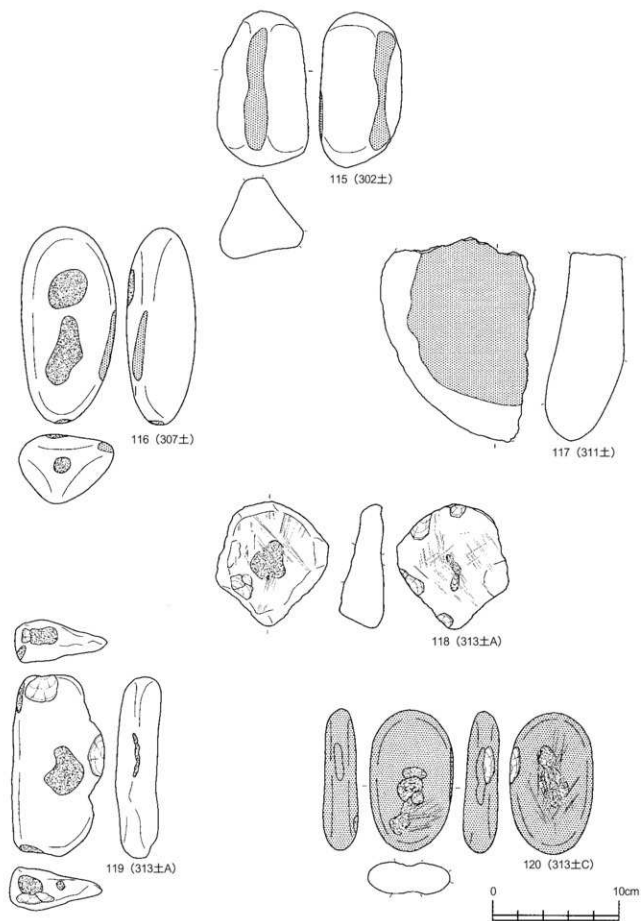
第242図 遺構内出土石器（土坑）(15)



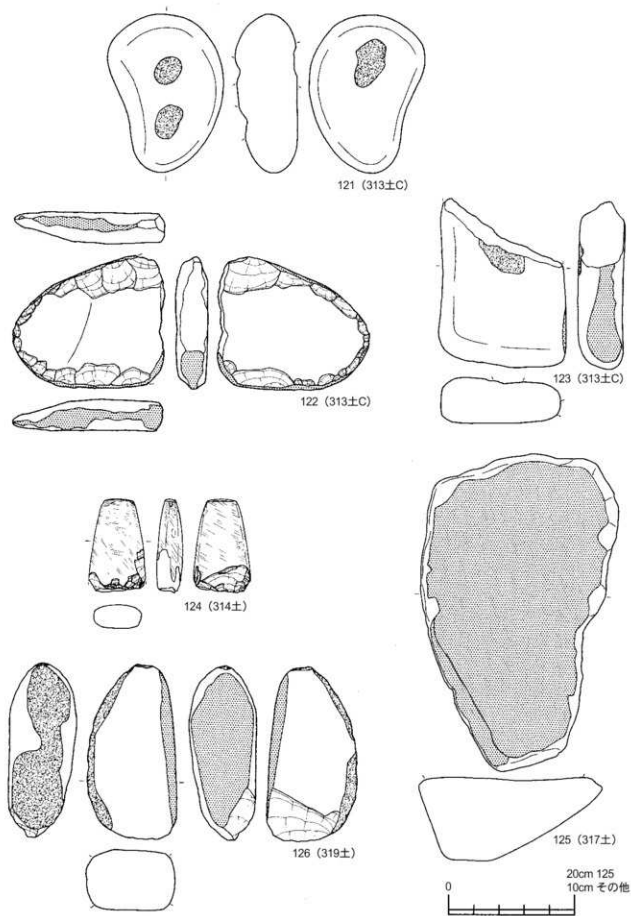
第243図 遺構内出土石器（土坑）(16)



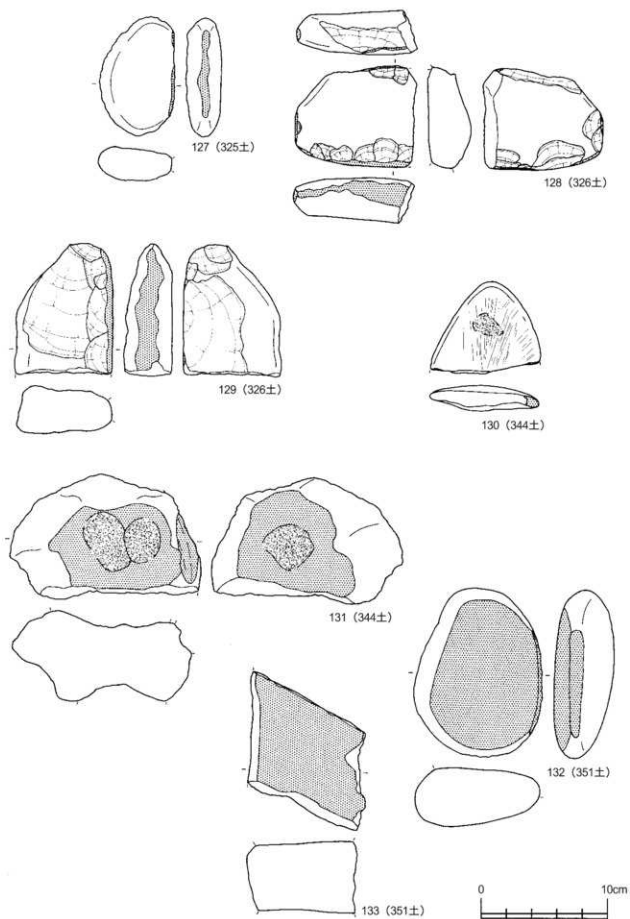
第244図 遺構内出土石器（土坑）(17)



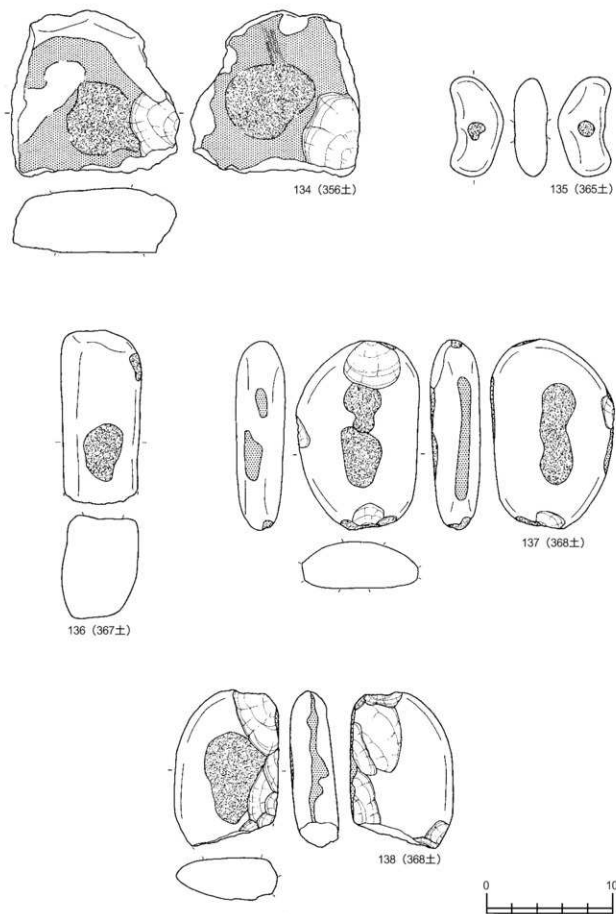
第245図 遺構内出土石器（土坑）(18)



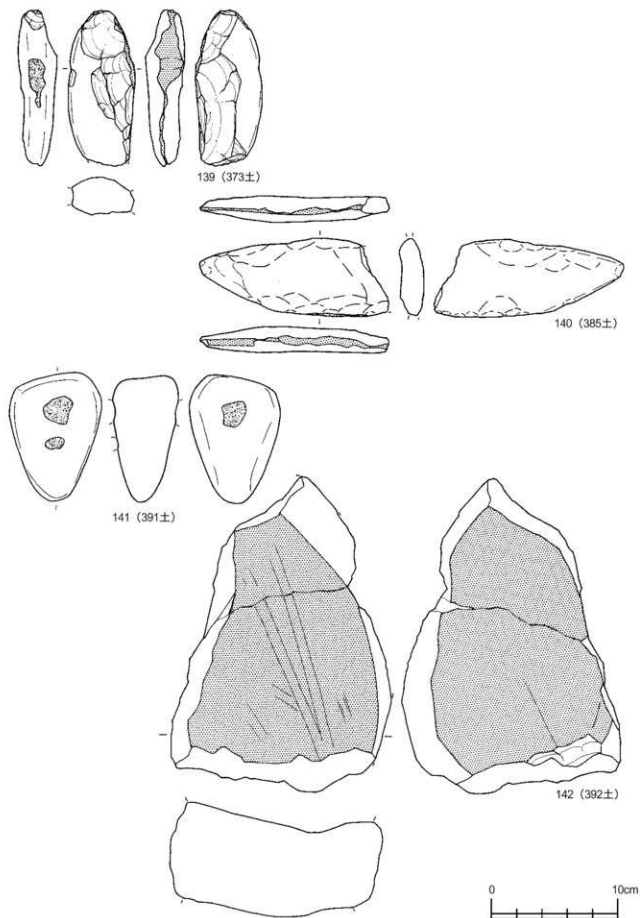
第246図 遺構内出土石器（土坑）(19)



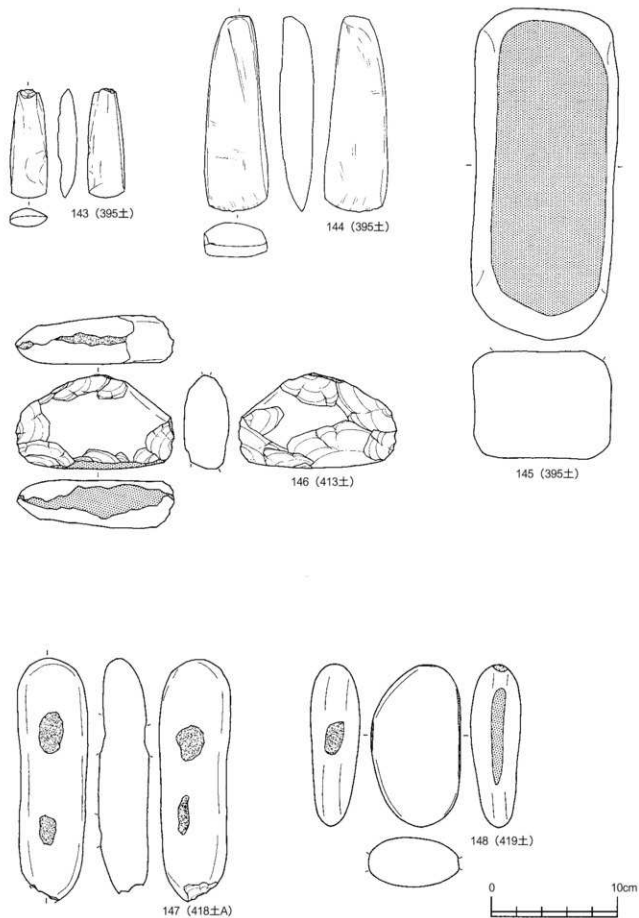
第247図 遺構内出土石器（土坑）(20)



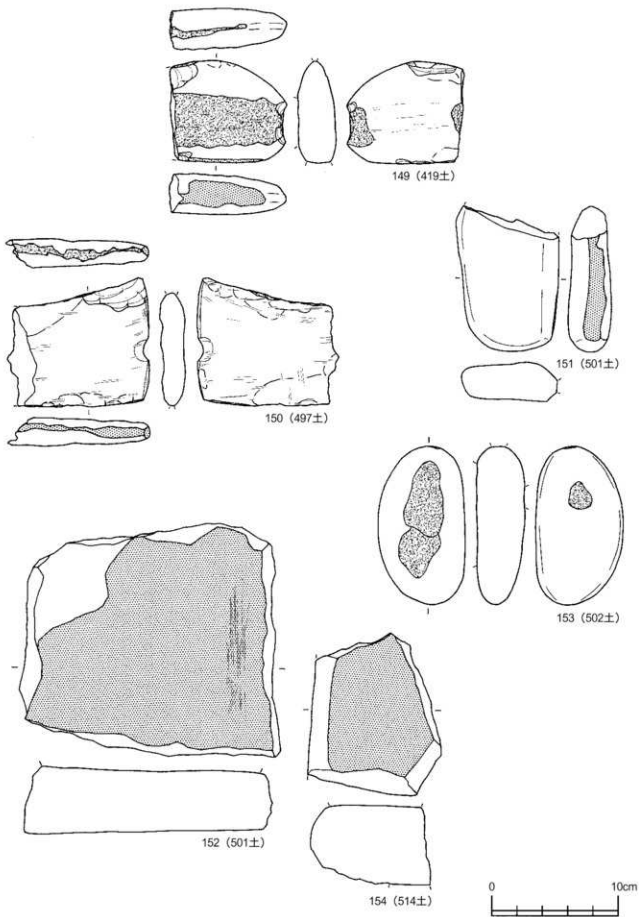
第248図 遺構内出土石器（土坑）(21)



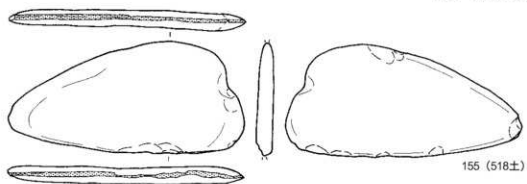
第249図 遺構内出土石器（土坑）(22)



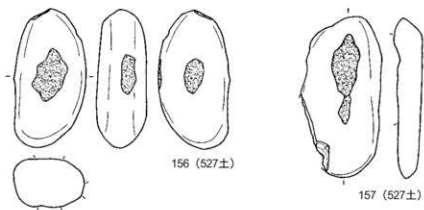
第250図 遺構内出土石器（土坑）(23)



第251図 遺構内出土石器（土坑）(24)

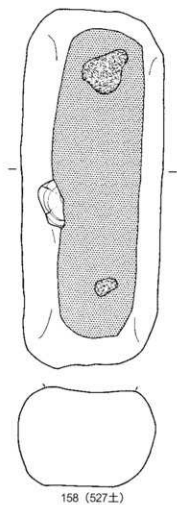


155 (518土)

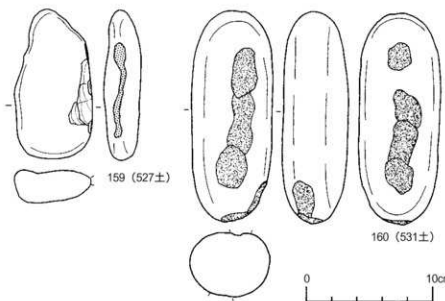


156 (527土)

157 (527土)

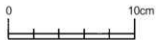


158 (527土)

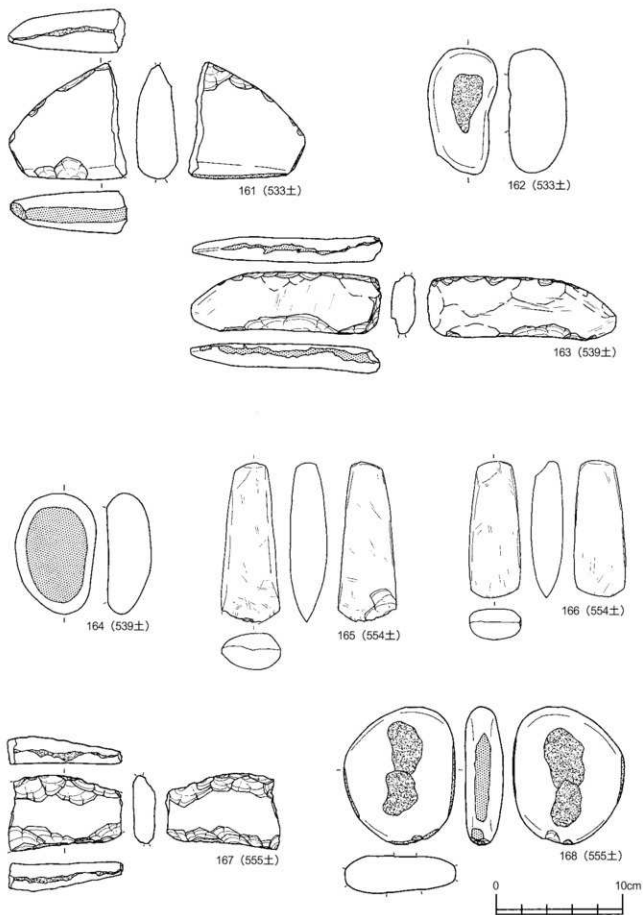


159 (527土)

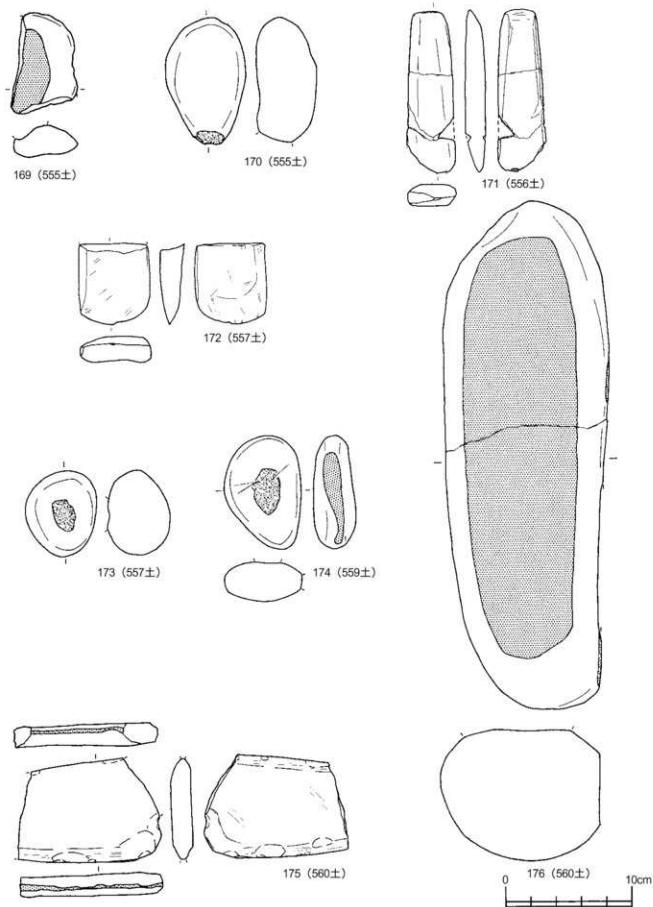
160 (531土)



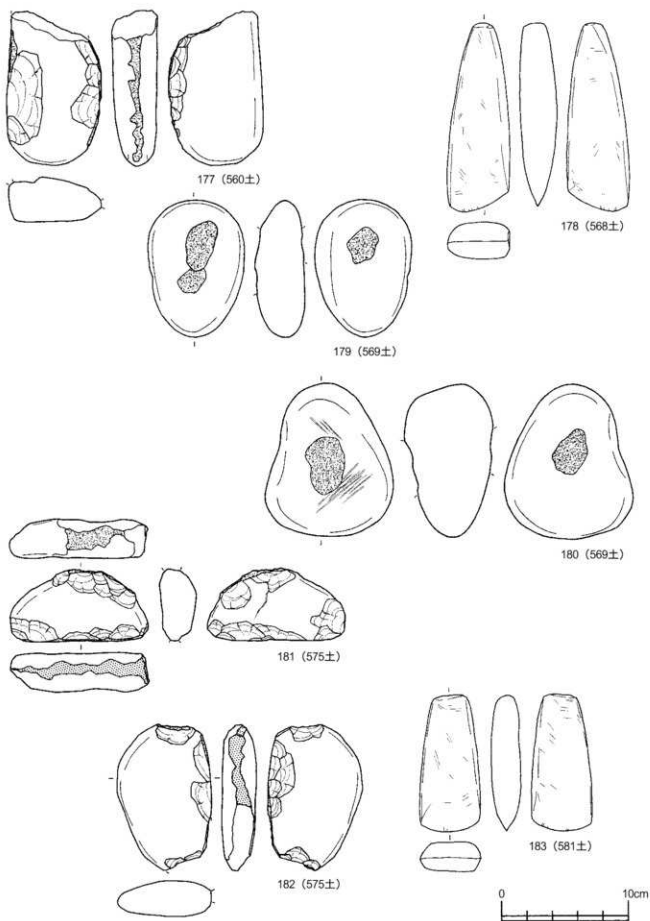
第252図 遺構内出土石器(土坑)(25)



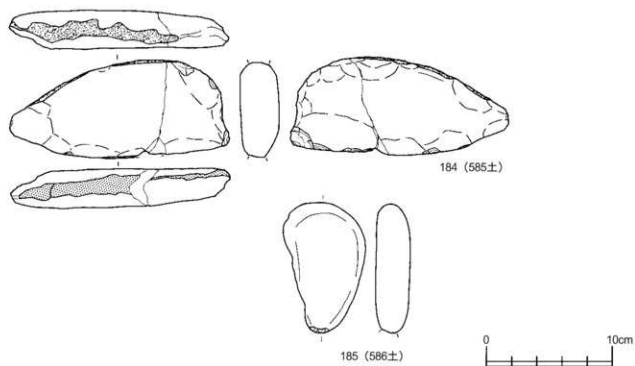
第253図 遺構内出土石器（土坑）(26)



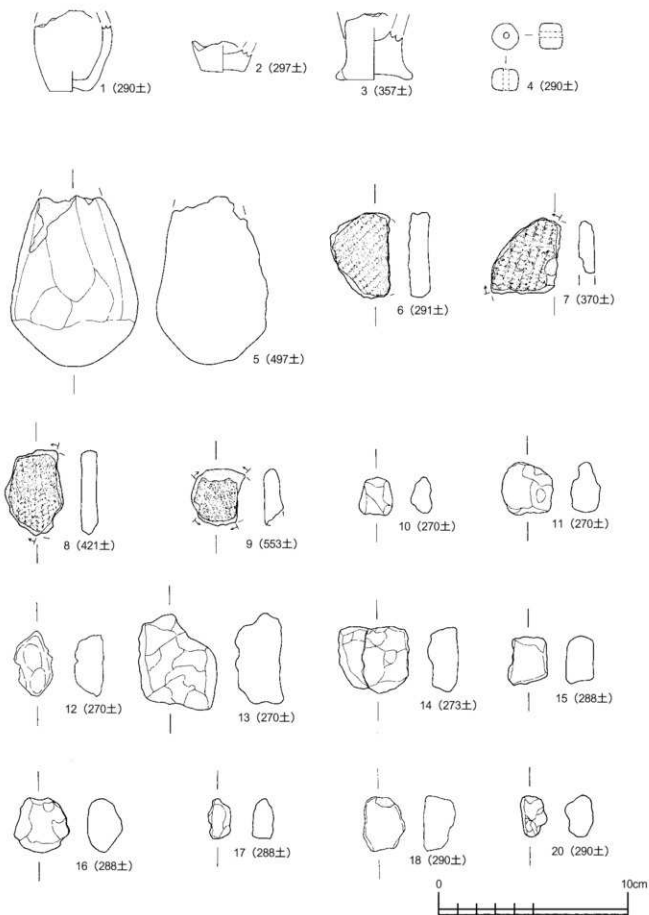
第254図 遺構内出土石器（土坑）(27)



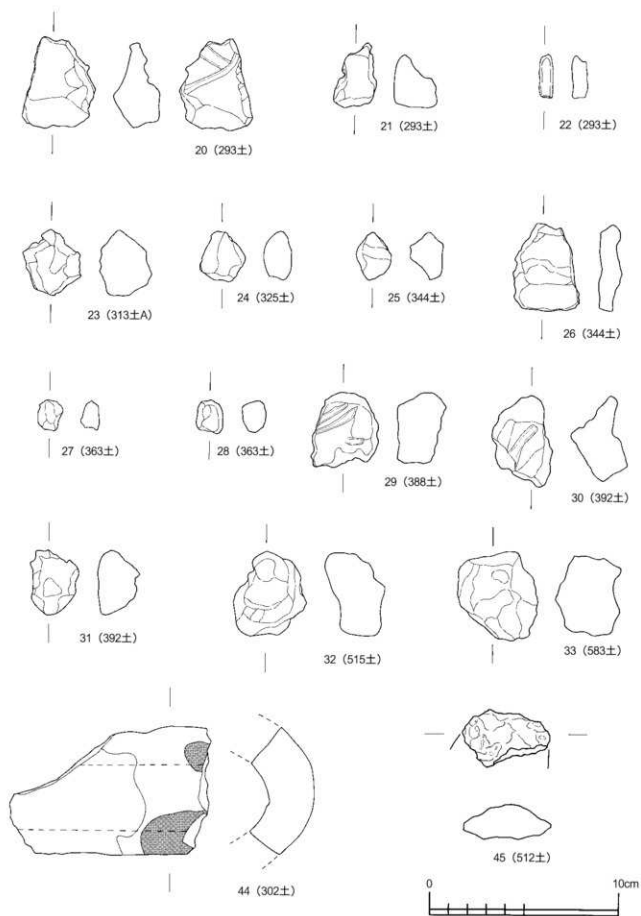
第255図 遺構内出土石器（土坑）(28)



第256図 遺構内出土石器（土坑）(29)



第257図 遺構内出土土製品（土坑）



第258図 遺構内出土土製品・鉄関連遺物（土坑）

